

取扱説明書

Proline Promass F 500

コリオリ流量計
Modbus RS485



- 本書は、本機器で作業する場合に、いつでもすぐに手に取れる安全な場所に保管してください。
- 要員やプラントが危険にさらされないように、「安全上の基本注意事項」セクション、ならびに作業手順に関して本書に規定されている、その他の安全注意事項をすべて熟読してください。
- 当社は、事前の予告なしに技術仕様を変更する権利を有するものとします。本書に関する最新情報および更新内容については、当社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

目次

1	本説明書について	6	6.2	計測機器の設置	29
1.1	本文の目的	6	6.2.1	必要な工具	29
1.2	シンボル	6	6.2.2	計測機器の準備	29
1.2.1	安全シンボル	6	6.2.3	機器の取付け	29
1.2.2	電気シンボル	6	6.2.4	変換器ハウジングの取付け : Proline 500 – デジタル	30
1.2.3	通信関連のシンボル	6	6.2.5	変換器ハウジングの取付け : Proline 500	31
1.2.4	工具シンボル	7	6.2.6	変換器ハウジングの回転 : Proline 500	33
1.2.5	特定情報に関するシンボル	7	6.2.7	表示モジュールの回転 : Proline 500	33
1.2.6	図中のシンボル	7	6.3	設置状況の確認	34
1.3	関連資料	8	7	電気接続	35
1.4	登録商標	8	7.1	電気の安全性	35
2	安全上の注意事項	9	7.2	接続要件	35
2.1	要員の要件	9	7.2.1	必要な工具	35
2.2	指定用途	9	7.2.2	接続ケーブルの要件	35
2.3	労働安全	10	7.2.3	端子の割当て	40
2.4	操作上の安全性	10	7.2.4	シールドおよび接地	40
2.5	製品の安全性	10	7.2.5	機器の準備	41
2.6	IT セキュリティ	10	7.3	計測機器の接続 : Proline 500 – デジタル	42
2.7	機器固有の IT セキュリティ	11	7.3.1	接続ケーブルの接続	42
2.7.1	ハードウェア書き込み保護によるアクセス保護	11	7.3.2	信号ケーブルと電源ケーブルの接続	47
2.7.2	パスワードによるアクセス保護	11	7.4	計測機器の接続 : Proline 500	49
2.7.3	Web サーバー経由のアクセス	12	7.4.1	接続ケーブルの取付け	49
2.7.4	サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由のアクセス	12	7.4.2	信号ケーブルと電源ケーブルの接続	53
3	製品説明	13	7.5	電位平衡	55
3.1	製品構成	13	7.5.1	要件	55
3.1.1	Proline 500 – デジタル	13	7.6	特別な接続方法	56
3.1.2	Proline 500	13	7.6.1	接続例	56
4	受入検査および製品識別表示	15	7.7	ハードウェアの設定	59
4.1	受入検査	15	7.7.1	機器アドレスの設定	59
4.2	製品識別表示	15	7.7.2	終端抵抗の有効化	61
4.2.1	変換器銘板	16	7.8	保護等級の保証	62
4.2.2	センサ銘板	18	7.9	配線状況の確認	63
4.2.3	機器のシンボル	19	8	操作オプション	64
5	保管および輸送	20	8.1	操作オプションの概要	64
5.1	保管条件	20	8.2	操作メニューの構成と機能	65
5.2	製品の運搬	20	8.2.1	操作メニューの構成	65
5.2.1	吊金具なし機器	20	8.2.2	操作指針	66
5.2.2	吊金具付き機器	21	8.3	現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス	67
5.2.3	フォークリフトによる運搬	21	8.3.1	操作画面表示	67
5.3	梱包材の廃棄	21	8.3.2	ナビゲーション画面	69
6	設置	21	8.3.3	編集画面	71
6.1	取付要件	21	8.3.4	操作部	73
6.1.1	取付位置	21	8.3.5	コンテキストメニューを開く	73
6.1.2	環境およびプロセスの要件	24	8.3.6	ナビゲーションおよびリストから選択	75
6.1.3	特定の取付方法	26			

8.3.7	パラメータの直接呼び出し	75	10.5	高度な設定	129
8.3.8	ヘルプテキストの呼び出し	76	10.5.1	アクセスコードの入力のためのパ ラメータを使用	130
8.3.9	パラメータの変更	76	10.5.2	計算されたプロセス変数	130
8.3.10	ユーザーの役割と関連するアクセ ス権	77	10.5.3	センサの調整の実施	131
8.3.11	アクセスコードによる書き込み保 護の無効化	77	10.5.4	積算計の設定	137
8.3.12	キーパッドロックの有効化/無効化 ..	78	10.5.5	表示の追加設定	139
8.4	ウェブブラウザを使用した操作メニューへ のアクセス	78	10.5.6	WLAN 設定	145
8.4.1	機能範囲	78	10.5.7	設定管理	146
8.4.2	必須条件	79	10.5.8	機器管理のためのパラメータを 使用	148
8.4.3	機器の接続	80	10.6	シミュレーション	149
8.4.4	ログイン	82	10.7	不正アクセスからの設定の保護	153
8.4.5	ユーザーインターフェース	83	10.7.1	アクセスコードによる書き込み 保護	153
8.4.6	Web サーバーの無効化	84	10.7.2	書き込み保護スイッチによる書き 込み保護	154
8.4.7	ログアウト	84			
8.5	操作ツールによる操作メニューへのアク セス	85	11	操作	157
8.5.1	操作ツールの接続	85	11.1	機器ロック状態の読取り	157
8.5.2	FieldCare	88	11.2	操作言語の設定	157
8.5.3	DeviceCare	89	11.3	表示部の設定	157
9	システム統合	90	11.4	測定値の読取り	157
9.1	DD ファイルの概要	90	11.4.1	「測定した変数」 サブメニュー ...	158
9.1.1	現在の機器のバージョンデータ ...	90	11.4.2	「積算計」 サブメニュー	169
9.1.2	操作ツール	90	11.4.3	「入力値」 サブメニュー	169
9.2	旧型モデルとの互換性	90	11.4.4	出力値	171
9.3	Modbus RS485 情報	91	11.5	プロセス条件への機器の適合	173
9.3.1	機能コード	91	11.6	積算計リセットの実行	173
9.3.2	レジスタ情報	92	11.6.1	「積算計 のコントロール」 パラメー タの機能範囲	175
9.3.3	応答時間	92	11.6.2	「すべての積算計をリセット」 パラ メータの機能範囲	175
9.3.4	データ型	92	11.7	測定値の履歴を表示	175
9.3.5	バイト伝送順序	93	11.8	ガスフラクションハンドラー	178
9.3.6	Modbus データマップ	93	11.8.1	「測定モード」 サブメニュー	179
10	設定	96	11.8.2	「流体の指標」 サブメニュー	179
10.1	設置状況および配線状況の確認	96	12	診断およびトラブルシューティン グ	181
10.2	機器の電源投入	96	12.1	一般トラブルシューティング	181
10.3	操作言語の設定	96	12.2	発光ダイオードによる診断情報	183
10.4	計測機器の設定	96	12.2.1	変換器	183
10.4.1	タグ番号の設定	98	12.2.2	センサ接続ハウジング	184
10.4.2	システムの単位の設定	98	12.3	現場表示器の診断情報	186
10.4.3	通信インターフェースの設定	100	12.3.1	診断メッセージ	186
10.4.4	測定物の選択および設定	102	12.3.2	対処法の呼び出し	188
10.4.5	I/O 設定の表示	104	12.4	ウェブブラウザの診断情報	188
10.4.6	電流入力の設定	105	12.4.1	診断オプション	188
10.4.7	ステータス入力の設定	106	12.4.2	対策情報の呼び出し	189
10.4.8	電流出力の設定	107	12.5	FieldCare または DeviceCare の診断情報 ...	189
10.4.9	パルス/周波数/スイッチ出力の 設定	111	12.5.1	診断オプション	189
10.4.10	リレー出力の設定	118	12.5.2	対策情報の呼び出し	190
10.4.11	ダブルパルス出力の設定	121	12.6	通信インターフェースを介した診断情報	191
10.4.12	現場表示器の設定	122	12.6.1	診断情報の読み出し	191
10.4.13	ローフローカットオフの設定	127	12.6.2	エラー応答モードの設定	191
10.4.14	非満管検出の設定	128			

12.7	診断情報の適応	191
12.7.1	診断動作の適応	191
12.8	診断情報の概要	192
12.9	未処理の診断イベント	196
12.10	診断リスト	197
12.11	イベントログブック	198
12.11.1	イベントログの読み出し	198
12.11.2	イベントログブックのフィルタリング	198
12.11.3	診断イベントの概要	199
12.12	機器のリセット	200
12.12.1	「機器リセット」パラメータの機能範囲	200
12.13	機器情報	201
12.14	ファームウェアの履歴	202
12.15	機器の履歴と互換性	204
13	メンテナンス	205
13.1	メンテナンス作業	205
13.1.1	外部洗浄	205
13.1.2	内部洗浄	205
13.2	測定機器およびテスト機器	205
13.3	当社サービス	205
14	修理	206
14.1	一般的注意事項	206
14.1.1	修理および変更コンセプト	206
14.1.2	修理および変更に関する注意事項	206
14.2	スペアパーツ	206
14.3	Endress+Hauser サービス	206
14.4	返却	206
14.5	廃棄	207
14.5.1	機器の取外し	207
14.5.2	機器の廃棄	207
15	アクセサリ	208
15.1	機器固有のアクセサリ	208
15.1.1	変換器用	208
15.1.2	センサ用	209
15.2	サービス関連のアクセサリ	210
15.3	システムコンポーネント	210
16	技術データ	211
16.1	アプリケーション	211
16.2	機能とシステム構成	211
16.3	入力	212
16.4	出力	214
16.5	電源	219
16.6	性能特性	220
16.7	取付け	226
16.8	環境	226
16.9	プロセス	228
16.10	取引計量	231
16.11	構造	231
16.12	ユーザーインターフェース	236
16.13	合格証と認証	239

16.14	アプリケーションパッケージ	243
16.15	アクセサリ	245
16.16	補足資料	245

索引	247
-----------	------------

1 本説明書について

1.1 本文の目的

本取扱説明書には、機器のライフサイクルの各段階（製品識別表示、納品内容確認、保管、設置、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 シンボル

1.2.1 安全シンボル

 危険

危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。

 警告

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。

 注意

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷または中程度のけがを負う恐れがあります。

 注記

潜在的に有害な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、製品や周囲のものを破損する恐れがあります。

1.2.2 電気シンボル

シンボル	意味
	直流
	交流
	直流および交流
	接地接続 オペレータを保護するために、接地システムを使用して接地された接地端子
	電位平衡接続（PE：保護接地） その他の接続を行う前に接地端子の接地接続が必要です。 接地端子は機器の内側と外側にあります。 ■ 内側の接地端子：電位平衡を電源ネットワークに接続します。 ■ 外側の接地端子：機器とプラントの接地システムを接続します。

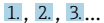
1.2.3 通信関連のシンボル

シンボル	意味
	ワイヤレス ローカル エリア ネットワーク（WLAN） ローカルネットワークを介した無線通信

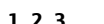
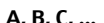
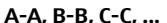
1.2.4 工具シンボル

シンボル	意味
	Torx ドライバ
	プラスドライバ
	スパナ

1.2.5 特定情報に関するシンボル

シンボル	意味
	許可 許可された手順、プロセス、動作
	推奨 推奨の手順、プロセス、動作
	禁止 禁止された手順、プロセス、動作
	ヒント 追加情報を示します。
	資料参照
	ページ参照
	図参照
	注意すべき注記または個々のステップ
	一連のステップ
	操作・設定の結果
	問題が発生した場合のヘルプ
	目視確認

1.2.6 図中のシンボル

シンボル	意味
	項目番号
	一連のステップ
	図
	断面図
	危険場所
	安全場所（非危険場所）
	流れ方向

1.3 関連資料

-  関連する技術資料の概要については、以下を参照してください。
- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer)：銘板のシリアル番号を入力します。
 - Endress+Hauser Operations アプリ：銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

ご注文の機器バージョンに応じて、以下の関連資料が用意されています。

資料タイプ	資料の目的および内容
技術仕様書 (TI)	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書 (KA)	初回の測定を迅速に行うための手引き 簡易取扱説明書には、受入検査から初期調整までに必要なすべての情報が記載されています。
取扱説明書 (BA)	参考資料 取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、受入検査、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。
機能説明書 (GP)	使用するパラメータの参考資料 この資料には、各パラメータの詳細な説明が記載されています。本説明書は、全ライフサイクルにわたって本機器を使用し、特定の設定を行う人のために用意されたものです。
安全上の注意事項 (XA)	各種認定に応じて、危険場所で電気機器を使用するための安全上の注意事項も機器に付属します。安全上の注意事項は取扱説明書の付随資料です。  機器に対応する安全上の注意事項 (XA) の情報が銘板に明記されています。
機器固有の補足資料 (SD/FY)	関連する補足資料に記載される指示を常に厳守してください。補足資料は、機器資料に付随するものです。

1.4 登録商標

Modbus®
SCHNEIDER AUTOMATION, INC の登録商標です。

TRI-CLAMP (トリクランプ) ®
Ladish & Co., Inc., Kenosha, USA の登録商標です。

2 安全上の注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること。
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること。
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること。
- ▶ 作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、ならびに証明書（用途に応じて異なります）の説明を読み、内容を理解しておくこと。
- ▶ 指示に従い、基本条件を遵守すること。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること。
- ▶ 本資料の説明に従うこと。

2.2 指定用途

アプリケーションおよび測定物

本書で説明する計測機器は、液体および気体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。

ご注文の機器バージョンに応じて、爆発性¹⁾、可燃性、毒性および酸化性の測定物を測定することもできます。

危険場所、サニタリアプリケーション、または圧力によるリスクが高い場所で使用する計測機器の銘板には、それに関連する特別なラベルが貼付されています。

最適な条件下で計測機器を運転できるよう、以下の点に注意してください。

- ▶ 本計測機器を使用する場合は必ず、銘板に明記されたデータならびに取扱説明書や補足資料に記載された一般条件に従ってください。
- ▶ ご注文の機器が防爆仕様であるかどうかを銘板で確認してください（例：防爆認定、压力容器安全）。
- ▶ 本計測機器は、接液部材質の耐食性を十分に確保できる測定物の測定にのみ使用してください。
- ▶ 規定された圧力および温度の範囲内に保ってください。
- ▶ 指定された周囲温度範囲を超えないようにしてください。
- ▶ 環境の影響による腐食から計測機器を恒久的に保護してください。

不適切な用途

指定用途以外での使用は、安全性を危うくする可能性があります。不適切な使用や指定用途以外での使用に起因する損傷について、製造者は責任を負いません。

警告

腐食性または研磨性のある流体、あるいは周囲条件による破損の危険

- ▶ プロセス流体とセンサ材質の適合性を確認してください。
- ▶ プロセス内のすべての接液部材質の耐食性を確認してください。
- ▶ 規定された圧力および温度の範囲内に保ってください。

注記

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な流体および洗浄液に関して、Endress+Hauser では接液部材質の耐食性確認をサポートしますが、プロセスの温度、濃度、または汚染レベルのわずかな変化によって耐食性が変わる可能性があるため、保証や責任は負いかねます。

1) IO-Link 計測機器には適用されません。

残存リスク

⚠ 注意

高温または低温火傷に注意してください。使用する測定物および電子機器部が高温/低温になる場合、それに伴い機器の表面も高温/低温になる可能性があります。

- ▶ 適切な接触保護具を取り付けてください。

⚠ 警告

計測チューブ破損によるハウジング破損の危険があります。

計測チューブが破裂すると、センサハウジング内の圧力は使用プロセス圧力に応じて上昇します。

- ▶ 破裂板を使用してください。

⚠ 警告

測定物が漏れる危険性があります。

破裂板付きの機器の場合：圧力のかかった測定物が漏れることにより、負傷したり、物質的損害がもたらされる可能性があります。

- ▶ 破裂板が作動した場合に、負傷したり、物質的損害がもたらされることがないように、予防措置を講じてください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各国の規制に従って、必要な個人用保護具を着用してください。

2.4 操作上の安全性

機器が損傷する可能性があります。

- ▶ 本機器は、適切な技術条件およびフェールセーフ条件下でのみ操作してください。
- ▶ 施設作業するには、機器を支障なく操作できるようにする責任があります。

機器の改造

機器を無断で改造することは、予測不可能な危険を引き起こす可能性があるため、禁止されています。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、明確に許可された場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 純正のスペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

2.5 製品の安全性

本機器は、最新の安全要件に適合するように GEP (Good Engineering Practice) に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。

本機器は一般的な安全基準および法的要件を満たします。また、機器固有の EU 適合宣言に明記された EU 指令にも準拠します。Endress+Hauser は機器に CE マークを添付することにより、機器の適合性を保証します。

2.6 IT セキュリティ

取扱説明書の指示に従って製品を設置および使用した場合にのみ、当社の保証は有効です。本製品には、設定が誤って変更されないよう、保護するためのセキュリティ機構が備えられています。

製品および関連するデータ伝送の追加的な保護を提供する IT セキュリティ対策を、事業者自身が自社の安全基準に従って講じる必要があります。

2.7 機器固有の IT セキュリティ

ユーザー側の保護対策をサポートするため、本機器はさまざまな特定機能を提供します。この機能はユーザー設定が可能であり、適切に使用すると操作の安全性向上が保証されます。最も重要な機能の概要が以下のリストに示されています。

機能/インタフェース	工場設定	推奨
ハードウェア書き込み保護スイッチによる書き込み保護 → 図 11	無効	リスク評価に従って個別に設定する
アクセスコード (Web サーバーのログインや FieldCare の接続にも適用) → 図 11	無効 (0000)	カスタマイズされたアクセスコードを設定中に割り当てる
WLAN (表示モジュールの注文オプション)	有効	リスク評価に従って個別に設定する
WLAN セキュリティモード	有効 (WPA2-PSK)	変更しないでください。
WLAN パスフレーズ (パスワード) → 図 12	シリアル番号	設定時に個別の WLAN パスフレーズを割り当てる
WLAN モード	アクセスポイント	リスク評価に従って個別に設定する
Web サーバー → 図 12	有効	リスク評価に従って個別に設定する
CDI-RJ45 サービスインタフェース → 図 12	-	リスク評価に従って個別に設定する

2.7.1 ハードウェア書き込み保護によるアクセス保護

書き込み保護スイッチ（メイン電子モジュール上の DIP スイッチ）により、現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを無効にすることができます。ハードウェア書き込み保護が有効になっている場合は、パラメータの読み取りアクセスのみ可能です。

機器の納入時には、ハードウェア書き込み保護が無効になっています。→ 図 154

2.7.2 パスワードによるアクセス保護

機器パラメータへの書き込みアクセス、または WLAN インターフェイスを介した機器へのアクセスを防ぐため、各種のパスワードを使用できます。

- ユーザー固有のアクセスコード
現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを防止します。アクセス権は、ユーザー固有のアクセスコードを使用して明確に管理されます。
- WLAN のパスワード
ネットワークキーにより、オプションとして注文可能な WLAN インタフェースを介した操作ユニット（例：ノートパソコンまたはタブレット端末）と機器の接続が保護されます。
- インフラモード
機器がインフラモードで動作する場合、WLAN パスフレーズは事業者側で設定した WLAN パスフレーズと一致します。

ユーザー固有のアクセスコード

変更可能なユーザー固有のアクセスコードを使用して、現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを防止できます。（→ 図 153）。

機器の納入時には、機器のアクセスコードは未設定で 0000（オープン）となっています。

WLAN のパスワード : WLAN アクセスポイントとして動作

オプションとして注文可能な WLAN インターフェイスを介した操作部（例：ノートパソコンまたはタブレット端末）と機器の接続（→ 図 86）は、ネットワークキーにより保護されます。ネットワークキーの WLAN 認証は IEEE 802.11 規格に適合します。

機器の納入時には、ネットワークキーは機器に応じて事前設定されています。これは、**WLAN のパスワード** パラメータ（→ 図 146）の **WLAN 設定** サブメニュー で変更することが可能です。

インフラモード

機器と WLAN アクセスポイントの接続は、システム側の SSID とパスフレーズによって保護されています。アクセスするには、システム管理者にお問い合わせください。

パスワードの使用に関する一般的注意事項

- 機器とともに支給されたアクセスコードとネットワークキーは、安全上の理由から設定中に変更する必要があります。
- アクセスコードとネットワークキーの決定および管理を行う場合は、安全なパスワードを生成するための一般規則に従ってください。
- ユーザーにはアクセスコードとネットワークキーを管理して慎重に取り扱う責任があります。
- アクセスコードの設定やパスワード紛失時の対処法などの詳細については、「アクセスコードを介した書き込み保護」セクションを参照してください。→ 図 153

2.7.3 Web サーバー経由のアクセス

本機器には Web サーバーが内蔵されており、ウェブブラウザを使用して操作/設定を行うことができます → 図 78。接続は、サービスインタフェース（CDI-RJ45）または WLAN インタフェースを介して確立されます。

機器の納入時には、Web サーバーが使用可能な状態になっています。必要に応じて（例：設定完了後）、**Web サーバ 機能** パラメータを使用して Web サーバーを無効にすることができます。

機器およびステータス情報は、ログインページで非表示にできます。これにより、情報への不正アクセスを防ぐことができます。



機器パラメータの詳細については、以下を参照してください。
資料「機能説明書」。

2.7.4 サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由のアクセス

機器はサービスインタフェース（CDI-RJ45）を介してネットワークに接続できます。機器固有の機能により、ネットワーク内での機器の操作の安全性が保証されます。

IEC/ISA62443 または IEEE など、国内および国際的な安全委員会によって規定された関連する工業規格やガイドラインの使用を推奨します。これには、アクセス権の割り当てといった組織的なセキュリティ方法や、ネットワークセグメンテーションなどの技術的手段が含まれます。



Ex de 認証付き変換器はサービスインタフェース（CDI-RJ45）を介して接続することができません。

「変換器 + センサ 認証」のオーダーコード、オプション（Ex de）：BA、BB、C1、C2、GA、GB、MA、MB、NA、NB BB、C2、GB、MB、NB

3 製品説明

計測システムは、変換器とセンサで構成されています。変換器とセンサは物理的に別の場所に設置されます。これらは接続ケーブルを使用して相互に接続されます。

3.1 製品構成

変換器は 2 種類より選択可能です。

3.1.1 Proline 500 – デジタル

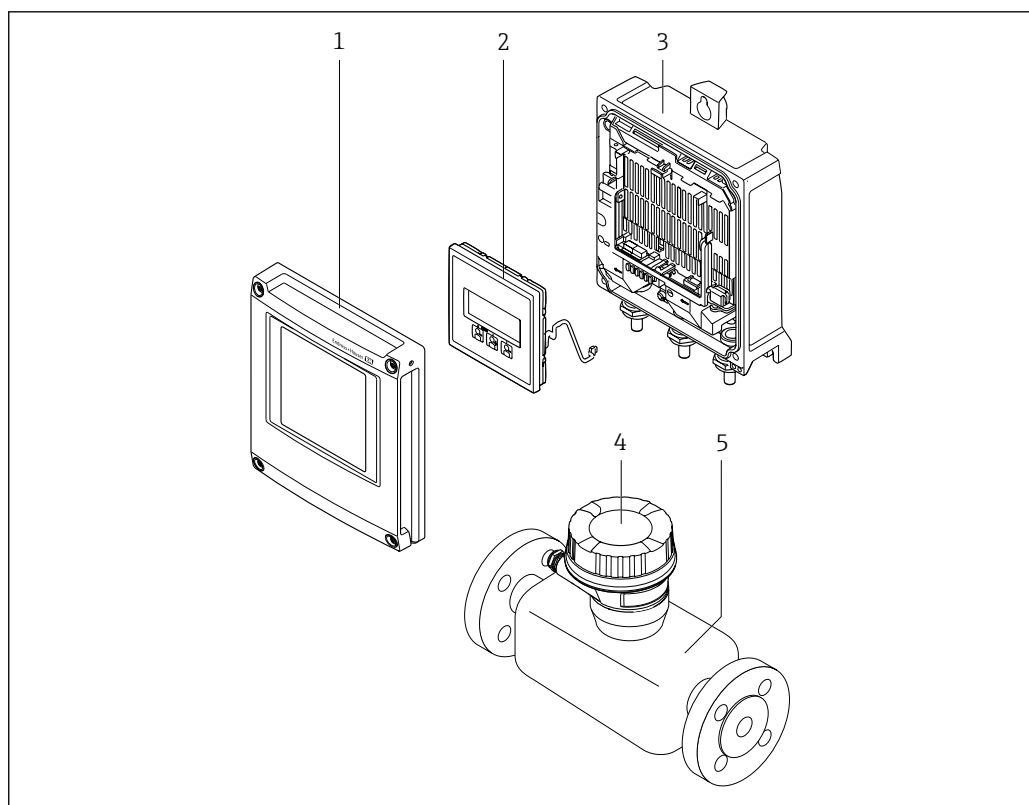
信号伝送：デジタル

「内蔵 ISEM 電子部」のオーダーコード、オプション **A** 「センサ」

環境条件または動作条件に起因する特別な要件を満たす必要のないアプリケーションで使用

電子モジュールがセンサ内にあるため、本機器は次の場合に最適：
変換器の容易な交換

- 標準ケーブルを接続ケーブルとして使用可能
- 外部の EMC 干渉の影響を受けない



A0029593

図 1 機器の主要コンポーネント

- 1 電子部のカバー
- 2 表示モジュール
- 3 変換器ハウジング
- 4 ISEM 電子部内蔵のセンサ接続ハウジング：接続ケーブル接続
- 5 センサ

3.1.2 Proline 500

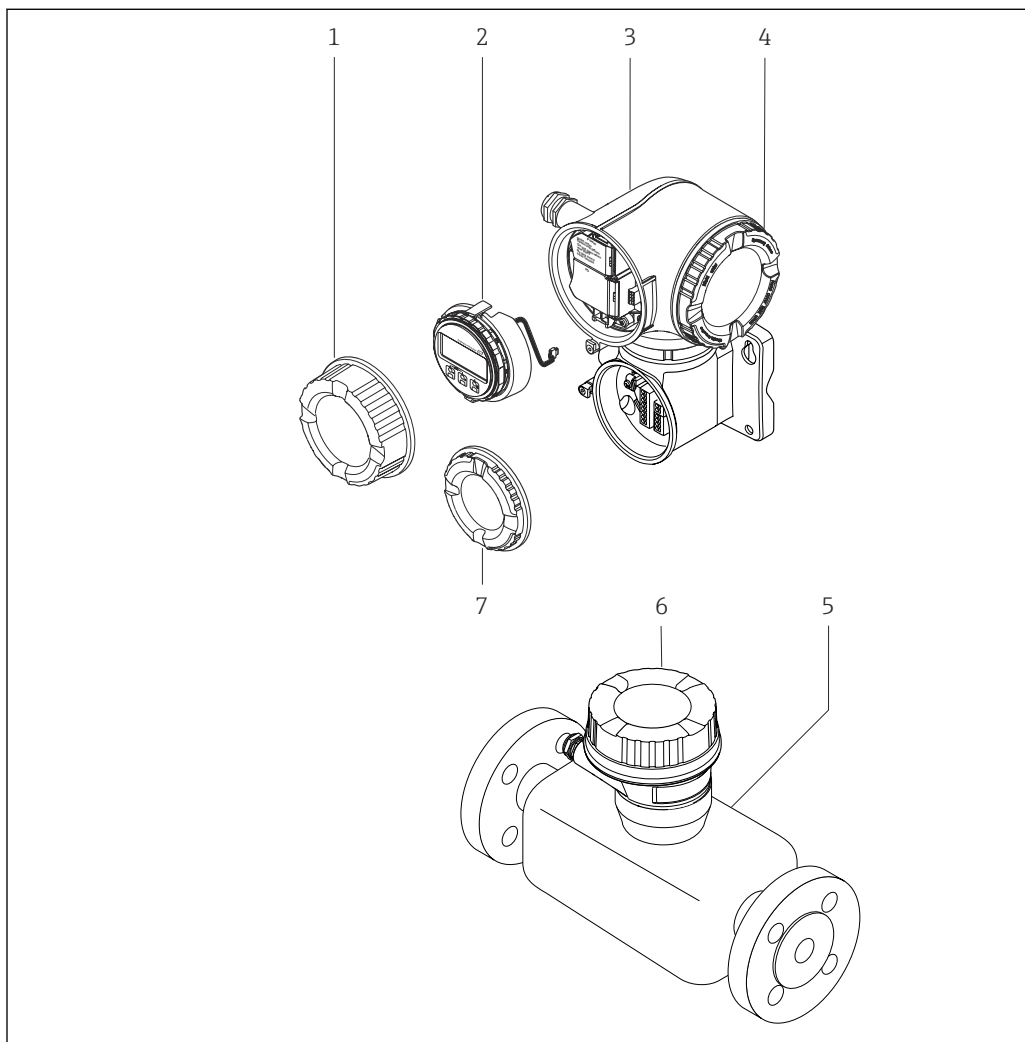
信号伝送：アナログ

「内蔵 ISEM 電子部」のオーダーコード、オプション **B** 「変換器」

環境条件または動作条件に起因する特別な要件を満たす必要のあるアプリケーションで使用

電子モジュールが変換器内にあるため、本機器は次の場合に最適：

- センサの振動が強い
- 地下埋設でセンサを使用
- センサを常時水中に浸漬



A0029589

図 2 機器の主要コンポーネント

- 1 端子部蓋
- 2 表示モジュール
- 3 ISEM 電子部内蔵の変換器ハウジング
- 4 電子部のカバー
- 5 センサ
- 6 センサ接続ハウジング：接続ケーブル接続
- 7 端子部蓋：接続ケーブル接続

4 受入検査および製品識別表示

4.1 受入検査

納品時：

1. 梱包に損傷がないか確認します。
 - ↳ すぐに製造者にすべての損傷を報告してください。
損傷したコンポーネントは取り付けないでください。
2. 納品書を使用して納入品目を確認します。
3. 銘板のデータと納品書に記載された注文仕様を比較します。
4. 技術仕様書やその他の必要な関連資料（例：証明書）がすべてそろっていることを確認します。



1 つでも条件が満たされていない場合は、製造者にお問い合わせください。

4.2 製品識別表示

機器は、次の方法で識別できます。

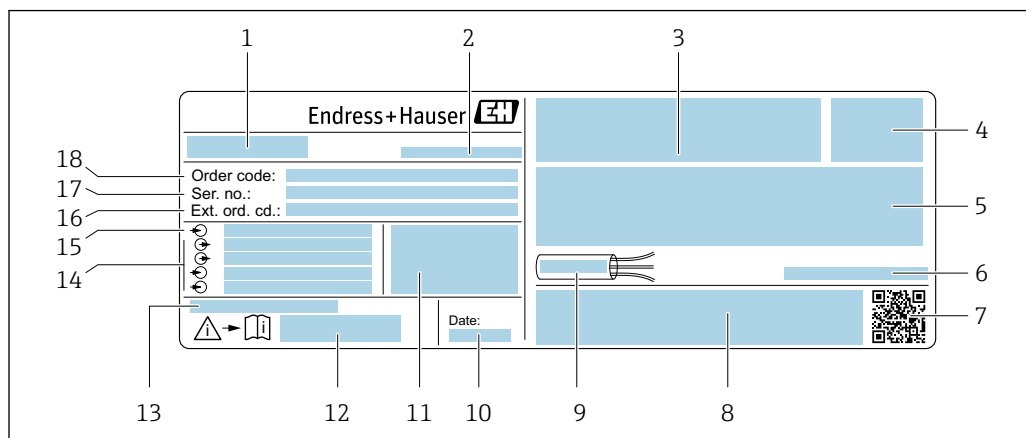
- 銘板
- 納品書に記載されたオーダーコード（機器仕様コードの明細付き）
- 銘板に記載されているシリアル番号をデバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) に入力します。機器に関するすべての情報が表示されます。
- 銘板のシリアル番号を Endress+Hauser Operations アプリに入力するか、Endress+Hauser Operations アプリで銘板のデータマトリクスコードをスキャンすると、機器に関するすべての情報が表示されます。

関連技術資料の範囲の概要に関しては、以下を参照ください。

- 「本機器のその他の標準資料」および「機器関連の補足資料」セクション
- デバイスビューワー：銘板のシリアル番号を入力してください (www.endress.com/deviceviewer)。
- Endress+Hauser Operations アプリ：銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のデータマトリクスコードをスキャンしてください。

4.2.1 変換器銘板

Proline 500 – デジタル

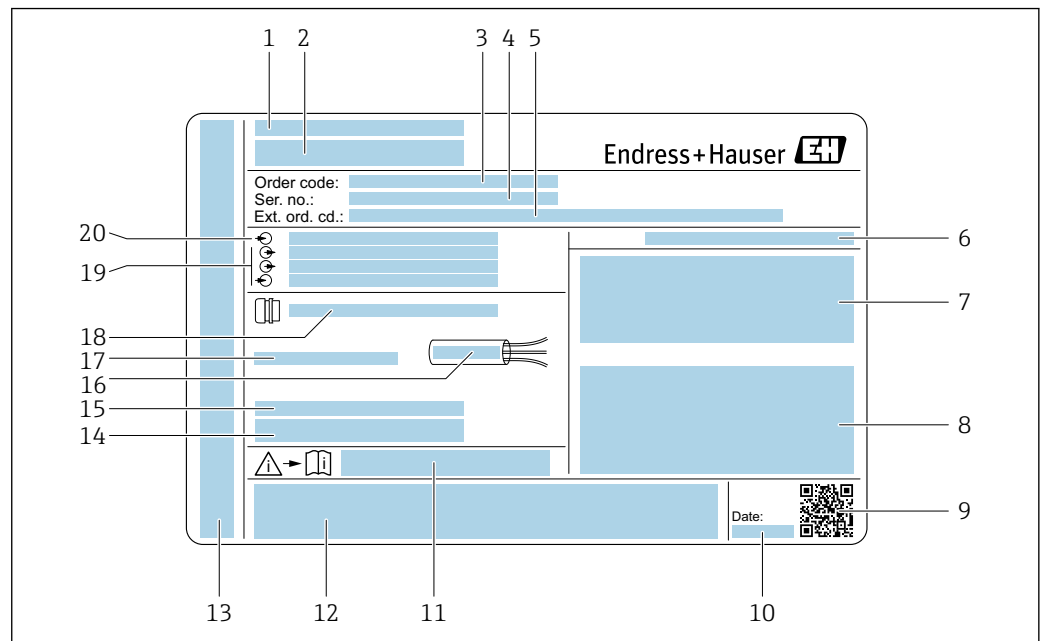


A0029194

図 3 変換器銘板の例

- 1 変換器名
- 2 製造者所在地/認証保有者
- 3 認定用スペース：危険場所用
- 4 保護等級
- 5 電気接続データ：使用可能な入力/出力
- 6 許容周囲温度 (T_a)
- 7 2-D マトリクスコード
- 8 認証および認定用スペース（例：CE マーク、RCM マーク）
- 9 ケーブルの許容温度範囲
- 10 製造日：年、月
- 11 工場出荷時のファームウェアのバージョン (FW) および機器リビジョン (Dev.Rev.)
- 12 安全関連の補足資料の資料番号
- 13 特殊仕様品の追加情報用スペース
- 14 使用可能な入力/出力、電源電圧
- 15 電気接続データ：電源電圧
- 16 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 17 シリアル番号 (Ser. no.)
- 18 オーダーコード

Proline 500



A0029192

4 変換器銘板の例

- 1 製造者所在地/認証保有者
- 2 変換器名
- 3 オーダーコード
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 保護等級
- 7 認定用スペース：危険場所用
- 8 電気接続データ：使用可能な入力/出力
- 9 2-D マトリクスコード
- 10 製造日：年、月
- 11 安全関連の補足資料の資料番号
- 12 認証および認定用スペース（例：CE マーク、RCM マーク）
- 13 接続およびアンプ部の保護等級用スペース（危険場所用）
- 14 工場出荷時のファームウェアのバージョン (FW) および機器リビジョン (Dev.Rev.)
- 15 特殊仕様品の追加情報用スペース
- 16 ケーブルの許容温度範囲
- 17 許容周囲温度 (T_a)
- 18 ケーブルグランドの情報
- 19 使用可能な入力/出力、電源電圧
- 20 電気接続データ：電源電圧

4.2.2 センサ銘板

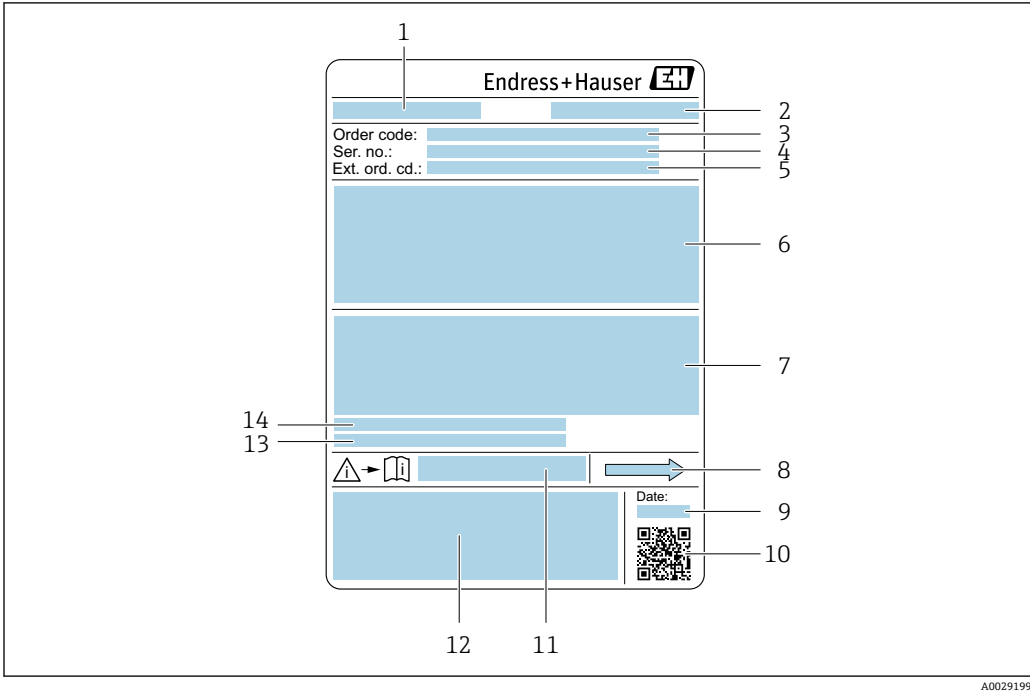


図 5 センサ銘板の例

- 1 センサ名
- 2 製造者所在地/認証保有者
- 3 オーダーコード
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 センサ呼び口径、フランジ呼び口径/定格圧力、センサ試験圧力、流体温度範囲、計測チューブおよびマニホールドの材質、センサ固有の情報 (例: センサハウジングの圧力範囲、密度仕様 (高精度密度校正))
- 7 防爆認定、欧州圧力機器指令、保護等級の情報
- 8 流れ方向
- 9 製造日: 年、月
- 10 2-D マトリクスコード
- 11 安全関連の補足資料の資料番号
- 12 CE マーク、RCM マーク
- 13 表面粗さ
- 14 許容周囲温度 (T_a)

i オーダーコード

機器の追加注文の際は、オーダーコードを使用してください。

拡張オーダーコード

- 機器タイプ (製品ルートコード) と基本仕様 (必須仕様コード) を必ず記入します。
- オプション仕様 (オプション仕様コード) については、安全および認定に関する仕様のみを記入します (例: LA)。その他のオプション仕様も注文する場合、これは # 記号を用いて示されます (例: #LA#)。
- 注文したオプション仕様に安全および認定に関する仕様が含まれない場合は、+ 記号を用いて示されます (例: XXXXXX-ABCDE+)。

4.2.3 機器のシンボル

シンボル	意味
	警告 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して適切な対処を怠った場合、死亡、重傷、爆発などの重大事故が発生する可能性があります。潜在的な危険のタイプを特定し、それを回避するには、計測機器の関連資料を参照してください。
	資料参照 対応する機器関連文書の参照指示
	保護接地端子 その他の接続を行う前に、接地接続する必要がある端子

5 保管および輸送

5.1 保管条件

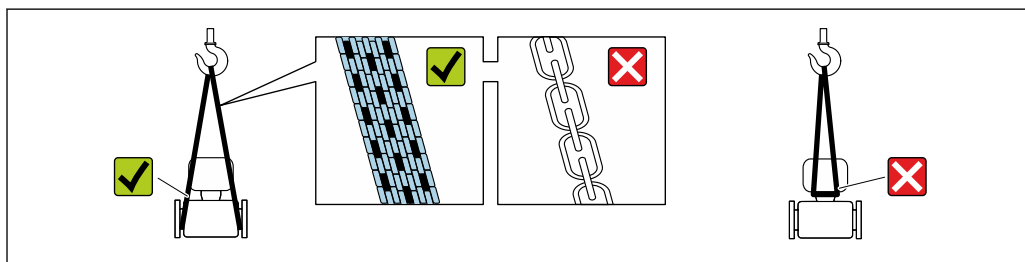
保管する際は、次の点に注意してください。

- ▶ 衝撃を防止するため、納品に使用された梱包材を使って保管してください。
- ▶ プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたは保護キャップは外さないでください。これは、シール面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。
- ▶ 直射日光があたらないようにしてください。表面温度が高くなりすぎないようにしてください。
- ▶ 乾燥した、粉塵のない場所に保管してください。
- ▶ 屋外に保管しないでください。

保管温度 → 226

5.2 製品の運搬

納品に使用された梱包材を使って、機器を測定現場まで運搬してください。



A0029252

i プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたはキャップは外さないでください。これは、シール表面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。

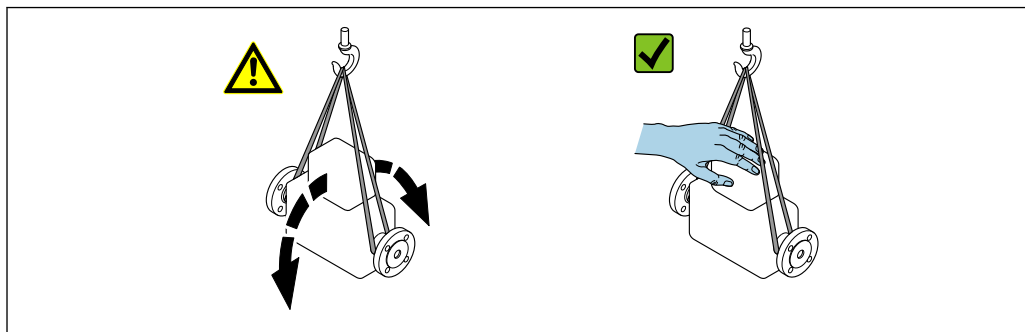
5.2.1 吊金具なし機器

⚠ 警告

機器の重心は、吊り帯の吊り下げポイントより高い位置にあります。

機器がずり落ちると負傷する恐れがあります。

- ▶ 機器がずり落ちたり、回転したりしないようにしっかりと固定してください。
- ▶ 梱包材に明記された質量（貼付ラベル）に注意してください。



A0029214

5.2.2 吊金具付き機器

⚠ 注意

吊金具付き機器用の特別な運搬指示

- ▶ 機器の運搬には、機器に取り付けられている吊金具またはフランジのみを使用してください。
- ▶ 機器は必ず、最低でも 2 つ以上の吊金具で固定してください。

5.2.3 フォークリフトによる運搬

木箱に入れて運搬する場合は、フォークリフトを使用して縦方向または両方向で持ち上げられるような木箱の床構造となっています。

5.3 梱包材の廃棄

梱包材はすべて環境にやさしく、100% リサイクル可能です。

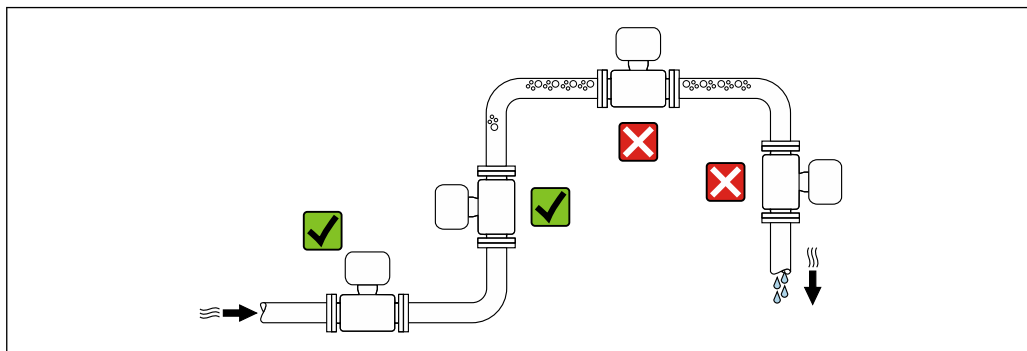
- 機器の外装
 - EU 指令 2002/95/EC (RoHS) に準拠するポリマー製ストレッチフィルム
- 梱包材
 - ISPM 15 基準に準拠して処理された木枠、IPPC ログによる確認証明付き
 - 欧州包装ガイドライン 94/62/EC に準拠する段ボール箱、リサイクル可能、RESY マークによる確認証明付き
- 輸送用資材および固定具
 - 使い捨てプラスチック製パレット
 - プラスチック製ストラップ
 - プラスチック製粘着テープ
- 充填材
 - 紙製緩衝材

6 設置

6.1 取付要件

6.1.1 取付位置

設置場所



A0028772

測定管内の気泡溜まりによる測定誤差を防止するため、以下の配管位置には取付けないでください。

- 配管の最も高い位置
- 下向き垂直配管の開放出口の直前

下り配管への設置

ただし、次の設置方法をとることにより、開放型の垂直配管への取付けも可能です。呼び口径より断面積の小さな絞り機構あるいはオリフィスプレートを設けることにより、測定中に計測チューブ内が空洞状態になることを防止できます。

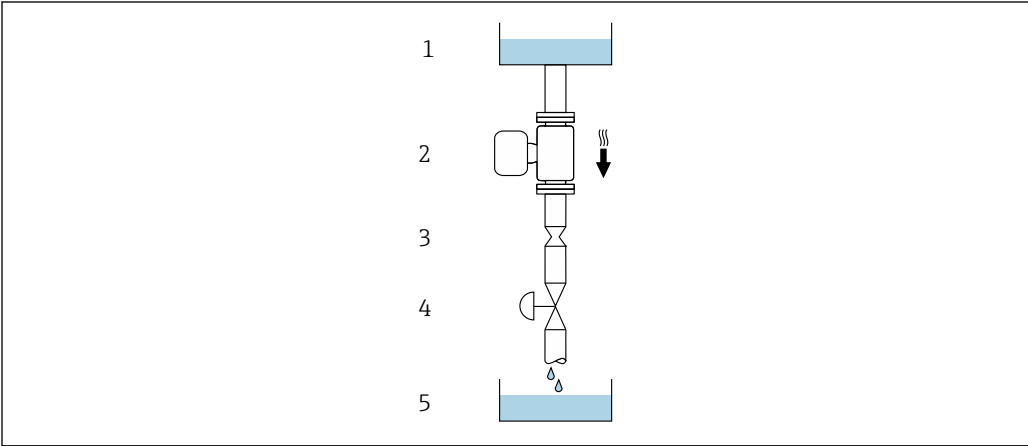


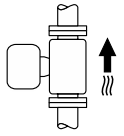
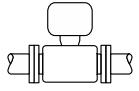
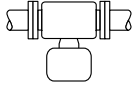
図 6 下り配管への設置（例：パッチアプリケーション用）

- 1 供給タンク
- 2 センサ
- 3 オリフィスプレート、絞り機構
- 4 バルブ
- 5 充填容器

呼び口径		Øオリフィスプレート、絞り機構	
[mm]	[in]	[mm]	[in]
8	3/8	6	0.24
15	1/2	10	0.40
25	1	14	0.55
40	1 1/2	22	0.87
50	2	28	1.10
80	3	50	1.97
100	4	65	2.60
150	6	90	3.54
250	10	150	5.91

取付方向

センサの銘板に表示された矢印の方向が、流れ方向（配管を流れる測定物の方向）に従ってセンサを取り付ける際に役立ちます。

取付方向			推奨
A	垂直方向	 A0015591	✓✓ ¹⁾
B	水平方向、変換器が上向き	 A0015589	✓✓ ²⁾ 例外： → 7, 23
C	水平方向、変換器が下向き	 A0015590	✓✓ ³⁾ 例外： → 7, 23
D	水平方向、変換器が横向き	 A0015592	✗

- 1) 確実に自己排水するためには、この取付方向を推奨します。
- 2) プロセス温度が低いアプリケーションでは、周囲温度も低くなる場合があります。これは、変換器の最低周囲温度を守るための推奨の取付方向です。
- 3) プロセス温度が高いアプリケーションでは、周囲温度も高くなる場合があります。これは、変換器の最大周囲温度を守るための推奨の取付方向です。

計測チューブが弓形のセンサを水平取付する場合は、液体の特性に考慮した位置にセンサを設置してください。

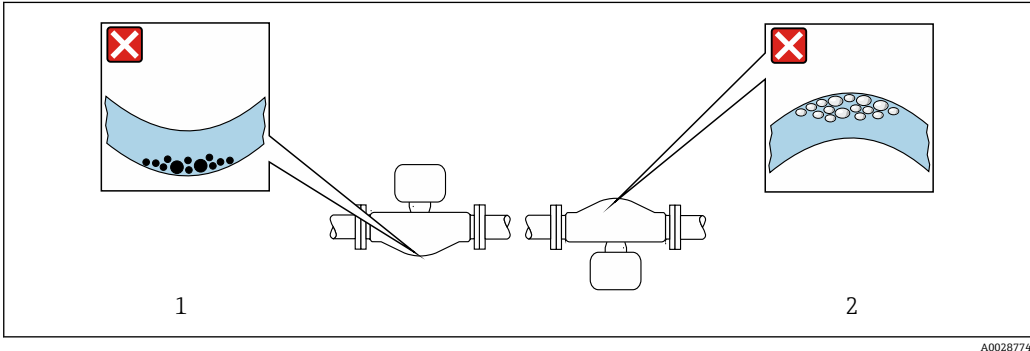
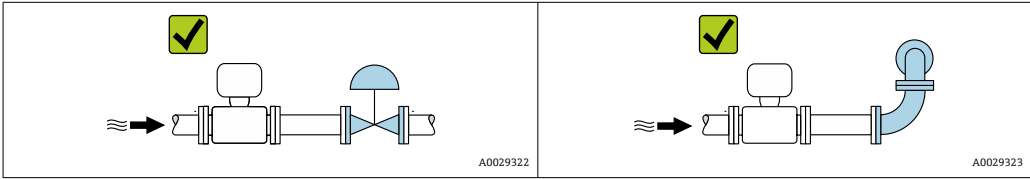


図 7 弓形計測チューブセンサの取付方向

- 1 固形分を含む液体には、この取付方向は避けてください。固形分が堆積する恐れがあります。
- 2 気泡が発生する恐れのある液体には、この取付方向は避けてください。気泡が滞留する恐れがあります。

上流側/下流側直管長

キャビテーションが発生しない限り、流れの乱れを生じさせる障害物（バルブ、エルボ、チーズなど）に特別な予防措置をとる必要はありません → 24。



取付寸法

機器の外形寸法および取付寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

6.1.2 環境およびプロセスの要件

周囲温度範囲

機器	■ -40～+60 °C (-40～+140 °F) ■ 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JP : -50～+60 °C (-58～+140 °F) ■ 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JQ : ■ センサ : -60～+60 °C (-76～+140 °F) ■ 変換器 : -50～+60 °C (-58～+140 °F)
現場表示器の視認性	-20～+60 °C (-4～+140 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。

 周囲温度と測定物温度の依存関係→  228

- ▶ 屋外で使用する場合 :
特に高温地域では直射日光は避けてください。

静圧

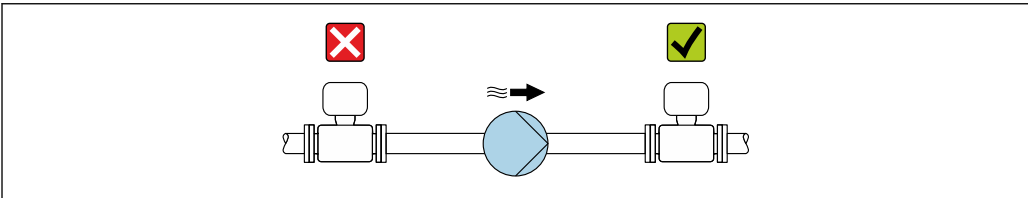
キャビテーションが発生しないようにすることや、液体に混入したガスが発泡しないようにすることが重要です。

使用圧力が蒸気圧を下回った場合に、キャビテーションは発生します。

- 沸点の低い液体において（例：炭化水素、溶剤、液化ガス）
- 吸引ラインにおいて
- ▶ キャビテーションやガスの発泡を防止するため、静圧を十分に高く維持してください。

従って、最適な設置場所は以下のようになります。

- 垂直配管の最下点
- ポンプの下流側（真空になる恐れがありません）



A0028777

断熱

一部の流体においては、センサから変換器への放射熱を低く抑えることが重要です。必要な断熱を設けるために、さまざまな材質を使用することができます。

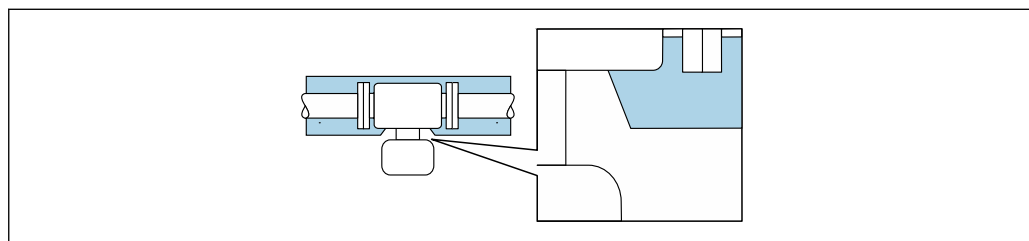
断熱材付きのバージョンには、以下の機器バージョンが推奨されます。

- 断熱材用の伸長ネック付きバージョン :
「センサオプション」のオーダーコード、オプション CG、長さ 105 mm (4.13 in) の伸長ネック付き
- 拡張温度バージョン :
「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション SD、SE、SF、TH、長さ 105 mm (4.13 in) の伸長ネック付き
- 高温バージョン :
「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション TS、TT、TU、長さ 142 mm (5.59 in) の伸長ネック付き

注記

断熱により電子機器部が過熱する恐れがあります。

- ▶ 推奨の取付方向：水平取付、センサ接続ハウジングは下向き
- ▶ センサ接続ハウジングを断熱しないでください。
- ▶ センサ接続ハウジング下端の許容最高温度：80 °C (176 °F)
- ▶ 伸長ネックを覆わない断熱について：最適な放熱を保証するために、伸長ネックを断熱しないことをお勧めします。



A0034391

図 8 伸長ネックを覆わない断熱



低温バージョン：通常は、センサ接続ハウジングを断熱する必要はありません。断熱材が用意されている場合は、断熱材向けの規則と同じものが適用されます。

ヒーティング

注記

周囲温度の上昇により電子モジュールが過熱する恐れがあります。

- ▶ 変換器の許容最高周囲温度に注意してください。
- ▶ 流体温度に応じて、機器取付方向の要件を考慮してください。

注記

ヒーティング時の過熱の危険

- ▶ 変換器ハウジング下端の温度は 80 °C (176 °F) を超えないようにしてください。
- ▶ 変換器ネック部分で十分な対流が起きていることを確認してください。
- ▶ 変換器ネック部分周囲の十分な範囲が覆われないようにしてください。覆われていない変換器の台座より放熱し、電子機器部が過熱/過冷却するのを防ぎます。
- ▶ 爆発性雰囲気を使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。温度表の詳細については、別冊の機器の「安全上の注意事項」(XA) を参照してください。
- ▶ 適切なシステムデザインでも過熱を抑制できない場合は、プロセス診断「830 周囲温度が高すぎる」および「832 基板温度が高すぎる」を確認してください。

ヒーティングオプション

センサで熱損失が発生してはならない流体の場合は、次のヒーティングオプションを利用することが可能です。

- 電気ヒーティング（例：電気バンドヒーターの使用）²⁾
- 温水または蒸気を利用した配管
- スチームジャケット

振動

計測チューブは高い振動周波数で測定を行っているため、配管等の外部振動の影響を受けません。

2) 並列電気バンドヒーターの使用が一般的に推奨されます（双方向の電気の流れ）。単線式ヒーターケーブルを使用する場合は、特別な考慮が必要です。追加情報については、EA01339D「電気トレースヒーティングシステムの設置要領書」を参照してください。

6.1.3 特定の取付方法

排液性

垂直方向に設置すると、計測チューブから液体を完全に排出して付着を防止することができます。

サニタリ適合性

 サニタリアプリケーションに設置する場合は、「認証と認定」の「サニタリ適合性」セクションを参照してください。→  240

破裂板

プロセス関連の情報：→  229

警告

測定物が漏れる危険性があります。

圧力のかかった測定物が漏れることにより、負傷したり、物質的損害がもたらされる可能性があります。

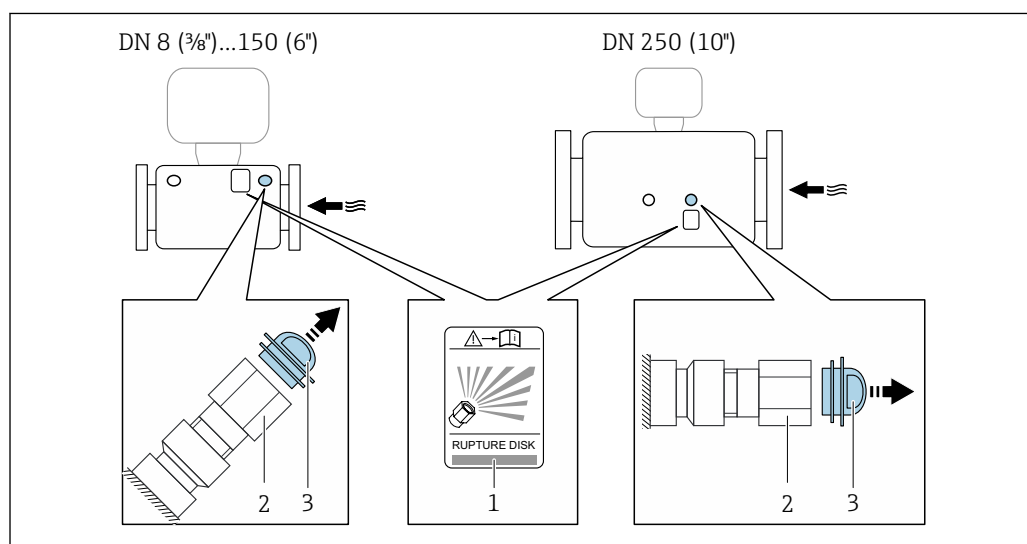
- ▶ 破裂板が作動した場合に、要員に危険が及んだり損傷したりしないよう、予防措置を講じてください。
- ▶ 破裂板ラベルの情報に注意してください。
- ▶ 破裂板の機能や作動が機器の設置により妨げられないように注意してください。
- ▶ スチームジャケットは使用しないでください。
- ▶ 破裂板を取り外したり、破損させたりしないでください。

破裂板の位置はその横に取り付けられたラベルに示されています。

輸送用ガードを取り外す必要があります。

既存の接続ノズルは洗浄または圧力を監視するためのものではなく、破裂板の取付位置として機能します。

破裂板が故障した場合、漏れた測定物を排出するための排出管を破裂板の雌ねじにねじ込むことができます。



A0028903

- 1 破裂板ラベル
- 2 1/2" NPT 雌ねじ付き破裂板 (対辺距離 1")
- 3 輸送用ガード

 寸法については、「技術仕様書」の「構造」セクション（アクセサリ）を参照してください。

ゼロ検証およびゼロ調整

すべての計測機器は、最新技術に従って校正が実施されています。校正は、基準条件下で行われています→ 図 220。そのため、現場でのゼロ調整は、通常は必要ありません。

ゼロ調整が推奨されるのは、次のような特別な場合のみです。

- 低流量でも最高の測定精度が要求される場合
- 過酷なプロセス条件または動作条件の場合（例：非常に高いプロセス温度、非常に高粘度の流体）
- 低圧のガスアプリケーションの場合

i 低流量時に最高レベルの測定精度を得るには、運転中の機械的応力からセンサが保護されるように設置する必要があります。

代表的なゼロ点を取得するには、次の点を確認してください。

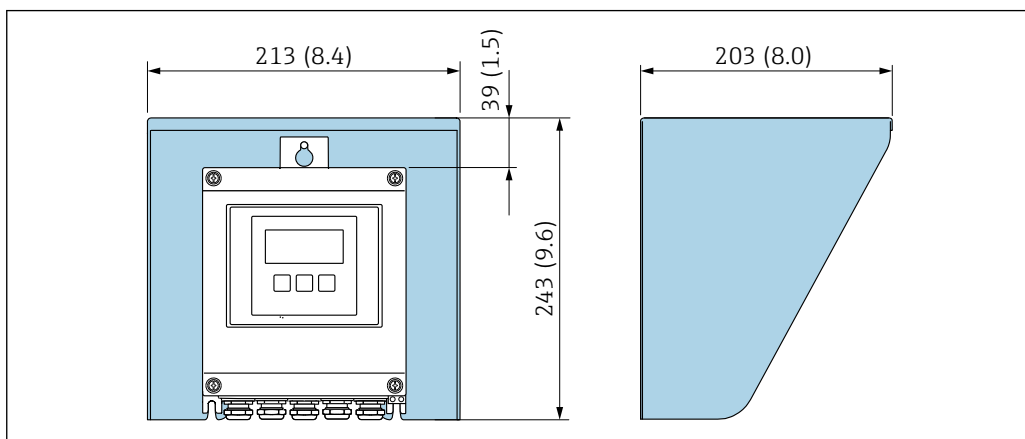
- 調整中に機器内に流れが生じないこと
- プロセス条件（例：圧力、温度）が代表的なものであり、安定していること

以下のプロセス条件下では、検証および調整を実行できません。

- 気泡
システムが媒体で十分に洗い流されていることを確認してください。繰り返し洗い流すと、気泡を取り除くことができます。
- 熱循環
温度差がある場合（例：計測チューブ入口と出口部分の間）、機器内の熱循環によりバルブが閉じていても誘起流が発生する可能性があります。
- バルブの漏れ
バルブに気密性がないと、ゼロ点を決定するときに流れを十分に防ぐことができません。

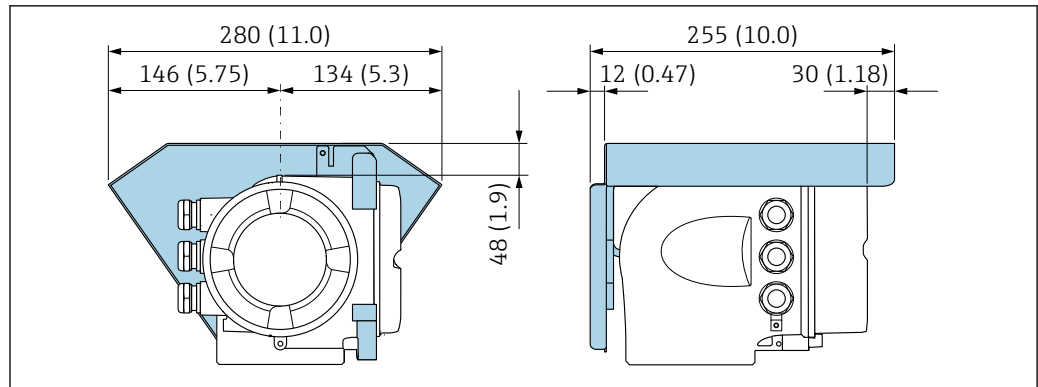
これらの条件が避けられない場合は、工場出荷時のゼロ点設定のままにしておくことを推奨します。

日除けカバー



A0029552

図 9 Proline 500 – デジタル用の日除けカバー、工学単位 mm (in)



A0029553

■ 10 Proline 500 用の日除けカバー、工学単位 mm (in)

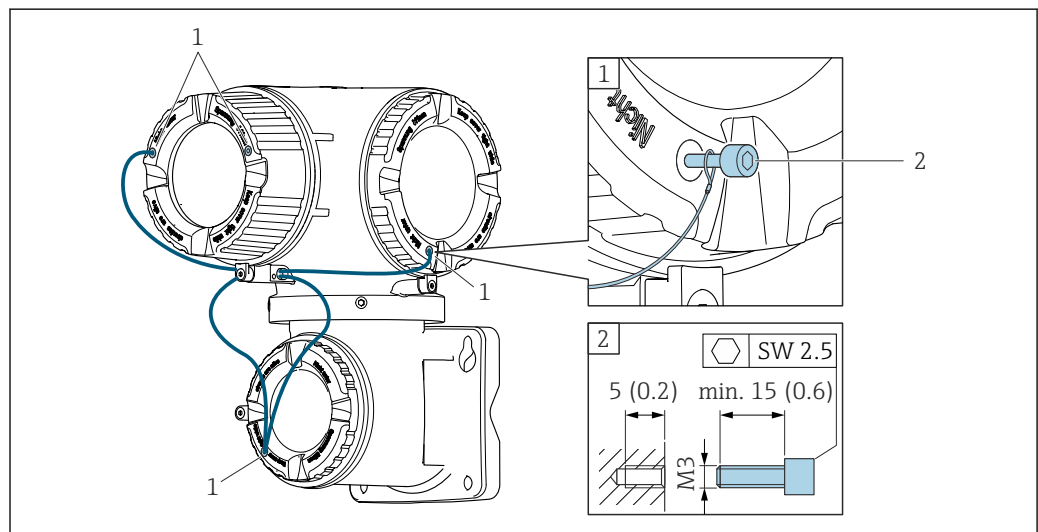
カバーのロック : Proline 500

注記

オーダーコード「変換器ハウジング」、オプション L「鋳造、ステンレス」: 変換器ハウジングのカバーには、カバーをロックするための穴が用意されています。

現場でユーザー側が用意するネジとチェーンまたはケーブルを使用してカバーをロックすることが可能です。

- ▶ ステンレス製のケーブルまたはチェーンの使用を推奨します。
- ▶ 保護コーティングされている場合は、ハウジングの塗装を保護するために熱収縮チューブの使用を推奨します。



A0029799

- 1 固定ネジ用のカバー穴
- 2 カバーをロックするための固定ネジ

6.2 計測機器の設置

6.2.1 必要な工具

変換器用

柱取付用：

- Proline 500 – デジタル変換器
 - スパナ AF 10
 - Torx ドライバ TX 25
- Proline 500 変換器
 - スパナ AF 13

壁取付け用：

ドリルビット Ø 6.0 mm 付きドリル

センサ用

フランジおよびその他のプロセス接続の場合：適切な取付工具を使用してください。

6.2.2 計測機器の準備

1. 残っている輸送梱包材をすべて取り除きます。
2. センサから保護カバーまたは保護キャップをすべて取り外します。
3. 電子部のカバーに付いているステッカーをはがします。

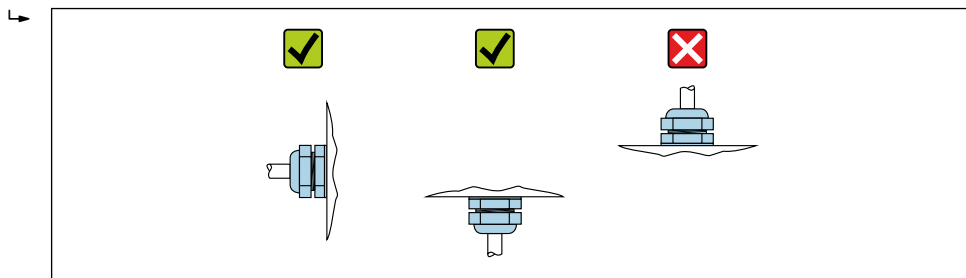
6.2.3 機器の取付け

⚠ 警告

プロセスの密閉性が不適切な場合、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ ガasketの内径がプロセス接続や配管と同等かそれより大きい確認してください。
- ▶ シールに汚れや損傷がないことを確認してください。
- ▶ シールを正しく固定してください。

1. センサの銘板に表示された矢印の方向が、測定物の流れ方向と一致していることを確認します。
2. 電線口が上を向かないように機器を取り付けるか、変換器ハウジングを回転させます。



A0029263

6.2.4 変換器ハウジングの取付け：Proline 500 – デジタル

⚠ 注意

周囲温度が高すぎます。

電子部過熱とハウジング変形が生じる恐れがあります。

- ▶ 許容最高周囲温度を超えないように注意してください。
- ▶ 屋外で使用する場合：特に高温地域では直射日光があたらないように、風化にさらされないようにしてください。

⚠ 注意

過度な力によりハウジングが損傷する恐れがあります。

- ▶ 過度な機械的応力がかからないようにしてください。

変換器は次のような方法で取付できます。

- 設置状況
- 壁取付け

パイプ取付け

必要な工具：

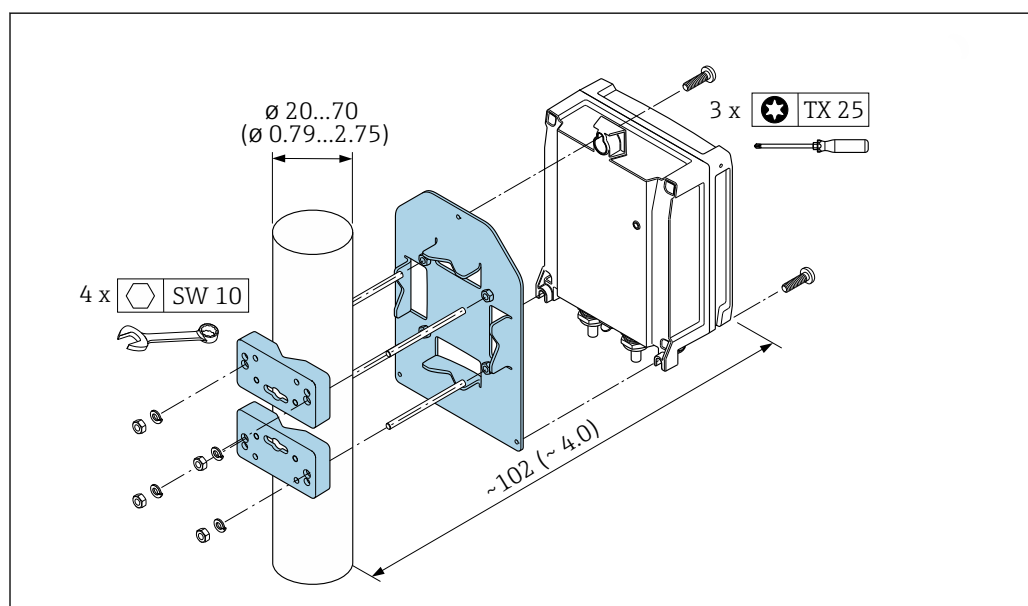
- スパナ AF 10
- Torx ドライバ TX 25

注記

固定ネジの締付けトルクが超過！

プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

- ▶ 締付けトルク：2.5 Nm (1.8 lbf ft) に従って固定ネジを締め付けてください。



A0029051

図 11 単位 mm (in)

壁取付け

必要な工具：

ドリルビット Ø 6.0 mm 付きドリル

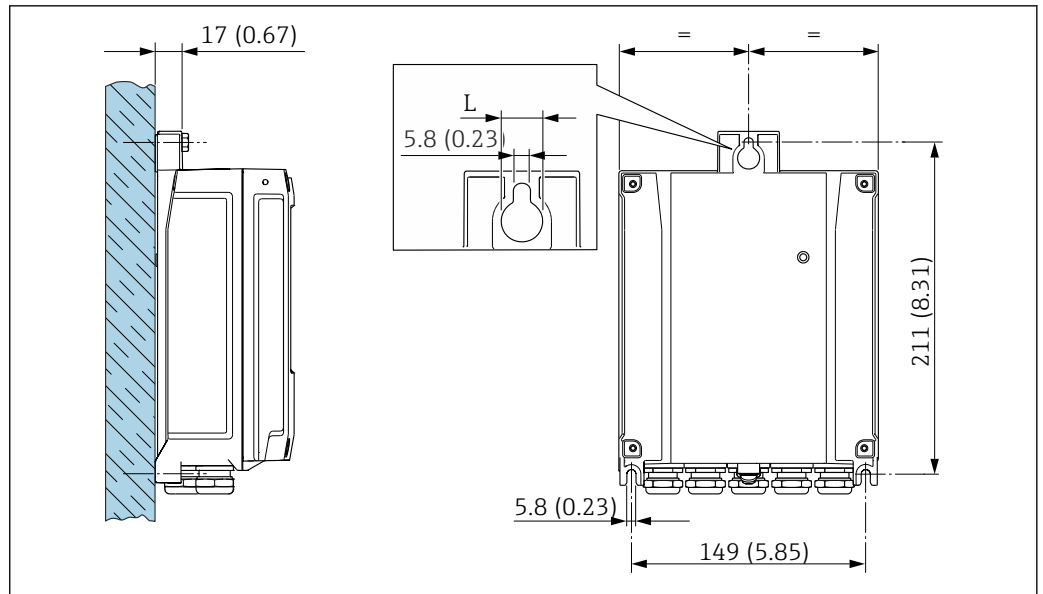


図 12 工学単位 mm (in)

L 「変換器ハウジング」のオーダーコードに応じて異なる

「変換器ハウジング」のオーダーコード

- オプション A、アルミニウム、コーティング : L = 14 mm (0.55 in)
- オプション D、ポリカーボネート : L = 13 mm (0.51 in)

1. ドリルで穴を開けます。
2. 壁用プラグを穴に挿入します。
3. 固定ネジを軽く締め付けます。
4. 固定ネジの上から変換器ハウジングを取り付けて、位置を合わせます。
5. 固定ネジを締め付けます。

6.2.5 変換器ハウジングの取付け : Proline 500

⚠ 注意

周囲温度が高すぎます。

電子部過熱とハウジング変形が生じる恐れがあります。

- ▶ 許容最高周囲温度を超えないように注意してください。
- ▶ 屋外で使用する場合：特に高温地域では直射日光が当たらないように、風化にさらされないようにしてください。

⚠ 注意

過度な力によりハウジングが損傷する恐れがあります。

- ▶ 過度な機械的応力がかからないようにしてください。

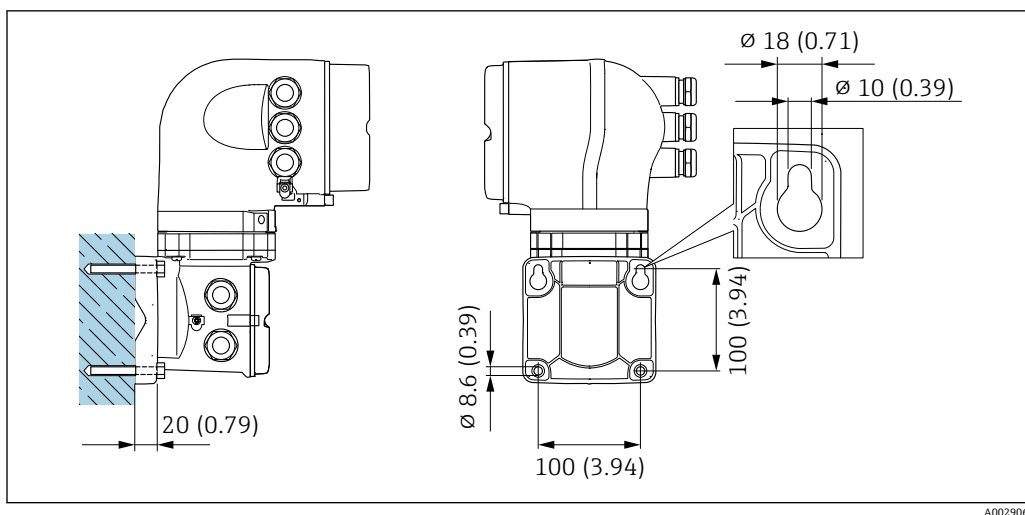
変換器は次のような方法で取付できます。

- 設置状況
- 壁取付け

壁取付け

必要な工具

ドリルビット Ø 6.0 mm 付きドリル



A0029068

図 13 工学単位 mm (in)

1. ドリルで穴を開けます。
2. 壁用プラグを穴に挿入します。
3. 固定ネジを軽く締め付けます。
4. 固定ネジの上から変換器ハウジングを取り付けて、位置を合わせます。
5. 固定ネジを締め付けます。

パイプ取付け

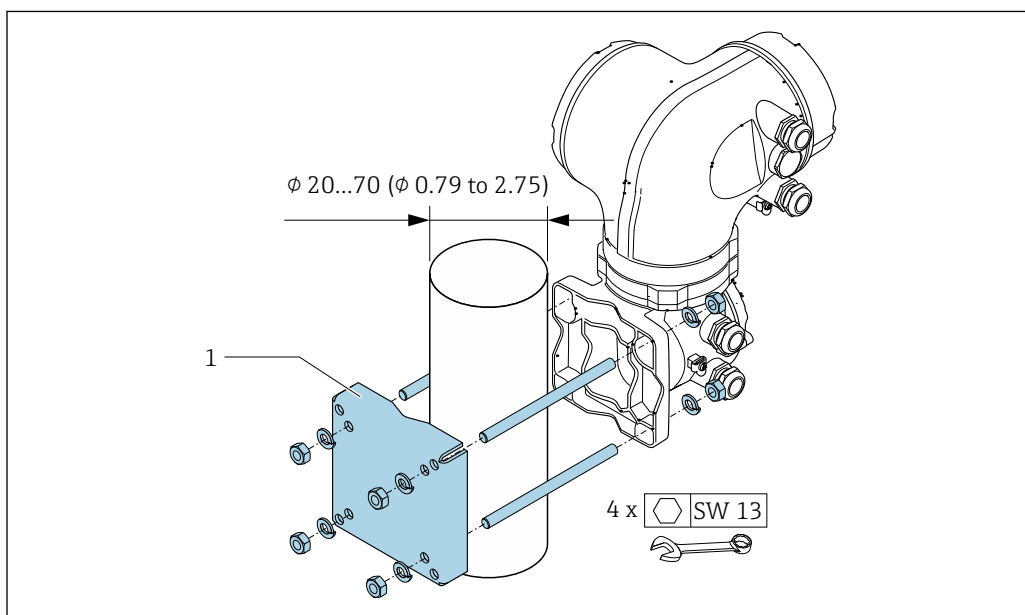
必要な工具
スパナ AF 13

警告

「変換器ハウジング」のオーダーコード、オプション L「鋳物、ステンレス」：鋳造変換器は非常に重いです。

しっかりと固定された柱に取り付けられていない場合は不安定になります。

▶ 必ず、しっかりと固定された柱の安定表面に取り付けてください。

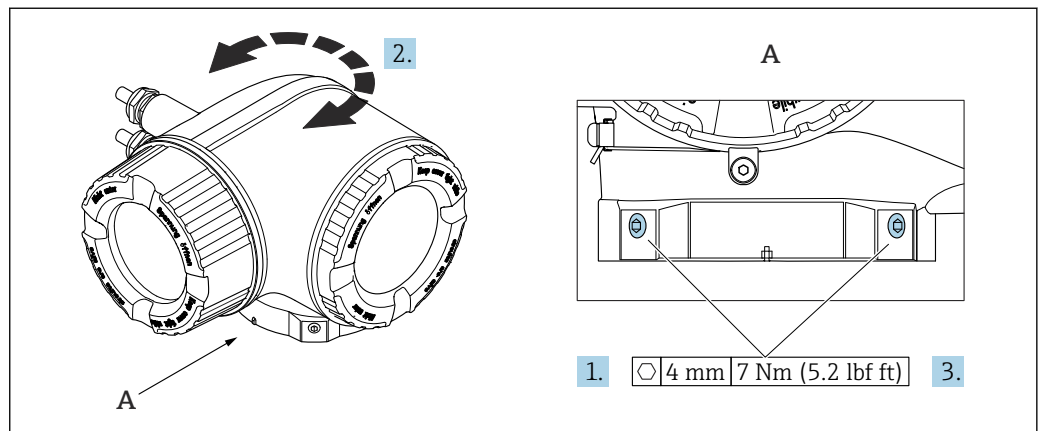


A0029057

図 14 工学単位 mm (in)

6.2.6 変換器ハウジングの回転 : Proline 500

端子部や表示モジュールにアクセスしやすくするため、変換器ハウジングを回転させることが可能です。



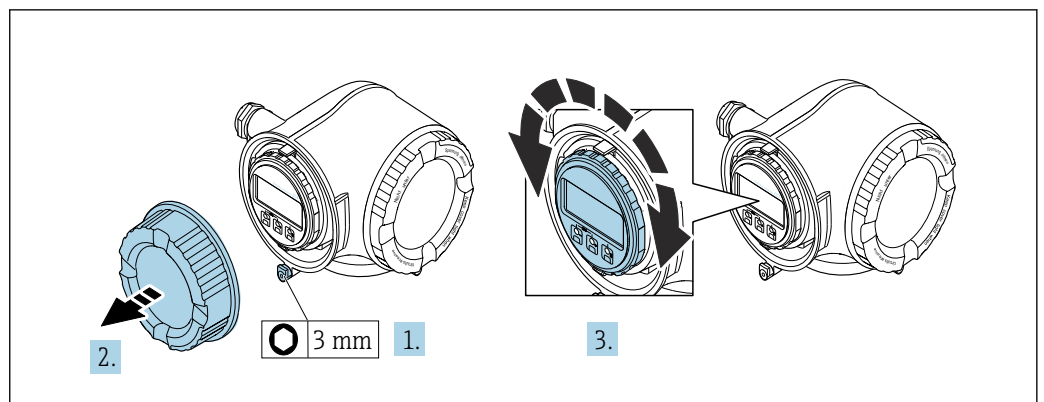
A0043150

図 15 防爆ハウジング

1. 固定ネジを緩めます。
2. ハウジングを必要な位置に回転させます。
3. 固定ネジを締め付けます。

6.2.7 表示モジュールの回転 : Proline 500

表示モジュールを回転させて、表示部の視認性と操作性を最適化することが可能です。



A0030035

1. 機器バージョンに応じて、端子部カバーの固定クランプを緩めます。
2. 端子部カバーを外します。
3. 表示モジュールを必要な位置に回転させます（両方向に最大 $8 \times 45^\circ$ ）。
4. 端子部カバーを取り付けます。
5. 機器バージョンに応じて、端子部カバーの固定クランプを取り付けます。

6.3 設置状況の確認

機器は損傷していないか？（外観検査）	☐
計測機器が測定点の仕様に对应しているか？ 例： ■ プロセス温度 → 図 228 ■ 圧力（技術仕様書の「P-T レイティング」セクションを参照） ■ 周囲温度 ■ 測定範囲	☐
センサの正しい取付方向が選択されているか？ → 図 22 ■ センサタイプに応じて ■ 測定物温度に応じて ■ 測定物特性に応じて（気泡、固形分が含まれる）	☐
センサの矢印が測定物の流れ方向と一致しているか？ → 図 22	☐
タグ名とそれに対応する銘板は正しいか（外観検査）？	☐
機器が雨水および直射日光から適切に保護されているか？	☐
固定ネジや固定クランプがしっかりと締め付けられているか？	☐

7 電気接続

警告

帯電部！電気接続に関する作業が不適切な場合、感電の危険性があります。

- ▶ 機器の電源を容易に切ることができるように、断路装置（スイッチまたは電源ブレーカ）を設定します。
- ▶ 機器のヒューズに加えて、最大 10 A の過電流保護ユニットをプラント設備に組み込んでください。

7.1 電気の安全性

適用される各国の規制に準拠

7.2 接続要件

7.2.1 必要な工具

- 電線口用：適切な工具を使用してください。
- 固定クランプ用：六角レンチ 3 mm
- 電線ストリッパー
- より線ケーブルを使用する場合：電線端棒端子用の圧着工具
- ケーブルを端子から外す場合：マイナスドライバ $\leq 3 \text{ mm}$ (0.12 in)

7.2.2 接続ケーブルの要件

ユーザー側で用意する接続ケーブルは、以下の要件を満たす必要があります。

外部接地端子用の保護接地ケーブル

導体断面積 $< 2.1 \text{ mm}^2$ (14 AWG)

ケーブルラグを使用すると、より大きな断面積の接続が可能になります。

接地インピーダンスは 2Ω 以下でなければなりません。

許容温度範囲

- 設置する国/地域に適用される設置ガイドラインを順守する必要があります。
- ケーブルは予想される最低温度および最高温度に適合しなければなりません。

電源ケーブル（内部接地端子用の導体を含む）

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

信号ケーブル

-  取引計量の場合、すべての信号線をシールドケーブル（錫メッキ銅編組線、光被覆率 $\geq 85 \%$ ）にする必要があります。ケーブルシールドを両側に接続してください。

Ethernet-APL

シールド付きツイストペアケーブル。ケーブルタイプ A が推奨です。

-  <https://www.profibus.com> の Ethernet-APL のホワイトペーパーを参照してください。

Modbus RS485

シールド付きツイストペアケーブル



<https://modbus.org> の「MODBUS over Serial Line Specification and Implementation Guide」を参照してください。

電流出力 0/4～20 mA（HART を除く）

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

パルス / 周波数 / スイッチ出力

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

リレー出力

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

電流入力 4～20 mA

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

ステータス入力

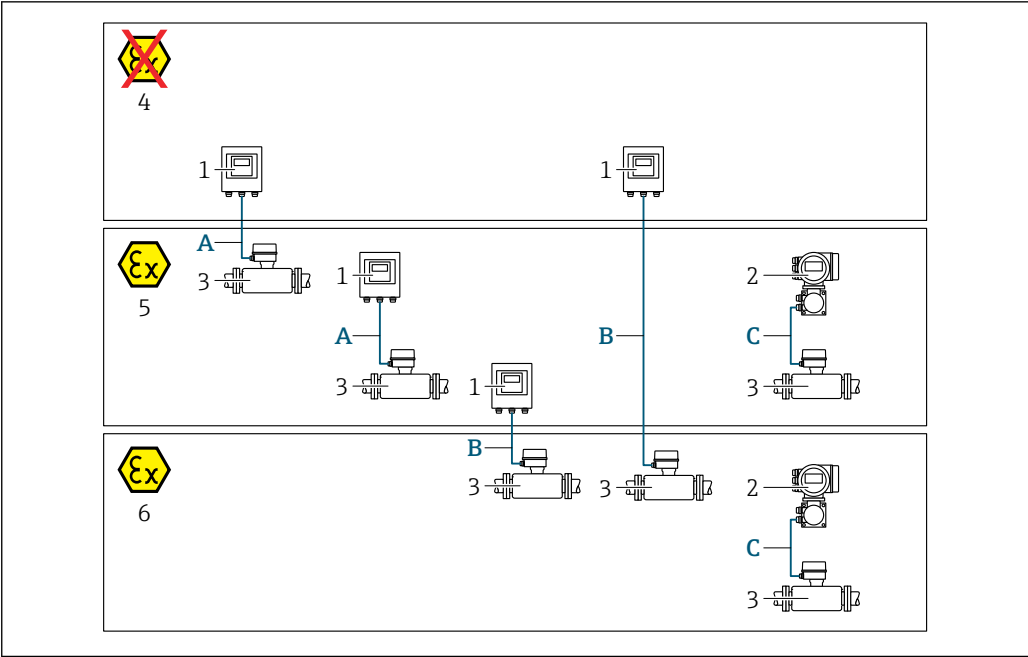
一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

ケーブル径

- 提供されるケーブルグランド：
M20 × 1.5、 $\varnothing$ 6～12 mm (0.24～0.47 in) ケーブル用
- スプリング端子：より線およびスリーブ付きより線に最適
導体断面積 0.2～2.5 mm² (24～12 AWG)

変換器とセンサ間の接続ケーブルの選択

変換器のタイプおよび設置ゾーンに応じて異なります。



A0032476

- 1 Proline 500 デジタル変換器
- 2 Proline 500 変換器
- 3 センサ Promass
- 4 非危険場所
- 5 危険場所：ゾーン 2; Class I, Division 2
- 6 危険場所：ゾーン 1; Class I, Division 1
- A 500 デジタル変換器への標準ケーブル → 図 37
非危険場所または危険場所に設置された変換器：ゾーン 2; Class I, Division 2/危険場所に設置されたセンサ：ゾーン 2; Class I, Division 2
- B 500 デジタル変換器への標準ケーブル → 図 38
危険場所に設置された変換器：ゾーン 2; Class I, Division 2/危険場所に設置されたセンサ：ゾーン 1; Class I, Division 1
- C 500 変換器への信号ケーブル → 図 40
危険場所に設置された変換器およびセンサ：ゾーン 2; Class I, Division 2 または ゾーン 1; Class I, Division 1

A：センサと変換器間の接続ケーブル：Proline 500 – デジタル標準ケーブル

以下の仕様の標準ケーブルを接続ケーブルとして使用できます。

構成	4 芯 (2 ペア)；非絶縁 CU より線；共通シールド付きペアより線
シールド	錫メッキ銅編組線、光学のカバー ≥ 85 %
ループ抵抗	電源ライン (+, -)：最大 10 Ω
ケーブル長	最大 300 m (900 ft)、下表を参照
機器プラグ、サイド 1	M12 ソケット、5 ピン、A コード
機器プラグ、サイド 2	M12 プラグ、5 ピン、A コード
ピン 1+2	接続コア (ツイストペア)
ピン 3+4	接続コア (ツイストペア)

断面積	ケーブル長 [最大]
0.34 mm ² (AWG 22)	80 m (240 ft)
0.50 mm ² (AWG 20)	120 m (360 ft)
0.75 mm ² (AWG 18)	180 m (540 ft)

断面積	ケーブル長 [最大]
1.00 mm ² (AWG 17)	240 m (720 ft)
1.50 mm ² (AWG 15)	300 m (900 ft)

オプションで使用可能な接続ケーブル

構成	2 × 2 × 0.34 mm ² (AWG 22) PVC ケーブル ¹⁾ 、共通シールド付き (2 ペア、非絶縁 CU より線、ペアより線)
難燃性	DIN EN 60332-1-2 準拠
耐油性	DIN EN 60811-2-1 準拠
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバー ≥ 85 %
連続動作温度	固定位置に取り付けた場合：-50～+105 °C (-58～+221 °F)；ケーブルを自由に移動できる場合：-25～+105 °C (-13～+221 °F)
使用可能なケーブル長	固定：20 m (60 ft)、可変：最大 50 m (150 ft)

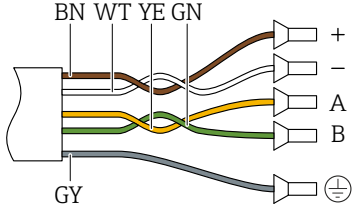
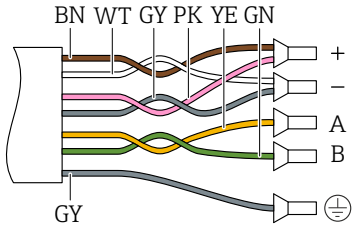
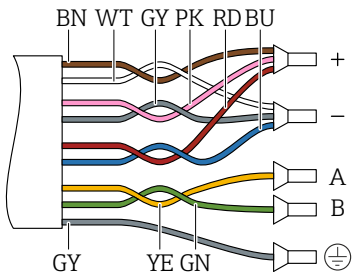
- 1) 紫外線放射により、ケーブルの外側シースが損なわれる可能性があります。可能な限り、ケーブルを直射日光から保護してください。

B：センサと変換器間の接続ケーブル：Proline 500 - デジタル

標準ケーブル

以下の仕様の標準ケーブルを接続ケーブルとして使用できます。

構成	4、6、8 芯 (2、3、4 ペア)；非絶縁 CU 撚り線；共通シールド付きペア撚り
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバー ≥ 85 %
静電容量 C	最大 760 nF IIC、最大 4.2 μF IIB
インダクタンス L	最大 26 μH IIC、最大 104 μH IIB
インダクタンス/抵抗比 (L/R)	最大 8.9 μH/Ω IIC、最大 35.6 μH/Ω IIB (例：IEC 60079-25 に準拠)
ループ抵抗	電源ライン (+、-)：最大 5 Ω
ケーブル長	最大 150 m (450 ft)、下表を参照

断面積	ケーブル長 [最大]	終端処理
2 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)	50 m (150 ft)	2 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)  ■ +, - = 0.5 mm² ■ A, B = 0.5 mm²
3 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)	100 m (300 ft)	3 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)  ■ +, - = 1.0 mm² ■ A, B = 0.5 mm²
4 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)	150 m (450 ft)	4 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)  ■ +, - = 1.5 mm² ■ A, B = 0.5 mm²

オプションで使用可能な接続ケーブル

接続ケーブル	Zone 1; Class I, Division 1
標準ケーブル	2 × 2 × 0.5 mm ² (AWG 20) PVC ケーブル ¹⁾ 、共通シールド付き (2 ペア、ペア撚り)
難燃性	DIN EN 60332-1-2 に準拠
耐油性	DIN EN 60811-2-1 に準拠
シールド	錫メッキ銅編組線、光学のカバー ≥ 85 %
動作温度	固定位置に取り付けた場合: -50~+105 °C (-58~+221 °F); ケーブルを自由に移動できる場合: -25~+105 °C (-13~+221 °F)
使用可能なケーブル長	固定; 20 m (60 ft)、可変: 最大 50 m (150 ft)

- 1) 紫外線放射により、ケーブルの外側シースが損なわれる可能性があります。可能な場合は、ケーブルを直射日光から保護してください。

C：センサと変換器間の接続ケーブル：Proline 500

構成	6 × 0.38 mm ² PVC ケーブル ¹⁾ 、個別シールドコアおよび共通銅シールド付き 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JQ の場合： 7 × 0.38 mm ² PUR ケーブル ¹⁾ 、個別シールドコアおよび共通銅シールド付き
導体抵抗	≤ 50 Ω/km (0.015 Ω/ft)
静電容量：コア/シールド	≤ 420 pF/m (128 pF/ft)
ケーブル長（最大）	20 m (60 ft)
ケーブル長（注文可能な）	5 m (15 ft), 10 m (30 ft), 20 m (60 ft)
ケーブル径	11 mm (0.43 in) ± 0.5 mm (0.02 in)
動作温度	機器バージョンおよびケーブルの設置方法に応じて異なります。 ■ 標準バージョン： ■ ケーブル - 固定設置：-40～+105 °C (-40～+221 °F) ■ ケーブル - 可動式：-25～+105 °C (-13～+221 °F) ■ 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JP ： ■ ケーブル - 固定設置：-50～+105 °C (-58～+221 °F) ■ ケーブル - 可動式：-25～+105 °C (-13～+221 °F) ■ 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JQ ： ■ ケーブル - 固定設置：-60～+105 °C (-76～+221 °F) ■ ケーブル - 可動式：-25～+105 °C (-13～+221 °F)

1) 紫外線放射により、ケーブルの外側シースが損なわれる可能性があります。可能な限り、ケーブルを直射日光から保護してください。

7.2.3 端子の割当て

変換器：電源電圧、入力/出力

入出力の端子の割当ては、注文した個別の機器バージョンに応じて異なります。機器固有の端子の割当ては、端子部カバーに貼付されたラベルに明記されています。

電源		入力/出力 1		入力/出力 2		入力/出力 3		入力/出力 4	
1 (+)	2 (-)	26 (B)	27 (A)	24 (+)	25 (-)	22 (+)	23 (-)	20 (+)	21 (-)
機器固有の端子の割当て：端子カバーに貼付されたラベル									

変換器およびセンサ接続ハウジング：接続ケーブル

別の場所に設置されているセンサと変換器は接続ケーブルを使用して相互に接続されます。ケーブルはセンサ接続ハウジングおよび変換器ハウジングを介して接続されます。

接続ケーブルの端子の割当ておよび接続：

- Proline 500 – デジタル → 42
- Proline 500 → 49

7.2.4 シールドおよび接地

シールドおよび接地コンセプト

1. 電磁適合性（EMC）を維持します。
2. 防爆を考慮します。
3. 要員の保護に注意を払います。
4. 各国の設置法規およびガイドラインを遵守します。

5. ケーブル仕様を遵守します。
6. 接地端子側のケーブルシールドの被覆を剥がしてよじった部分の長さは、できるだけ短くしてください。
7. ケーブルを完全にシールドします。

ケーブルシールドの接地

注記

電位平衡のないシステムの場合は、ケーブルシールドの多重接地により電源周波数均等化電流が生じます。

バスケーブルシールドが損傷する恐れがあります。

- ▶ バスケーブルシールドは、現場接地端子または保護接地端子のどちらかに一端だけを接地してください。
- ▶ 接続されていないシールドは絶縁してください。

EMC 要件準拠のため：

1. ケーブルシールドが複数個所で電位平衡線と接地されているか確認してください。
2. 現場のすべての接地端子を電位平衡線と接続してください。

7.2.5 機器の準備

以下の順序で手順を実施します。

1. センサと変換器を取り付けます。
2. センサ接続ハウジング：接続ケーブルを接続します。
3. 変換器：接続ケーブルを接続します。
4. 変換器：信号ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

注記

ハウジングの密閉性が不十分な場合。

機器の動作信頼性が損なわれる可能性があります。

- ▶ 保護等級に対応する適切なケーブルグランドを使用してください。

1. ダミープラグがある場合は、これを取り外します。
2. 機器にケーブルグランドが同梱されていない場合：
接続ケーブルに対応する適切なケーブルグランドを用意してください。
3. 機器にケーブルグランドが同梱されている場合：
接続ケーブルの要件を遵守します。→ 図 35.

7.3 計測機器の接続：Proline 500 – デジタル

注記

接続を適切に行わないと、電気的安全性が損なわれます。

- ▶ 電気接続作業を実施できるのは、適切な訓練を受けた専門スタッフのみです。
- ▶ 適用される各地域/ 各国の設置法規を遵守してください。
- ▶ 各地域の労働安全規定に従ってください。
- ▶ 追加のケーブルを接続する前に、必ず保護接地ケーブルを接続します。Ⓢ
- ▶ 爆発性雰囲気中使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。

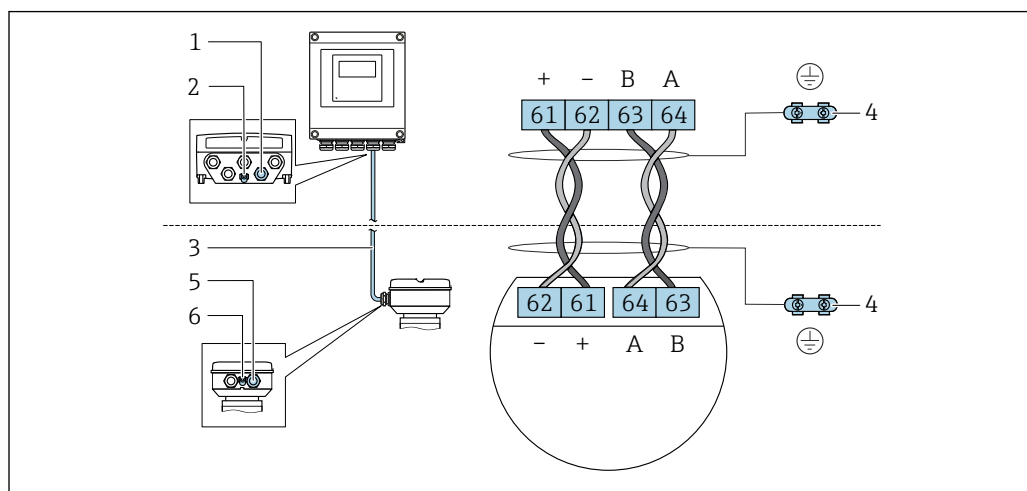
7.3.1 接続ケーブルの接続

警告

電子部品が損傷する恐れがあります。

- ▶ センサと変換器を同じ電位平衡に接続します。
- ▶ センサは同じシリアル番号の変換器にのみ接続します。

接続ケーブル端子の割当て



A0028198

- 1 変換器ハウジングのケーブル用の電線口
- 2 保護接地 (PE)
- 3 ISEM 通信用接続ケーブル
- 4 接地端子を介した接地、機器プラグ付きのバージョンでは、プラグ本体を介して接地
- 5 センサ接続ハウジングのケーブルまたは機器プラグコネクタ用の電線口
- 6 保護接地 (PE)

接続ケーブルとセンサ接続ハウジングの接続

- 端子を介した接続、「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：
 - オプション A 「アルミニウム、コーティング」 → 図 43
 - オプション B 「ステンレス」 → 図 44
 - オプション L 「鋳物、ステンレス」 → 図 43
- コネクタを介した接続、「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：
 - オプション C 「ウルトラコンパクトサニタリ、ステンレス」 → 図 45

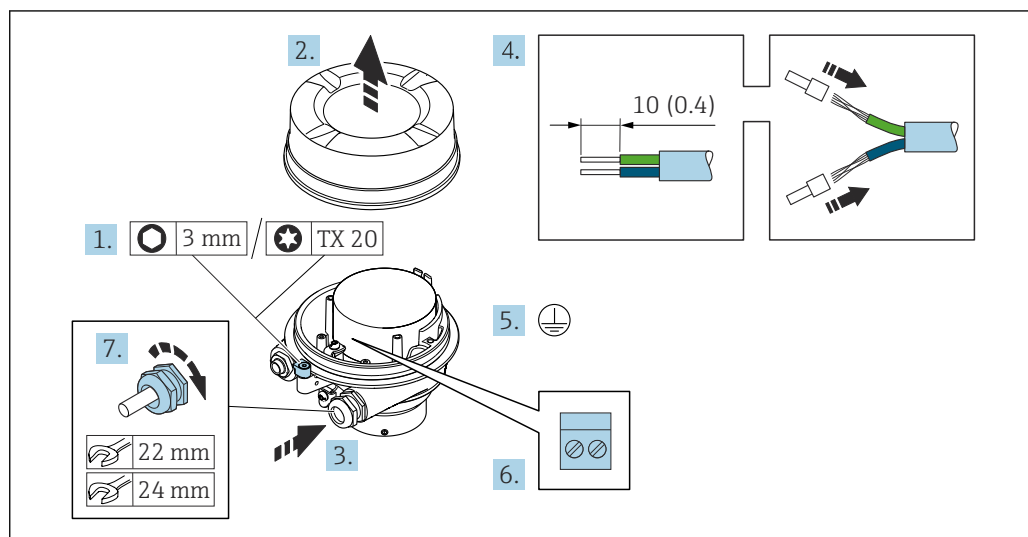
接続ケーブルと変換器の接続

ケーブルは端子を介して変換器と接続します → 図 46。

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：

- オプション A 「塗装アルミダイカスト」
- オプション L 「鋳造、ステンレス」



A0029616

1. ハウジングカバーの固定クランプを緩めます。
2. ハウジングカバーを緩めて外します。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
 ↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。

⚠ 警告

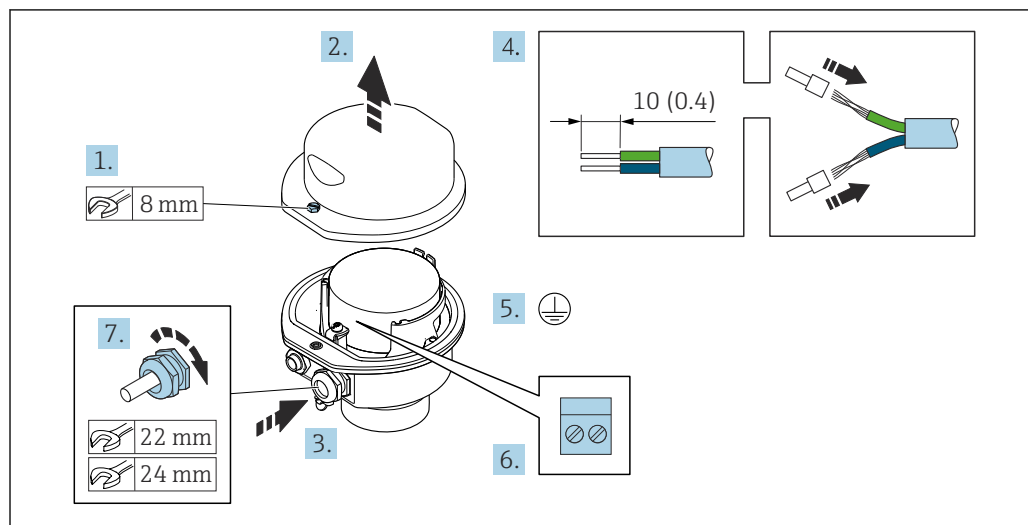
ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級は無効です。

- ▶ 潤滑剤を用いずにカバーにねじ込んでください。カバーのネジ部にはドライ潤滑コーティングが施されています。

8. ハウジングカバーを取り付けます。
9. ハウジングカバーの固定クランプを締め付けます。

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション **B** 「ステンレス」

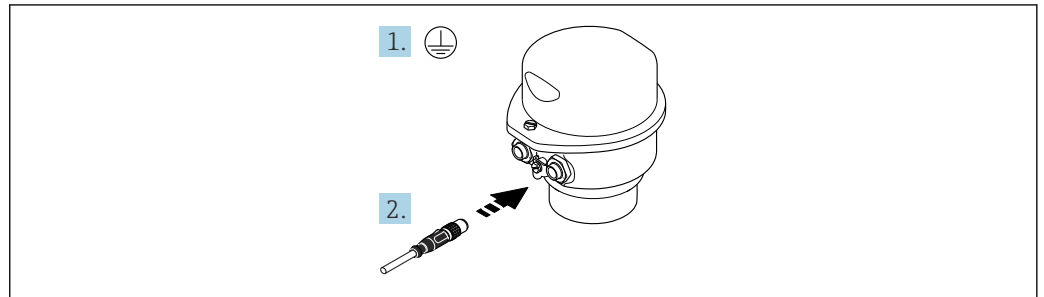


A0029613

1. ハウジングカバーの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。
8. ハウジングカバーを閉じます。
9. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。

コネクタを介したセンサ接続ハウジングの接続

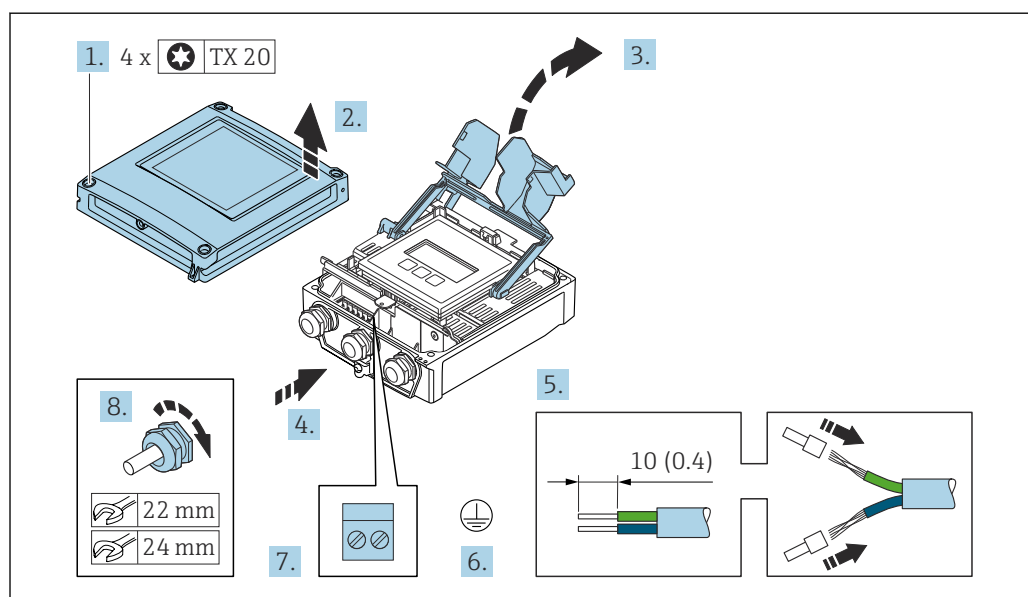
「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション **C**「ウルトラコンパクトサニタリ、ステンレス」



A0029615

1. 保護接地を接続します。
2. コネクタを接続します。

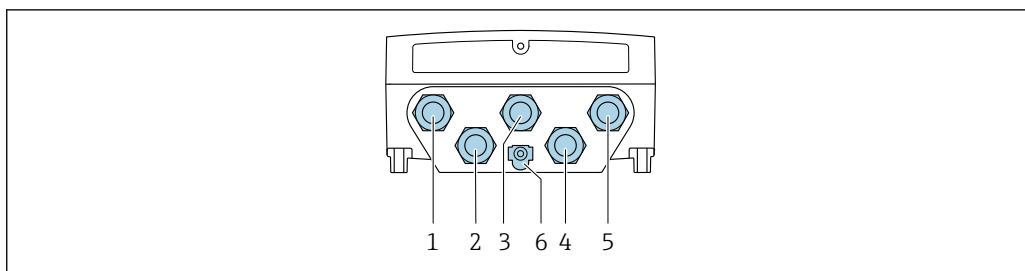
接続ケーブルと変換器の接続



A0029597

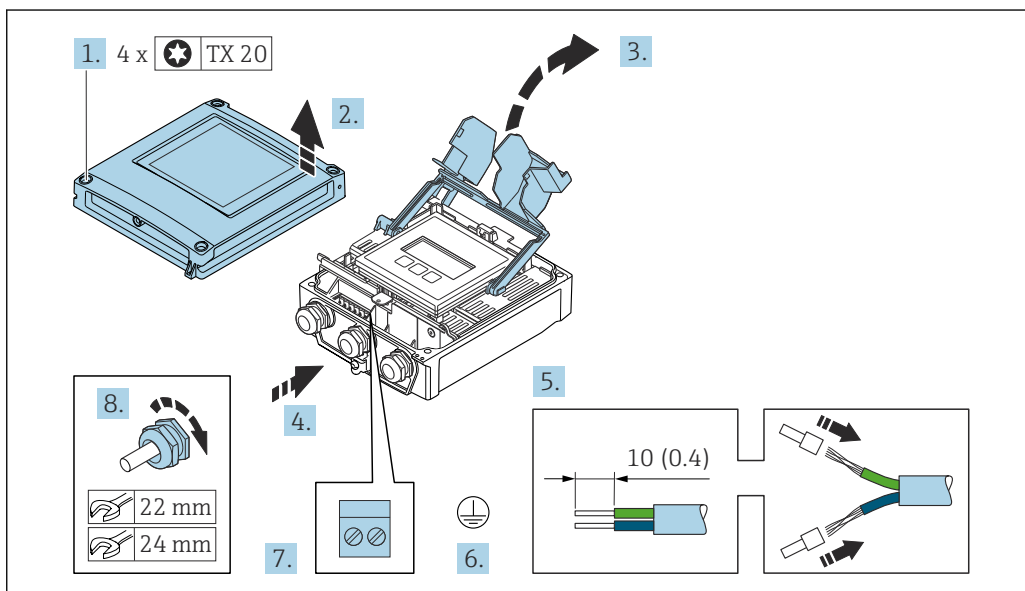
1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子カバーを開きます。
4. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは取り外さないでください。
5. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
6. 保護接地を接続します。
7. 接続ケーブルの端子の割当てに従ってケーブルを接続します→ 図 42。
8. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
→ これで接続ケーブルの接続作業は終了です。
9. ハウジングカバーを閉じます。
10. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。
11. 接続ケーブルの接続後：
信号ケーブルと電源ケーブルを接続します→ 図 47。

7.3.2 信号ケーブルと電源ケーブルの接続



A0028200

- 1 電源用端子接続
- 2 入力/出力信号伝送用端子接続
- 3 入力/出力信号伝送用端子接続
- 4 センサと変換器間の接続ケーブル用端子接続
- 5 入力/出力信号伝送用端子接続；オプション：外部の WLAN アンテナ用接続
- 6 保護接地 (PE)



A0029597

1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子カバーを開きます。
4. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは外さないでください。
5. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
6. 保護接地を接続します。
7. 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
 - ↳ **信号ケーブルの端子の割当て**：機器固有の端子の割当ては、端子カバーのラベルシールに明記されています。
 - 電源の端子の割当て**：端子カバーのラベルシールまたは → 図 40
8. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
 - ↳ これによりケーブル接続作業が完了します。
9. 端子カバーを閉じます。
10. ハウジングカバーを閉じます。

⚠ 警告

ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級が無効になる場合があります。

▶ 潤滑剤を用いずにねじ込んでください。

注記

固定ネジの締め付けトルクが超過！

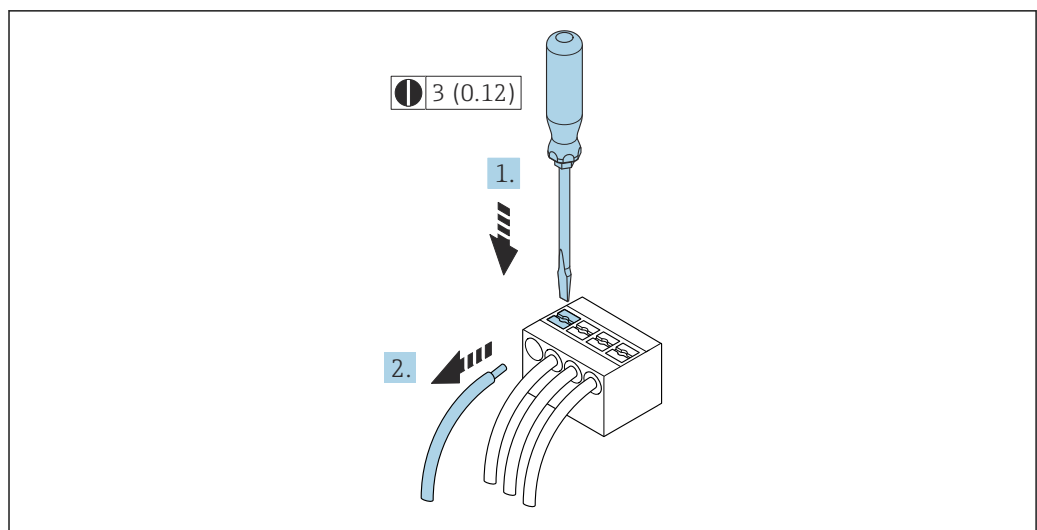
プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締め付けトルク：2.5 Nm (1.8 lbf ft) に従って固定ネジを締め付けてください。

11. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを締め付けます。

ケーブルの取外し

ケーブルを端子から外す場合：



A0029598

図 16 工学単位 mm (in)

1. マイナスドライバを使用して、2 つの端子孔間のスロットを押し込みます。
2. 端子からケーブル端を取り外します。

7.4 計測機器の接続：Proline 500

注記

接続を適切に行わないと、電気的安全性が損なわれます。

- ▶ 電気接続作業を実施できるのは、適切な訓練を受けた専門スタッフのみです。
- ▶ 適用される各地域/各国の設置法規を遵守してください。
- ▶ 各地域の労働安全規定に従ってください。
- ▶ 追加のケーブルを接続する前に、必ず保護接地ケーブルを接続します。Ⓜ
- ▶ 爆発性雰囲気を使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。

7.4.1 接続ケーブルの取付け

警告

電子部品が損傷する恐れがあります。

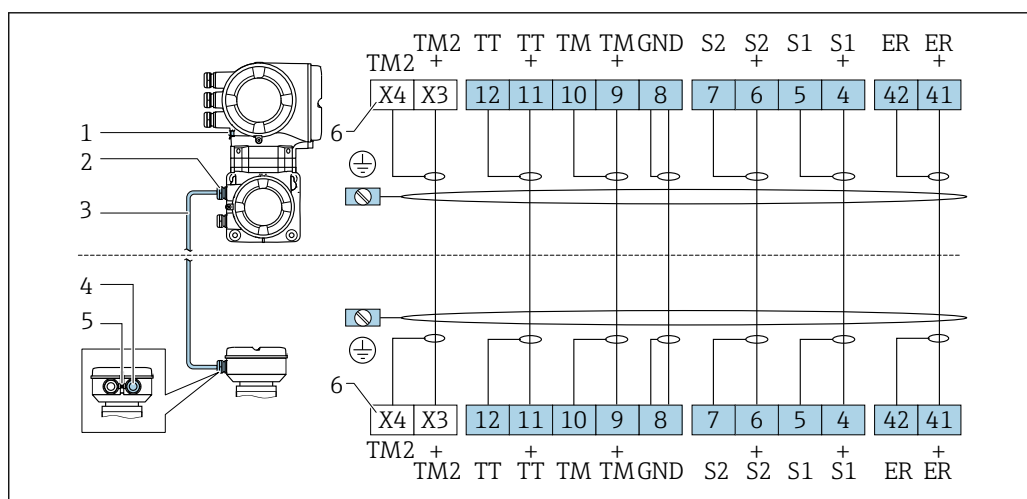
- ▶ センサと変換器を同じ電位平衡に接続します。
- ▶ センサは同じシリアル番号の変換器にのみ接続します。

注意

接続ケーブルを切断すると、測定誤差が生じる可能性があります。

- ▶ 接続ケーブルは機器の設置用に準備されたケーブルであり、支給されたケーブル長で使用してください。接続ケーブルを切断した場合、センサの測定精度が低下する可能性があります。

接続ケーブル端子の割当て



A0033694

- 1 保護接地 (PE)
- 2 変換器接続ハウジングの接続ケーブル用の電線口
- 3 接続ケーブル
- 4 センサ接続ハウジングの接続ケーブル用の電線口
- 5 保護接地 (PE)
- X 端子 X3、X4：温度センサ

接続ケーブルとセンサ接続ハウジングの接続

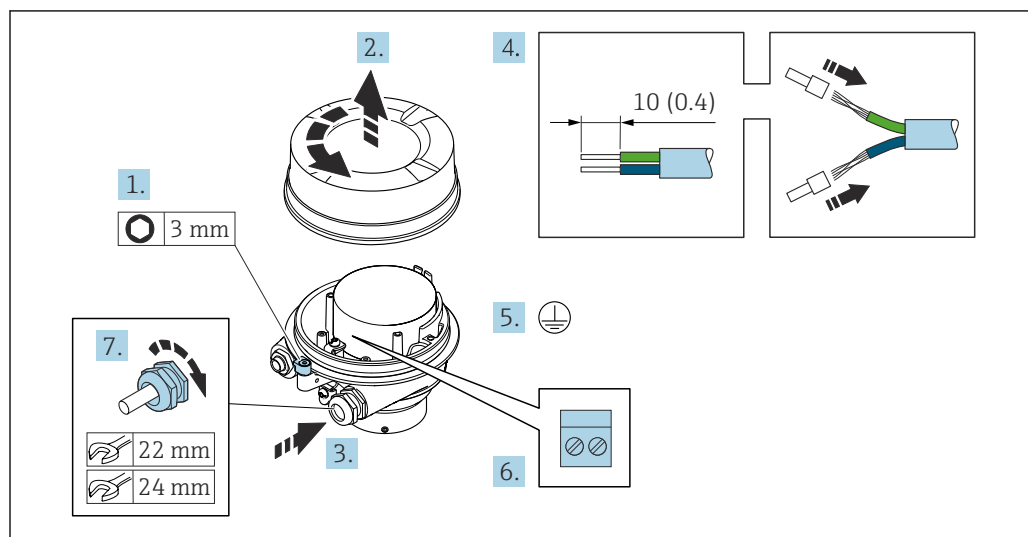
端子を介した接続、「ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A「アルミニウム、コーティング」→ 50
- オプション B「ステンレス」→ 51
- オプション L「鋳物、ステンレス」→ 50

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

「ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：

- オプション A 「アルミニウム、コーティング」
- オプション L 「鋳物、ステンレス」



A0029612

1. ハウジングカバーの固定クランプを緩めます。
2. ハウジングカバーを緩めて外します。
3. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは取り外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
 ↳ これで接続ケーブルの接続作業は終了です。

⚠ 警告

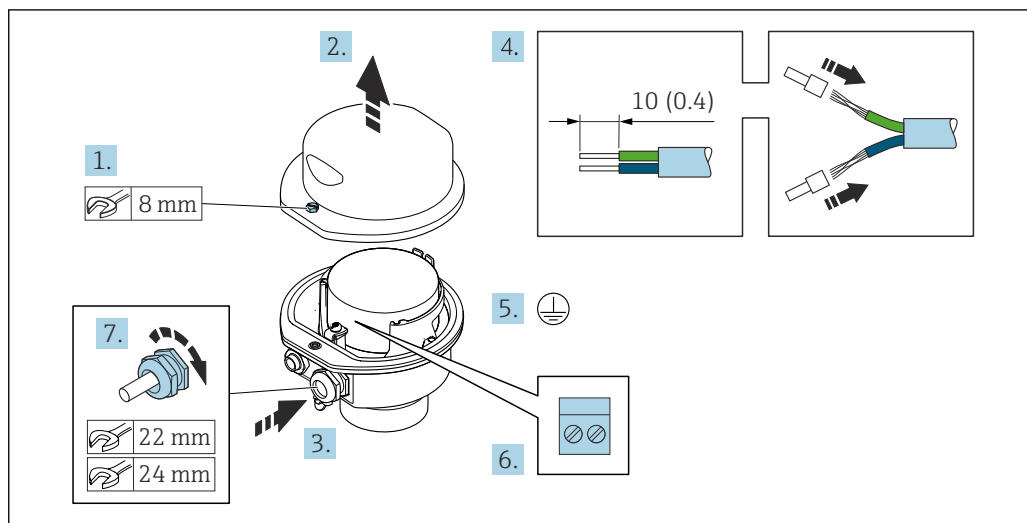
ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級は無効です。

- ▶ 潤滑剤を用いずにカバーにねじ込んでください。カバーのネジ部にはドライ潤滑コーティングが施されています。

8. ハウジングカバーを取り付けます。
9. ハウジングカバーの固定クランプを締め付けます。

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

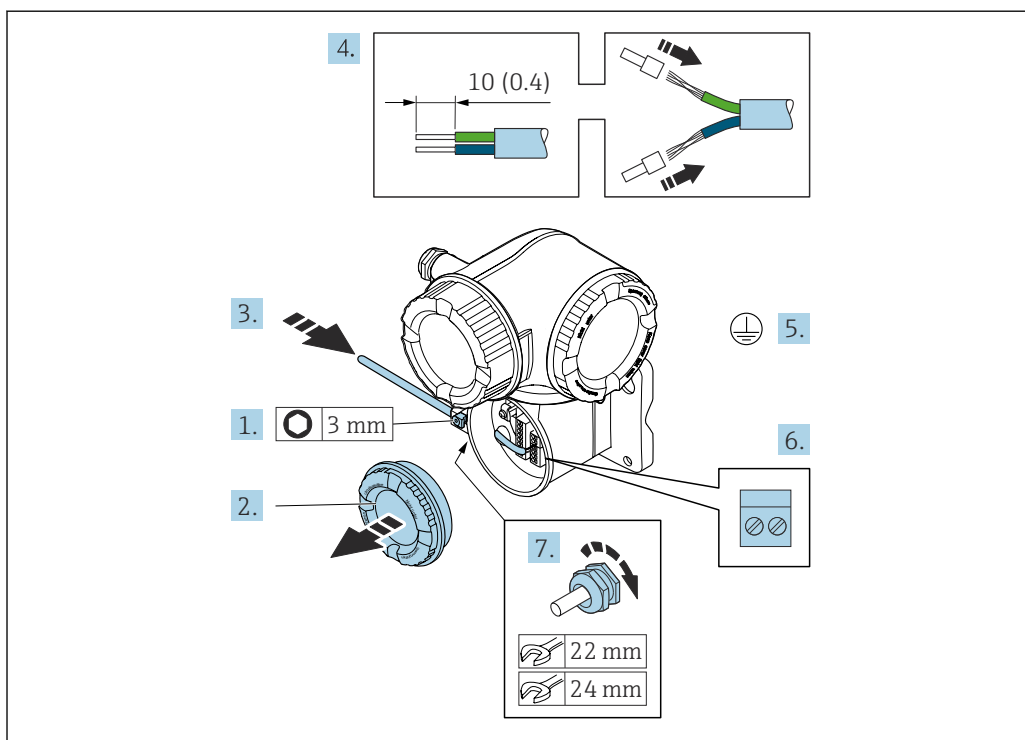
「ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション **B** 「ステンレス」



A0029613

1. ハウジングカバーの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。
8. ハウジングカバーを閉じます。
9. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。

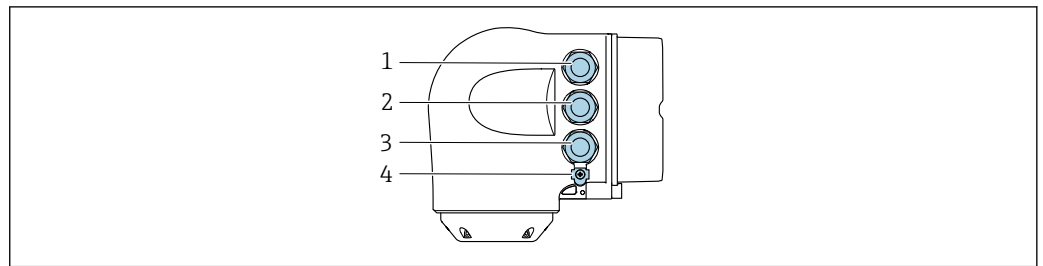
接続ケーブルと変換器の取付け



A0029592

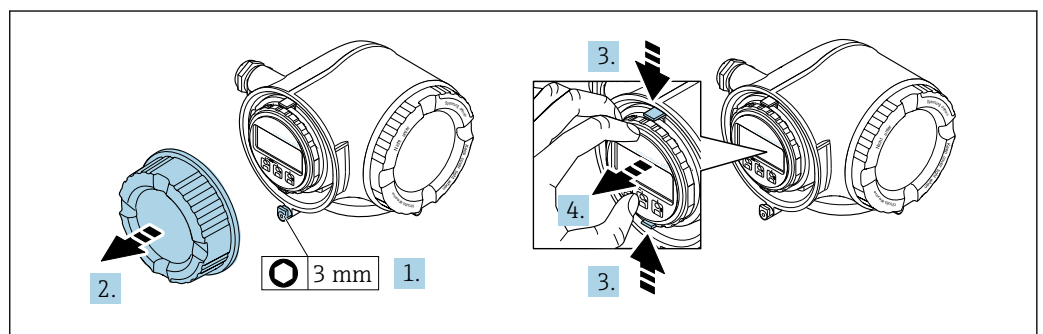
1. 端子部カバーの固定クランプを緩めます。
2. 端子部カバーを外します。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブも取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します→ 図 49。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの取付作業が完了します。
8. 端子部カバーを取り付けます。
9. 端子部カバーの固定クランプを締め付けます。
10. 接続ケーブルの接続後：
信号ケーブルと電源ケーブルを接続します→ 図 53。

7.4.2 信号ケーブルと電源ケーブルの接続



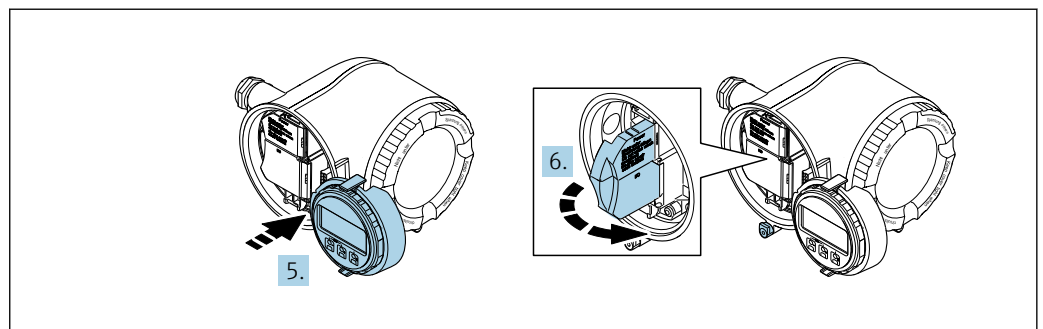
A0026781

- 1 電源用端子接続
- 2 入力/出力信号伝送用端子接続
- 3 入力/出力信号伝送用端子接続、またはサービスインタフェース経由 (CDI-RJ45) のネットワーク接続用端子
- 4 保護接地 (PE)



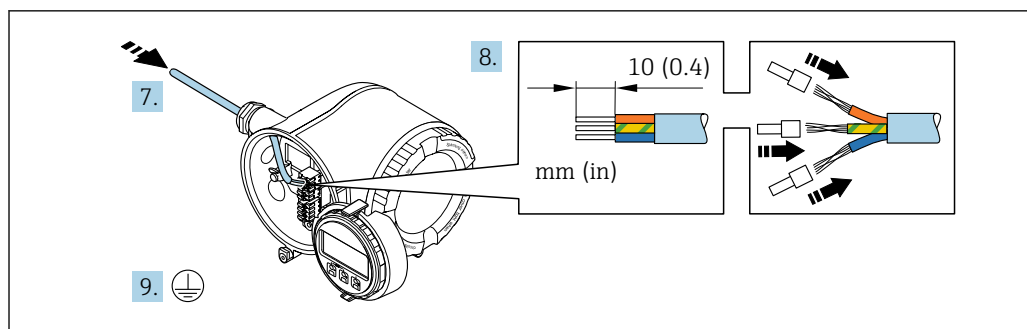
A0029813

1. 端子部カバーの固定クランプを緩めます。
2. 端子部カバーを外します。
3. 表示モジュールホルダのツメを同時に押し込みます。
4. 表示モジュールホルダを外します。



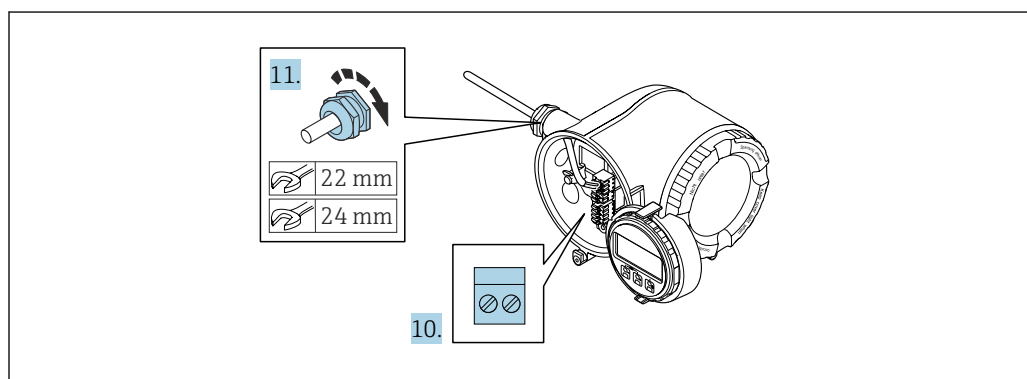
A0029814

5. 電子部コンパートメントの縁にホルダを取り付けます。
6. 端子部カバーを開きます。



A0029815

7. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
8. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子も取り付けます。
9. 保護接地を接続します。



A0029816

10. 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
 - ↳ **信号ケーブルの端子の割当て**：機器固有の端子の割当ては、端子カバーの粘着ラベルに明記されています。
 - 電源接続の端子の割当て**：端子カバーの粘着ラベルまたは → 40
11. ケーブルグラウンドをしっかりと締め付けます。
 - ↳ これによりケーブル接続作業が完了します。
12. 端子カバーを閉じます。
13. 表示モジュールホルダをアンプ部に取り付けます。
14. 端子部蓋を取り付けます。
15. 端子部蓋の固定クランプをしっかりと固定します。

ケーブルの取外し

ケーブルを端子から外す場合：

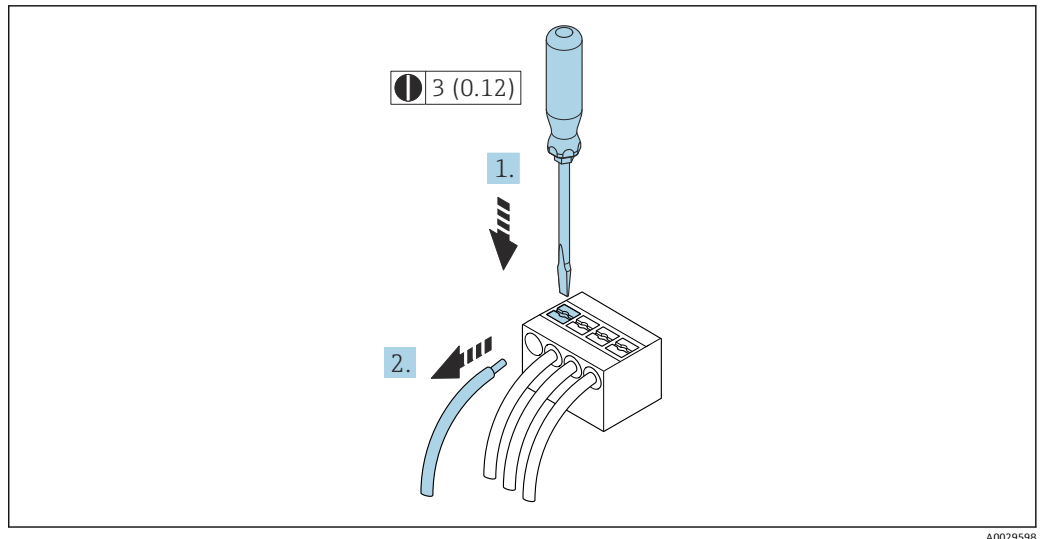


図 17 工学単位 mm (in)

1. マイナスドライバを使用して、2つの端子孔間のスロットを押し込みます。
2. 端子からケーブル端を取り外します。

7.5 電位平衡

7.5.1 要件

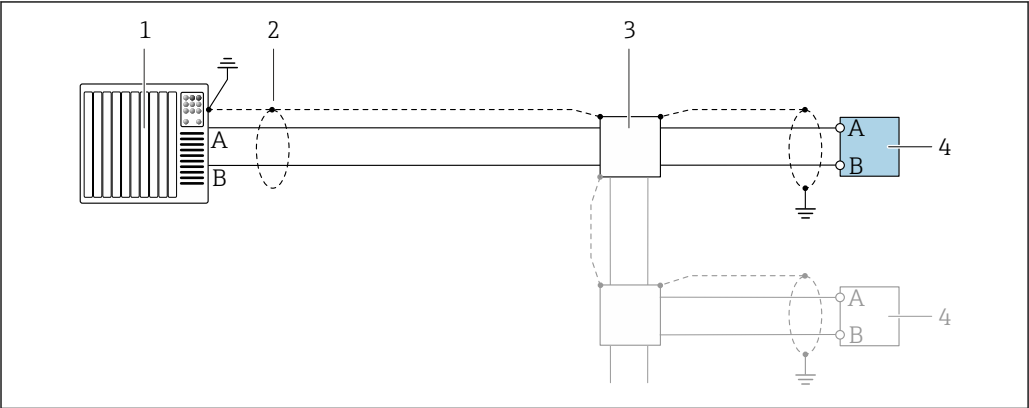
電位平衡に関して：

- 社内の接地コンセプトに注意してください。
- 配管材質や接地などの動作条件を考慮してください。
- 測定物、センサ、変換器を同じ電位に接続してください。
- 電位平衡接続には、断面積が 6 mm^2 (10 AWG) 以上の接地ケーブルとケーブルラグを使用してください。

7.6 特別な接続方法

7.6.1 接続例

Modbus RS485

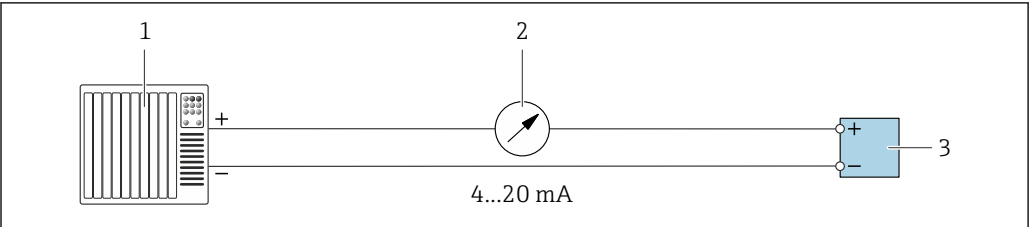


A0028765

18 Modbus RS485（非危険場所および Zone 2; Class I, Division 2 用）の接続例

- 1 制御システム（例：PLC）
- 2 一方の端にケーブルシールドが使用されています。EMC 要件を満たすために、ケーブルシールドの両端を接地してください。ケーブル仕様に従ってください。
- 3 分配ボックス
- 4 変換器

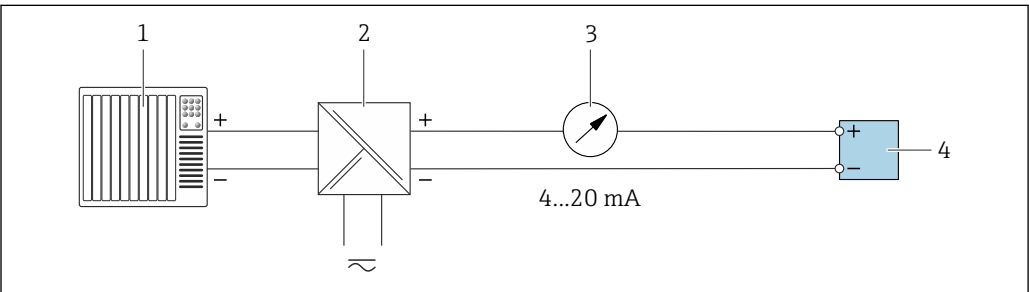
電流出力 4～20 mA



A0028758

19 4～20 mA 電流出力（アクティブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、電流入力付き（例：PLC）
- 2 アナログ表示器：最大負荷に注意
- 3 変換器

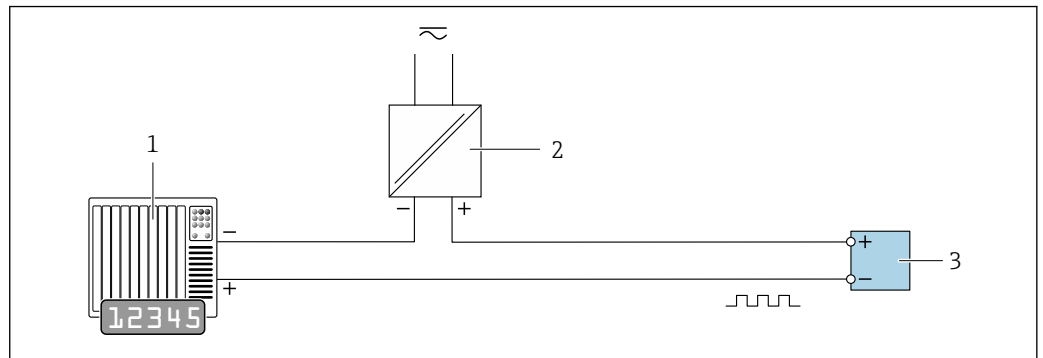


A0028759

20 4～20 mA 電流出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、電流入力付き（例：PLC）
- 2 電源用アクティブバリア（例：RN221N）
- 3 アナログ表示器：最大負荷に注意
- 4 変換器

パルス/周波数出力

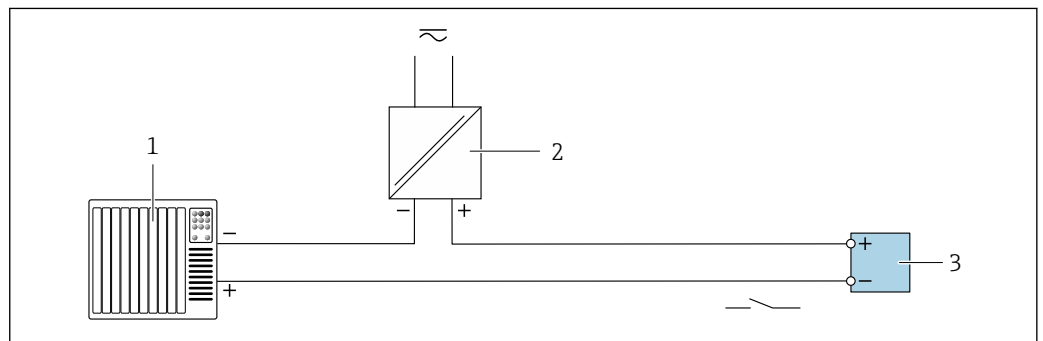


A0028761

図 21 パルス/周波数出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、パルス/周波数入力付き（例：PLC、10 kΩ プルアップ/プルダウン抵抗付き）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 214

スイッチ出力

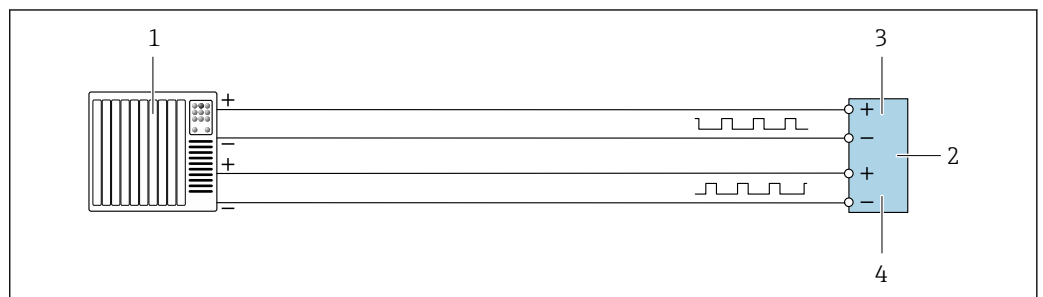


A0028760

図 22 スイッチ出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、スイッチ入力付き（例：PLC、10 kΩ プルアップ/プルダウン抵抗付き）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 214

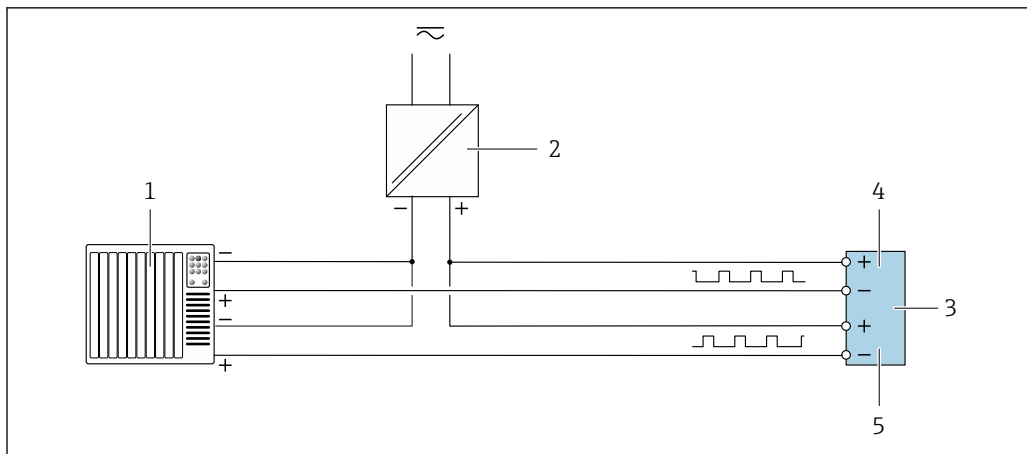
ダブルパルス出力



A0029280

図 23 ダブルパルス出力（アクティブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、ダブルパルス入力付き（例：PLC）
- 2 変換器：入力値に注意してください → 図 216
- 3 ダブルパルス出力
- 4 ダブルパルス出力（スレーブ）、フェーズシフト

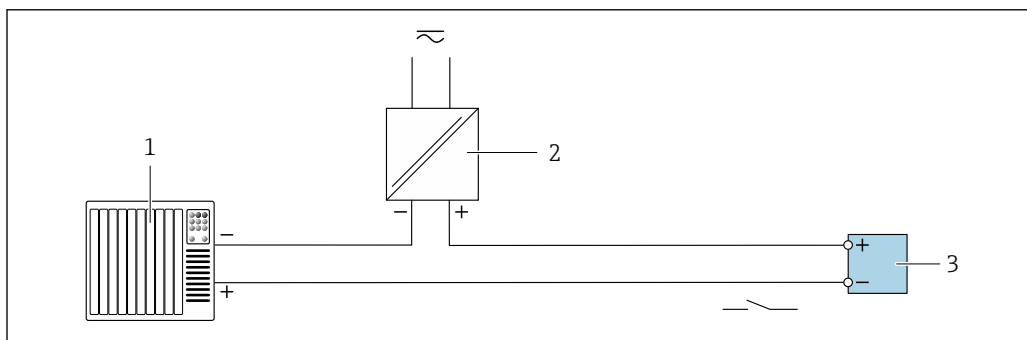


A0029279

図 24 ダブルパルス出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、ダブルパルス入力付き（例：10 k Ω プルアップまたはプルダウン抵抗付き PLC）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意してください → 図 216
- 4 ダブルパルス出力
- 5 ダブルパルス出力（スレーブ）、フェーズシフト

リレー出力

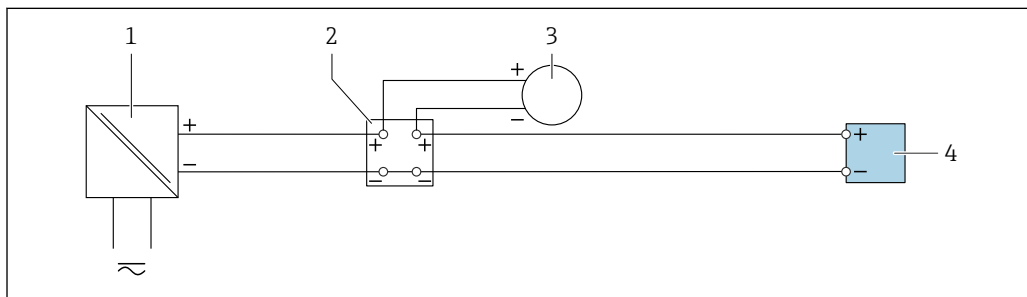


A0028760

図 25 リレー出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、リレー入力付き（例：PLC）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 216

電流入力



A0028915

図 26 4~20 mA 電流入力の接続例

- 1 電源
- 2 端子箱
- 3 外部機器（例：圧力または温度読み用）
- 4 変換器

ステータス入力

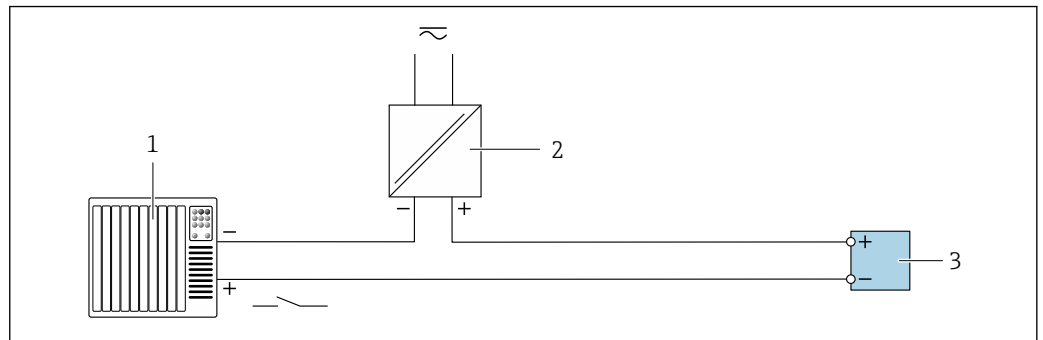


図 27 ステータス入力の接続例

- 1 オートメーションシステム、ステータス出力付き（例：PLC）
- 2 電源
- 3 変換器

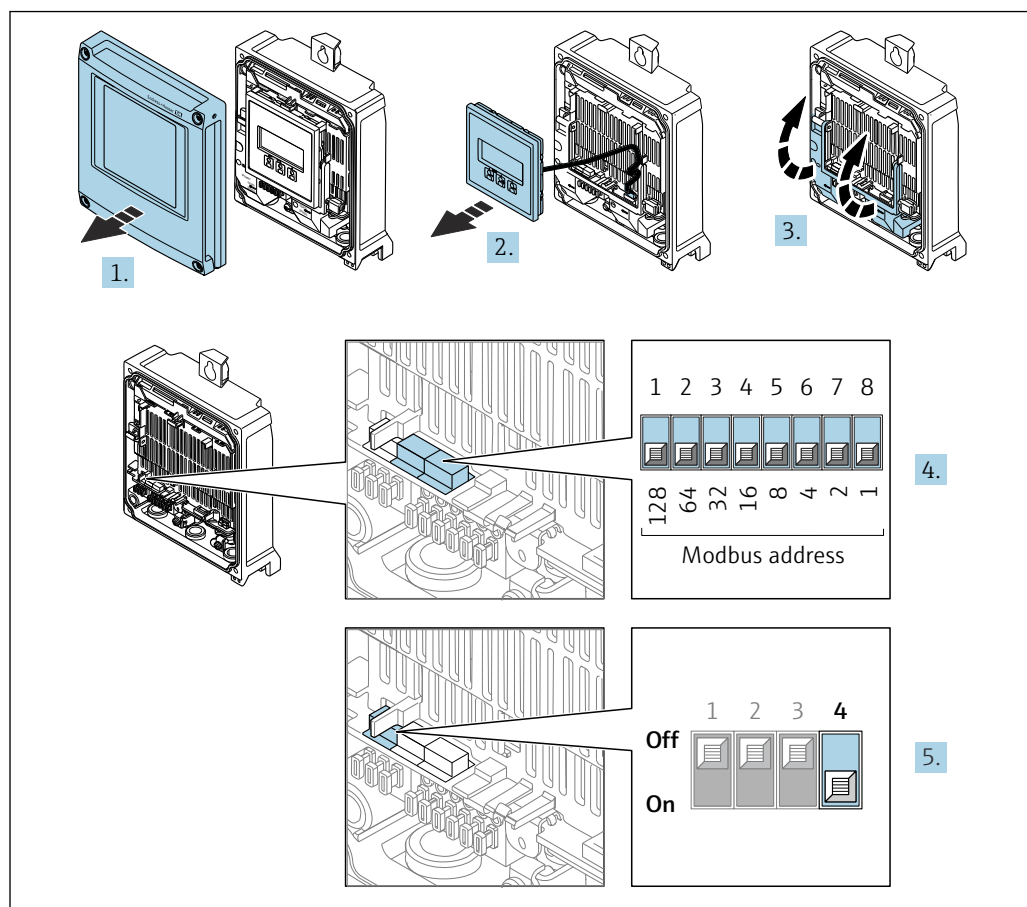
7.7 ハードウェアの設定

7.7.1 機器アドレスの設定

機器アドレスは必ず Modbus スレーブに対して設定する必要があります。有効な機器アドレスの範囲は 1～247 です。各アドレスは Modbus RS485 ネットワーク内で 1 回だけ割り当てることができます。アドレスが正しく設定されない場合、機器は Modbus マスタに認識されません。全ての機器は、機器アドレス 247 および「ソフトウェアのアドレス指定」アドレスモードで工場から出荷されます。

Proline 500 – デジタル変換器

ハードウェアアドレス指定



A0029677

1. ハウジングカバーを開きます。
2. 表示モジュールを外します。
3. 端子部カバーを開きます。
4. DIP スイッチを使用して必要な機器アドレスを設定します。
5. ソフトウェアのアドレス指定からハードウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **ON** に設定します。
 ↳ 機器アドレスの変更は 10 秒後に有効になります。

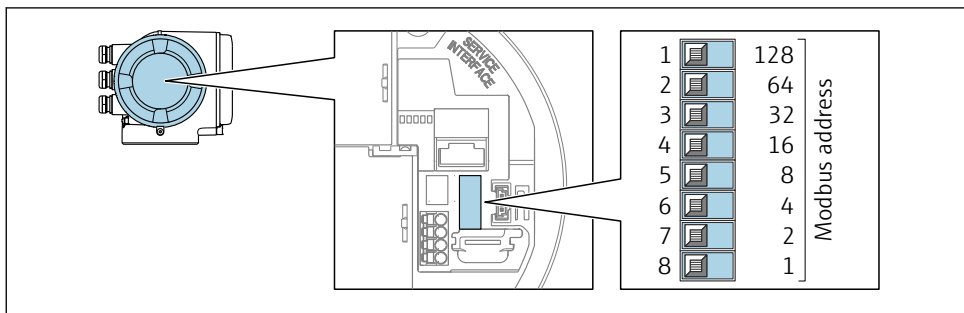
ソフトウェアのアドレス指定

- ▶ ハードウェアのアドレス指定からソフトウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **OFF** に設定します。
 ↳ デバイスアドレス パラメータ で設定した機器アドレスは 10 秒後に有効になります。

Proline 500 変換器

ハードウェアアドレス指定

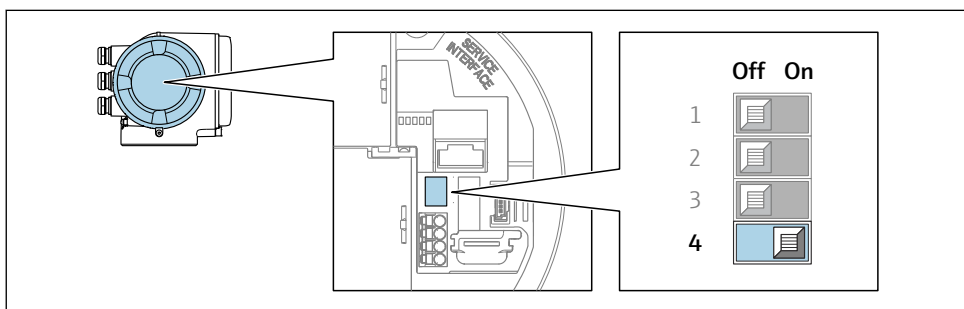
1.



A0029634

端子部の DIP スイッチを使用して必要な機器アドレスを設定します。

2.



A0029633

ソフトウェアのアドレス指定からハードウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **ON** に設定します。

↳ 機器アドレスの変更は 10 秒後に有効になります。

ソフトウェアのアドレス指定

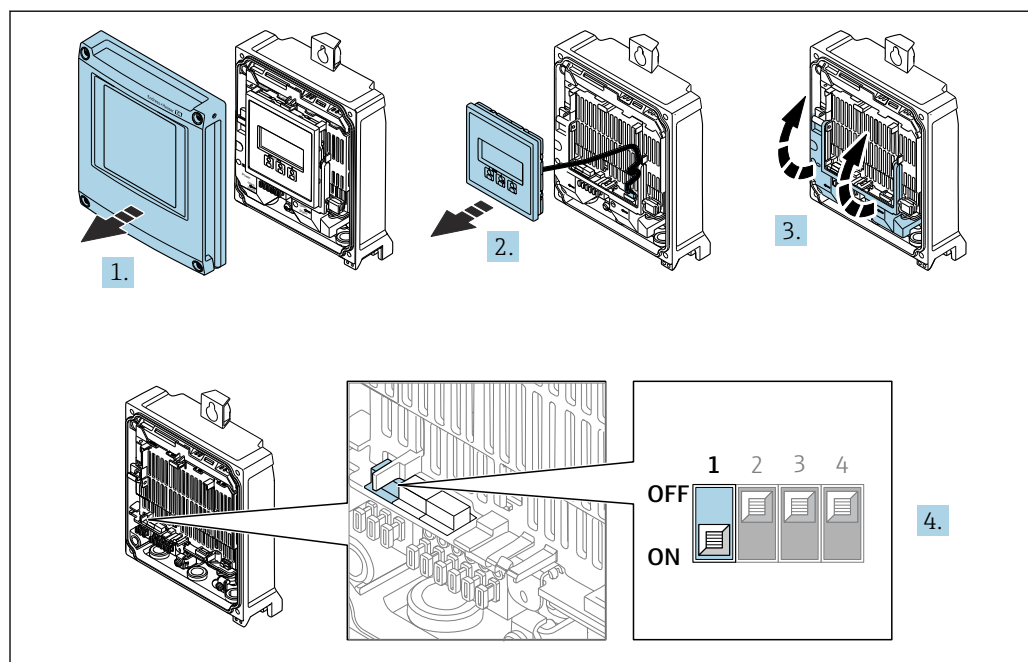
▶ ハードウェアのアドレス指定からソフトウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **OFF** に設定します。

↳ **デバイスアドレス** パラメータ で設定した機器アドレスは 10 秒後に有効になります。

7.7.2 終端抵抗の有効化

インピーダンス不整合による不正な通信伝送を防止するため、Modbus RS485 ケーブルをバスセグメントの最初と最後で正確に終端処理します。

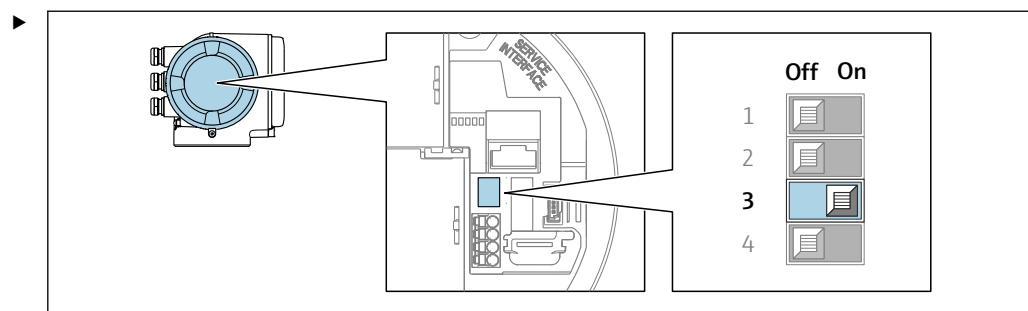
Proline 500 – デジタル変換器



A0029675

1. ハウジングカバーを開きます。
2. 表示モジュールを外します。
3. 端子部カバーを開きます。
4. DIP スイッチ番号 3 を **ON** に切り替えます。

Proline 500 変換器



A0029632

DIP スイッチ番号 3 を **ON** に切り替えます。

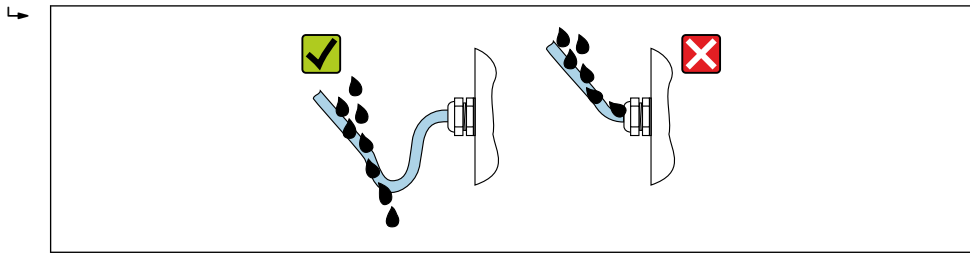
7.8 保護等級の保証

本計測機器は、保護等級 IP66/67、Type 4X エンクロージャ のすべての要件を満たしています。

保護等級 IP66/67、Type 4X エンクロージャ を保証するため、電気接続の後、次の手順を実施してください。

1. ハウジングシールに汚れがなく、適切に取り付けられているか確認してください。
2. 必要に応じて、シールの乾燥、清掃、交換を行います。
3. ハウジングのネジやカバーをすべてしっかりと締め付けます。
4. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。

5. 電線口への水滴の侵入を防ぐため：
電線口の手前でケーブルが下方に垂れるように配線してください（「ウォータートラップ」）。



A0029278

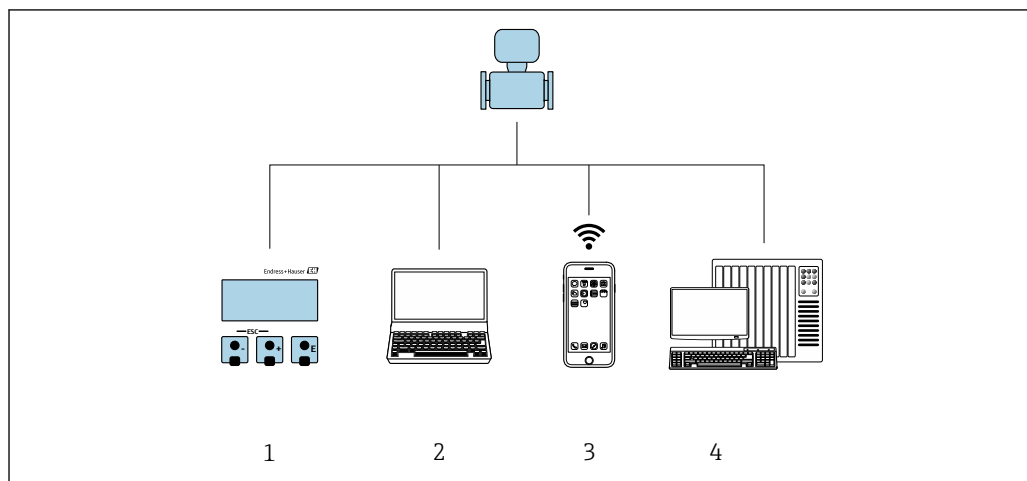
6. 付属のケーブルグランドが使用されていない場合、ハウジングの保護は保証されません。そのため、ハウジング保護に対応する適切なダミープラグに交換する必要があります。

7.9 配線状況の確認

機器およびケーブルは損傷していないか？（外観検査）	☐
保護接地が正しく行われているか？	☐
使用するケーブルが要件を満たしているか？	☐
敷設されたケーブルに適度なたるみがあり、しっかりと接続されているか？	☐
すべてのケーブルグランドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？ケーブル経路に「ウォータートラップ」があるか？→ 62	☐
端子の割当ては正しいか？	☐
未使用の電線口にダミープラグが挿入されており、輸送用プラグがダミープラグと交換されているか？	☐

8 操作オプション

8.1 操作オプションの概要



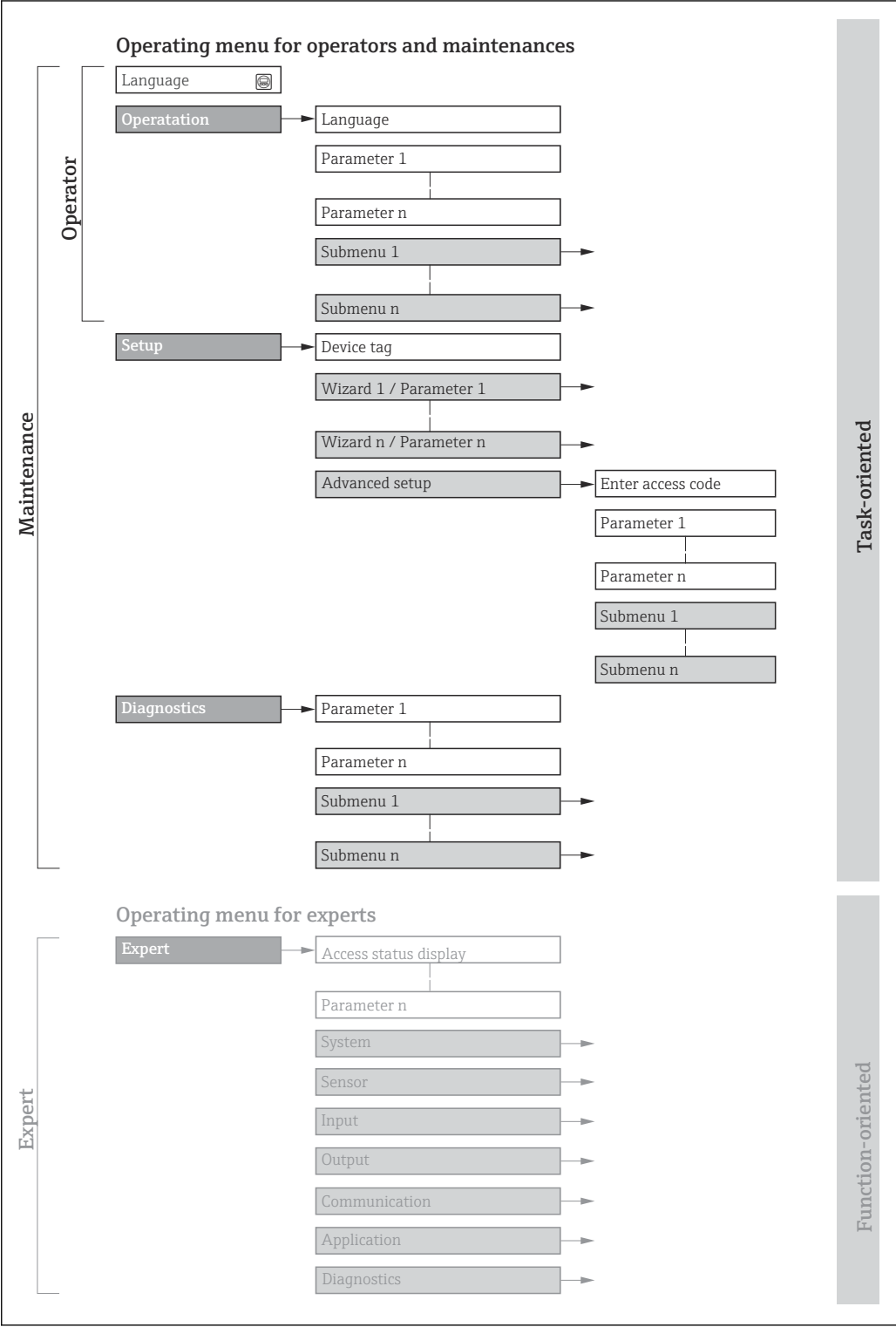
A0030213

- 1 表示モジュールによる現場操作
- 2 ウェブブラウザまたは操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、AMS Device Manager、SIMATIC PDM）
搭載のコンピュータ
- 3 SmartBlue アプリを搭載した携帯型ハンドヘルドターミナル
- 4 オートメーションシステム（例：PLC）

8.2 操作メニューの構成と機能

8.2.1 操作メニューの構成

 エキスパート用の操作メニューの概要については、機器に同梱されている機能説明書を参照してください。→  245



 28 操作メニューの概要構成

A0018237-JA

8.2.2 操作指針

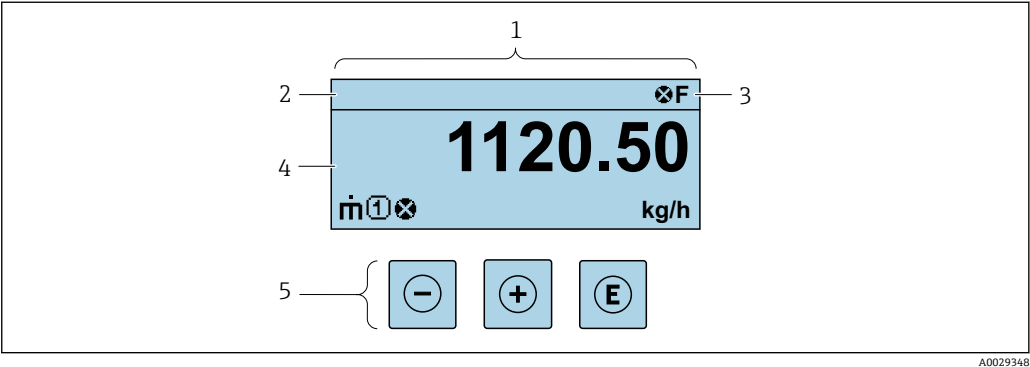
操作メニューの個別の要素は、特定のユーザーの役割（例：オペレーター、メンテナンスなど）に割り当てられています。各ユーザーの役割には、機器ライフサイクル内の標準的な作業が含まれます。

 カスタディトランスファーの場合、機器が流通し始めたり、または封印された後は、その操作が制限されます。

メニュー/パラメータ	ユーザーの役割と作業	内容/意味
Language	タスク指向	「オペレータ」、「メンテナンス」の役割 運転中の作業： ■ 操作画面表示の設定 ■ 測定値の読取り
操作		■ 操作言語の設定 ■ Web サーバー操作言語の設定 ■ 積算計のリセットおよびコントロール
設定		■ 操作画面表示の設定（例：表示形式、ディスプレイのコントラスト） ■ 積算計のリセットおよびコントロール
診断		「メンテナンス」の役割 設定： ■ 測定の設定 ■ 入力および出力の設定 ■ 通信インタフェースの設定 迅速な設定用のウィザード： ■ システム単位の設定 ■ 通信インタフェースの設定 ■ 測定物の設定 ■ I/O 設定の表示 ■ 入力の設定 ■ 出力の設定 ■ 操作画面表示の設定 ■ ローフロカutoffの設定 ■ 非満管検出および空検知の設定 高度な設定 ■ より高度にカスタマイズされた測定の設定（特殊な測定条件に対応） ■ 積算計の設定 ■ WLAN の設定 ■ 管理（アクセスコード設定、機器リセット）
		「メンテナンス」の役割 トラブルシューティング： ■ プロセスおよび機器エラーの診断と解消 ■ 測定値シミュレーション エラー検出、プロセスおよび機器エラー分析用のパラメータがすべて含まれます。 ■ 診断リスト 現在未処理の診断メッセージが最大 5 件含まれます。 ■ イベントログブック 発生したイベントメッセージが含まれます。 ■ 機器情報 機器識別用の情報が含まれます。 ■ 測定値 現在のすべての測定値が含まれます。 ■ データのログ サブメニュー（注文オプション「拡張 HistoROM」の場合） 測定値の保存と視覚化 ■ Heartbeat Technology 必要に応じた機器の機能検証および検証結果のドキュメント作成 ■ シミュレーション 測定値または出力値のシミュレーションに使用されます。
エキスパート	機能指向	機器の機能に関してより詳細な知識が要求される作業： ■ 各種条件下における測定の設定 ■ 各種条件下における測定の最適化 ■ 通信インタフェースの詳細設定 ■ 難しいケースにおけるエラー診断 すべての機器パラメータが含まれており、アクセスコードを使用してこれらに直接アクセスすることが可能です。メニュー構造は機器の機能ブロックに基づいています。 ■ システム 測定または測定値の通信に影響しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。 ■ センサ 測定の設定 ■ 入力 ステータス入力の設定 ■ 出力 アナログ電流出力およびパルス/周波数/スイッチ出力の設定 ■ 通信 デジタル通信インタフェースおよび Web サーバーの設定 ■ アプリケーション 実際の測定を超える機能（例：積算計）の設定 ■ 診断 機器シミュレーションおよび Heartbeat Technology 用、プロセスおよび機器エラーの検出と分析

8.3 現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス

8.3.1 操作画面表示



- 1 操作画面表示
- 2 機器のタグ
- 3 ステータスエリア
- 4 測定値の表示範囲（最大 4 行）
- 5 操作部 → 73

ステータスエリア

操作画面表示のステータスエリアの右上に、次のシンボルが表示されます。

- ステータス信号 → 186
 - F : エラー
 - C : 機能チェック
 - S : 仕様範囲外
 - M : メンテナンスが必要
- 診断時の動作 → 187
 - ⦿ : アラーム
 - ⚠ : 警告
 - ⚡ : ロック（機器はハードウェアを介してロック）
 - ↔ : 通信（リモート操作を介した通信が有効）

表示エリア

表示エリアでは、各測定値の前に、説明を補足する特定のシンボルタイプが表示されます。

	測定変数	測定チャンネル番号	診断時の動作
	↓	↓	↓
例			

測定変数に対して診断イベントが発生している場合にのみ表示されます。

測定変数

シンボル	意味
ṁ	質量流量
Q̇	■ 体積流量 ■ 基準体積流量

	■ 密度 ■ 基準密度
	温度

 測定変数の数および形式は、**表示形式** パラメータ (→ 124) で設定できます。

積算計

シンボル	意味
	積算計  測定チャンネル番号は、3つの積算計のどれが表示されているかを示します。

出力

シンボル	意味
	出力  測定チャンネル番号は、出力のどれが表示されているかを示します。

入力

シンボル	意味
	ステータス入力

測定チャンネル番号

シンボル	意味
	測定チャンネル 1~4  測定チャンネル番号は、同じ測定変数の種類に対して複数のチャンネルがある場合にのみ表示されます (例: 積算計 1~3)。

診断時の動作

シンボル	意味
	アラーム ■ 測定が中断します。 ■ 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 ■ 診断メッセージが生成されます。
	警告 ■ 測定が再開します。 ■ 信号出力と積算計は影響を受けません。 ■ 診断メッセージが生成されます。

 診断時の動作は、診断イベントに付随するものであり、表示される測定変数に関係します。

8.3.2 ナビゲーション画面

サブメニューの場合

1

2

3

4

5

A0013993-JA

ウィザードの場合

1

2

3

4

5

A0013995-JA

1

2

3

4

5

ナビゲーション画面

現在位置までのナビゲーションパス

ステータスエリア

ナビゲーションの表示エリア

操作部 → 73

ナビゲーションパス

現在位置までのナビゲーションパスは、ナビゲーション画面の左上に表示され、以下の要素で構成されます。

- 表示シンボル：メニュー/サブメニューの場合：▶、ウィザードの場合：🔍
- 間にある操作メニューレベルの省略記号 (/../)
- 現在のサブメニュー、ウィザード、パラメータの名称

	表示シンボル	省略記号	パラメータ
	↓	↓	↓
例	▶	/../	表示

i メニューのアイコンの詳細については、「表示エリア」セクションを参照してください。→ 69

ステータスエリア

ナビゲーション画面のステータスエリアの右上端に、以下が表示されます。

- サブメニューの場合
 - パラメータへの直接アクセスコード（例：0022-1）
 - 診断イベントが発生している場合は、診断動作およびステータス信号
- ウィザードの場合
 - 診断イベントが発生している場合は、診断動作およびステータス信号

- i** 診断動作およびステータス信号に関する情報→ 186
- 直接アクセスコードの機能および入力に関する情報→ 75

表示エリア

メニュー

シンボル	意味
	操作 表示場所： ■ メニューの「操作」選択の横 ■ 操作メニューのナビゲーションパスの左側

Endress+Hauser

69

	設定 表示場所： ■ メニューの「設定」選択の横 ■ 設定メニューのナビゲーションパスの左側
	診断 表示場所： ■ メニューの「診断」選択の横 ■ 診断メニューのナビゲーションパスの左側
	エキスパート 表示場所： ■ メニューの「エキスパート」選択の横 ■ エキスパートメニューのナビゲーションパスの左側

サブメニュー、ウィザード、パラメータ

シンボル	意味
	サブメニュー
	ウィザード
	ウィザード内のパラメータ  サブメニュー内のパラメータ用の表示シンボルはありません。

ロック

シンボル	意味
	パラメータのロック パラメータ名の前に表示される場合は、そのパラメータがロックされていることを示します。 ■ ユーザー固有のアクセスコードを使用 ■ ハードウェア書き込み保護スイッチを使用

ウィザード

シンボル	意味
	前のパラメータに切り替え
	パラメータ値を確定し、次のパラメータに切り替え
	パラメータの編集画面を開く

8.3.3 編集画面

数値エディタ

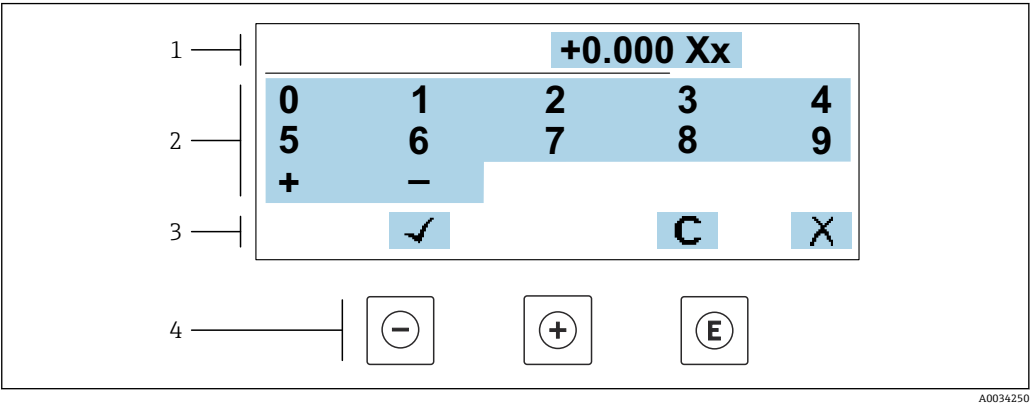


図 29 パラメータの値入力用（例：リミット値）

- 1 入力値表示エリア
- 2 入力画面
- 3 入力値の確定、削除または拒否
- 4 操作部

テキストエディタ

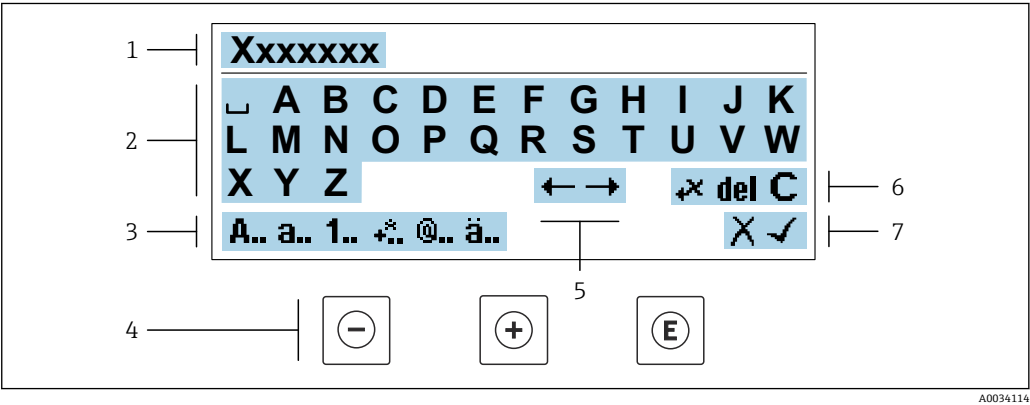


図 30 パラメータのテキスト入力用（例：機器のタグ）

- 1 入力値表示エリア
- 2 現在の入力画面
- 3 入力画面の変更
- 4 操作部
- 5 入力位置の移動
- 6 入力値の削除
- 7 入力値の拒否または確定

編集画面における操作部の使用方法

操作キー	意味
	- キー 入力位置を左に移動
	+ キー 入力位置を右に移動

操作キー	意味
	Enter キー ■ キーを短く押すと、選択が確定 ■ キーを2秒押すと、入力が確定される
	エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す） 変更内容を確定せずに、編集画面を閉じる

入力画面

シンボル	意味
A..	大文字
a..	小文字
1..	数字
+.	句読点および特殊文字：= + - * / ² ³ ¼ ½ ¾ () [] < > { }
@..	句読点および特殊文字：' " ` ^ . , ; : ? ! % μ ° € \$ £ ¥ § @ # / \ ~ & _
ä..	ウムラウト記号およびアクセサン記号

データ入力値の管理

シンボル	意味
	入力位置の移動
	入力値の拒否
	入力値の確定
	入力位置の左隣の文字を削除
del	入力位置の右隣の文字を削除
C	入力した文字をすべて削除

8.3.4 操作部

操作キー	意味
	- キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを上方へ移動 ウィザード内 前のパラメータに移動 テキストおよび数値エディタ内 入力位置を左に移動
	+ キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを下方へ移動 ウィザード内 次のパラメータに移動 テキストおよび数値エディタ内 入力位置を右に移動
	Enter キー 操作画面表示内 キーを短く押すと、操作メニューが開く メニュー、サブメニュー内 ■ キーを短く押した場合： ■ 選択したメニュー、サブメニュー、またはパラメータが開く ■ ウィザードが開始する ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ パラメータの位置でキーを2秒押した場合： ■ パラメータ機能のヘルプテキストがある場合は、これが開く ウィザード内 パラメータの編集画面を開き、パラメータ値を確定する テキストおよび数値エディタ内 ■ キーを短く押すと、選択が確定 ■ キーを2秒押すと、入力が確定される
	エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す） メニュー、サブメニュー内 ■ キーを短く押した場合： ■ 現在のメニューレベルを終了し、上位レベルに移動 ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ キーを2秒押すと、操作画面表示に戻る（「ホーム画面」） ウィザード内 ウィザードを終了し、より高次のレベルに移動 テキストおよび数値エディタ内 変更を確定せずに、編集画面を終了
	- / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し） ■ キーパッドロックが有効な場合： ■ キーを3秒押すと、キーパッドロックの無効化 ■ キーパッドロックが無効な場合： ■ キーを3秒押すと、コンテキストメニューが開き、キーパッドロックを有効化するための選択項目などが表示される

8.3.5 コンテキストメニューを開く

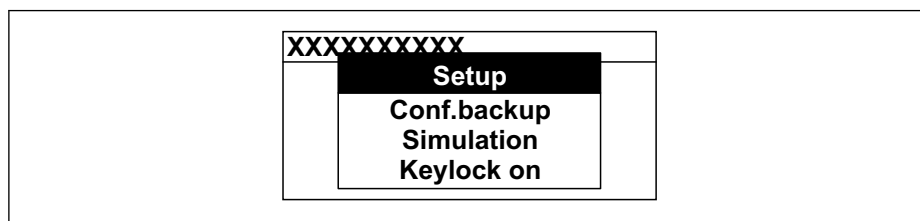
コンテキストメニューを使用すると、操作画面表示から簡単かつダイレクトに次のメニューを開くことができます。

- 設定
- データバックアップ
- シミュレーション

コンテキストメニューの呼び出しと終了

操作画面表示にします。

1.  および  キーを3秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが開きます。



A0034608-JA

2.  +  を同時に押します。
↳ コンテキストメニューが閉じて、操作画面が表示されます。

コンテキストメニューによるメニューの呼び出し

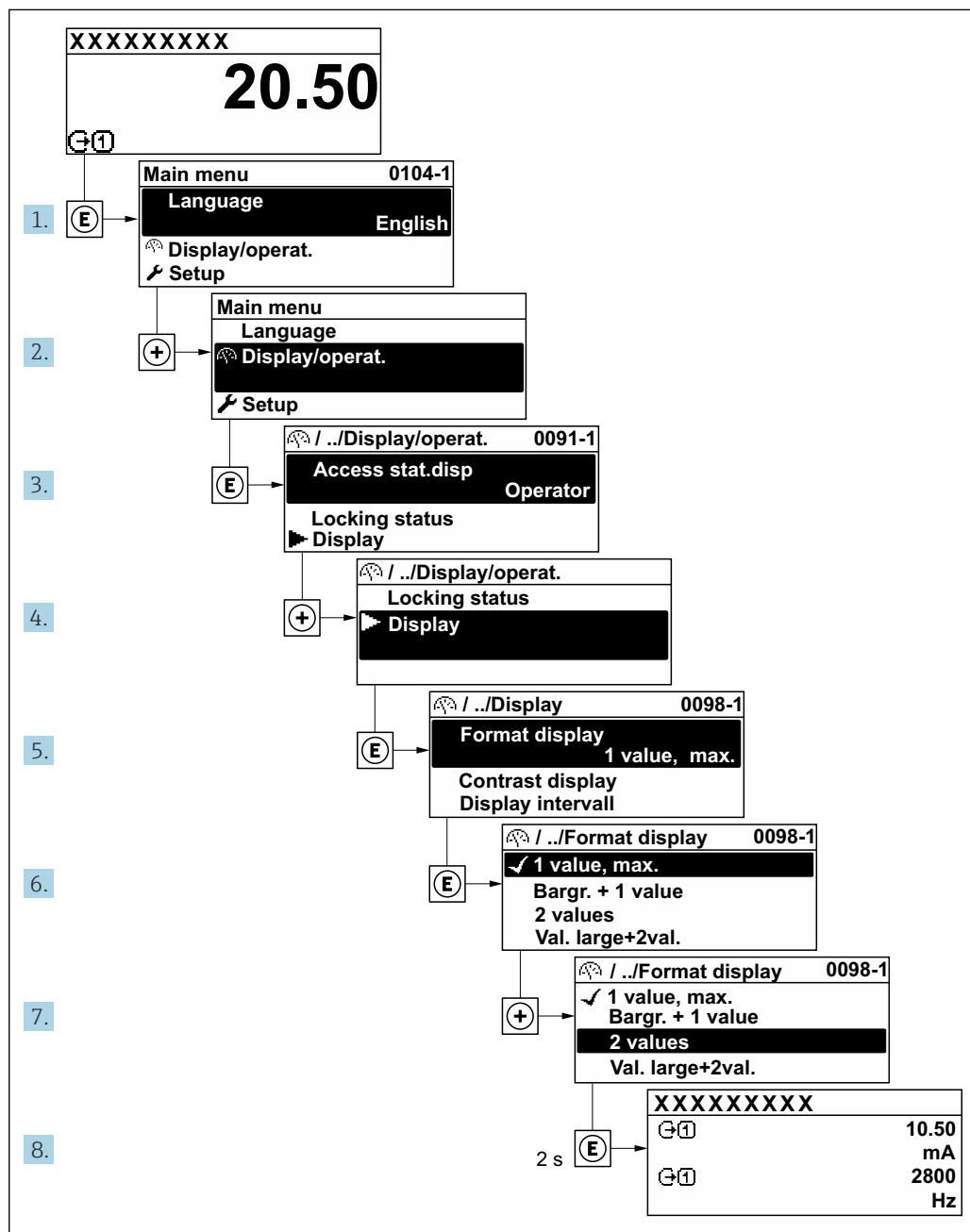
1. コンテキストメニューを開きます。
2.  を同時に押して、必要なメニューに移動します。
3.  を押して、選択を確定します。
↳ 選択したメニューが開きます。

8.3.6 ナビゲーションおよびリストから選択

各種の操作部を使用して、操作メニュー内をナビゲートすることができます。ナビゲーションパスはヘッダーの左側に表示されます。個々のメニューの前にアイコンが表示されます。このアイコンは、ナビゲーション中もヘッダーに表示されます。

 シンボルを含むナビゲーション画面および操作部の説明 → 69

例：表示する測定値の数を「2つの値」に設定



A0029562-JA

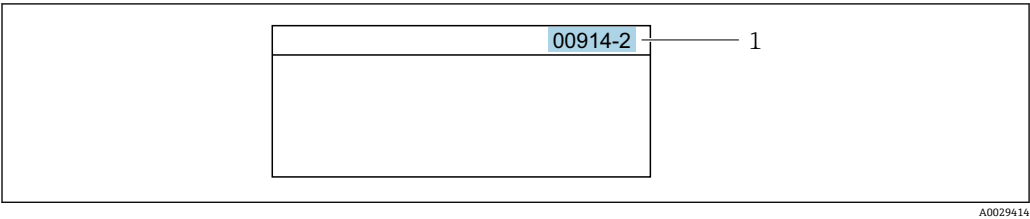
8.3.7 パラメータの直接呼び出し

各パラメータにパラメータ番号が割り当てられているため、現場表示器を介して直接パラメータにアクセスすることが可能です。このアクセスコードを**直接アクセス**パラメータに入力すると、必要なパラメータが直接呼び出されます。

ナビゲーションパス

エキスパート → 直接アクセス

直接アクセスコードは、5桁の数字（最大）とプロセス変数のチャンネルを識別するためのチャンネル番号から成ります（例：00914-2）。ナビゲーション画面では、これは選択したパラメータのヘッダーの右側に表示されます。



1 直接アクセスコード

- 直接アクセスコードを入力する際は、次のことに注意してください。
- 直接アクセスコードの最初のゼロは入力する必要がありません。
例：「00914」の代わりに「914」と入力
 - チャンネル番号を入力しなかった場合は、自動的にチャンネル 1 が開きます。
例：00914 を入力 → プロセス変数の割り当て パラメータ
 - 別のチャンネルに変えたい場合：直接アクセスコードで対応するチャンネル番号を入力します。
例：00914-2 を入力 → プロセス変数の割り当て パラメータ
-  個別のパラメータの直接アクセスコードについては、機器の機能説明書を参照してください。

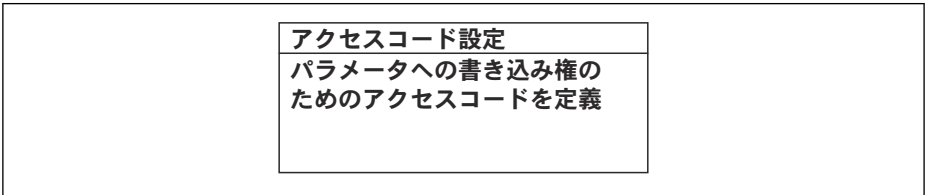
8.3.8 ヘルプテキストの呼び出し

一部のパラメータにはヘルプテキストが用意されており、ナビゲーション画面から呼び出すことが可能です。パラメータ機能の簡単な説明が記載されたヘルプテキストにより、迅速かつ安全な設定作業がサポートされます。

ヘルプテキストの呼び出しと終了

ナビゲーション画面で、パラメータの上に選択バーが表示されています。

1.  を 2 秒 間押します。
- 選択したパラメータのヘルプテキストが開きます。



 31 例：「アクセスコード入力」のヘルプテキスト

2.  +  を同時に押します。
- ヘルプテキストが閉じます。

8.3.9 パラメータの変更

パラメータは数値エディタまたはテキストエディタを使用して変更できます。

- 数値エディタ：パラメータの値を変更（例：リミット値の指定）
- テキストエディタ：パラメータのテキストを入力（例：タグ名称）

入力した値が許容される範囲を超える場合は、メッセージが表示されます。

アクセスコード入力 入力値が無効または範囲外 Min:0 Max:9999

A0014049-JA

 編集画面（テキストエディタと数値エディタで構成される）とシンボルの説明については →  71、操作部の説明については →  73 を参照してください。

8.3.10 ユーザーの役割と関連するアクセス権

ユーザー固有のアクセスコードをユーザーが設定した場合、「オペレータ」と「メンテナンス」の2つのユーザーの役割では、パラメータへの書き込みアクセスが異なります。これにより、現場表示器を介した機器設定の不正アクセスが保護されます。

→  153

ユーザーの役割に対するアクセス権の設定

工場からの機器の納入時には、アクセスコードはまだ設定されていません。機器へのアクセス権（読み込み/書き込みアクセス権）には制約がなく、ユーザーの役割「メンテナンス」に対応します。

▶ アクセスコードを設定します。

↳ ユーザーの役割「オペレータ」は、ユーザーの役割「メンテナンス」に追加して再設定されます。これら2つのユーザーの役割のアクセス権は異なります。

パラメータのアクセス権：ユーザーの役割「メンテナンス」

アクセスコードステータス	読み取りアクセス	書き込みアクセス
アクセスコードは未設定（工場設定）	✓	✓
アクセスコードの設定後	✓	✓ ¹⁾

1) アクセスコードの入力後、ユーザーには書き込みアクセス権のみが付与されます。

パラメータのアクセス権：ユーザーの役割「オペレータ」

アクセスコードステータス	読み取りアクセス	書き込みアクセス
アクセスコードの設定後	✓	— ¹⁾

1) アクセスコードが設定されても、特定のパラメータは常に変更可能です。これは、測定に影響を及ぼさないため、書き込み保護（アクセスコードによる書き込み保護）→  153 から除外されます。

 ユーザーが現在、どのユーザーの役割でログインしているか、**アクセスステータス**パラメータに表示されます。ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス

8.3.11 アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器のパラメータの前に  シンボルが表示されている場合、そのパラメータはユーザー固有のアクセスコードで書き込み保護されています。そのときは、現場操作による値の変更はできません。→  153。

現場操作によるパラメータ書き込み保護は、各アクセスオプションを使用してユーザー固有のアクセスコードを**アクセスコード入力**パラメータ（→  130）に入力することにより無効にできます。

1.  を押すと、アクセスコードの入力プロンプトが表示されます。

2. アクセスコードを入力します。

- ➡ パラメータの前の  シンボルが消えます。それまで書き込み保護されていたすべてのパラメータが再び使用可能になります。

8.3.12 キーパッドロックの有効化/無効化

キーパッドロックを使用すると、現場操作によるすべての操作メニューへのアクセスを防ぐことができます。その結果、操作メニューのナビゲーションまたはパラメータの変更はできなくなります。操作画面表示の測定値を読み取ることだけが可能です。

キーパッドロックのオン/オフはコンテキストメニューで行います。

キーパッドロックのオン

-  キーパッドロックが自動的にオンになります。
 - 機器が表示部を介して 1 分以上操作されなかった場合
 - 機器をリスタートした場合

キーロックを手動で有効化：

1. 測定値表示の画面を表示します。
 - および  キーを 3 秒以上押します。
 - ➡ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで **キーロック オン** オプションを選択します。
 - ➡ キーパッドロックがオンになっています。

-  キーパッドロックが有効な場合に、操作メニューへのアクセスを試みると、**キーロック オン**というメッセージが表示されます。

キーパッドロックのオフ

- ▶ キーパッドロックがオンになっています。
 - および  キーを 3 秒以上押します。
 - ➡ キーパッドロックがオフになります。

8.4 ウェブブラウザを使用した操作メニューへのアクセス

8.4.1 機能範囲

Web サーバーが内蔵されているため、ウェブブラウザサービスインタフェース (CDI-RJ45) または WLAN インタフェースを介して機器の操作および設定を行うことが可能です。操作メニューの構造は現場表示器と同じです。測定値に加え、機器のステータス情報も表示されるため、機器の状態を監視するために使用できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

WLAN 接続の場合は WLAN インタフェース (オプションとして注文可能) 付きの機器が必要：「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト；タッチコントロール+WLAN」。機器はアクセスポイントとして機能し、コンピュータまたは携帯型ハンドヘルドターミナルによる通信を可能にします。

-  Web サーバーの追加情報については、機器の個別説明書を参照してください。
 - ➔  246

8.4.2 必須条件

コンピュータハードウェア

ハードウェア	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
インタフェース	コンピュータには RJ45 インタフェースが必要です。 ¹⁾	操作部には WLAN インタフェースが必要です。
接続	標準イーサネットケーブル	無線 LAN を介した接続
画面	推奨サイズ：≥12"（画面解像度に応じて）	

- 1) 推奨ケーブル：CAT5e、CAT6、または CAT7、シールドプラグ付き（例：YAMAICHI 製品；品番：Y-ConProfixPlug63/製品 ID：82-006660）

コンピュータソフトウェア

ソフトウェア	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
推奨のオペレーティングシステム	- Microsoft Windows 8 以上 - モバイルオペレーティングシステム： - iOS - Android  Microsoft Windows XP および Windows 7 に対応します。	
対応のウェブブラウザ	- Microsoft Internet Explorer 8 以上 - Microsoft Edge - Mozilla Firefox - Google Chrome - Safari	

コンピュータ設定

設定	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
ユーザー権限	TCP/IP およびプロキシサーバー設定が可能なユーザー権限（例：管理者権限）が必要です（IP アドレスやサブネットマスクの調整などが必要なため）。	
ウェブブラウザのプロキシサーバー設定	ウェブブラウザの設定「LAN にプロキシサーバーを使用する」を オフ にする必要があります。	
JavaScript	JavaScript を有効にする必要があります。  JavaScript を有効にできない場合：ウェブブラウザのアドレスバーに <code>http://192.168.1.212/servlet/basic.html</code> を入力します。ウェブブラウザですべての機能を備えた簡易バージョンの操作メニューが起動します。  新しいファームウェアのバージョンをインストールする場合：正確なデータ表示を可能にするため、ウェブブラウザの インターネットオプション で一時的なメモリ（キャッシュ）を消去します。	JavaScript を有効にする必要があります。  WLAN ディスプレイには、JavaScript のサポートが必要です。
ネットワーク接続	機器とのアクティブなネットワーク接続のみを使用してください。	
	その他のすべてのネットワーク接続（WLAN など）をオフにします。	他のネットワーク接続はすべてオフにします。

 接続の問題が発生した場合：→  181

機器：CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由

機器	CDI-RJ45 サービスインターフェイス
機器	機器には RJ45 インターフェイスがあります。
Web サーバー	Web サーバーを有効にする必要があります。工場設定：オン  Web サーバーの有効化に関する情報 → 84

機器：WLAN インターフェイス経由

機器	WLAN インターフェイス
機器	機器には WLAN アンテナがあります。 ■ 内蔵の WLAN アンテナ付き変換器 ■ 外部の WLAN アンテナ付き変換器
Web サーバー	Web サーバーおよび WLAN を有効にする必要があります。工場設定：ON  Web サーバーの有効化に関する情報 → 84

8.4.3 機器の接続**サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由****機器の準備****Proline 500 – デジタル**

1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 接続ソケットの位置は、機器および通信プロトコルに応じて異なります。
標準のイーサネットケーブルを使用してコンピュータを RJ45 プラグに接続します。

Proline 500

1. ハウジングの種類に応じて：
ハウジングカバーの固定クランプまたは固定ネジを緩めます。
2. ハウジングの種類に応じて：
ハウジングカバーを緩めて外すか、開きます。
3. 標準のイーサネット接続ケーブルを使用して、コンピュータを RJ45 プラグに接続します。.

コンピュータのインターネットプロトコルの設定

以下は、機器の Ethernet 初期設定です。

機器の IP アドレス：192.168.1.212（工場設定）

1. 機器の電源をオンにします。
2. 標準のイーサネットケーブルを使用してコンピュータを RJ45 プラグに接続します → 85。
3. 2 つ目のネットワークカードを使用しない場合は、ノートパソコンのすべてのアプリケーションを閉じます。
 - ↳ E メール、SAP アプリケーション、インターネットまたは Windows Explorer などのアプリケーションにはインターネットまたはネットワーク接続が必要となります。
4. 開いているインターネットブラウザをすべて閉じます。

5. 表の記載に従って、インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを設定します。

IP アドレス	192.168.1.XXX、XXX については 0、212、255 以外のすべての続き番号 → 例：192.168.1.213
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.212 または空欄

WLAN インタフェース経由

携帯端末のインターネットプロトコルの設定

注記

設定中に WLAN 接続が中断した場合、行った設定が失われる可能性があります。

- ▶ 機器の設定中は WLAN 接続が切断されないように注意してください。

注記

ネットワーク競合が発生しないよう、以下に注意してください。

- ▶ 同じモバイル端末からサービスインタフェース (CDI-RJ45) と WLAN インタフェースを介して機器に同時にアクセスしないようにしてください。
- ▶ 1 つのサービスインタフェース (CDI-RJ45 または WLAN インタフェース) のみを有効にしてください。
- ▶ 同時通信が必要な場合：たとえば、192.168.0.1 (WLAN インタフェース) と 192.168.1.212 (CDI-RJ45 サービスインタフェース) など、異なる IP アドレス範囲を設定します。

モバイル端末の準備

- ▶ モバイル端末の WLAN を有効にします。

モバイル端末から機器への WLAN 接続の確立

1. モバイル端末の WLAN 設定において：
SSID (例：EH_Promass_500_A802000) を使用して機器を選択します。
2. 必要に応じて、WPA2 暗号方式を選択します。
3. パスワードを入力します。
工場出荷時の機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
↳ 表示モジュールの LED が点滅します。これにより、ウェブブラウザ、FieldCare または DeviceCare を使用して機器を操作できるようになります。

 シリアル番号は銘板に明記されています。

 WLAN ネットワークを測定点に安全かつ迅速に割り当てるためには、SSID 名称の変更を推奨します。WLAN ネットワークとして表示されるため、新しい SSID 名称を測定点に明確に割り当てることができます (例：タグ名)。

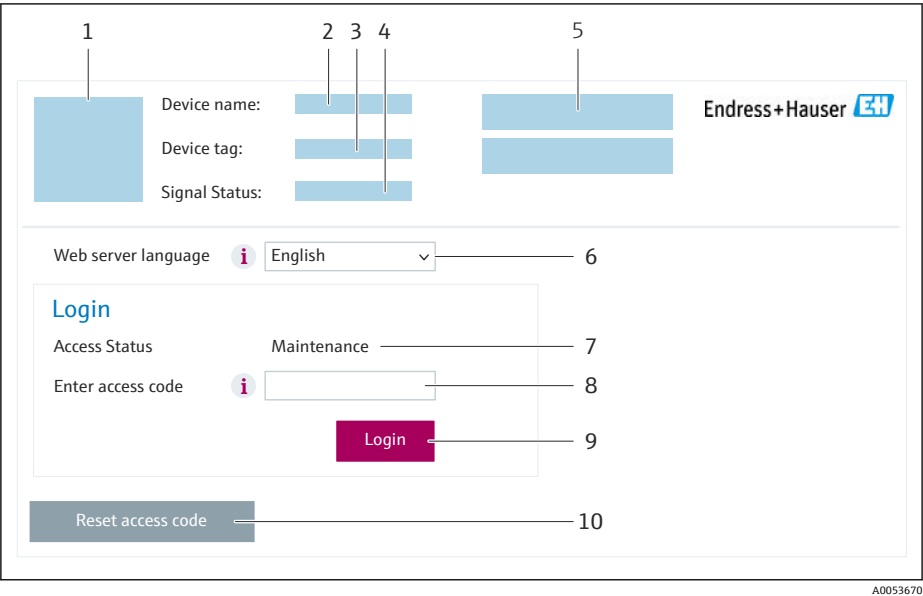
WLAN 接続の終了

- ▶ 機器の設定後：
モバイル端末と機器間の WLAN 接続を終了します。

ウェブブラウザの起動

1. コンピュータのウェブブラウザを起動します。

2. ウェブブラウザのアドレス行に Web サーバーの IP アドレス（192.168.1.212）を入力します。
- ➡ ログイン画面が表示されます。



- 1 機器の図
- 2 機器名
- 3 デバイスのタグ
- 4 ステータス信号
- 5 現在の測定値
- 6 操作言語
- 7 ユーザーの役割
- 8 アクセスコード
- 9 ログイン
- 10 アクセスコードのリセット (→ 149)

 ログイン画面が表示されない、または、画面が不完全な場合 → 181

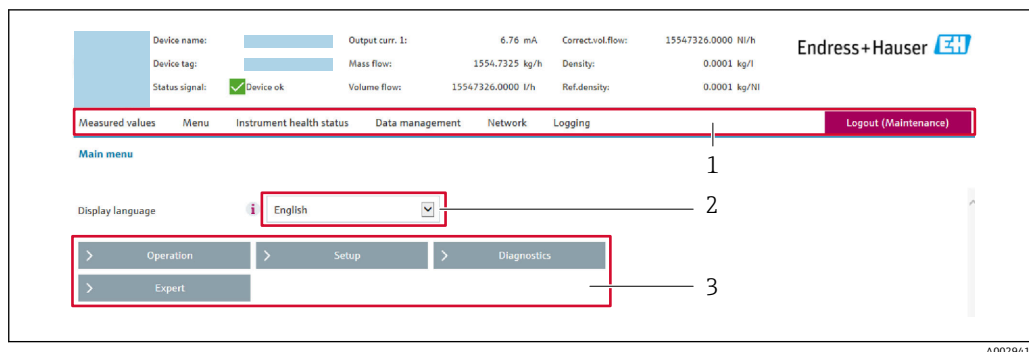
8.4.4 ログイン

1. 希望するウェブブラウザの操作言語を選択します。
2. ユーザー固有のアクセスコードを入力します。
3. **OK** を押して、入力内容を確定します。

アクセスコード	0000 (工場設定)、ユーザー側で変更可能
---------	------------------------

 10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

8.4.5 ユーザーインターフェース



- 1 機能列
- 2 現場表示器の言語
- 3 ナビゲーションエリア

ヘッダー

以下の情報がヘッダーに表示されます。

- 機器名
- デバイスのタグ
- 機器ステータスとステータス信号 → 189
- 現在の計測値

機能列

機能	意味
測定値	機器の測定値を表示
メニュー	■ 機器から操作メニューへのアクセス ■ 操作メニューの構成は現場表示器のものと同じです。  操作メニューの構成に関する詳細：機能説明書
機器ステータス	現在未処理の診断メッセージを優先度の高い順序で表示
データ管理	コンピュータと計測機器間のデータ交換： ■ 機器設定： ■ 機器からの読み込み設定 (XML 形式、設定の保存) ■ 機器への保存設定 (XML 形式、設定の復元) ■ ログブック - イベントログブックのエクスポート (.csv ファイル) ■ ドキュメント - ドキュメントのエクスポート： ■ バックアップ記録データのエクスポート (.csv ファイル、測定点設定のドキュメント作成) ■ 検証レポート (PDF ファイル、「Heartbeat 検証」アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能) ■ ファームウェアアップデート - ファームウェアバージョンの更新
ネットワーク	機器との接続確立に必要なすべてのパラメータの設定および確認 ■ ネットワーク設定 (例：IP アドレス、MAC アドレス) ■ 機器情報 (例：シリアル番号、ファームウェアのバージョン)
ログアウト	操作の終了とログイン画面の呼び出し

ナビゲーションエリア

メニュー、関連するサブメニュー、およびパラメータは、ナビゲーションエリアで選択できます。

作業エリア

選択した機能と関連するサブメニューに応じて、このエリアでさまざまな処理を行うことができます。

- パラメータ設定
- 測定値の読み取り
- ヘルプテキストの呼び出し
- アップロード/ダウンロードの開始

8.4.6 Web サーバーの無効化

機器の Web サーバーは、必要に応じて **Web サーバ 機能** パラメータを使用してオン/オフできます。

ナビゲーション

「エキスパート」メニュー → 通信 → Web サーバ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
Web サーバ 機能	Web サーバーのオン/オフを切り替えます。	■ オフ ■ HTML Off ■ オン	オン

「Web サーバ 機能」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
オフ	■ Web サーバーは完全に無効になります。 ■ ポート 80 はロックされます。
HTML Off	Web サーバーの HTML バージョンは使用できません。
オン	■ すべての Web サーバ機能を使用できます。 ■ JavaScript が使用されます。 ■ パスワードは暗号化された状態で伝送されます。 ■ パスワードの変更も暗号化された状態で伝送されます。

Web サーバーの有効化

Web サーバーが無効になった場合、以下の操作オプションを介した **Web サーバ 機能** パラメータを使用してのみ再び有効にすることが可能です。

- 現場表示器を介して
- 「FieldCare」操作ツールを使用
- 「DeviceCare」操作ツールを使用

8.4.7 ログアウト

 ログアウトする前に、必要に応じて、**データ管理機能**（機器のアップロード設定）を使用してデータバックアップを行ってください。

1. 機能列で **ログアウト** 入力項目を選択します。
↳ ホームページにログインボックスが表示されます。
2. ウェブブラウザを閉じます。
3. 必要なくなった場合：
インターネットプロトコル（TCP/IP）の変更したプロパティをリセットします。
→  80.

8.5 操作ツールによる操作メニューへのアクセス

操作ツールを使用する場合の操作メニュー構成は、現場表示器による操作と同じです。

8.5.1 操作ツールの接続

Modbus RS485 プロトコル経由

この通信インタフェースは Modbus RS485 出力対応の機器バージョンに装備されています。

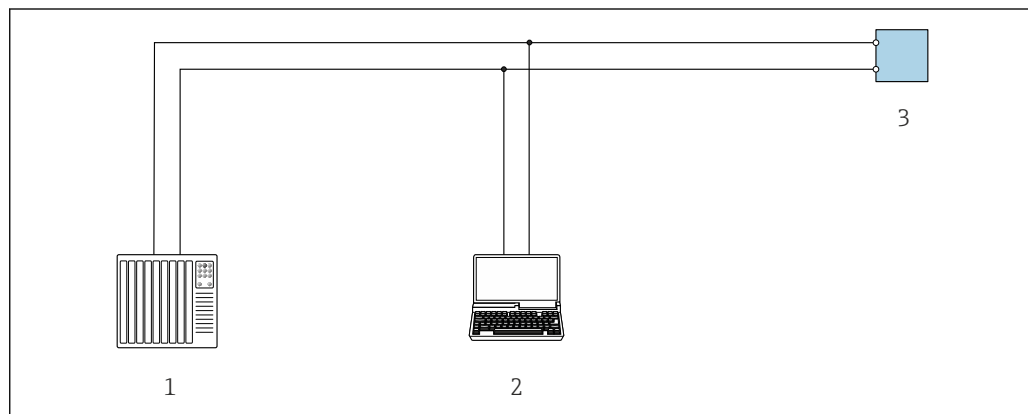


図 32 Modbus RS485 プロトコル経由のリモート操作用オプション（アクティブ）

- 1 制御システム（例：PLC）
- 2 機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ（例：Microsoft Edge）もしくは COM DTM「CDI Communication TCP/IP」または Modbus DTM を使用した操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を搭載したコンピュータ
- 3 変換器

サービスインタフェース

サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由

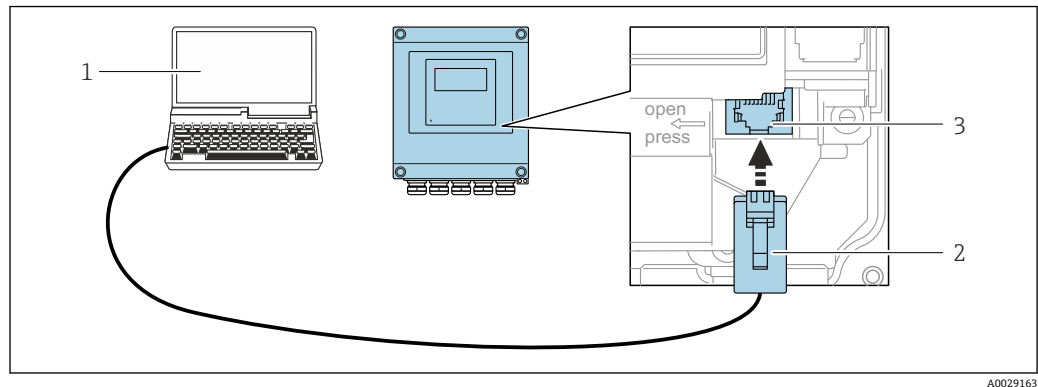
ポイント・トゥー・ポイント接続を確立して、機器を現場で設定することが可能です。ハウジングを開いた状態で、機器のサービスインタフェース（CDI-RJ45）を介して直接接続が確立されます。

i 非危険場所で使用できる RJ45 から M12 プラグ用のアダプタがオプションで用意されています。

「アクセサリ」のオーダーコード、オプション **NB**：「アダプタ RJ45 M12（サービスインタフェース）」

このアダプタにより、サービスインタフェース（CDI-RJ45）と電線口に付いている M12 プラグが接続されます。機器を開けることなく、M12 プラグを介してサービスインタフェースとの接続を確立することが可能です。

Proline 500 – デジタル変換器

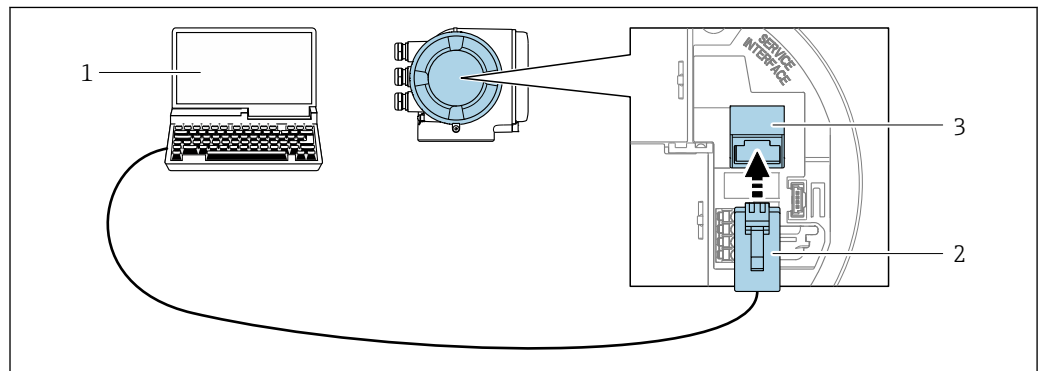


A0029163

図 33 サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由の接続

- 1 内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例 : Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge)、もしくは「FieldCare」操作ツール、COM DTM「CDI Communication TCP/IP」または Modbus DTM を使用する「DeviceCare」を搭載したコンピュータ
- 2 RJ45 プラグの付いた標準イーサネット接続ケーブル
- 3 内蔵された Web サーバーにアクセス可能な機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45)

Proline 500 変換器



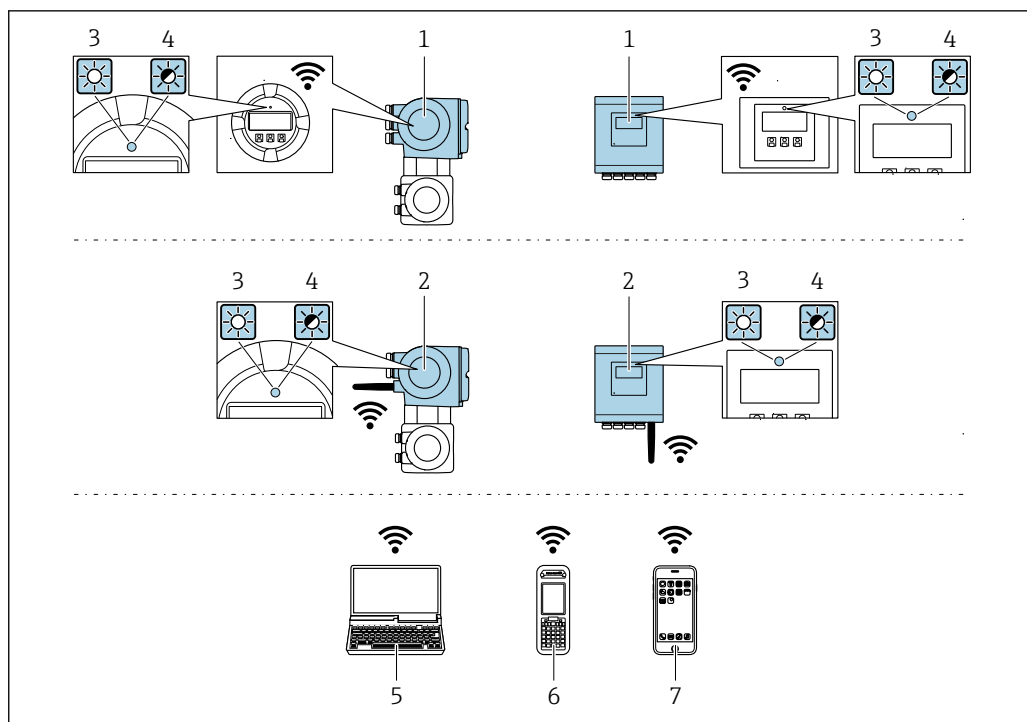
A0027563

図 34 サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由の接続

- 1 内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例 : Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge)、もしくは「FieldCare」操作ツール、COM DTM「CDI Communication TCP/IP」または Modbus DTM を使用する「DeviceCare」を搭載したコンピュータ
- 2 RJ45 プラグの付いた標準イーサネット接続ケーブル
- 3 内蔵された Web サーバーにアクセス可能な機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45)

WLAN インタフェース経由

以下の機器バージョンでは、オプションの WLAN インタフェースが使用できます。
「ディスプレイ ; 操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト ;
タッチコントロール + WLAN」



A0034569

- 1 内蔵の WLAN アンテナ付き変換器
- 2 外部の WLAN アンテナ付き変換器
- 3 LED 点灯：機器の WLAN 受信が可能
- 4 LED 点滅：操作ユニットと機器の WLAN 接続が確立
- 5 WLAN インタフェース、および、機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ（例：Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge）または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を搭載したコンピュータ
- 6 WLAN インタフェース、および、機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ（例：Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge）または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を搭載した携帯型ハンドヘルドターミナル
- 7 スマートフォンまたはタブレット端末（例：Field Xpert SMT70）

機能	WLAN : IEEE 802.11 b/g (2.4 GHz)
暗号化	WPA2-PSK AES-128 (IEEE 802.11i に準拠)
設定可能な WLAN チャンネル	1～11
保護等級	IP67
使用可能なアンテナ	■ 内部アンテナ ■ 外部アンテナ（オプション） 設置場所の送受信状態が悪い場合 i 一度にアクティブになるアンテナは1つだけです。
範囲	■ 内部アンテナ：標準 10 m (32 ft) ■ 外部アンテナ：標準 50 m (164 ft)
材質（外部アンテナ）	■ アンテナ：ASA プラスチック（アクリロニトリルスチレンアクリレート）およびニッケルめっき真鍮 ■ アダプタ：ステンレスおよびニッケルめっき真鍮 ■ ケーブル：ポリエチレン ■ プラグ：ニッケルめっき真鍮 ■ アングルブラケット：ステンレス

携帯端末のインターネットプロトコルの設定

注記

設定中に WLAN 接続が中断した場合、行った設定が失われる可能性があります。

- ▶ 機器の設定中は WLAN 接続が切断されないように注意してください。

注記

ネットワーク競合が発生しないよう、以下に注意してください。

- ▶ 同じモバイル端末からサービスインタフェース (CDI-RJ45) と WLAN インタフェースを介して機器に同時にアクセスしないようにしてください。
- ▶ 1つのサービスインタフェース (CDI-RJ45 または WLAN インタフェース) のみを有効にしてください。
- ▶ 同時通信が必要な場合：たとえば、192.168.0.1 (WLAN インタフェース) と 192.168.1.212 (CDI-RJ45 サービスインタフェース) など、異なる IP アドレス範囲を設定します。

モバイル端末の準備

- ▶ モバイル端末の WLAN を有効にします。

モバイル端末から機器への WLAN 接続の確立

1. モバイル端末の WLAN 設定において：
SSID (例：EH_Promass_500_A802000) を使用して機器を選択します。
2. 必要に応じて、WPA2 暗号方式を選択します。
3. パスワードを入力します。
工場出荷時の機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
 - ↳ 表示モジュールの LED が点滅します。これにより、ウェブブラウザ、FieldCare または DeviceCare を使用して機器を操作できるようになります。



シリアル番号は銘板に明記されています。



WLAN ネットワークを測定点に安全かつ迅速に割り当てるためには、SSID 名称の変更を推奨します。WLAN ネットワークとして表示されるため、新しい SSID 名称を測定点に明確に割り当てることができます (例：タグ名)。

WLAN 接続の終了

- ▶ 機器の設定後：
モバイル端末と機器間の WLAN 接続を終了します。

8.5.2 FieldCare

機能範囲

Endress+Hauser の FDT (Field Device Technology) ベースのプラントアセット管理ツールです。システム内のすべてのスマートフィールド機器を設定できるため、管理作業に役立ちます。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を容易かつ効果的にチェックできます。

アクセス方法：

- CDI-RJ45 サービスインタフェース → 85
- WLAN インタフェース → 86

標準機能：

- 伝送器パラメータ設定
- 機器データの読み込みおよび保存 (アップロード/ダウンロード)
- 測定点の文書化
- 測定値メモリ (ラインレコーダ) およびイベントログブックの視覚化



- 取扱説明書 BA00027S
- 取扱説明書 BA00059S



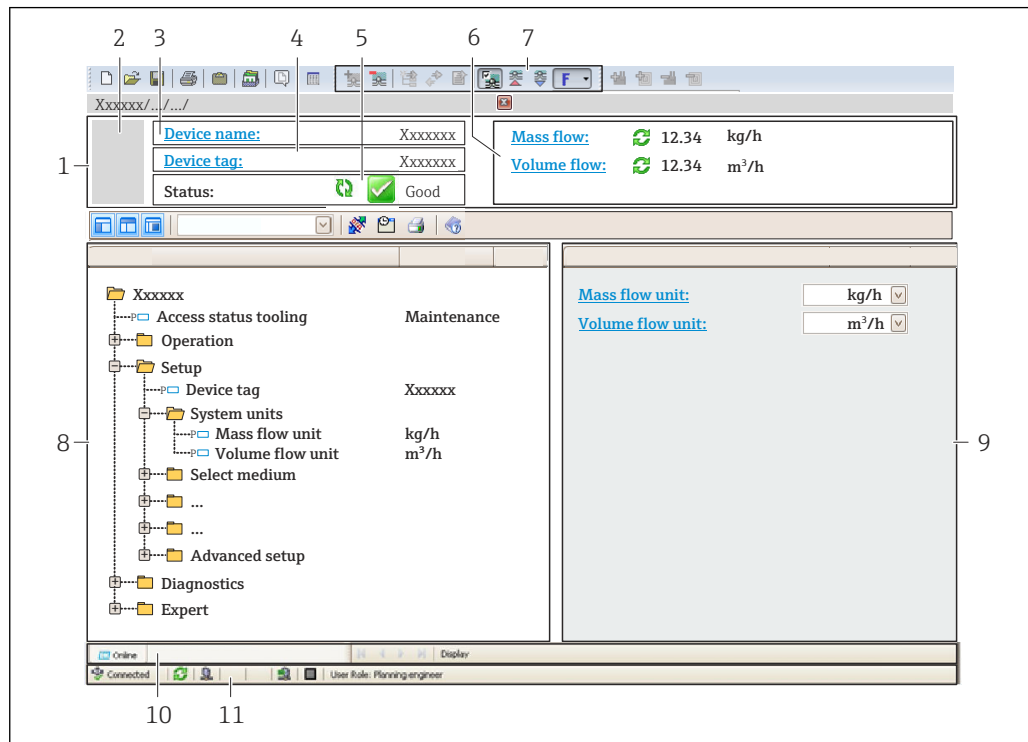
DD ファイルの入手先 → 90

接続の確立



- 取扱説明書 BA00027S
- 取扱説明書 BA00059S

ユーザインタフェース



A0021051-JA

- 1 ヘッダー
- 2 機器の図
- 3 機器名
- 4 機器のタグ
- 5 ステータスエリアとステータス信号 → 189
- 6 現在の測定値の表示エリア
- 7 編集ツールバー：保存/読み込み、イベントリスト、文書作成などの追加機能を使用できます。
- 8 ナビゲーションエリアと操作メニュー構成
- 9 作業エリア
- 10 動作エリア
- 11 ステータスエリア

8.5.3 DeviceCare

機能範囲

Endress+Hauser 製フィールド機器の接続および設定用ツール。

専用の「DeviceCare」ツールを使用すると、Endress+Hauser 製フィールド機器を簡単に設定できます。デバイスタイプマネージャ (DTM) も併用すると、効率的で包括的なソリューションとして活用できます。



イノベーションカタログ IN01047S



DD ファイルの入手先 → 90

9 システム統合

9.1 DD ファイルの概要

9.1.1 現在の機器のバージョンデータ

ファームウェアのバージョン	01.06.zz	■ 説明書の表紙に明記 ■ 変換器の銘板上に明記 ■ ファームウェアのバージョン 診断 → 機器情報 → ファームウェアのバージョン
ファームウェアのバージョンのリリース日付	2022 年 8 月	---

 機器の各種ファームウェアバージョンの概要 → 202

9.1.2 操作ツール

以下の表には、個々の操作ツールに適した DD ファイルとそのファイルの入手先情報が記載されています。

操作ツール：サービスインタフェース (CDI) または Modbus インタフェース経由	DD ファイルの入手先
FieldCare	■ www.endress.com → ダウンロードエリア ■ USB メモリ (Endress+Hauser にお問い合わせください) ■ DVD (Endress+Hauser にお問い合わせください)
DeviceCare	■ www.endress.com → ダウンロードエリア ■ CD-ROM (Endress+Hauser にお問い合わせください) ■ DVD (Endress+Hauser にお問い合わせください)

9.2 旧型モデルとの互換性

機器を交換した場合、Promass 500 機器は、旧型モデルの Promass 83 とのプロセス変数および診断情報に関する Modbus レジスタの互換性をサポートします。オートメーションシステムでエンジニアリングパラメータを変更する必要はありません。

互換性のある Modbus レジスタ：プロセス変数

プロセス変数	互換性のある Modbus レジスタ
質量流量	2007
体積流量	2009
基準体積流量	2011
密度	2013
基準密度	2015
温度	2017
積算計 1	2610
積算計 2	2810
積算計 3	3010

互換性のある Modbus レジスタ：診断情報

診断情報	互換性のある Modbus レジスタ
診断コード (データ型：文字列)、例：F270	6821
診断番号 (データ型：整数)、例：270	6859



Modbus レジスタは互換性がありますが、診断番号は互換性ありません。新しい診断番号の概要→ 192

9.3 Modbus RS485 情報

9.3.1 機能コード

機能コードを使用して、Modbus プロトコルを介してどの読み込みまたは書き込み動作を実行するか決定します。本機器は以下の機能コードに対応しています。

コード	名称	内容	アプリケーション
03	保持レジスタの読み出し	マスタが機器から 1 つまたはそれ以上の Modbus レジスタを読み出します。 1 電文で最大 125 の連続レジスタを読み出しが可能：1 レジスタ = 2 バイト 機器は機能コード 03 と 04 を区別しません。そのため、これらのコードは同じ結果となります。	読み込みおよび書き込みアクセス権を伴う機器パラメータの読み込み 例： 質量流量の読み込み
04	入力レジスタの読み出し	マスタが機器から 1 つまたはそれ以上の Modbus レジスタを読み出します。 1 電文で最大 125 の連続レジスタの読み出しが可能：1 レジスタ = 2 バイト 機器は機能コード 03 と 04 を区別しません。そのため、これらのコードは同じ結果となります。	読み込みアクセス権を伴う機器パラメータの読み込み 例： 積算計の値の読み込み
06	シングルレジスタへの書き込み	マスタが機器の 1 つの Modbus レジスタに新しい値を書き込みます。 1 電文だけで連続したレジスタに書き込むためには、機能コード 16 を使用します。	1 つの機器パラメータのみに書き込み 例：積算計リセット
08	診断	マスタが機器との通信接続をチェックします。 以下の「診断コード」に対応： - サブファンクション 00 = クエリーデータ返信（ループバックテスト） - サブファンクション 02 = 診断レジスタ返信	

コード	名称	内容	アプリケーション
16	連続したレジスタへの書き込み	マスタが機器の複数の Modbus レジスタに新しい値を書き込みます。 1 電文で最大 120 の連続レジスタの書き込みが可能  必要な機器パラメータがグループ化されていない場合に、それでも 1 電文で処理したい場合は、Modbus データマップを使用します → 図 93。	連続した機器レジスタへの書き込み 例： ■ 質量流量単位 ■ 質量単位
23	連続したレジスタへの書き込みと読み込み	マスタが機器の最大 118 の Modbus レジスタに、1 電文で同時に読み込みと書き込みを行います。読み込みアクセスの 前 に書き込みアクセスが実行されます。	連続した機器レジスタへの書き込みと読み込み 例： ■ 質量流量の読み込み ■ 積算計リセット

 信号送信メッセージは、機能コード 06、16、23 の場合のみ許可されます。

9.3.2 レジスタ情報

 機器パラメータおよびそれぞれの Modbus レジスタ情報の概要については、機能説明書の「Modbus RS485 レジスタ情報」セクションを参照してください。
→ 図 245.

9.3.3 応答時間

Modbus マスタのリクエストテレグラムに対する機器応答時間：3～5 ms（標準）

9.3.4 データ型

本機器は以下のデータ型に対応しています。

浮動小数（浮動小数点数 IEEE 754） データ長 = 4 バイト（2 レジスタ）			
バイト 3	バイト 2	バイト 1	バイト 0
SEEEEEEE	EMMMMMMM	MMMMMMMM	MMMMMMMM
S = 符号、E = 指数、M = 仮数			

整数 データ長 = 2 バイト（1 レジスタ）	
バイト 1	バイト 0
最上位バイト（MSB）	最下位バイト（LSB）

文字列 データ長 = 機器パラメータに応じて異なる、例：データ長 = 18 バイト（9 レジスタ）の機器パラメータの表示				
バイト 17	バイト 16	...	バイト 1	バイト 0
最上位バイト（MSB）		...		最下位バイト（LSB）

9.3.5 バイト伝送順序

バイトのアドレス指定、つまり、バイトの伝送順序は、Modbus 仕様には規定されていません。そのため、設定中にマスタとスレーブの間でアドレス指定方法を調整または一致させることが重要です。これは、**バイトオーダー** パラメータを使用して機器で設定することが可能です。

バイトオーダー パラメータで行った選択に応じて、バイトは伝送されます。

浮動小数点				
	順序			
オプション	1.	2.	3.	4.
1-0-3-2 *	バイト 1 (MMMMMMMM)	バイト 0 (MMMMMMMM)	バイト 3 (SEEEEEEE)	バイト 2 (EMMMMMMM)
0-1-2-3	バイト 0 (MMMMMMMM)	バイト 1 (MMMMMMMM)	バイト 2 (EMMMMMMM)	バイト 3 (SEEEEEEE)
2-3-0-1	バイト 2 (EMMMMMMM)	バイト 3 (SEEEEEEE)	バイト 0 (MMMMMMMM)	バイト 1 (MMMMMMMM)
3-2-1-0	バイト 3 (SEEEEEEE)	バイト 2 (EMMMMMMM)	バイト 1 (MMMMMMMM)	バイト 0 (MMMMMMMM)
* = 初期設定、S = 符号、E = 指数、M = 仮数				

整数		
	順序	
オプション	1.	2.
1-0-3-2 * 3-2-1-0	バイト 1 (MSB)	バイト 0 (LSB)
0-1-2-3 2-3-0-1	バイト 0 (LSB)	バイト 1 (MSB)
* = 初期設定、MSB = 最上位バイト、LSB = 最下位バイト		

文字列					
データ長 18 バイトの機器パラメータの例を表示					
	順序				
オプション	1.	2.	...	17.	18.
1-0-3-2 * 3-2-1-0	バイト 17 (MSB)	バイト 16	...	バイト 1	バイト 0 (LSB)
0-1-2-3 2-3-0-1	バイト 16	バイト 17 (MSB)	...	バイト 0 (LSB)	バイト 1
* = 初期設定、MSB = 最上位バイト、LSB = 最下位バイト					

9.3.6 Modbus データマップ

Modbus データマップの機能

本計測機器には Modbus データマップ（最大 16 の機器パラメータ用）という特別な記憶領域があるため、Modbus RS485 を介して個別の機器パラメータや連続する機器パラメータのグループだけでなく、複数の機器パラメータを呼び出すことが可能です。

機器パラメータのグループ化はフレキシブルで、Modbus マスタは 1 つの電文要求でデータブロック全体に同時に読み込む/書き込むことができます。

Modbus データマップの構成

- Modbus データマップは 2 つのデータセットから成ります。
- スキャンリスト：設定エリア
Modbus RS485 レジスタアドレスをリストに入力することにより、グループ化される機器パラメータをリスト内で設定します。
 - データエリア
スキャンリストに入力したレジスタアドレスを計測機器が周期的に読み出し、データエリアに関連する機器データ（値）を書き込みます。
-  機器パラメータおよびそれぞれの Modbus レジスタ情報の概要については、機能説明書の「Modbus RS485 レジスタ情報」セクションを参照してください。
→  245.

スキャンリストの設定

設定するためには、グループ化する機器パラメータの Modbus RS485 レジスタアドレスがスキャンリストに入力されていなければなりません。スキャンリストの以下の基本要件に注意してください。

最大入力項目	16 × 機器パラメータ
対応する機器パラメータ	以下の特性を有するパラメータにのみ対応しています。 ■ アクセス型：読み込みまたは書き込みアクセス ■ データタイプ：浮動小数または整数

FieldCare または DeviceCare を介したスキャンリストの設定

計測機器の以下の操作メニューから実行します。
エキスパート → 通信 → Modbus データマップ → スキャンリストレジスタ 0～15

スキャンリスト	
番号	設定レジスタ
0	スキャンリストレジスタ 0
...	...
15	スキャンリストレジスタ 15

Modbus RS485 を介したスキャンリストの設定

レジスタアドレス 5001～5016 を使用して実行

スキャンリスト			
番号	Modbus RS485 レジスタ	データタイプ	設定レジスタ
0	5001	整数	スキャンリストレジスタ 0
...	...	整数	...
15	5016	整数	スキャンリストレジスタ 15

Modbus RS485 を介したデータの読み出し

Modbus マスタは、スキャンリストで設定した機器パラメータの現在値を読み出すために Modbus データマップのデータエリアにアクセスできます。

データエリアへのマスタアクセス	レジスタアドレス 5051～5081 経由
-----------------	-----------------------

データエリア				
機器パラメータ値	Modbus RS485 レジスタ		データタイプ*	アクセス**
	開始レジスタ	終了レジスタ (浮動小数のみ)		
スキャンリストレジスタ 0 の値	5051	5052	整数/浮動小数	読み取り/書き込み
スキャンリストレジスタ 1 の値	5053	5054	整数/浮動小数	読み取り/書き込み
スキャンリストレジスタ ... の値	...	...	...	...
スキャンリストレジスタ 15 の値	5081	5082	整数/浮動小数	読み取り/書き込み
* データタイプは、スキャンリストに入力した機器パラメータに応じて異なります。 ** データアクセスは、スキャンリストに入力した機器パラメータに応じて異なります。入力した機器パラメータが読み込み/書き込みアクセスに対応している場合は、同様にデータエリアを介してパラメータにアクセスすることが可能です。				

10 設定

10.1 設置状況および配線状況の確認

機器の設定前：

- ▶ 設置状況の確認および配線状況の確認が正常に行われたか確認してください。

- 「設置状況の確認」のチェックリスト → ㉮ 34

- 「配線状況の確認」のチェックリスト → ㉮ 63

10.2 機器の電源投入

- ▶ 設置状況の確認および配線状況の確認が正常に完了したら、機器の電源を入れます。
 - ↳ スタートアップの終了後、現場表示器は自動的にスタートアップ表示から操作画面に切り替わります。

i 現場表示器に何も表示されない、または診断メッセージが表示される場合は、「診断およびトラブルシューティング」セクションを参照してください → ㉮ 181。

10.3 操作言語の設定

初期設定：英語または注文した地域の言語

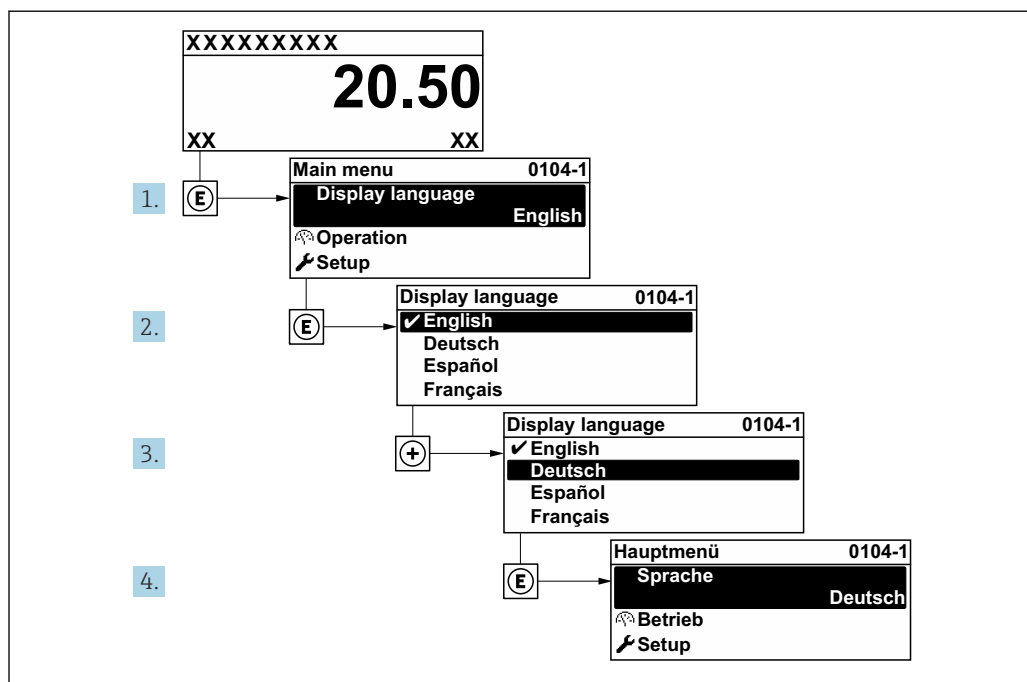
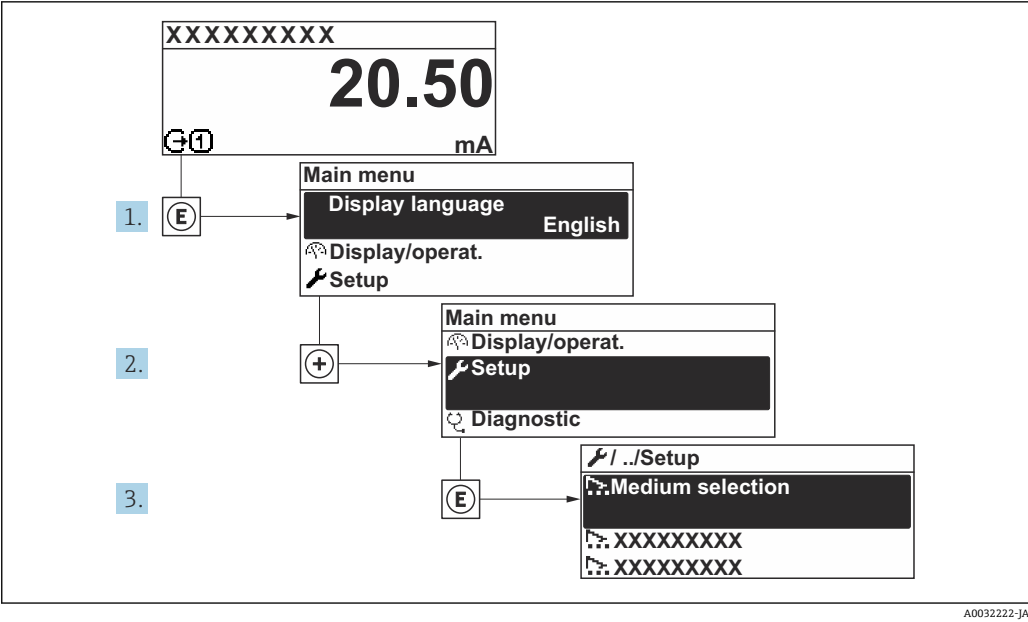


図 35 現場表示器の表示例

A0029420

10.4 計測機器の設定

設定 メニュー（ガイド付きウィザードあり）には、通常運転に必要なパラメータがすべて含まれています。



36 現場表示器を使用した「設定」メニューへのナビゲーション（例）

i サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」セクションを参照）。

設定		
デバイスのタグ		
▶ システムの単位		→ 98
▶ 通信		→ 100
▶ 流体の選択		→ 102
▶ I/O 設定		→ 104
▶ 電流入力 1～n		→ 105
▶ ステータス入力 1～n		→ 106
▶ 電流出力 1～n		→ 107
▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		→ 111
▶ リレー出力 1～n		→ 118
▶ ダブルパルス出力		→ 121
▶ 表示		→ 122

▶ ローフローカットオフ	→ ⓘ 127
▶ 非満管の検出	→ ⓘ 128
▶ 高度な設定	→ ⓘ 129

10.4.1 タグ番号の設定

システム内で測定点を迅速に識別するために、**デバイスのタグ** パラメータを使用して一意の名称を入力し、工場設定を変更することができます。

1 —

XXXXXXXXXX

A0029422

図 37 タグ番号を含む操作画面表示のヘッダー

1 タグ番号

 タグ番号を「FieldCare」操作ツールで入力します。→ ⓘ 89

ナビゲーション
「設定」メニュー → デバイスのタグ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力	工場出荷時設定
デバイスのタグ	測定ポイントの名称を入力。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）	Promag

10.4.2 システムの単位の設定

システムの単位 サブメニュー で、すべての測定値の単位を設定できます。

 サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」セクションを参照）。

ナビゲーション
「設定」メニュー → システムの単位

▶ システムの単位	
質量流量単位	→ ⓘ 99
質量単位	→ ⓘ 99
体積流量単位	→ ⓘ 99

体積単位	→ 𐀀 99
基準体積流量単位	→ 𐀀 99
基準体積単位	→ 𐀀 99
密度単位	→ 𐀀 99
基準密度単位	→ 𐀀 100
密度 2 の単位	→ 𐀀 100
温度の単位	→ 𐀀 100
圧力単位	→ 𐀀 100

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
質量流量単位	質量流量の単位を選択。 影響 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kg/h ■ lb/min
質量単位	質量の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kg ■ lb
体積流量単位	体積流量の単位を選択。 影響 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ l/h ■ gal/min (us)
体積単位	体積の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ l (呼び口径 > 150A (6") : m ³ オプション) ■ gal (us)
基準体積流量単位	基準体積流量の単位を選択。 影響 選択した単位は以下に適用されます。 基準体積流量 パラメータ (→ 𐀀 160)	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ NI/h ■ Sft ³ /min
基準体積単位	基準体積の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ NI ■ Sft ³
密度単位	密度単位を選択。 影響 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 出力 ■ シミュレーションするプロセス変数 ■ 密度調整 (エキスパート メニュー)	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kg/l ■ lb/ft ³

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
基準密度単位	基準密度の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kg/Nl ■ lb/Sft³
密度 2 の単位	2 番目の密度の単位を選択します。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kg/l ■ lb/ft³
温度の単位	温度の単位を選択。 影響 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 電気部内温度 パラメータ (6053) ■ 最大値 パラメータ (6051) ■ 最小値 パラメータ (6052) ■ 外部温度 パラメータ (6080) ■ 最大値 パラメータ (6108) ■ 最小値 パラメータ (6109) ■ 保護容器の温度 パラメータ (6027) ■ 最大値 パラメータ (6029) ■ 最小値 パラメータ (6030) ■ 基準温度 パラメータ (1816) ■ 温度 パラメータ	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ °C ■ °F
圧力単位	プロセス圧力の単位を選択。 影響 単位は以下の設定が使用されます。 ■ 補正する圧力値 パラメータ (→ 104) ■ 外部圧力 パラメータ (→ 104) ■ 補正する圧力値	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ bar a ■ psi a

10.4.3 通信インターフェイスの設定

通信 サブメニュー を使用すると、通信インターフェイスの選択および設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション
「設定」 メニュー → 通信

▶ 通信

バスアドレス

→ 101

ボーレート

→ 101

データ転送モード

→ 101

パリティ

→ 101

バイトオーダー

→ 101

フェールセーフモード

→ 101

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力/選択	工場出荷時設定
バスアドレス	デバイスアドレスの入力。	1～247	247
ボーレート	データの転送速度を定義。	■ 1200 BAUD ■ 2400 BAUD ■ 4800 BAUD ■ 9600 BAUD ■ 19200 BAUD ■ 38400 BAUD ■ 57600 BAUD ■ 115200 BAUD ■ 230400 BAUD	19200 BAUD
データ転送モード	データ転送モードの選択。	■ ASCII ■ RTU	RTU
パリティ	パリティビットの選択。	候補リスト ASCII オプション： ■ 0 = 偶数 オプション ■ 1 = 奇数 オプション 候補リスト RTU オプション： ■ 0 = 偶数 オプション ■ 1 = 奇数 オプション ■ 2 = なし / 1 ストップビット オプション ■ 3 = なし / 2 ストップビット オプション	偶数
バイトオーダ	バイトの転送順を選択。	■ 0-1-2-3 ■ 3-2-1-0 ■ 1-0-3-2 ■ 2-3-0-1	1-0-3-2
フェールセーフモード	MODBUS 通信で診断メッセージが発生した時の測定値出力の動作を選択。 NaN ¹⁾	■ NaN の値 ■ 最後の有効値	NaN の値

1) 非数

10.4.4 測定物の選択および設定

測定物の選択 ウィザードサブメニューには、測定物の選択および設定のために必要なパラメータが含まれ、これを設定しなければなりません。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 流体の選択

▶ 流体の選択		
MFT (Multi-Frequency Technology)		
流体の種類を選択します	→	📖 103
気体の種類選択	→	📖 103
基準音速	→	📖 103
基準音速	→	📖 103
音速の温度係数	→	📖 103
音速の温度係数	→	📖 103
圧力補正	→	📖 103
補正する圧力値	→	📖 104
外部圧力	→	📖 104

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
流体の種類を選択します	–	この機能を使用して、測定物の種類（「気体」または「液体」）を選択します。例外的に、測定物の特性を手動で入力する場合は（例：硫酸などの圧縮性の高い液体の場合）、「その他」オプションを選択します。	- 液体 - 気体 - その他	液体
気体の種類選択	流体の選択 サブメニューで、 気体 オプションが選択されていること。	測定する気体の種類を選択。	- 空気 - アンモニア NH₃ - アルゴン Ar - 六フッ化硫黄 SF₆ - 酸素 O₂ - オゾン O₃ - 窒素酸化物 NO_x - 窒素 N₂ - 亜酸化窒素 N₂O - メタン CH₄ - メタン CH₄ + 水素 H₂ 10% - メタン CH₄ + 水素 H₂ 20% - メタン CH₄ + 水素 H₂ 30% - 水素 H₂ - ヘリウム He - 塩化水素 HCl - 硫化水素 H₂S - エチレン C₂H₄ - 二酸化炭素 CO₂ - 一酸化炭素 CO - 塩素 Cl₂ - ブタン C₄H₁₀ - プロパン C₃H₈ - プロピレン C₃H₆ - エタン C₂H₆ - その他	メタン CH ₄
基準音速	気体の種類選択 パラメータで、 その他 オプションが選択されていること。	0°C (32 °F) での気体の音速を入力します。	1~99 999.9999 m/s	415.0 m/s
基準音速	流体の種類を選択します パラメータで、 その他 オプションが選択されていること。	流体の 0°C (32°F) における音速を入力します。	符号付き浮動小数点数	1456 m/s
音速の温度係数	気体の種類選択 パラメータで、 その他 オプションが選択されていること。	気体の音速の温度係数を入力します。	正の浮動小数点数	0.87 (m/s)/K
音速の温度係数	流体の種類を選択します パラメータで、 その他 オプションが選択されていること。	流体の音速の温度係数を入力します。	符号付き浮動小数点数	1.3 (m/s)/K
圧力補正	–	圧力補正タイプを選択。	- オフ - 固定値 - 外部入力値 - 電流入力 1 * - 電流入力 2 * - 電流入力 3 *	オフ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
補正する圧力値	圧力補正 パラメータで、固定値 オプションが選択されていること。	圧力補正に使用するプロセス圧力を入力。	正の浮動小数点数	1.01325 bar
外部圧力	圧力補正 パラメータで、外部入力値 オプションまたは電流入力 1...n オプションが選択されていること。	外部入力のプロセス圧力値を示します。		-

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.5 I/O 設定の表示

I/O 設定 サブメニューを使用すると、I/O モジュールの設定が表示されるすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → I/O 設定

▶ I/O 設定	
I/O モジュール 1～n の端子番号	→ ⓘ 104
I/O モジュール 1～n の情報	→ ⓘ 104
I/O モジュール 1～n のタイプ	→ ⓘ 104
I/O の設定を適用	→ ⓘ 105
I/O の選択コード	→ ⓘ 105

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
I/O モジュール 1～n の端子番号	I/O モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 26-27 (I/O 1) ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	-
I/O モジュール 1～n の情報	接続された I/O モジュールの情報を表示。	■ 接続されていない ■ 無効 ■ 設定不可 ■ 設定可能 ■ MODBUS	-
I/O モジュール 1～n のタイプ	I/O モジュールのタイプを表示。	■ オフ ■ 電流出力 * ■ 電流入力 * ■ ステータス入力 * ■ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え * ■ ダブルパルス出力 * ■ リレー出力 *	オフ

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
I/O の設定を適用	自由に構成できる I/O モジュールの設定を適用する。	■ いいえ ■ はい	いいえ
I/O の選択コード	I/O 構成を変更するためにコードを入力。	正の整数	0

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.6 電流入力の設定

「電流入力」ウィザードを使用すると、電流入力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 電流入力

▶ 電流入力 1～n

端子番号	→ ⓘ 105
信号モード	→ ⓘ 105
0/4mA の値	→ ⓘ 105
20mA の値	→ ⓘ 105
電流スパン	→ ⓘ 106
フェールセーフモード	→ ⓘ 106
フェールセーフの値	→ ⓘ 106

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	–	電流入力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	本機器は保護タイプ Ex-i の危険場所での使用するための認定を取得していません。	電流入力の信号モードを選択。	■ パッシブ ■ アクティブ *	アクティブ
0/4mA の値	–	4 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	0
20mA の値	–	20 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
電流スパン	-	プロセス値出力の電流範囲とアラーム信号の上限/下限レベルを選択。	4...20 mA (4...20.5 mA) 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA)	国に応じて異なります： 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA)
フェールセーフモード	-	アラーム状態の時の入力値を定義します。	- アラーム - 最後の有効値 - 決めた値	アラーム
フェールセーフの値	フェールセーフモード パラメータで決めた値 オプションが選択されていること。	外部機器からの入力値がない場合に使用する値を入力してください。	符号付き浮動小数点数	0

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.7 ステータス入力の設定

ステータス入力 サブメニューを使用すると、ステータス入力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → ステータス入力 1～n

▶ ステータス入力 1～n	
ステータス入力の割り当て	→ 107
端子番号	→ 107
アクティブレベル	→ 107
端子番号	→ 107
ステータス入力の応答時間	→ 107
端子番号	→ 107

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
ステータス入力の割り当て	ステータス入力に割り当てる機能を選択してください。	■ オフ ■ 積算計 1 のリセット ■ 積算計 2 のリセット ■ 積算計 3 のリセット ■ すべての積算計をリセット ■ 流量の強制ゼロ出力 ■ ゼロ調整 ■ 加重平均のリセット* ■ 加重平均 + 積算計 3 のリセット*	オフ
端子番号	ステータス入力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4)*	–
アクティブレベル	指定した機能がトリガされる入力信号のレベルを定義してください。	■ ハイ ■ ロー	ハイ
ステータス入力の応答時間	選択した機能をトリガするまでに入力信号のレベルが維持されなければいけない時間を定義。	5～200 ms	50 ms

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.8 電流出力の設定

電流出力 ウィザードを使用すると、電流出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 電流出力

▶ 電流出力 1～n

端子番号

信号モード

プロセス変数 電流出力

電流のレンジ 出力

下限値出力

上限値出力

固定電流値

ダンピング 電流出力

→ ⓘ 108

→ ⓘ 108

→ ⓘ 109

→ ⓘ 110

→ ⓘ 110

→ ⓘ 110

→ ⓘ 110

→ ⓘ 110

電流出力 故障動作	→ ⓘ 110
故障時電流	→ ⓘ 110

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	-	電流出力モジュールが使用している端子番号の表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	-
信号モード	-	電流出力の信号モードを選択。	■ アクティブ* ■ パッシブ*	アクティブ

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェース / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数 電流出力	–	電流出力に割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ* ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 温度 ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ 基準密度代替* ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 濃度* ■ アプリケーション固有の出力 0* ■ アプリケーション固有の出力 1* ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標* ■ 質量流量生値 ■ コイル電流 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 振動ダンピングの変動 0* ■ 振動周波数 0 ■ 周波数変動 0* ■ 信号の非対称性 ■ ねじれの信号の非対称性* ■ 保護容器の温度* ■ 周波数変動 0* ■ 振動振幅 0* ■ 振動ダンピングの変動 0* ■ HBSI* ■ 圧力* ■ 電気部内温度 ■ センサーインデックスコイル非対称性 ■ テストポイント 0 ■ テストポイント 1	質量流量

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
電流のレンジ 出力	–	プロセス値出力の電流範囲とアラーム信号の上限/下限レベルを選択。	4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 4...20 mA (4...20.5 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA) - 固定値	国に応じて異なります。 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA)
下限値出力	電流スパン パラメータ (→ 110) で、以下のいずれかの選択項目が選択されていること。 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 4...20 mA (4...20.5 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA)	測定値のレンジに対する下側のレンジの値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 0 kg/h 0 lb/min
上限値出力	電流スパン パラメータ (→ 110) で、以下のいずれかの選択項目が選択されていること。 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 4...20 mA (4...20.5 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA)	測定値のレンジに対する上側のレンジの値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
固定電流値	電流スパン パラメータ (→ 110) で 固定電流値 オプションが選択されていること。	電流出力固定値の設定。	0~22.5 mA	22.5 mA
ダンピング 電流出力	電流出力の割り当て パラメータ (→ 109) でプロセス変数が選択されており、 電流スパン パラメータ (→ 110) で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 4...20 mA (4...20.5 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA)	出力ダンピングのための時定数 (PT1 要素) を入力します。ダンピングにより、出力信号に対する測定値変動の影響が低減されます。	0.0~999.9 秒	1.0 秒
電流出力 故障動作	電流出力の割り当て パラメータ (→ 109) でプロセス変数が選択されており、 電流スパン パラメータ (→ 110) で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 4...20 mA NE (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 4...20 mA (4...20.5 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA)	機器アラームが発生した場合の出力動作の選択。	- 最少 - 最大 - 最後の有効値 - 実際の値 - 固定値	最大
故障時電流	フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	アラーム状態の電流出力値を設定。	0~22.5 mA	22.5 mA

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.9 パルス/周波数/スイッチ出力の設定

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え ウィザード を使用すると、選択した出力タイプの設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1~n

動作モード

→ ⓘ 111

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
動作モード	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	パルス

パルス出力の設定

ナビゲーション

「設定」 メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1~n

動作モード

端子番号

信号モード

パルス出力 の割り当て

パルスの値

パルス幅

フェールセーフモード

出力信号の反転

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

→ ⓘ 112

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	–	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	パルス
端子番号	–	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ * ■ Passive NE	パッシブ
パルス出力の割り当て	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	パルス出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 * ■ 固形分質量流量 * ■ 搬送液質量流量 * ■ 固形分体積流量 * ■ 搬送液体積流量 * ■ 固形分基準体積流量 * ■ 搬送液基準体積流量 * ■ GSV 流量 * ■ GSV 流量代替 * ■ NSV 流量 * ■ NSV 流量代替 * ■ S&W 体積流量 * ■ オイルの質量流量 * ■ 水の質量流量 * ■ オイルの体積流量 * ■ 水の体積流量 * ■ オイルの基準体積流量 * ■ 水の基準体積流量 *	オフ
パルスの値	動作モード パラメータ (→ 111) で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 112) でプロセス変数が選択されていること。	パルスが出力される測定値の量を入力してください。	正の浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
パルス幅	動作モード パラメータ (→ 111) で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 112) でプロセス変数が選択されていること。	パルス出力のパルス幅を定義。	0.05～2 000 ms	100 ms
フェールセーフモード	動作モード パラメータ (→ 111) で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 112) でプロセス変数が選択されていること。	機器アラームが発生した場合の出力動作の選択。	■ 実際の値 ■ パルスなし	パルスなし
出力信号の反転	–	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	いいえ

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

周波数出力の設定

ナビゲーション

「設定」メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		
動作モード	→	📖 113
端子番号	→	📖 113
信号モード	→	📖 113
周波数出力割り当て	→	📖 114
周波数の最小値	→	📖 115
周波数の最大値	→	📖 115
最小周波数の時測定する値	→	📖 115
最大周波数の時の値	→	📖 115
フェールセーフモード	→	📖 115
フェール時の周波数	→	📖 115
出力信号の反転	→	📖 115

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	–	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スwitch出力	パルス
端子番号	–	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ * ■ Passive NE	パッシブ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
周波数出力割り当て	動作モード パラメータ (→ 111) で 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 周期信号(TPS)の周波数* ■ 温度 ■ 圧力 ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ 基準密度代替* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 濃度* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ アプリケーション固有の出力 0* ■ アプリケーション固有の出力 1* ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標* ■ HBSI* ■ 質量流量生値 ■ コイル電流 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 振動ダンピングの変動 0* ■ 振動周波数 0 ■ 周波数変動 0* ■ 振動振幅 0* ■ 信号の非対称性 ■ ねじれの信号の非対称性* ■ 保護容器の温度* ■ 電気部内温度 ■ センサーインデックスコイル非対称性 ■ テストポイント 0 ■ テストポイント 1	オフ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
周波数の最小値	動作モード パラメータ (→ 111)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 114)でプロセス変数が選択されていること。	最小周波数を入力。	0.0～10 000.0 Hz	0.0 Hz
周波数の最大値	動作モード パラメータ (→ 111)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 114)でプロセス変数が選択されていること。	最大周波数を入力。	0.0～10 000.0 Hz	10 000.0 Hz
最小周波数の時測定する値	動作モード パラメータ (→ 111)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 114)でプロセス変数が選択されていること。	最小周波数に対する測定値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
最大周波数の時の値	動作モード パラメータ (→ 111)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 114)でプロセス変数が選択されていること。	最大周波数に対する測定値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
フェールセーフモード	動作モード パラメータ (→ 111)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 114)でプロセス変数が選択されていること。	機器アラームが発生した場合の出力動作の選択。	■ 実際の値 ■ 決めた値 ■ 0 Hz	0 Hz
フェール時の周波数	動作モード パラメータ (→ 111)で 周波数 オプションが選択されていること、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 114)でプロセス変数が選択されていること、および フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	アラーム状態の時の周波数出力の値を入力。	0.0～12 500.0 Hz	0.0 Hz
出力信号の反転	–	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	いいえ

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

スイッチ出力の設定

ナビゲーション

「設定」メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		
動作モード		→ ⓘ 116
端子番号		→ ⓘ 116
信号モード		→ ⓘ 116
スイッチ出力機能		→ ⓘ 117
診断動作の割り当て		→ ⓘ 117
リミットの割り当て		→ ⓘ 117
流れ方向チェックの割り当て		→ ⓘ 117
ステータスの割り当て		→ ⓘ 118
スイッチオンの値		→ ⓘ 118
スイッチオフの値		→ ⓘ 118
スイッチオンの遅延		→ ⓘ 118
スイッチオフの遅延		→ ⓘ 118
フェールセーフモード		→ ⓘ 118
出力信号の反転		→ ⓘ 118

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	-	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スwitch出力	パルス
端子番号	-	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	-
信号モード	-	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ* ■ Passive NE	パッシブ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
スイッチ出力機能	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の機能を選択。	■ オフ ■ オン ■ 診断動作 ■ リミット ■ 流れ方向チェック ■ ステータス	オフ
診断動作の割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータで診断動作 オプションが選択されていること。	The output is switched on (closed, conductive), if there is a pending diagnostic event of the assigned behavioral category.	■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告	アラーム
リミットの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Select the variable to monitor in case the specified limit value is exceeded. If a limit value is exceeded, the output is switched on (conductive)..	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 基準密度代替* ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 濃度* ■ 温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 振動ダンピング ■ 圧力 ■ アプリケーション固有の出力 0* ■ アプリケーション固有の出力 1* ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標*	体積流量
流れ方向チェックの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータで流れ方向チェック オプションが選択されていること。	流れ方向の監視のためのプロセス変数を選択。		質量流量

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
ステータスの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでステータス オプションが選択されていること。	Select the device function for which to display the status. If the switch on point is reached, the output is switched on (closed, conductive)..	■ 非満管の検出 ■ ローフローカット オフ	非満管の検出
スイッチオンの値	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter limit value for switch-on point (process variable > switch-on value = closed, conductive)。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
スイッチオフの値	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter limit value for switch-off point (process variable < switch-off value = open, nonconductive)。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
スイッチオンの遅延	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter a delay before the output is switched on.	0.0～100.0 秒	0.0 秒
スイッチオフの遅延	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter a delay before the output is switched off.	0.0～100.0 秒	0.0 秒
フェールセーフモード	-	機器アラームが発生した場合の出力動作の選択。	■ 実際のステータス ■ オープン ■ クローズ	オープン
出力信号の反転	-	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	いいえ

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.10 リレー出力の設定

リレー出力 ウィザードを使用すると、リレー出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → リレー出力 1～n

▶ リレー出力 1～n

端子番号

→ 119

リレーの機能

→ 119

流れ方向チェックの割り当て

→ 119

リミットの割り当て	→ 120
診断動作の割り当て	→ 120
ステータスの割り当て	→ 120
スイッチオフの値	→ 120
スイッチオフの遅延	→ 120
スイッチオンの値	→ 121
スイッチオンの遅延	→ 121
フェールセーフモード	→ 121
スイッチの状態	→ 121
電源オフの時のリレーの状態	→ 121

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス/選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	–	リレー出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4)	–
リレーの機能	–	リレー出力の機能を選択。	■ クローズ ■ オープン ■ 診断動作 ■ リミット ■ 流れ方向チェック ■ ステータス	クローズ
流れ方向チェックの割り当て	リレーの機能 パラメータで 流れ方向チェック オプションが選択されていること。	流れ方向の監視のためのプロセス変数を選択。		質量流量

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
リミットの割り当て	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Select the variable to monitor in case the specified limit value is exceeded. If a limit value is exceeded, the output is switched on (conductive)。	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 * ■ 固形分質量流量 * ■ 搬送液質量流量 * ■ 固形分体積流量 * ■ 搬送液体積流量 * ■ 固形分基準体積流量 * ■ 搬送液基準体積流量 * ■ 密度 ■ 基準密度 * ■ 基準密度代替 * ■ GSV 流量 * ■ GSV 流量代替 * ■ NSV 流量 * ■ NSV 流量代替 * ■ S&W 体積流量 * ■ Water cut * ■ オイル密度 * ■ 水密度 * ■ オイルの質量流量 * ■ 水の質量流量 * ■ オイルの体積流量 * ■ 水の体積流量 * ■ オイルの基準体積流量 * ■ 水の基準体積流量 * ■ 濃度 * ■ 温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 振動ダンピング ■ 圧力 ■ アプリケーション固有の出力 0 * ■ アプリケーション固有の出力 1 * ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標 *	質量流量
診断動作の割り当て	リレーの機能 パラメータで診断動作 オプションが選択されていること。	The output is switched on (closed, conductive), if there is a pending diagnostic event of the assigned behavioral category。	■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告	アラーム
ステータスの割り当て	リレーの機能 パラメータでデジタル出力 オプションが選択されていること。	Select the device function for which to display the status. If the switch on point is reached, the output is switched on (closed, conductive)。	■ 非満管の検出 ■ ローフローカット オフ	非満管の検出
スイッチオフの値	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter limit value for switch-off point (process variable < switch-off value = open, nonconductive)。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
スイッチオフの遅延	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter a delay before the output is switched off。	0.0～100.0 秒	0.0 秒

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス/選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
スイッチオンの値	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオンポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
スイッチオンの遅延	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	Enter a delay before the output is switched on.	0.0～100.0 秒	0.0 秒
フェールセーフモード	–	機器アラームが発生した場合の出力動作の選択。	■ 実際のステータス ■ オープン ■ クローズ	オープン
スイッチの状態	–	出力の現在のスイッチ状態を示します。	■ オープン ■ クローズ	–
電源オフの時のリレーの状態	–	電源オフ時のリレーの状態を選択します。	■ オープン ■ クローズ	オープン

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.11 ダブルパルス出力の設定

ダブルパルス出力 サブメニューを使用すると、ダブルパルス出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → ダブルパルス出力

▶ ダブルパルス出力	
信号モード	→ 122
マスタの端子番号	→ 122
パルス出力 の割り当て	→ 122
測定モード	→ 122
パルスの値	→ 122
パルス幅	→ 122
フェールセーフモード	→ 122
出力信号の反転	→ 122

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
信号モード	ダブルパルス出力の信号モードを選択。	■ パッシブ ■ アクティブ* ■ Passive NE	パッシブ
マスタの端子番号	ダブルパルス出力モジュールのマスタが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3)	–
パルス出力の割り当て	パルス出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量*	オフ
測定モード	パルス出力の測定モードを選択。	■ 正方向流量 ■ 正方向/逆方向の流量 ■ 逆方向の流量 ■ 逆方向流量の補正	正方向流量
パルスの値	パルス出力する測定値の入力（パルス値）。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
パルス幅	パルス出力のパルス幅を定義。	0.5～2000 ms	0.5 ms
フェールセーフモード	機器アラームが発生した場合の出力動作の選択。	■ 実際の値 ■ パルスなし	パルスなし
出力信号の反転	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	いいえ

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.12 現場表示器の設定

表示 ウィザードを使用すると、現場表示器の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 表示

▶ 表示

表示形式

→ ⓘ 124

1 の値表示

→ ⓘ 125

バーグラフ 0%の値 1	→ 126
バーグラフ 100%の値 1	→ 126
2 の値表示	→ 126
3 の値表示	→ 126
バーグラフ 0%の値 3	→ 126
バーグラフ 100%の値 3	→ 126
4 の値表示	→ 126
5 の値表示	→ 126
6 の値表示	→ 126
7 の値表示	→ 126
8 の値表示	→ 126

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	現場表示器があること。	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値 + バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大 + 2つの値 ■ 4つの値	1つの値、最大サイズ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
1 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 温度 ■ 圧力 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ 基準密度代替* ■ 加重密度平均* ■ 加重温度平均* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 濃度* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ アプリケーション固有の出力 0* ■ アプリケーション固有の出力 1* ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標* ■ HBSI* ■ 質量流量生値 ■ コイル電流 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 振動ダンピングの変動 0* ■ 振動周波数 0 ■ 周波数変動 0* ■ 振動振幅 0* ■ 信号の非対称性 ■ ねじれの信号の非対称性* ■ 保護容器の温度* ■ 電気部内温度 ■ センサーインデックスコイル非対称性 ■ テストポイント 0 ■ テストポイント 1 ■ 電流出力 1 ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4*	質量流量

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
バーグラフ 0%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
バーグラフ 100%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
2 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
3 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
バーグラフ 0%の値 3	3 の値表示 パラメータで測定値が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
バーグラフ 100%の値 3	3 の値表示 パラメータで選択していること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	0
4 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
5 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
6 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
7 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
8 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.13 ローフローカットオフの設定

ローフローカットオフ ウィザードを使用すると、ローフローカットオフの設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → ローフローカットオフ

▶ ローフローカットオフ	
プロセス変数の割り当て	→ 127
ローフローカットオフ オンの値	→ 127
ローフローカットオフ オフの値	→ 127
プレッシャショックの排除	→ 127

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	–	ロー フロー カット オフに割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量*	質量流量
ローフローカットオフ オンの値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 127) でプロセス変数が選択されていること。	ロー フロー カット オフがオンになる値を入力。	正の浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
ローフローカットオフ オフの値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 127) で、プロセス変数が選択されていること。	ロー フロー カット オフをオフにする値を入力。	0～100.0 %	50 %
プレッシャショックの排除	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 127) で、プロセス変数が選択されていること。	大きな圧力変動時の信号抑制 (= プレッシャショックさプレス) の期間を入力。	0～100 秒	0 秒

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.4.14 非満管検出の設定

非満管検出ウィザードを使用すると、パイプの空検知の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 非満管の検出

▶ 非満管の検出

プロセス変数の割り当て

→ ⓘ 128

非満管検出の下側の閾値

→ ⓘ 128

非満管検出の上側の閾値

→ ⓘ 128

非満管検出までの応答時間

→ ⓘ 128

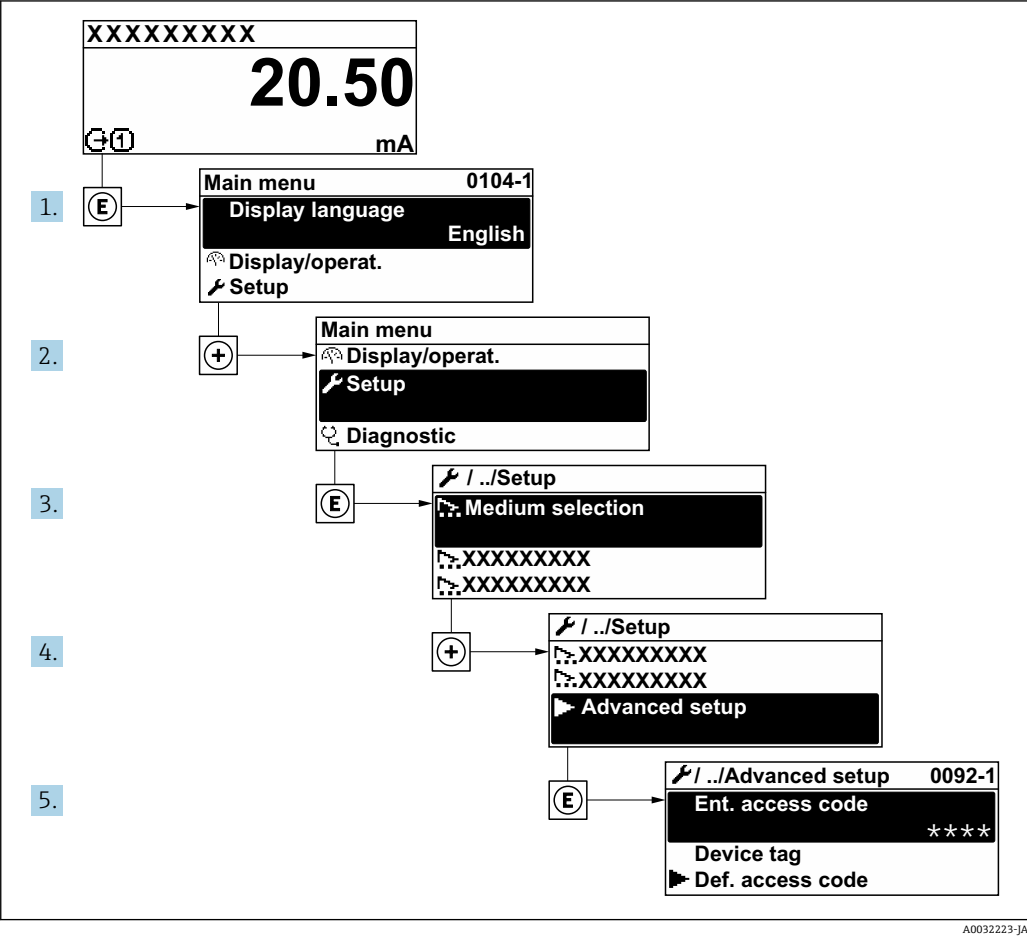
パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	-	部分的に充填されたパイプの検出に割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 密度 ■ 算出基準密度	密度
非満管検出の下側の閾値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ ⓘ 128)でプロセス変数が選択されていること。	部分的に充填されたパイプの検出を無効にする下限値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 200 kg/m³ ■ 12.5 lb/ft³
非満管検出の上側の閾値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ ⓘ 128)でプロセス変数が選択されていること。	部分的に充填されたパイプの検出を無効にする上限値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 6 000 kg/m³ ■ 374.6 lb/ft³
非満管検出までの応答時間	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ ⓘ 128)で、プロセス変数が選択されていること。	この機能を使用して、測定管が非満管または空の場合に診断メッセージ S962 「非満管」を出力するまでの信号の最小継続時間（待機時間）を入力します。	0~100 秒	1 秒

10.5 高度な設定

高度な設定 サブメニューとそのサブメニューには、特定の設定に必要なパラメータが含まれています。

「高度な設定」 サブメニューへのナビゲーション



i サブメニューおよびパラメータの数は、機器バージョンおよび使用可能なアプリケーションパッケージに応じて異なります。これらのサブメニューおよびそのパラメータについては、取扱説明書ではなく機器の個別説明書を参照してください。

アプリケーションパッケージまたはカスタディトランスファーモードにおける操作に関するパラメータの詳細な説明については、機器の個別説明書を参照してください。→ 246

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定

▶ 高度な設定		
アクセスコード入力		→ 130
▶ 計算値		→ 130
▶ センサの調整		→ 131

▶ 積算計 1～n	→ ⓘ 137
▶ 表示	→ ⓘ 139
▶ WLAN 設定	→ ⓘ 145
▶ 設定のバックアップ	→ ⓘ 146
▶ 管理	→ ⓘ 148

10.5.1 アクセスコードの入力のためのパラメータを使用

ナビゲーション
「設定」メニュー → 高度な設定

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
アクセスコード入力	書き込み禁止を解除するためにアクセスコードを入力。	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列

10.5.2 計算されたプロセス変数

計算値サブメニューには、基準体積流量の計算に必要なパラメータがすべて含まれています。

i 「アプリケーションパッケージ」、オプション **EJ** 「石油」の **石油モード** パラメータで、**API 基準補正** オプション、**Net oil & water cut** オプション または **ASTM D4311** オプション オプションのいずれかが選択されている場合、**計算値** サブメニューは使用できません。

ナビゲーション
「設定」メニュー → 高度な設定 → 計算値

▶ 計算値	
▶ 基準体積流量の計算	→ ⓘ 130

「基準体積流量の計算」サブメニュー

ナビゲーション
「設定」メニュー → 高度な設定 → 計算値 → 基準体積流量の計算

▶ 基準体積流量の計算	
基準密度の選択 (1812)	→ ⓘ 131
外部入力の基準密度 (6198)	→ ⓘ 131

固定基準密度 (1814)	→ 131
基準温度 (1816)	→ 131
1 次熱膨張係数 (1817)	→ 131
2 次熱膨張係数 (1818)	→ 131

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
基準密度の選択	–	基準体積流量計算のための基準密度を選択。	■ 固定基準密度 ■ 算出基準密度 ■ 電流入力 1 * ■ 電流入力 2 * ■ 電流入力 3 *	算出基準密度
外部入力の基準密度	基準体積流量の計算 パラメータで 外部入力の基準密度 オプションが選択されていること。	外部入力の基準密度を表示。	符号を含む浮動小数点数	–
固定基準密度	基準体積流量の計算 パラメータで 固定基準密度 オプションが選択されていること。	基準密度の固定値を入力。	正の浮動小数点数	1 kg/Nl
基準温度	基準体積流量の計算 パラメータで 算出基準密度 オプションが選択されていること。	基準密度計算のための基準温度を入力。	–273.15～99 999 °C	国に応じて異なります： ■ +20 °C ■ +68 °F
1 次熱膨張係数	基準体積流量の計算 パラメータで 算出基準密度 オプションが選択されていること。	基準密度計算のための被測定物固有の線膨張係数を入力。	符号付き浮動小数点数	0.0 1/K
2 次熱膨張係数	基準体積流量の計算 パラメータで 算出基準密度 オプションが選択されていること。	非線形膨張の場合: 基準密度計算のための被測定物固有の 2 次膨張係数を入力。	符号付き浮動小数点数	0.0 1/K ²

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.5.3 センサの調整の実施

センサの調整サブメニューには、センサの機能に関するパラメータが含まれます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → センサの調整

▶ センサの調整 設置方向 ▶ 密度調整	→ 132
---	-------

▶ ゼロの検証	→ ⓘ 135
▶ ゼロ調整	→ ⓘ 136

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
設置方向	流れ方向の符号を選びます。	■ 正方向流量 ■ 逆方向の流量	正方向流量

密度調整

i 密度調整の場合、高いレベルの精度を達成できるのは、調整ポイントにおいて、密度と温度が対応する場合に限られます。しかし、密度調整の精度はそもそも、提供される基準測定データの品質と同程度にしかありません。そのため、これは高精度密度校正の代わりにはなりません。

密度調整の実行

- i** 調整を行う前に以下の点に注意してください。
- 動作条件の変動が小さく、密度調整を動作条件下で実施した場合にのみ、密度調整は有効です。
 - 密度調整はユーザー固有のスロープおよびオフセットを使用して内部で計算した密度値をスケーリングします。
 - 1点または2点密度調整を実行することが可能です。
 - 2点密度調整の場合は、2つのターゲット密度値の間に 0.2 kg/l 以上の差が必要です。
 - 基準測定物には気体が含まれないか、または、含まれる気体が圧縮されるように加圧しなければなりません。
 - 基準密度測定は、プロセス内の流体温度と同じ温度で実施しなければなりません。そうでない場合は、正確な密度調整になりません。
 - 密度調整に起因する補正は、**元に戻す** オプションで削除できます。

「1点調整」オプション

1. **密度調整モード** パラメータで **1点調整** オプションを選択し、確定します。
2. **密度調整 1 の値** パラメータで密度値を入力し、確定します。
 - ↳ **密度調整の実行** パラメータ で以下のオプションが使用できるようになります。
Ok
密度 1 の測定中 オプション
元に戻す
3. **密度 1 の測定中** オプションを選択し、確定します。
4. ディスプレイの **進行中** パラメータ で 100% に達し、**密度調整の実行** パラメータ に **Ok** オプション が表示されたら、確定します。
 - ↳ **密度調整の実行** パラメータ で以下のオプションが使用できるようになります。
Ok
計算
キャンセル
5. **計算** オプションを選択し、確定します。

調整が正常に完了すると、**密度調整係数** パラメータ、**密度調整のオフセット** パラメータ、および、これらから計算された値がディスプレイに表示されます。

「2 点調整」 オプション

1. **密度調整モード** パラメータで **2 点調整** オプションを選択し、確定します。
2. **密度調整 1 の値** パラメータで密度値を入力し、確定します。
3. **密度調整 2 の値** パラメータで密度値を入力し、確定します。
 - ↳ **密度調整の実行** パラメータ で以下のオプションが使用できるようになります。
Ok
密度 1 の測定中
元に戻る
4. **密度 1 の測定中** オプションを選択し、確定します。
 - ↳ **密度調整の実行** パラメータ で以下のオプションが使用できるようになります。
Ok
密度 2 の測定中
元に戻る
5. **密度 2 の測定中** オプションを選択し、確定します。
 - ↳ **密度調整の実行** パラメータ で以下のオプションが使用できるようになります。
Ok
計算
キャンセル
6. **計算** オプションを選択し、確定します。

密度調整エラー オプションが**密度調整の実行** パラメータに表示された場合、このオプションを呼び出して**キャンセル** オプションを選択します。密度調整がキャンセルされ、繰り返すことが可能です。

調整が正常に完了すると、**密度調整係数** パラメータ、**密度調整のオフセット** パラメータ、および、これらから計算された値がディスプレイに表示されます。

ナビゲーション

「エキスパート」 メニュー → センサ → センサの調整 → 密度調整

▶ 密度調整		
密度調整モード		→ 134
密度調整 1 の値		→ 134
密度調整 2 の値		→ 134
密度調整の実行		→ 134
進行中		→ 134
密度調整係数		→ 134
密度調整のオフセット		→ 134

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
密度調整モード	-	工場設定を補正するためのフィールド密度調整の手法を選択します。	1 点調整 2 点調整	1 点調整
密度調整 1 の値	-	最初の基準流体の密度を入力します。	入力は、 密度単位 パラメータ (0555) で選択した単位に応じて異なります。	1000 kg/m ³
密度調整 2 の値	密度調整モード パラメータで、 2 点調整 オプションが選択されていること。	2 つ目の基準流体の密度を入力します。	入力は、 密度単位 パラメータ (0555) で選択した単位に応じて異なります。	1000 kg/m ³
密度調整の実行	-	密度調整で実施する次のステップを選択します。	- キャンセル* - 進行中* - Ok* - 密度調整エラー* - 密度 1 の測定中* - 密度 2 の測定中* - 計算* - 元に戻す*	Ok
進行中	-	プロセスの進行状態を見る。	0~100 %	-
密度調整係数	-	計算された密度の補正係数を示します。	符号付き浮動小数点数	1
密度調整のオフセット	-	計算された密度の補正オフセットを示します。	符号付き浮動小数点数	0

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

ゼロ検証およびゼロ調整

すべての計測機器は、最新技術に従って校正が実施されています。校正は、基準条件下で行われています→ 220。そのため、現場でのゼロ調整は、通常は必要ありません。

ゼロ調整が推奨されるのは、次のような特別な場合のみです。

- 低流量でも最高の測定精度が要求される場合
- 過酷なプロセス条件または動作条件の場合（例：非常に高いプロセス温度、非常に高粘度の流体）
- 低圧のガスアプリケーションの場合

 低流量時に最高レベルの測定精度を得るには、運転中の機械的応力からセンサが保護されるように設置する必要があります。

代表的なゼロ点を取得するには、次の点を確認してください。

- 調整中に機器内に流れが生じないこと
- プロセス条件（例：圧力、温度）が代表的なものであり、安定していること

以下のプロセス条件下では、ゼロ検証およびゼロ調整を実行できません。

- 気泡
システムが媒体で十分に洗い流されていることを確認してください。繰り返し洗い流すと、気泡を取り除くことができます。
- 熱循環
温度差がある場合（例：計測チューブ入口と出口部分の間）、機器内の熱循環によりバルブが閉じていても誘起流が発生する可能性があります。
- バルブの漏れ
バルブに気密性がないと、ゼロ点を決定するときに流れを十分に防ぐことができません。

これらの条件が避けられない場合は、工場出荷時のゼロ点設定のままにしておくことを推奨します。

ゼロ点検証

ゼロ点は、**ゼロの検証** ウィザードで確認できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → センサの調整 → ゼロの検証

▶ ゼロの検証		
プロセスの状態		→ 135
進行中		→ 135
ステータス		→ 135
追加情報		→ 135
推奨:		→ 135
根本原因		→ 136
中止の原因		→ 135
測定したゼロ点		→ 136
ゼロ点の標準偏差		→ 136

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
プロセスの状態	次のようなプロセス条件を確保します。	- 計測チューブは満管 - プロセス圧力がかかっている - 流れがない状態(バルブ全閉) - プロセスと周囲温度が安定している	-
進行中	プロセスの進行状態を見る。	0～100 %	-
ステータス	プロセスの状態を表示します。	- 進行中 - エラー - 完了	-
追加情報	追加情報を表示するかどうかを示します。	- 非表示 - 表示	非表示
推奨:	調整が推奨されるかを示します。測定したゼロ点が現在のゼロ点から大きく離れている場合のみ推奨します。	- ゼロ点調整を行わない - ゼロ点を調整する	-
中止の原因	ウィザードが中止された理由を示します。	- プロセス状態を確認! - 技術的な問題が発生	-

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
根本原因	診断と対処を表示します。	■ ゼロ点が大きすぎる。流れが無いこと。 ■ ゼロ点が不安定。流れがないこと。 ■ 変動が大きい。2 相流体を避ける。	-
測定したゼロ点	調整のために測定したゼロ点を表示します。	符号付き浮動小数点数	-
ゼロ点の標準偏差	測定したゼロ点の標準偏差を表示します。	正の浮動小数点数	-

ゼロ調整

ゼロ点は、**ゼロ調整** ウィザードで調整できます。

- 
- ゼロ調整の前にゼロ点検証を実行する必要があります。
 - ゼロ点は手動で調整することも可能です。エキスパート → センサ → 校正

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → センサの調整 → ゼロ調整

▶ ゼロ調整

プロセスの状態

→ ⓘ 137

進行中

→ ⓘ 137

ステータス

→ ⓘ 137

根本原因

→ ⓘ 137

中止の原因

→ ⓘ 137

根本原因

→ ⓘ 137

測定したゼロ点の信頼度

→ ⓘ 137

追加情報

→ ⓘ 137

測定したゼロ点の信頼度

→ ⓘ 137

測定したゼロ点

→ ⓘ 137

ゼロ点の標準偏差

→ ⓘ 137

動作を選択

→ ⓘ 137

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
プロセスの状態	次のようなプロセス条件を確保します。	- 計測チューブは満管 - プロセス圧力がかかっている - 流れがない状態(バルブ全閉) - プロセスと周囲温度が安定している	–
進行中	プロセスの進行状態を見る。	0～100 %	–
ステータス	プロセスの状態を表示します。	- 進行中 - エラー - 完了	–
中止の原因	ウィザードが中止された理由を示します。	- プロセス状態を確認！ - 技術的な問題が発生	–
根本原因	診断と対処を表示します。	- ゼロ点が大きすぎる。流れが無いこと。 - ゼロ点が不安定。流れがないこと。 - 変動が大きい。2 相流体を避ける。	–
測定したゼロ点の信頼度	測定したゼロ点の信頼度を示します。	- 未完了 - 良好 - 不確か	–
追加情報	追加情報を表示するかどうかを示します。	- 非表示 - 表示	非表示
測定したゼロ点	調整のために測定したゼロ点を表示します。	符号付き浮動小数点数	–
ゼロ点の標準偏差	測定したゼロ点の標準偏差を表示します。	正の浮動小数点数	–
動作を選択	適用するゼロ点の値を選択します。	- 現在のゼロ点を維持 - 測定したゼロ点を適用 - 工場のゼロ点を適用*	現在のゼロ点を維持

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.5.4 積算計の設定

「積算計 1～n」サブメニューで、特定の積算計を設定することができます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 積算計 1～n

▶ 積算計 1～n	
プロセス変数の割り当て 1～n	→ 138
プロセス変数の単位 1～n	→ 138
積算計 1～n の動作モード	→ 138
積算計 1～n アラーム時動作	→ 138

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て 1～n	-	積算計に割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 質量流量生値	質量流量
プロセス変数の単位 1～n	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138)でプロセス変数が選択されていること。	積算計のプロセス変数の単位を選択します。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ kg ■ lb
積算計 1～n の動作モード	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138)でプロセス変数が選択されていること。	積算計の動作モードを選択します。例、正方向のみ積算または逆方向のみ積算。	■ 正味 ■ 正方向 ■ 逆方向	正味
積算計 1～n アラーム時動作	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138)でプロセス変数が選択されていること。	機器アラーム時の積算計の動作を選択します。	■ ホールド ■ 継続 ■ 最後の有効な値 + 継続	ホールド

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.5.5 表示の追加設定

表示 サブメニューを使用して、現場表示器の設定に関するすべてのパラメータを設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 表示

▶ 表示		
表示形式	→	📖 141
1 の値表示	→	📖 142
バーグラフ 0%の値 1	→	📖 143
バーグラフ 100%の値 1	→	📖 143
小数点桁数 1	→	📖 143
2 の値表示	→	📖 143
小数点桁数 2	→	📖 143
3 の値表示	→	📖 143
バーグラフ 0%の値 3	→	📖 143
バーグラフ 100%の値 3	→	📖 143
小数点桁数 3	→	📖 143
4 の値表示	→	📖 143
小数点桁数 4	→	📖 143
5 の値表示	→	📖 143
バーグラフ 0%の値 5	→	📖 143
バーグラフ 100%の値 5	→	📖 144
小数点桁数 5	→	📖 144
6 の値表示	→	📖 144
小数点桁数 6	→	📖 144
7 の値表示	→	📖 144

バーグラフ 0%の値 7	→ 144
バーグラフ 100%の値 7	→ 144
小数点桁数 7	→ 144
8 の値表示	→ 144
小数点桁数 8	→ 144
Display language	→ 145
表示間隔	→ 145
表示のダンピング	→ 145
ヘッダー	→ 145
ヘッダーテキスト	→ 145
区切り記号	→ 145
バックライト	→ 145

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	現場表示器があること。	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値 + バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大 + 2つの値 ■ 4つの値	1つの値、最大サイズ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
1 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 温度 ■ 圧力 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ 基準密度代替* ■ 加重密度平均* ■ 加重温度平均* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 濃度* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ アプリケーション固有の出力 0* ■ アプリケーション固有の出力 1* ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標* ■ HBSI* ■ 質量流量生値 ■ コイル電流 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 振動ダンピングの変動 0* ■ 振動周波数 0 ■ 周波数変動 0* ■ 振動振幅 0* ■ 信号の非対称性 ■ ねじれの信号の非対称性* ■ 保護容器の温度* ■ 電気部内温度 ■ センサーインデックスコイル非対称性 ■ テストポイント 0 ■ テストポイント 1 ■ 電流出力 1 ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4*	質量流量

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
バーグラフ 0%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
バーグラフ 100%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
小数点桁数 1	1 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
2 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
小数点桁数 2	2 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
3 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
バーグラフ 0%の値 3	3 の値表示 パラメータで測定値が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
バーグラフ 100%の値 3	3 の値表示 パラメータで選択していること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	0
小数点桁数 3	3 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
4 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
小数点桁数 4	4 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
5 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
バーグラフ 0%の値 5	5 の値表示 パラメータで選択項目が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min

パラメータ	必須条件	説明	選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
バーグラフ 100%の値 5	5 の値表示 パラメータで選択項目が選択されていること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	0
小数点桁数 5	5 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
6 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
小数点桁数 6	6 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
7 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
バーグラフ 0%の値 7	7 の値表示 パラメータで選択項目が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg/h ■ 0 lb/min
バーグラフ 100%の値 7	7 の値表示 パラメータで選択項目が選択されていること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	0
小数点桁数 7	7 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX
8 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 125) を参照してください。	なし
小数点桁数 8	8 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX ■ X.XXXXX ■ X.XXXXXX	X.XX

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
Display language	現場表示器があること。	表示言語を設定。	- English - Deutsch - Français - Español - Italiano - Nederlands - Portuguesa - Polski - русский язык (Russian) - Svenska - Türkçe - 中文 (Chinese) - 日本語 (Japanese) - 한국어 (Korean) - tiếng Việt (Vietnamese) - čeština (Czech)	English (または、ご注文の言語を機器にプリセット)
表示間隔	現場表示器があること。	測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。	1～10 秒	5 秒
表示のダンピング	現場表示器があること。	測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。	0.0～999.9 秒	0.0 秒
ヘッダー	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイのヘッダーの内容を選択。	- デバイスのタグ - フリーテキスト	デバイスのタグ
ヘッダーテキスト	ヘッダー パラメータでフリーテキスト オプションが選択されていること。	ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。	最大 12 文字 (英字、数字、または特殊文字 (例: @, %, /) など)	-----
区切り記号	現場表示器があること。	数値表示の桁区切り記号を選択。	. (点) , (コンマ)	. (点)
バックライト	以下の条件の 1 つを満たしていること: 「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション F 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール」 「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション G 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール + WLAN」	ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。	- 無効 - 有効	有効

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.5.6 WLAN 設定

WLAN Settings サブメニューを使用すると、WLAN の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → WLAN 設定

▶ WLAN 設定	
WLAN IP アドレス	→ 146
セキュリティタイプ	→ 146

WLAN のパスワード	→ ⓘ 146
SSID の設定	→ ⓘ 146
SSID 名	→ ⓘ 146
変更を適用する	→ ⓘ 146

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザー入力 / 選択	工場出荷時設定
WLAN IP アドレス	-	機器の WLAN インタフェースの IP アドレスを入力。	4 オクテット：0 ～ 255 (特定のオクテットにおいて)	192.168.1.212
ネットワークセキュリティ	-	WLAN ネットワークのセキュリティタイプを選択。	■ 保護されない ■ WPA2-PSK ■ EAP-PEAP with MSCHAPv2 * ■ EAP-PEAP MSCHAPv2 no server authentic. * ■ EAP-TLS *	WPA2-PSK
WLAN のパスワード	Security type パラメータで WPA2-PSK オプションが選択されていること。	ネットワークキー (8 から 32 文字)を入力。  機器とともに支給されたネットワークキーは、安全上の理由から設定中に変更する必要があります。	数字、英字、特殊文字からなる 8～32 桁の文字列（スペースなし）	機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
SSID の設定	-	どの SSID 名を使用するか選択：デバイスタグまたはユーザー定義名。	■ デバイスのタグ ■ ユーザ定義	ユーザ定義
SSID 名	■ SSID の設定 パラメータで ユーザ定義 オプションが選択されていること。 ■ WLAN モード パラメータで WLAN アクセスポイント オプションが選択されていること。	ユーザ定義の SSID 名 (最大 32 文字)を入力。  ユーザー設定された SSID 名称は 1 回しか割り当てることができません。SSID 名称を 1 回以上割り当てた場合、機器は相互に干渉する可能性があります。	数字、英字、特殊文字から成る最大 32 桁の文字列	EH_機器名称_シリアル番号の最後の 7 桁 (例：EH_Promass_500_A802000)
変更を適用する	-	変更した WLAN の設定を使用する。	■ キャンセル ■ Ok	キャンセル

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.5.7 設定管理

設定後、現在の機器設定の保存、または前の機器設定の復元を行うことが可能です。機器設定は、**設定管理** パラメータ で管理されます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 設定のバックアップ

▶ 設定のバックアップ	
稼働時間	→ 147
最後のバックアップ	→ 147
設定管理	→ 147
バックアップのステータス	→ 147
比較の結果	→ 147

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択	工場出荷時設定
稼働時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)	–
最後のバックアップ	最後のデータバックアップが組み込み HistoROM に保存された時を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)	–
設定管理	組み込み HistoROM の機器データの管理の動作を選択。	■ キャンセル ■ バックアップの実行 ■ 復元* ■ 比較* ■ バックアップデータの削除	キャンセル
バックアップのステータス	現在のデータセーブ、リストアの状態を示す。	■ なし ■ バックアップ中 ■ リストア中 ■ 削除処理進行中 ■ 比較進行中 ■ リストアの失敗 ■ バックアップの失敗	なし
比較の結果	現在の機器データと組み込み HistoROM のバックアップとの比較。	■ 設定データは一致する ■ 設定データは一致しない ■ バックアップデータはありません ■ 保存データの破損 ■ チェック未完了 ■ データセット非互換	チェック未完了

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

「設定管理」パラメータの機能範囲

オプション	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
バックアップの実行	現在の機器設定のバックアップコピーを、HistoROM バックアップから機器のメモリに保存します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。
復元	機器設定の最後のバックアップコピーを、機器メモリから機器の HistoROM バックアップに復元します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。

オプション	説明
比較	機器メモリに保存された機器設定と HistoROM バックアップの現在の機器設定とを比較します。
バックアップデータの削除	機器設定のバックアップコピーを、機器のメモリから削除します。

-  **HistoROM バックアップ**
HistoROM は、EEPROM タイプの不揮発性メモリです。
-  この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。

10.5.8 機器管理のためのパラメータを使用

管理 サブメニューを使用すると、機器の管理のために必要なすべてのパラメータを体系的に使用できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 管理

▶ 管理	
▶ アクセスコード設定	→ 148
▶ アクセスコードのリセット	→ 149
機器リセット	→ 149

アクセスコードの設定のためのパラメータを使用

メンテナンスの役割用のアクセスコードを入力してこのウィザードを完了します。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

▶ アクセスコード設定	
アクセスコード設定	→ 148
アクセスコードの確認	→ 148

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
アクセスコード設定	Specify an access code that is required to obtain the access rights for the Maintenance role.	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列
アクセスコードの確認	Confirm the access code entered for the Maintenance role.	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列

アクセスコードのリセットのためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコードのリセット

▶ アクセスコードのリセット	
稼働時間	→ ⓘ 149
アクセスコードのリセット	→ ⓘ 149

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / ユーザー入力	工場出荷時設定
稼働時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)	–
アクセスコードのリセット	Enter the code provided by Endress+Hauser Technical Support to reset the Maintenance code.  リセットコードについては、弊社サービスにお問い合わせください。 リセットコードは、以下を介してのみ入力できます。 ■ ウェブブラウザ ■ DeviceCare、FieldCare (CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由) ■ フィールドバス	数字、英字、特殊文字から成る文字列	0x00

機器のリセットのためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
機器リセット	機器の設定をリセットします-全部または一部を-決められた状態に。	■ キャンセル ■ 納入時の状態に ■ 機器の再起動 ■ S-DAT のバックアップをリストア*	キャンセル

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6 シミュレーション

シミュレーション サブメニューにより、プロセスおよび機器アラームモードにおける各種プロセス変数をシミュレーションして、下流側の信号接続 (バルブの切り替えまたは閉制御ループ) を確認することが可能です。シミュレーションは、実際の測定を行わずに実行できます (機器内を流れる測定物なし)。

ナビゲーション
「診断」メニュー→シミュレーション

▶ シミュレーション		
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	→	🔖 151
測定値	→	🔖 151
電流入力 1～n のシミュレーション	→	🔖 152
電流入力 1～n の値	→	🔖 152
ステータス入力 1～n のシミュレーション	→	🔖 152
入力信号レベル 1～n	→	🔖 152
電流出力 1～n のシミュレーション	→	🔖 151
電流出力の値	→	🔖 151
周波数出力 1～n のシミュレーション	→	🔖 151
周波数出力 1～n の値	→	🔖 151
パルス出力シミュレーション 1～n	→	🔖 151
パルスの値 1～n	→	🔖 152
シミュレーションスイッチ出力 1～n	→	🔖 152
スイッチの状態 1～n	→	🔖 152
リレー出力 1～n シミュレーション	→	🔖 152
スイッチの状態 1～n	→	🔖 152
パルス出力シミュレーション	→	🔖 152
パルスの値	→	🔖 152
機器アラームのシミュレーション	→	🔖 152
診断イベントの種類	→	🔖 152
診断イベントのシミュレーション	→	🔖 152

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	–	シミュレーションするプロセス変数を選択してください。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 基準密度代替* ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 温度 ■ 濃度* ■ 周期信号(TPS)の周波数*	オフ
測定値	シミュレーションする測定パラメータ割り当て パラメータ (→ 151)でプロセス変数が選択されていること。	選択したプロセス変数をシミュレーションする値を入力してください。	選択したプロセス変数に応じて異なります。	0
電流出力 1～n のシミュレーション	–	電流出力のシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン	オフ
電流出力の値	電流出力 1～n のシミュレーション パラメータで、オン オプションが選択されていること。	シミュレーションする電流の値を入力してください。	3.59～22.5 mA	3.59 mA
周波数出力 1～n のシミュレーション	動作モード パラメータで周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力のシミュレーションをオン、オフしてください。	■ オフ ■ オン	オフ
周波数出力 1～n の値	周波数シミュレーション 1～n パラメータでオン オプションが選択されていること。	シミュレーションする周波数の値を入力してください。	0.0～12 500.0 Hz	0.0 Hz
パルス出力シミュレーション 1～n	動作モード パラメータでパルス オプションが選択されていること。	設定しパルス出力のシミュレーションをオフしてください。  固定値 オプションの場合: パルス幅 パラメータ (→ 112)によりパルス出力のパルス幅が設定されます。	■ オフ ■ 固定値 ■ カウントダウンする値	オフ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
パルスの値 1~n	パルス出力シミュレーション 1~n パラメータで カウントダウンする値 オプションが選択されていること。	シミュレーションするパルスの数を入力してください。	0~65535	0
シミュレーションスイッチ出力 1~n	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力のシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン	オフ
スイッチの状態 1~n	-	ステータス出力をシミュレーションするためのステータスを選択します。	■ オープン ■ クローズ	オープン
リレー出力 1~n シミュレーション	-	リレー出力のシミュレーションのオンとオフの切り替え。	■ オフ ■ オン	オフ
スイッチの状態 1~n	シミュレーションスイッチ出力 1~n パラメータで オン オプションが選択されていること。	リレー出力の状態をシミュレーションのために選択する。	■ オープン ■ クローズ	オープン
パルス出力シミュレーション	-	設定しパルス出力のシミュレーションをオフしてください。  固定値 オプションの場合: パルス幅 パラメータによりパルス出力のパルス幅が設定されます。	■ オフ ■ 固定値 ■ カウントダウンする値	オフ
パルスの値	パルス出力シミュレーション パラメータで カウントダウンする値 オプションが選択されていること。	設定しパルス出力のシミュレーションをオフしてください。	0~65535	0
機器アラームのシミュレーション	-	デバイスアラームのシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン	オフ
診断イベントの種類	-	診断イベントカテゴリを選択。	■ センサ ■ エレクトロニクス ■ 設定 ■ プロセス	プロセス
診断イベントのシミュレーション	-	このイベントをシミュレーションする診断イベントの選択。	■ オフ ■ 診断イベント選択リスト (選択したカテゴリに応じて)	オフ
電流入力 1~n のシミュレーション	-	電流入力シミュレーションのオン/オフ。	■ オフ ■ オン	オフ
電流入力 1~n の値	電流入力 1~n のシミュレーション パラメータで オン オプションが選択されていること。	シミュレーションの電流値を入力。	0~22.5 mA	0 mA
ステータス入力 1~n のシミュレーション	-	ステータス入力のシミュレーションをオン、オフ切り替え。	■ オフ ■ オン	オフ
入力信号レベル 1~n	ステータス入力のシミュレーション パラメータで オン オプションが選択されていること。	ステータス入力をシミュレーションする信号レベルを選択してください。	■ ハイ ■ ロー	ハイ

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.7 不正アクセスからの設定の保護

以下の書き込み保護オプションにより、意図せずに機器の設定が変更されないよう保護することが可能です。

- アクセスコードによるパラメータのアクセス保護 → 図 153
- キーロックによる現場操作のアクセス保護 → 図 78
- 書き込み保護スイッチによる機器のアクセス保護 → 図 154

10.7.1 アクセスコードによる書き込み保護

ユーザー固有のアクセスコードは以下の効果をもたらします。

- 機器設定用パラメータは書き込み保護となり、現場操作を介してその値を変更することはできなくなります。
- ウェブブラウザを介した機器アクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。
- FieldCare または DeviceCare (CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由) を介した機器アクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。

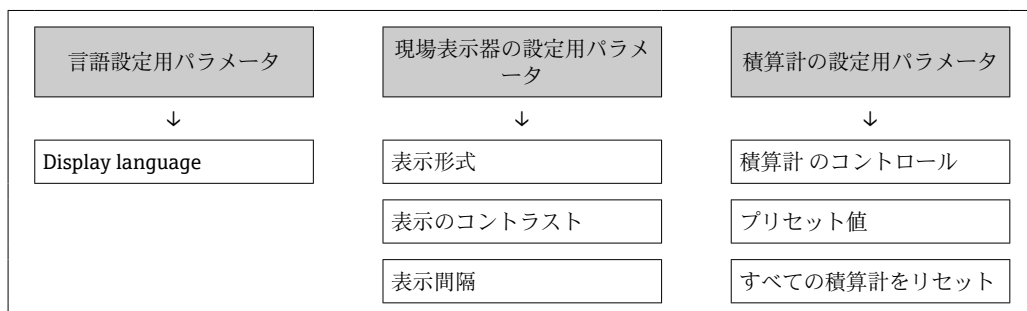
現場表示器によるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード設定** パラメータ (→ 図 148) に移動します。
2. アクセスコードとして数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列を設定します。
3. 再度アクセスコードを **アクセスコードの確認** パラメータ (→ 図 148) に入力して、確定します。
 ↳ すべての書き込み保護パラメータの前に、 シンボルが表示されます。

- 
 - アクセスコードによるパラメータ書き込み保護の無効化 → 図 77
 - アクセスコードを紛失してしまった場合：アクセスコードのリセット → 図 154
 - 現在ログインしているユーザーの役割が**アクセスステータス** パラメータに表示されます。
 - ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス
 - ユーザーの役割とそのアクセス権 → 図 77
- ナビゲーション、編集画面で 10 分以上キーを押さなかった場合、機器は自動的に書き込み保護パラメータを再度ロックします。
- ナビゲーション、編集画面から操作画面表示モードに戻すと、機器は自動的に書き込み保護パラメータを 60 秒後にロックします。

現場表示器で随時変更可能なパラメータ

測定に影響を及ぼさない特定のパラメータは、現場表示器によるパラメータ書き込み保護から除外されます。ユーザー固有のアクセスコードにもかかわらず、これは、他のパラメータがロックされている場合も常に変更可能です。



ウェブブラウザによるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード設定** パラメータ (→ 図 148) に移動します。

2. アクセスコードとして 16 桁（最大）の数値コードを設定します。
3. 再度アクセスコードを **アクセスコードの確認** パラメータ (→ 図 148) に入力して、確定します。
↳ ウェブブラウザがログイン画面に切り替わります。

-  ■ アクセスコードによるパラメータ書き込み保護の無効化 → 図 77
- アクセスコードを紛失してしまった場合：アクセスコードのリセット → 図 154
- **アクセスステータス** パラメータには、現在ログインしているユーザーの役割が表示されます。
 - ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス
 - ユーザーの役割とそのアクセス権 → 図 77

10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

アクセスコードのリセット

ユーザー固有のアクセスコードを間違えた場合は、工場設定のコードにリセットできません。このためには、リセットコードを入力しなければなりません。ユーザー固有のアクセスコードはその後、再び設定することが可能です。

ウェブブラウザ、FieldCare、DeviceCare (CDI-RJ45 サービスインタフェース経由)、フィールドバスを使用

-  リセットコードを取得するには、お近くの Endress+Hauser サービス部にお問い合わせいただく必要があります。機器ごとに固有のコードを作成する必要があります。

1. 機器のシリアル番号を書き留めます。
2. **稼働時間** パラメータを読み取ります。
3. お近くの Endress+Hauser サービス部に連絡し、シリアル番号と稼働時間を伝えます。
↳ 作成されたりセットコードを取得します。
4. **アクセスコードのリセット** パラメータ (→ 図 149) にリセットコードを入力します。
↳ アクセスコードは工場設定 **0000** にリセットされます。これは、再設定することが可能です → 図 153。

-  IT セキュリティ上の理由から、作成されたりセットコードは、指定のシリアル番号に対して指定の稼働時間から 96 時間のみ有効です。96 時間以内に機器をリセットできない場合は、読み出した稼働時間に数日を加算するか、または機器をオフにする必要があります。

10.7.2 書き込み保護スイッチによる書き込み保護

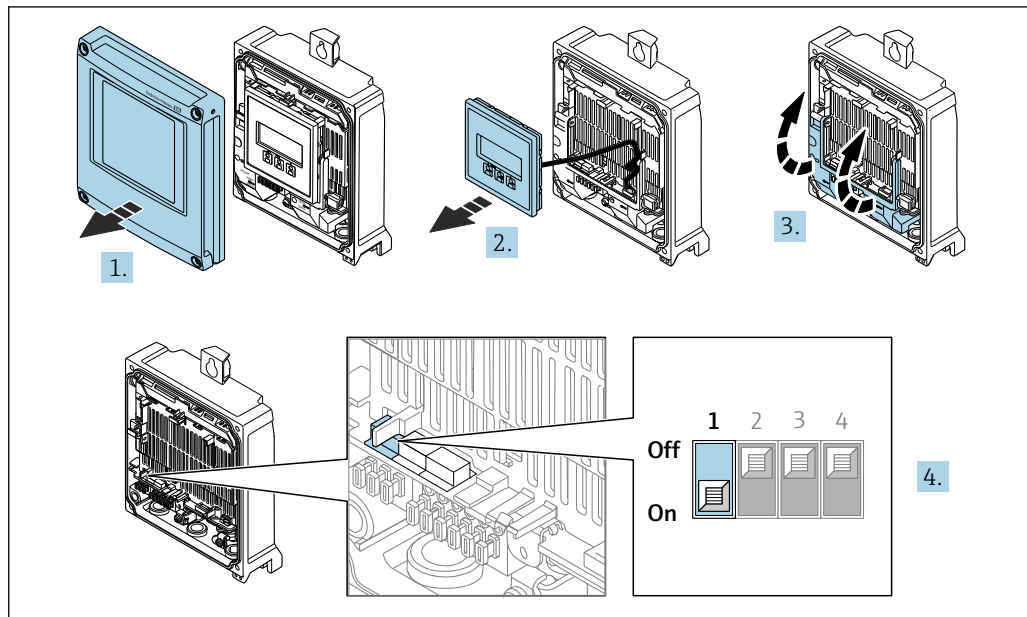
ユーザー固有のアクセスコードによるパラメータ書き込み保護とは異なり、この書き込み保護では、すべての操作メニューに対する書き込みアクセスをロックできます (「**表示のコントラスト**」パラメータを除く)。

これによりパラメータ値は読み取り専用となり、編集できなくなります (「**表示のコントラスト**」パラメータを除く)。

- 現場表示器を使用
- Modbus RS485 プロトコル経由

Proline 500 – デジタル

書き込み保護を有効/無効にする



A0029673

1. ハウジングカバーを開きます。

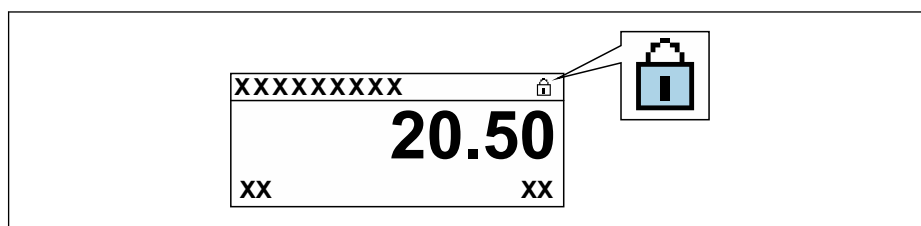
2. 表示モジュールを外します。

3. 端子カバーを開きます。

4. 書き込み保護を有効または無効にします。

メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ (WP) を **ON** 位置に設定するとハードウェア書き込み保護が有効になり、**OFF** 位置 (工場設定) に設定するとハードウェア書き込み保護が無効になります。

↳ **ロック状態** パラメータに**ハードウェアロック** オプションが表示されます
→ 図 157。ハードウェア書き込み保護が有効な場合、測定値表示のヘッダーおよびナビゲーション画面のパラメータの前に シンボルが表示されます。



A0029425

5. 表示モジュールを挿入します。

6. ハウジングカバーを閉じます。

7. **注記**

固定ネジの締め付けトルクが超過！

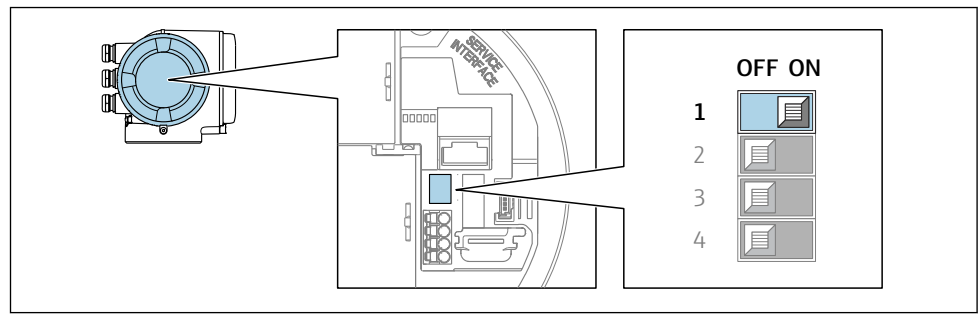
プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締め付けトルク：2.5 Nm (1.8 lbf ft) に従って固定ネジを締め付けてください。

固定ネジを締め付けます。

Proline 500

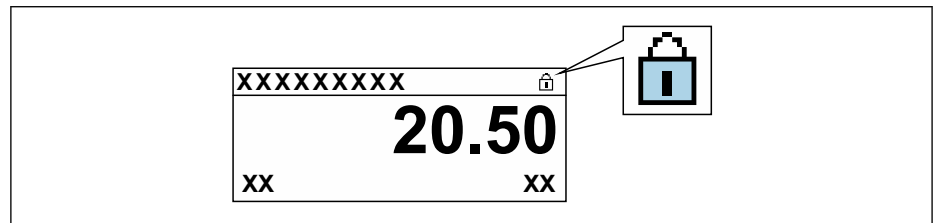
1.



A0029630

メイン電子モジュールの書き込み保護（WP）スイッチを **ON** 位置に設定すると、ハードウェア書き込み保護が有効になります。

- ➡ **ロック状態** パラメータに**ハードウェアロック** オプションが表示されます → 図 157。さらに、現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に 図 シンボルが表示されます。



A0029425

2. メイン電子モジュールの書き込み保護（WP）スイッチを **OFF** 位置（工場設定）に設定すると、ハードウェア書き込み保護が無効になります。

- ➡ **ロック状態** パラメータに表示されるオプションはありません → 図 157。現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に表示されていた 図 シンボルは消えます。

11 操作

11.1 機器ロック状態の読取り

機器の有効な書き込み保護：ロック状態 パラメータ

操作 → ロック状態

「ロック状態」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
なし	アクセスステータス パラメータに表示されるアクセス権が適用されます → 図 77。現場表示器にのみ表示されます。
ハードウェアロック	PCB 基板のハードウェア書き込みロック用 DIP スイッチが有効になっています。これにより、(現場表示器や操作ツールを使用した) パラメータへの書き込みアクセスがロックされます→ 図 154。
保税取引有効(国外)-全パラメータ	PCB 基板のカスタディトランスファーモード用 DIP スイッチが有効になっています。 カスタディトランスファーに関連するパラメータ、および Endress+Hauser により事前設定済みであり、カスタディトランスファーに関連しないパラメータはロックされます (例：現場表示器や操作ツール上)。  カスタディトランスファーモードの詳細については、機器の個別説明書を参照してください。
CT アクティブ (設定値)	PCB 基板のカスタディトランスファーモード用 DIP スイッチが有効になっています。 カスタディトランスファーに関連するパラメータのみがロックされます (例：現場表示器や操作ツール上)。  カスタディトランスファーモードの詳細については、機器の個別説明書を参照してください。
一時ロック	機器の内部処理 (例：データアップロード/ダウンロード、リセットなど) を実行中のため、パラメータへの書き込みアクセスが一時的にロックされます。内部処理が完了すると、再びパラメータを変更することが可能です。

11.2 操作言語の設定



詳細情報：

- 操作言語の設定 → 図 96
- 機器が対応する操作言語の情報 → 図 236

11.3 表示部の設定

詳細情報：

- 現場表示器の基本設定 → 図 122
- 現場表示器の高度な設定 → 図 139

11.4 測定値の読み取り

測定値 サブメニューを使用して、すべての測定値を読み取ることが可能です。

ナビゲーション
「診断」メニュー → 測定値

▶ 測定値		
▶ 測定した変数		→ ⓘ 158
▶ 入力値		→ ⓘ 169
▶ 出力値		→ ⓘ 171
▶ 積算計		→ ⓘ 169

11.4.1 「測定した変数」サブメニュー

測定した変数 サブメニューには、各プロセス変数の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション
「診断」メニュー → 測定値 → 測定した変数

▶ 測定した変数		
質量流量		→ ⓘ 160
体積流量		→ ⓘ 160
基準体積流量		→ ⓘ 160
密度		→ ⓘ 160
基準密度		→ ⓘ 160
温度		→ ⓘ 160
圧力		→ ⓘ 161
濃度		→ ⓘ 161
固形分質量流量		→ ⓘ 161
搬送液質量流量		→ ⓘ 161
固形分基準体積流量		→ ⓘ 161
搬送液基準体積流量		→ ⓘ 162
固形分体積流量		→ ⓘ 162

搬送液体積流量	→ 162
CTL	→ 162
CPL	→ 163
CTPL	→ 163
S&W 体積流量	→ 163
S&W 補正值	→ 163
基準密度代替	→ 163
GSV 流量	→ 164
GSV 流量代替	→ 164
NSV 流量	→ 164
NSV 流量代替	→ 164
オイル CTL	→ 164
オイル CPL	→ 165
オイル CTPL	→ 165
水 CTL	→ 165
CTL 代替え	→ 165
CPL 代替え	→ 165
CTPL 代替え	→ 166
オイル基準密度	→ 166
水の基準密度	→ 166
オイル密度	→ 166
水密度	→ 167
Water cut	→ 167
オイルの体積流量	→ 167
オイルの基準体積流量	→ 167

オイルの質量流量	→ 168
水の体積流量	→ 168
水の基準体積流量	→ 168
水の質量流量	→ 168
加重密度平均	→ 169
加重温度平均	→ 169

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
質量流量	–	現在測定されている質量流量を表示します。 依存関係 質量流量単位 パラメータ (→ 99)で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
体積流量	–	現在計算されている体積流量を表示します。 依存関係 体積流量単位 パラメータ (→ 99)の設定が単位として使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
基準体積流量	–	現在計算されている基準体積流量を表示します。 依存関係 基準体積流量単位 パラメータ (→ 99)で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
密度	–	密度の現在の測定値を表示。 依存関係 密度単位 パラメータ (→ 99)の設定が単位として使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
基準密度	–	現在計算されている基準密度を表示します。 依存関係 基準密度単位 パラメータ (→ 100)で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
温度	–	現在測定している流体の温度。 依存関係 温度の単位 パラメータ (→ 100)で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
圧力	–	固定または外部の圧力値を表示します。 依存関係 単位は 圧力単位 パラメータ (→ 910) の設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
濃度	次のオーダーコードの場合：「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている濃度を表示します。 依存関係 単位は 濃度の単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
固形分質量流量	以下の条件を満たしていること。 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在測定されているターゲット測定物の質量流量を表示します。 依存関係 質量流量単位 パラメータ (→ 919) で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
搬送液質量流量	以下の条件を満たしていること。 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在測定されている搬送媒体の質量流量を表示します。 依存関係 質量流量単位 パラメータ (→ 919) で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
固形分基準体積流量	以下の条件を満たしていること。 ■ 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」 ■ 液体の種類を選択 パラメータで Ethanol in water オプション または %質量 / %体積 オプション が選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在測定されている固形分の基準体積流量を表示します。 依存関係 単位は 体積流量単位 パラメータ (→ 919) の設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
搬送液基準体積流量	以下の条件を満たしていること。 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」 液体の種類を選択 パラメータで Ethanol in water オプションまたは%質量 / %体積 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在測定されている搬送液の基準体積流量を表示します。 依存関係 単位は体積流量単位 パラメータ (→ 99) の設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
固形分体積流量	以下の条件を満たしていること。 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」 液体の種類を選択 パラメータで Ethanol in water オプションまたは%質量 / %体積 オプションが選択されていること。 濃度の単位 パラメータで%vol オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在測定されている固形分の体積流量を表示します。 依存関係 単位は体積流量単位 パラメータ (→ 99) の設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
搬送液体積流量	以下の条件を満たしていること。 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」 液体の種類を選択 パラメータで Ethanol in water オプションまたは%質量 / %体積 オプションが選択されていること。 濃度の単位 パラメータで%vol オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在測定されている搬送液の体積流量を表示します。 依存関係 単位は体積流量単位 パラメータ (→ 99) の設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
CTL	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 石油モード パラメータで API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体への温度の影響を示す校正ファクタを表示します。これは、測定体積流量と測定密度を基準温度時の値に換算するために使用されます。	正の浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
CPL	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 石油モード パラメータで API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体への圧力の影響を示す校正ファクタを表示します。これは、測定体積流量と測定密度を基準圧力時の値に換算するために使用されます。	正の浮動小数点数	—
CTPL	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 石油モード パラメータで API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体への温度と圧力の影響を示す複合校正ファクタを表示します。これは、測定体積流量と測定密度を基準温度/基準圧力時の値に換算するために使用されます。	正の浮動小数点数	—
S&W 体積流量	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 石油モード パラメータで API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	S&W 体積流量を表示します。これは測定総体積流量から正味体積流量を減算した値です。 依存関係 体積流量単位 パラメータで選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	—
S&W 補正值	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 S&W 入力モード パラメータで 外部入力値 オプションまたは 電流入力 1...n オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	沈殿物と水分の補正值を示す。	正の浮動小数点数	—
基準密度代替	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	別の基準温度での流体密度を表示します。 依存関係 単位は 基準密度単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
GSV 流量	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 - 石油モード パラメータで API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	基準温度と基準圧力に基づいて補正された測定総体積流量を表示します。 依存関係 基準体積流量単位 パラメータで選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
GSV 流量代替	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 - 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	別の基準温度と別の基準圧力で補正された総体積流量の測定値を表示します。 依存関係 単位は 基準体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
NSV 流量	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 - 石油モード パラメータで API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	正味体積流量を表示します。これは測定総体積流量から沈殿物と水の値を減算し、さらにそこから収縮量を減算した値です。 依存関係 基準体積流量単位 パラメータで選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数	–
NSV 流量代替	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 - 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	測定された別の総体積から沈殿物と水の値、ならびに収縮分を差し引いて計算された正味体積流量を表示します。 依存関係 単位は 基準体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	–
オイル CTL	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 - 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	油に対する温度の影響を表す補正係数を表示します。これは、油の体積流量および密度の測定値を基準温度での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
オイル CPL	次のオーダーコードの場合： ■「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	油に対する圧力の影響を表す補正係数を表示します。これは、油の体積流量および密度の測定値を基準圧力での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	—
オイル CTPL	次のオーダーコードの場合： ■「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	油に対する温度と圧力の影響を表す複合補正係数を表示します。これは、油の体積流量および密度の測定値を基準温度と基準圧力での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	—
水 CTL	次のオーダーコードの場合： ■「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	水に対する温度の影響を表す補正係数を表示します。これは、水の体積流量および密度の測定値を基準温度での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	—
CTL 代替え	次のオーダーコードの場合： ■「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 ■ 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体に対する温度の影響を表す補正係数を表示します。これは、体積流量および密度の測定値を別の基準温度での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	—
CPL 代替え	次のオーダーコードの場合： ■「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 ■ 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体に対する圧力の影響を表す補正係数を表示します。これは、体積流量および密度の測定値を別の基準圧力での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	—

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
CTPL 代替え	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体に対する温度と圧力の影響を表す複合補正係数を表示します。これは、体積流量および密度の測定値を別の基準温度と別の基準圧力での値に変換するために使用されます。	正の浮動小数点数	1
オイル基準密度	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	基準温度でのオイル密度を表示します。	符号付き浮動小数点数	–
水の基準密度	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	基準温度での水の密度を表示します。	符号付き浮動小数点数	–
オイル密度	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在の油の測定密度を表示します。	符号付き浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
水密度	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在の水の測定密度を表示します。	符号付き浮動小数点数	—
Water cut	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、API 基準補正 オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	流体の総体積流量に対する水の体積流量の割合を表示します。	0～100 %	—
オイルの体積流量	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている油の体積流量を表示します。 依存関係： ■ Water cut パラメータの表示値に基づく ■ 単位は体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—
オイルの基準体積流量	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている油の体積流量（基準温度と基準圧力での値に計算）を表示します。 依存関係： ■ Water cut パラメータの表示値に基づく ■ 単位は基準体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
オイルの質量流量	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている油の質量流量を表示します。 依存関係： ■ Water cut パラメータの表示値に基づく ■ 単位は質量流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—
水の体積流量	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている水の体積流量を表示します。 依存関係： ■ Water cut パラメータの表示値に基づく ■ 単位は体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—
水の基準体積流量	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている水の体積流量（基準温度と基準圧力での値に計算）を表示します。 依存関係： ■ Water cut パラメータの表示値に基づく ■ 単位は基準体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—
水の質量流量	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 石油モード パラメータで、Net oil & water cut オプションが選択されていること。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	現在計算されている水の質量流量を表示します。 依存関係： ■ Water cut パラメータの表示値に基づく ■ 単位は質量流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	—

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
加重密度平均	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 「アプリケーションパッケージ」、オプション EM「石油 + ロック機能」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	前回の密度平均リセット以降の加重密度平均を表示します。 依存関係： 密度単位 パラメータで選択した単位が使用されます。 加重平均のリセット パラメータを使用すると、値は NaN（非数値）にリセットされます。	符号付き浮動小数点数	–
加重温度平均	次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ「石油」 「アプリケーションパッケージ」、オプション EM「石油 + ロック機能」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	前回の温度平均リセット以降の加重温度平均を表示します。 依存関係： 温度の単位 パラメータで選択した単位が使用されます。 加重平均のリセット パラメータを使用すると、値は NaN（非数値）にリセットされます。	符号付き浮動小数点数	–

11.4.2 「積算計」サブメニュー

積算計 サブメニューには、各積算計の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 積算計

▶ 積算計	
積算計 1～n の値	→ 169
積算計 1～n オーバーフロー	→ 169

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
積算計 1～n の値	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138)でプロセス変数が選択されていること。	現在の積算計カウンタ値を表示。	符号付き浮動小数点数
積算計 1～n オーバーフロー	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138)でプロセス変数が選択されていること。	現在の積算計オーバーフローを表示。	符号の付いた整数

11.4.3 「入力値」サブメニュー

入力値 サブメニューを使用すると、個別の入力値を体系的に表示できます。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 入力値

▶ 入力値

▶ 電流入力 1～n

→ ⓘ 170

▶ ステータス入力 1～n

→ ⓘ 170

電流入力の入力値

電流入力 1～n サブメニューには、各電流入力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 入力値 → 電流入力 1～n

▶ 電流入力 1～n

測定値 1～n

→ ⓘ 170

測定した電流 1～n

→ ⓘ 170

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
測定値 1～n	現在の電流入力値を表示します。	符号付き浮動小数点数
測定した電流 1～n	電流入力の現在値を表示します。	0～22.5 mA

ステータス入力の入力値

ステータス入力 1～n サブメニューには、各ステータス入力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 入力値 → ステータス入力 1～n

▶ ステータス入力 1～n

ステータス入力の値

→ ⓘ 170

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
ステータス入力の値	現在の入力の信号のレベルを表示。	■ ハイ ■ ロー

11.4.4 出力値

出力値 サブメニューには、各出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値

▶ 出力値		
▶ 電流出力 1～n		→ 171
▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		→ 171
▶ リレー出力 1～n		→ 172
▶ ダブルパルス出力		→ 172

電流出力の出力値

電流出力 の値 サブメニューには、各電流出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → 電流出力 1～n の値

▶ 電流出力 1～n		
出力電流		→ 171
測定した電流		→ 171

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
出力電流	現在計算されている電流出力の電流値を表示します。	3.59～22.5 mA
測定した電流	電流出力の現在測定されている電流値を表示。	0～30 mA

パルス/周波数/スイッチ出力の出力値

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n サブメニューには、各パルス/周波数/スイッチ出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

出力周波数	→ 172
パルス出力	→ 172
スイッチの状態	→ 172

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
出力周波数	動作モード パラメータで周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力の現在測定されている値を表示。	0.0～12 500.0 Hz
パルス出力	動作モード パラメータでパルス オプション が選択されていること。	現在出力されているパルス周波数を表示。	正の浮動小数点数
スイッチの状態	動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。	現在のスイッチ出力ステータスを表示。	■ オープン ■ クローズ

リレー出力の出力値

リレー出力 1～n サブメニューには、各リレー出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → リレー出力 1～n

▶ リレー出力 1～n	
スイッチの状態	→ 172
スイッチ周期	→ 172
最大スイッチサイクル数	→ 172

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
スイッチの状態	出力の現在のスイッチ状態を示します。	■ オープン ■ クローズ
スイッチ周期	すべての実行されたスイッチサイクルの数を表示。	正の整数
最大スイッチサイクル数	保証されたスイッチサイクルの最大数を表示。	正の整数

ダブルパルス出力の出力値

ダブルパルス出力 サブメニューには、各ダブルパルス出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 出力値 → ダブルパルス出力

▶ ダブルパルス出力

パルス出力

→ 173

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
パルス出力	現在の出力パルス、周波数を示します。	正の浮動小数点数

11.5 プロセス条件への機器の適合

プロセス条件に適合させるために、以下の機能があります。

- **設定** メニュー (→ 96) を使用した基本設定
- **高度な設定** サブメニュー (→ 129) を使用した高度な設定

11.6 積算計リセットの実行

操作 サブメニュー で積算計をリセットします。

- 積算計 のコントロール
- すべての積算計をリセット

ナビゲーション

「操作」メニュー → 積算計の処理

▶ 積算計の処理

積算計 1～n のコントロール

→ 174

プリセット値 1～n

→ 174

積算計の値 1～n

→ 174

加重密度平均

→ 174

加重温度平均

→ 174

加重平均のリセット

→ 175

すべての積算計をリセット

→ 175

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
積算計 1～n のコントロール	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138) でプロセス変数が選択されていること。	積算計の値をコントロール。	■ 積算開始 ■ リセット + ホールド* ■ プリセット + ホールド* ■ リセット + 積算開始 ■ プリセット + 積算開始* ■ ホールド*	積算開始
プリセット値 1～n	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138) でプロセス変数が選択されていること。	積算計の開始値を指定。 依存関係  選択したプロセス変数の単位は、積算計の 積算計の単位 パラメータ (→ 138) で設定します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 kg ■ 0 lb
積算計 1～n の値	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 138) でプロセス変数が選択されていること。	現在の積算計カウンタ値を表示。	符号付き浮動小数点数	–
加重密度平均	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EM 「石油 + ロック機能」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	前回の密度平均リセット以降の加重密度平均を表示します。 依存関係： ■ 密度単位 パラメータで選択した単位が使用されます。 ■ 加重平均のリセット パラメータを使用すると、値は NaN（非数値）にリセットされます。	符号付き浮動小数点数	–
加重温度平均	次のオーダーコードの場合： ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」 ■ 「アプリケーションパッケージ」、オプション EM 「石油 + ロック機能」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	前回の温度平均リセット以降の加重温度平均を表示します。 依存関係： ■ 温度の単位 パラメータで選択した単位が使用されます。 ■ 加重平均のリセット パラメータを使用すると、値は NaN（非数値）にリセットされます。	符号付き浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
加重平均のリセット	流量ゼロ時にのみ値をリセットできます。 次のオーダーコードの場合： 「アプリケーションパッケージ」、オプション EJ 「石油」  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	密度/温度の加重平均を NaN (非数値) にリセットしてから加重平均の計算を開始します。	■ 積算開始 ■ 加重平均のリセット ■ 加重平均 + 積算計 3 のリセット	積算開始
すべての積算計をリセット	–	すべての積算計を 0 にリセットして積算の開始。	■ キャンセル ■ リセット + 積算開始	キャンセル

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

11.6.1 「積算計のコントロール」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
積算開始	積算計が開始するか、または動作を続けます。
リセット + ホールド	積算処理が停止し、積算計が 0 にリセットされます。
プリセット + ホールド ¹⁾	積算処理が停止し、積算計が プリセット値 パラメータ で設定した開始値に設定されます。
リセット + 積算開始	積算計が 0 にリセットされ、積算処理が再開します。
プリセット + 積算開始 ¹⁾	積算計が プリセット値 パラメータ で設定した開始値に設定され、積算処理が再開します。
ホールド	積算処理が停止しします。

1) 注文オプションまたは機器設定に応じて表示

11.6.2 「すべての積算計をリセット」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
リセット + 積算開始	すべての積算計を 0 にリセットし、積算処理を再開します。これにより、それ以前に合計した流量値は消去されます。

11.7 測定値の履歴を表示

データのログ サブメニューを表示するには、機器の拡張 **HistoROM** アプリケーションパッケージを有効にする必要があります（注文オプション）。これには、測定値履歴に関するすべてのパラメータが含まれています。



データロギングは以下を介しても使用可能：

- プラントアセットマネジメントツール FieldCare → 88
- ウェブブラウザ

機能範囲

- 合計 1000 個の測定値を保存できます。
- 4 × ロギングチャンネル
- データのロギングの時間間隔は調整可能です。
- 各ロギングチャンネルの測定値トレンドをチャート形式で表示します。

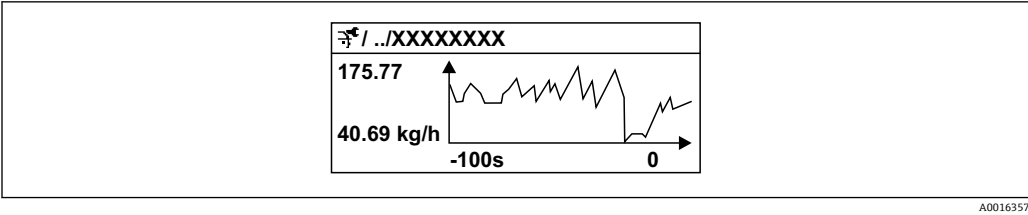


図 38 測定値トレンドのチャート

- x 軸：選択されたチャンネル数に応じて 250～1000 個のプロセス変数の測定値を示します。
 - y 軸：常に測定中の値に合わせて、大体の測定値スパンを示します。
- i** ログイングの時間間隔の長さ、またはチャンネルのプロセス変数の割り当てを変更すると、データのログ内容は削除されます。

ナビゲーション

「診断」メニュー → データのログ

▶ データのログ

チャンネル 1 の割り当て

→ 177

チャンネル 2 の割り当て

→ 178

チャンネル 3 の割り当て

→ 178

チャンネル 4 の割り当て

→ 178

ログイングの時間間隔

→ 178

すべてのログをリセット

→ 178

データログイング

→ 178

ログイングの遅延

→ 178

データログイングのコントロール

→ 178

データログイングステータス

→ 178

全ログイング期間

→ 178

▶ チャンネル 1 表示

▶ チャンネル 2 表示

▶ チャンネル 3 表示

▶ チャンネル 4 表示

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
チャンネル 1 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが有効。	ロギングチャンネルにプロセス変数を割り当てます。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量* ■ 密度 ■ 基準密度* ■ 温度 ■ 圧力 ■ GSV 流量* ■ GSV 流量代替* ■ NSV 流量* ■ NSV 流量代替* ■ S&W 体積流量* ■ 基準密度代替* ■ Water cut* ■ オイル密度* ■ 水密度* ■ オイルの質量流量* ■ 水の質量流量* ■ オイルの体積流量* ■ 水の体積流量* ■ オイルの基準体積流量* ■ 水の基準体積流量* ■ 濃度* ■ 固形分質量流量* ■ 搬送液質量流量* ■ 固形分体積流量* ■ 搬送液体積流量* ■ 固形分基準体積流量* ■ 搬送液基準体積流量* ■ アプリケーション固有の出力 0* ■ アプリケーション固有の出力 1* ■ 不均一流体の指標 ■ 浮遊気泡の指標* ■ HBSI* ■ 質量流量生値 ■ コイル電流 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 振動ダンピングの変動 0* ■ 振動周波数 0 ■ 周波数変動 0* ■ 振動振幅* ■ 振動振幅 1* ■ 信号の非対称性 ■ ねじれの信号の非対称性* ■ 保護容器の温度* ■ 電気部内温度 ■ センサーインデックスコイル非対称性 ■ テストポイント 0 ■ テストポイント 1 ■ 電流出力 1 ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3*	オフ

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
			■ 電流出力 4 *	
チャンネル 2 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、 チャンネル 1 の割り当て パラメータ (→ 177) を参照してください。	オフ
チャンネル 3 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、 チャンネル 1 の割り当て パラメータ (→ 177) を参照してください。	オフ
チャンネル 4 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、 チャンネル 1 の割り当て パラメータ (→ 177) を参照してください。	オフ
ロギングの時間間隔	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	データのロギングの時間間隔は設定します。この値は、メモリ内の個々のデータポイント間の時間間隔を決定します。	0.1～3 600.0 秒	1.0 秒
すべてのログをリセット	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	すべてのログデータを削除します。	■ キャンセル ■ データ削除	キャンセル
データロギング	–	データロギングのタイプを選択します。	■ 上書きする ■ 上書きしない	上書きする
ロギングの遅延	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングの遅延時間を入力します。	0～999 h	0 h
データロギングのコントロール	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングを開始または停止します。	■ なし ■ 削除 + スタート ■ 停止	なし
データロギングステータス	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングステータスを表示します。	■ 完了 ■ 遅延が有効 ■ アクティブ ■ 停止	完了
全ロギング期間	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	全ロギング期間を表示します。	正の浮動小数点数	0 秒

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

11.8 ガスフラクションハンドラー

ガスフラクションハンドラーにより、2 相測定物における測定の安定性と繰返し性が向上し、プロセスに関する重要な診断情報が提供されます。

第 2 相は流量および密度の出力値に影響を及ぼすため、この機能により液体中に気泡、または気体中に液滴が存在しないか継続的にチェックされます。

2 相測定物の場合にガスフラクションハンドラーは出力値を安定させ、オペレーターによる読み取りと分散制御システムによる分析を容易にします。平滑化のレベルは、第 2 相によって生じた乱れの程度に応じて調整されます。単相測定物の場合、ガスフラクションハンドラーは、出力値に影響を与えません。

ガスフラクションハンドラーパラメータの選択可能なオプション：

- オフ：ガスフラクションハンドラーを無効にします。第 2 相が存在する場合、流量および密度の出力値に大きな変動が発生します。
- 中程度：第 2 相のレベルが低い、またはレベルが断続的なアプリケーションに使用します。
- 強力：第 2 相のレベルが非常に高いアプリケーションに使用します。

ガスフラクションハンドラーは、別の機器パラメータ設定で設定された、流量および密度に適用される固定のダンピング定数に累積されます。

 ガスフラクションハンドラーのパラメータ説明の詳細については、機器の個別説明書を参照してください。→  246

11.8.1 「測定モード」 サブメニュー

ナビゲーション

「エキスパート」 メニュー → センサ → 測定モード

▶ 測定モード	
Gas Fraction Handler (6377)	→  179

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
Gas Fraction Handler	二相流体に対して Gas Fraction Handler 機能を有効にします。	■ オフ ■ 中程度 ■ 強力	中程度

11.8.2 「流体の指標」 サブメニュー

ナビゲーション

「エキスパート」 メニュー → アプリケーション → 流体の指標

▶ 流体の指標	
不均一流体の指標 (6368)	→  180
非均一湿りガスのカットオフ (6375)	→  180
非均一液体のカットオフ (6374)	→  180
浮遊気泡の指標 (6376)	→  180
浮遊気泡のカットオフ (6370)	→  180

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
不均一流体の指標	–	流体の非均一性の程度を示します。	符号付き浮動小数点数	–
非均一湿りガスのカットオフ	–	湿り気体アプリケーション用のカットオフ値を入力します。この値以下では不均一流体の指標は 0 に設定されます。	正の浮動小数点数	0.25
非均一液体のカットオフ	–	液体アプリケーションでのカットオフ値を入力します。この値以下では不均一流体の指標の値は 0 に設定されます。	正の浮動小数点数	0.05
浮遊気泡の指標	診断指標は、Promass Q でのみ使用できます。	流体中の浮遊気泡の相対量を示します。	符号付き浮動小数点数	–
浮遊気泡のカットオフ	このパラメータは、Promass Q でのみ使用できます。	サスペンディッドバブルのカットオフ値を入力します。この値を下回ると、「サスペンディッドバブルの指標」は 0 に設定されます。	正の浮動小数点数	0.05

12 診断およびトラブルシューティング

12.1 一般トラブルシューティング

現場表示器用

エラー	考えられる原因	対処法
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールのケーブルが正しく差し込まれていない	メイン電子モジュールおよび表示モジュールにプラグを正しく挿入する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧が銘板に明記された電圧と異なる	正しい電源電圧を印加する。→ 図 53 → 図 47
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧の極性が正しくない	電源電圧の極性を逆にする。
現場表示器が暗く、出力信号がない	接続ケーブルと端子の接続が確立されない	ケーブルと端子の電氣的接続を確実に進行。
現場表示器が暗く、出力信号がない	- 端子が I/O 電子モジュールに正しく差し込まれていない - 端子がメイン電子モジュールに正しく差し込まれていない	端子を確認する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	- I/O 電子モジュールの故障 - メイン電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する。→ 図 206
現場表示器が暗く、出力信号がない	メイン電子モジュールと表示モジュール間のコネクタが正しく差し込まれていない	接続を確認し、必要に応じて修正する。
現場表示器を読み取ることができないが、信号出力は有効な範囲内にある	表示部の設定が明るすぎる/暗すぎる	☐ + ☐ を同時に押して、表示を明るくする。 ☐ + ☐ を同時に押して、表示を暗くする。
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールの故障	スペアパーツを注文する。→ 図 206
現場表示器のバックライトが赤い	診断動作が「アラーム」の診断イベントが発生している	対策を講じる。→ 図 192
現場表示器のテキストが理解できない言語で表示される	選択された操作言語を理解できない	☐ + ☐ を 2 秒 押す（「ホーム画面」）。 ☐ を押す。 Display language パラメータ (→ 図 145) で必要な言語を設定する。
現場表示器のメッセージ： 「通信エラー」 「電子モジュールの確認」	表示モジュールと電子モジュール間の通信が中断された	- メイン電子モジュールと表示モジュール間のケーブルとコネクタを確認する。 - スペアパーツを注文する。→ 図 206

出力信号用

エラー	考えられる原因	対処法
信号出力が有効な範囲を超えている	メイン電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する→ 図 206。
現場表示器に正しい値が表示されるが、信号出力が正しくない（有効な範囲内にはある）	パラメータ設定エラー	パラメータ設定を確認し、修正する。
機器の測定が正しくない	設定エラーまたは機器が用途範囲外で使用されている	- 正しいパラメータ設定を確認する。 「技術データ」に明記されたリミット値に従う。

アクセス用

エラー	考えられる原因	対処法
パラメータへの書き込みアクセスを実行できない	ハードウェア書き込み保護が有効になっている	メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチを OFF 位置に設定する。→ 図 154
パラメータへの書き込みアクセスを実行できない	現在のユーザーの役割ではアクセス権が制限されている	- ユーザーの役割を確認する→ 図 77。 - 正しいユーザー固有のアクセスコードを入力する→ 図 77。
Modbus RS485 経由で接続できない	Modbus RS485 バスケーブルが正しく接続されていない	端子の割当てを確認する。→ 図 40

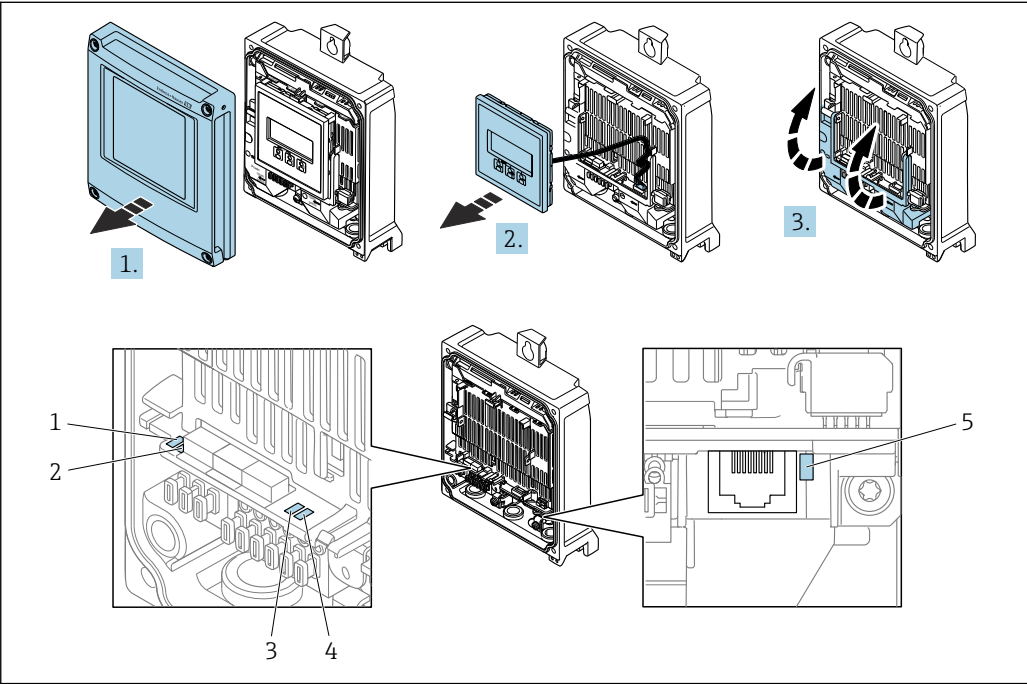
エラー	考えられる原因	対処法
Modbus RS485 経由で接続できない	Modbus RS485 ケーブルが正しく終端処理されていない。	終端抵抗を確認する。→ 図 61.
Modbus RS485 経由で接続できない	通信インタフェースの設定が正しくない	Modbus RS485 設定を確認する→ 図 100。
Web サーバーに接続できない	Web サーバーが無効になっている	「FieldCare」または「DeviceCare」操作ツールを使用して機器の Web サーバーが有効かどうかを確認し、必要に応じて有効にする→ 図 84。
	PC のイーサネットインタフェースの設定が正しくない	▶ インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを確認する。→ 図 80 ▶ IT マネージャを使用してネットワーク設定を確認する。
Web サーバーに接続できない	PC の IP アドレスの設定が正しくない	IP アドレス (192.168.1.212) を確認する。 → 図 80
Web サーバーに接続できない	WLAN 接続データが正しくない	■ WLAN ネットワークの状態を確認する。 ■ WLAN 接続データを使用して機器に再度ログインする。 ■ 計測機器および操作ユニットで WLAN が有効になっていることを確認する→ 図 80。
	WLAN 通信が無効になっている	–
Web サーバー、FieldCare、または DeviceCare に接続できない	WLAN ネットワークが使用できない	■ WLAN 受信があるか確認する: 表示モジュールの LED が青色で点灯 ■ WLAN 接続が有効か確認する: 表示モジュールの LED が青色で点滅 ■ 機器機能を ON にする。
ネットワーク接続が存在しない、または不安定	WLAN ネットワークが弱い	■ 操作ユニットが受信範囲外にある: 操作ユニットのネットワークの状態を確認する。 ■ ネットワーク性能を向上させるために、外部の WLAN アンテナを使用する。
	WLAN およびイーサネット通信が同時進行	■ ネットワーク設定を確認する。 ■ 一時的に WLAN のみをインタフェースとして有効にする。
ウェブブラウザがフリーズし、操作できない	データ転送中	データ転送または現在の動作が完了するまで待ってください。
	接続が失われた	▶ ケーブル接続と電源を確認する。 ▶ ウェブブラウザを再読み込みし、必要に応じて再起動する。
表示されるウェブブラウザの内容が読めない、または不完全	使用されているウェブブラウザのバージョンが最適ではない	▶ 適切なウェブブラウザバージョンを使用する。→ 図 79 ▶ ウェブブラウザのキャッシュを消去する。 ▶ ウェブブラウザを再起動する。
	不適切な表示設定	ウェブブラウザのフォントサイズ/表示比率を変更する。
ウェブブラウザの内容が不完全、または表示されない	■ JavaScript が有効になっていない ■ JavaScript を有効にできない	▶ JavaScript を有効にする。 ▶ IP アドレスとして <code>http://XXX.XXX.X.X.XX/servlet/basic.html</code> を入力する。
CDI-RJ45 (ポート 8000) サービスインタフェース経由での FieldCare または DeviceCare による操作ができない	PC またはネットワークのファイアウォールが通信をブロックしている	PC またはネットワークで使用するファイアウォールの設定に応じて、FieldCare/DeviceCare アクセスを可能にするためにファイアウォールを適合または無効にする必要がある。
CDI-RJ45 (ポート 8000 または TFTP ポート) サービスインタフェース経由での FieldCare または DeviceCare によるファームウェアの更新ができない	PC またはネットワークのファイアウォールが通信をブロックしている	PC またはネットワークで使用するファイアウォールの設定に応じて、FieldCare/DeviceCare アクセスを可能にするためにファイアウォールを適合または無効にする必要がある。

12.2 発光ダイオードによる診断情報

12.2.1 変換器

Proline 500 – デジタル

変換器の各種 LED により機器ステータスに関する情報が提供されます。



A0029689

- 1 電源電圧
- 2 機器ステータス
- 3 未使用
- 4 通信
- 5 サービスインタフェース (CDI) アクティブ

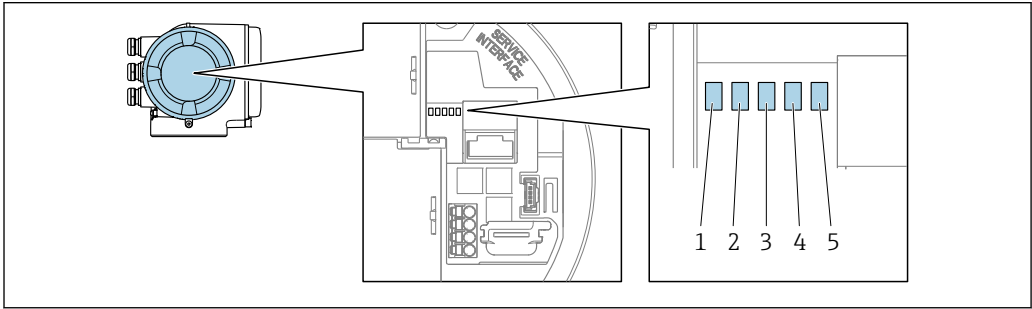
- 1. ハウジングカバーを開きます。
- 2. 表示モジュールを外します。
- 3. 端子カバーを開きます。

LED	色	意味
1 電源電圧	消灯	電源オフまたは供給電圧不足
	緑色	電源 OK
2 機器ステータス (通常の操作)	消灯	ファームウェアエラー
	緑色	機器ステータス OK
	緑色点滅	機器が設定されていない
	赤色点滅	診断動作「警告」の診断イベントが発生
	赤色	診断動作「アラーム」の診断イベントが発生
	赤色または緑色点滅	機器の再起動
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 未使用	–	–
4 通信	消灯	通信非アクティブ

LED	色	意味
5 サービスインタフェース (CDI)	白色	通信アクティブ
	消灯	接続なし、または接続が確立されていない
	黄色	接続中、および接続が確立されている
	黄色点滅	サービスインタフェース アクティブ

Proline 500

変換器の各種 LED により機器ステータスに関する情報が提供されます。



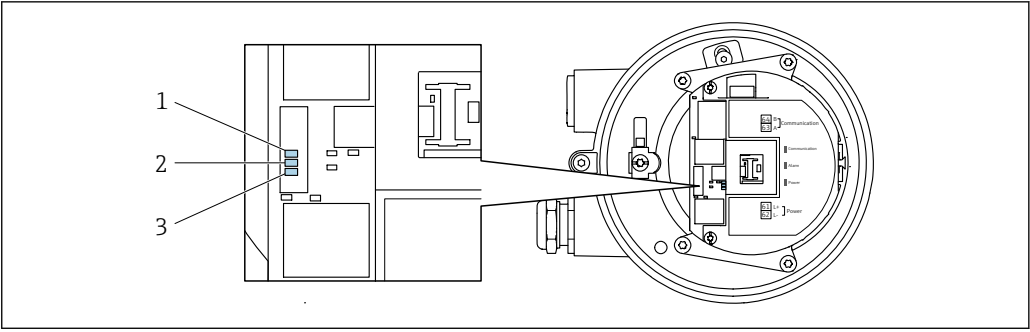
- 1 電源電圧
- 2 機器ステータス
- 3 未使用
- 4 通信
- 5 サービスインタフェース (CDI) アクティブ

LED	色	意味
1 電源電圧	消灯	電源オフまたは供給電圧不足
	緑色	電源 OK
2 機器ステータス (通常の操作)	消灯	ファームウェアエラー
	緑色	機器ステータス OK
	緑色点滅	機器が設定されていない
	赤色	診断動作「アラーム」の診断イベントが発生
	赤色点滅	診断動作「警告」の診断イベントが発生
	赤色または緑色点滅	機器の再起動
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 未使用	–	–
4 通信	消灯	通信非アクティブ
	白色	通信アクティブ
5 サービスインタフェース (CDI)	消灯	接続なし、または接続が確立されていない
	黄色	接続中、および接続が確立されている
	黄色点滅	サービスインタフェース アクティブ

12.2.2 センサ接続ハウジング

Proline 500 – デジタル

センサ接続ハウジング内の ISEM 電子モジュール（インテリジェントセンサ電子モジュール）の各種 LED により、機器ステータスに関する情報が提供されます。



A0029699

- 1 通信
- 2 機器ステータス
- 3 電源電圧

LED	色	意味
1 通信	白色	通信アクティブ
2 機器ステータス (通常の操作)	赤色	エラー
	赤色点滅	警告
	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 電源電圧	緑色	電源 OK
	オフ	電源オフまたは供給電圧不足

12.3 現場表示器の診断情報

12.3.1 診断メッセージ

機器の自己監視システムで検出されたエラーが、操作画面表示と交互に診断メッセージとして表示されます。

アラーム状態の操作画面表示

診断メッセージ

The diagram illustrates the transition between two screen states. On the left, the 'アラーム状態の操作画面表示' (Alarm status operation screen display) shows a large numerical value '20.50' and a status indicator 'S' (Supply voltage out of range). On the right, the '診断メッセージ' (Diagnostic message) screen displays 'S801 Supply voltage' and a 'Menu' button. A blue arrow points from the alarm screen to the diagnostic message screen. Below the screens, a legend identifies the components: 1. Status signal, 2. Diagnostic action, 3. Diagnostic action and diagnostic code, 4. Short text, 5. Operation part.

1 ステータス信号

2 診断動作

3 診断動作と診断コード

4 ショートテキスト

5 操作部

A0029426-JA

2つまたはそれ以上の診断イベントが同時に発生している場合は、最優先に処理する必要のある診断イベントのメッセージのみが表示されます。

- 発生したその他の診断イベントは **診断** メニューに表示されます。
- パラメータを使用 → 196

■ サブメニューを使用 → 197

ステータス信号

ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

- ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨 NE 107 に準拠して分類されます。F = 故障、C = 機能チェック、S = 仕様範囲外、M = メンテナンスが必要

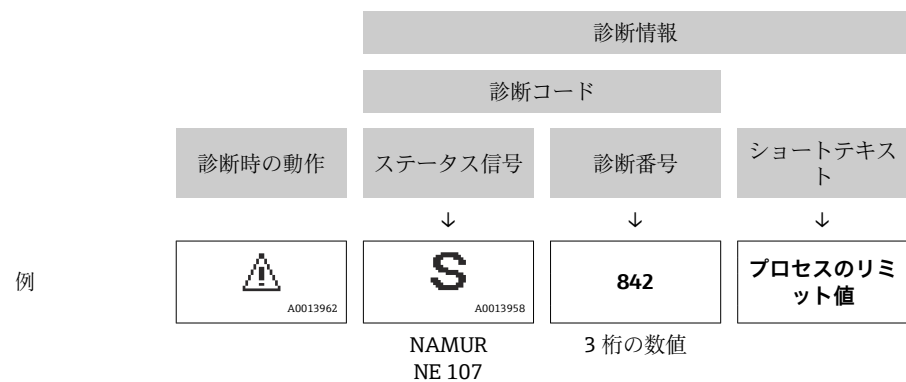
シンボル	意味
F	故障 機器エラーが発生。測定値は無効。
C	機能チェック 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：許容プロセス温度の範囲外）
M	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

診断時の動作

シンボル	意味
	アラーム - 測定が中断します。 - 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 - 診断メッセージが生成されます。
	警告 - 測定が再開します。 - 信号出力と積算計は影響を受けません。 - 診断メッセージが生成されます。

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断動作に対応するシンボルが現場表示器の診断情報の前に表示されます。



操作部

操作キー	意味
	+ キー メニュー、サブメニュー内 対処法に関するメッセージを開きます。
	Enter キー メニュー、サブメニュー内 操作メニューを開きます。

12.3.2 対処法の呼び出し

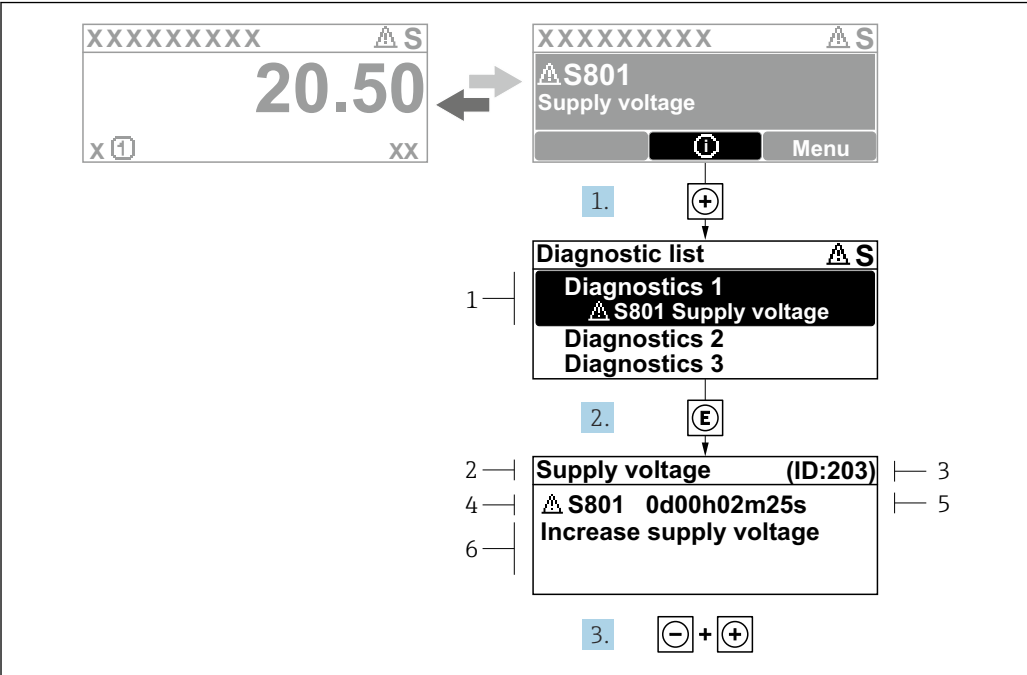


図 39 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 エラー発生時の稼働時間
- 6 対処法

- 1. 診断メッセージを表示します。
⊕ を押します (① シンボル)。
↳ **診断リスト** サブメニュー が開きます。
- 2. ⊕ または ⊖ を使用して必要な診断イベントを選択し、⊖ を押します。
↳ 対処法に関するメッセージが開きます。
- 3. ⊖ + ⊕ を同時に押します。
↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

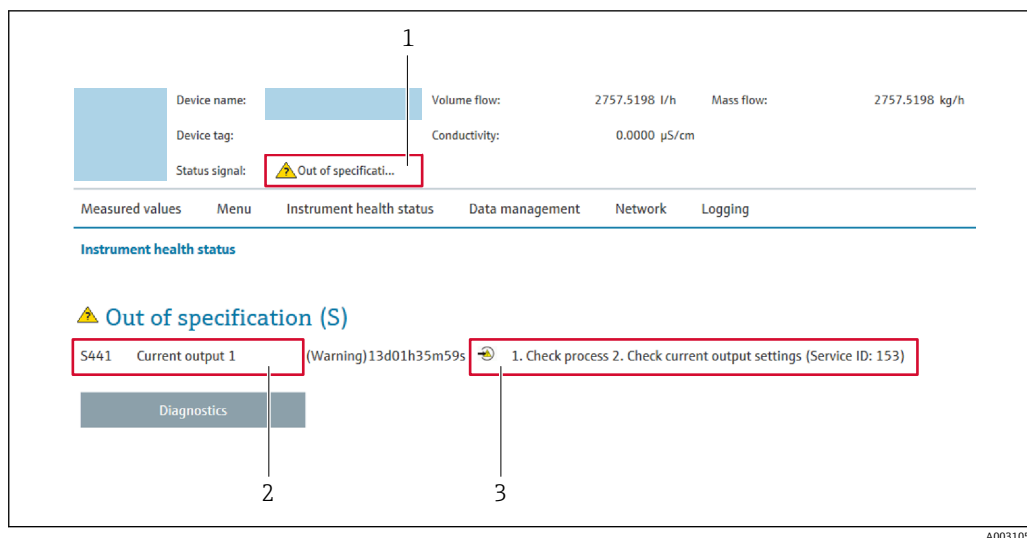
診断 メニュー 内の診断イベントの入力項目に移動します (例: **診断リスト** サブメニュー または **前回の診断結果** パラメータ)。

- 1. ⊖ を押します。
↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
- 2. ⊖ + ⊕ を同時に押します。
↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

12.4 ウェブブラウザの診断情報

12.4.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、ユーザーがログインするとウェブブラウザのホームページに表示されます。



A0031056

- 1 ステータスエリアとステータス信号
- 2 診断情報
- 3 対処法 (サービス ID)

- i** また、発生した診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。
- パラメータを使用 → 196
 - サブメニューを使用 → 197

ステータス信号

ステータス信号は、診断情報 (診断イベント) の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

シンボル	意味
	故障 機器エラーが発生。測定値は無効。
	機能チェック 機器はサービスモード (例: シミュレーション中)
	仕様範囲外 機器は作動中: 技術仕様の範囲外 (例: 許容プロセス温度の範囲外)
	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

- i** ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨 NE 107 に準拠して分類されます。

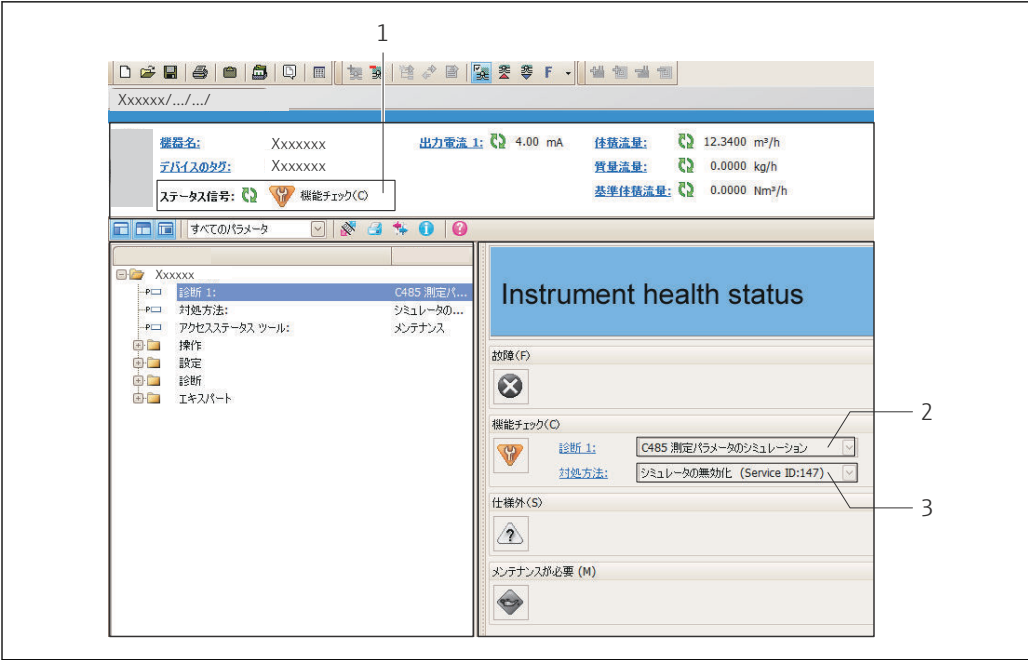
12.4.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。これらの対策は、診断イベントおよび関連する診断情報とともに赤で表示されます。

12.5 FieldCare または DeviceCare の診断情報

12.5.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、接続が確立されると操作ツールのホームページに表示されます。



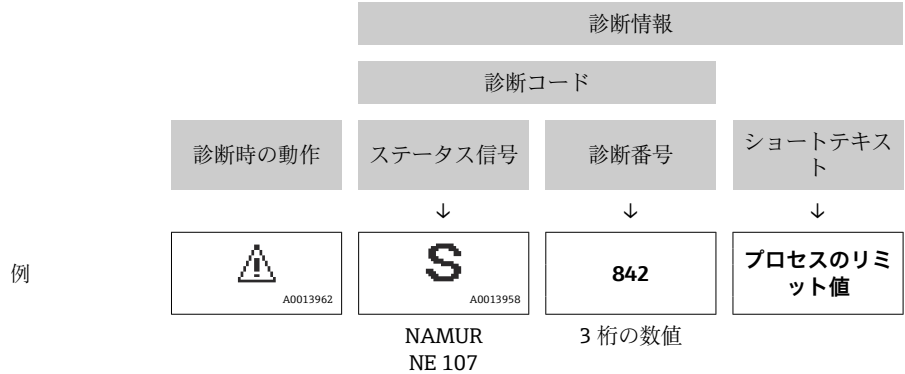
- 1 ステータスエリアとステータス信号 → 186
- 2 診断情報 → 187
- 3 対処法とサービス ID

i また、発生した診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。

- パラメータを使用 → 196
- サブメニューを使用 → 197

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断動作に対応するシンボルが現場表示器の診断情報の前に表示されます。



12.5.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。

- ホームページ上
対策情報は、診断情報の下の別個フィールドに表示されます。
- **診断** メニュー 内
対策情報はユーザーインターフェイスの作業エリアに呼び出すことが可能です。

診断 メニュー に移動します。

1. 必要なパラメータを呼び出します。

2. 作業エリアの右側で、パラメータの上にマウスポインタを移動させます。
 ↳ 診断イベントに対する対策情報のヒントが表示されます。

12.6 通信インタフェースを介した診断情報

12.6.1 診断情報の読み出し

診断情報は Modbus RS485 レジスタアドレスを介して読み出すことが可能です。

- レジスタアドレス **6821** 経由 (データ型 = 文字列): 診断コード、例: F270
- レジスタアドレス **6859** 経由 (データ型 = 整数): 診断コード、例: 270

 診断番号と診断コード付きの診断イベントの概要: →  192

12.6.2 エラー応答モードの設定

通信 サブメニューの 2 つのパラメータを使用して、Modbus RS485 通信のエラー応答モードを設定できます。

ナビゲーションパス

設定 → 通信

パラメータ概要 (簡単な説明付き)

パラメータ	説明	選択項目	工場設定
フェールセーフモード	Modbus 通信を介して診断メッセージが発生した場合の測定値出力を選択  このパラメータの影響は、 診断動作の割り当て パラメータでの選択項目に応じて異なります。	■ NaN の値 ■ 最後の有効値  NaN ≡ 非数	NaN の値

12.7 診断情報の適応

12.7.1 診断動作の適応

診断情報の各項目には、工場出荷時に特定の診断動作が割り当てられています。特定の診断情報については、ユーザーがこの割り当てを**診断時の動作** サブメニューで変更できます。

エキスパート → システム → 診断イベントの処理 → 診断時の動作

診断番号に診断動作として次の選択項目を割り当てることが可能です。

選択項目	説明
アラーム	機器が測定を停止します。Modbus RS485 を介した測定値の出力および 積算計が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。バックライトが赤に変わります。
警告	機器は測定を継続します。Modbus RS485 を介した測定値および積算計は影響を受けません。診断メッセージが生成されます。
ログブック入力のみ	機器は測定を継続します。診断メッセージは イベントログブック サブメニュー(イベントリスト サブメニュー) にのみ表示され、操作画面と交互に表示されることはありません。
オフ	診断イベントは無視され、診断メッセージの生成または入力行なわれません。

12.8 診断情報の概要

 機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合は、診断情報および関係する測定変数の数は増加します。

 診断情報の一部の項目では、診断動作を変更することが可能です。診断情報の適合 →  191

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
センサの診断				
002	不明なセンサ	1. 正しいセンサが接続されているか確認する 2. センサについている 2-D マトリックスコードが傷ついていないか確認する	F	Alarm
022	温度センサの故障	3. センサを交換してください。 1. もしあれば：センサと変換器間のケーブルの接続をチェックして下さい。 2. センサ電子モジュール (ISEM) をチェックまたは交換してください。	F	Alarm
046	センサの規定値を越えています	1. プロセスの状態をチェックしてください。 2. センサを調査してください。	S	Warning ¹⁾
062	センサの接続不良	3. センサを交換してください。 1. もしあれば：センサと変換器間のケーブルの接続をチェックして下さい。 2. センサ電子モジュール (ISEM) をチェックまたは交換してください。	F	Alarm
063	励磁電流が不十分	3. センサを交換してください。 1. もしあれば：センサと変換器間のケーブルの接続をチェックして下さい。 2. センサ電子モジュール (ISEM) をチェックまたは交換してください。	F	Alarm
082	保存データが不整合	モジュールの接続を確認する。	F	Alarm
083	メモリ内容が不整合	1. 機器の再起動 2. S-DAT データの復元 3. S-DAT の交換	F	Alarm
119	センサの初期化中	センサの初期化が進行中、お待ちください	C	Warning
140	センサ信号が不均整	3. センサを交換してください。 1. もしあれば：センサと変換器間のケーブルの接続をチェックして下さい。 2. センサ電子モジュール (ISEM) をチェックまたは交換してください。	S	Alarm ¹⁾
141	ゼロ調整失敗	1. プロセス状態を確認する 2. 設定手順を繰り返す 3. センサを確認する	F	Alarm
142	センサの指標コイル非対称が大き過ぎる	センサを確認する	S	Warning ¹⁾
144	過大な計測エラー	1. プロセス状態を確認してください。 2. センサをチェックするか交換してください。	F	Alarm ¹⁾
電子部の診断				
201	電子機器故障	1. 機器の再起動 2. 電子機器の交換	F	Alarm
242	ファームウェア互換性なし	1. ファームウェアのバージョンを確認。 2. フラッシュするか電子モジュールを交換。	F	Alarm

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
252	モジュールの互換性なし	1. 電子モジュールを確認 2. 正しいモジュールがあるかを確認 (例. 防爆、非防爆) 3. 電子モジュールを交換	F	Alarm
262	モジュール接続に障害	1. センサ電子モジュール (ISEM) とメイン電子基板間の接続ケーブルを確認または交換。 2. ISEM またはメイン電子基板を確認または交換。	F	Alarm
270	メイン基板の故障	1. 機器の再起動。 2. メイン電子モジュールの交換。	F	Alarm
271	メイン基板の不具合	1. 機器の再起動。 2. メイン電子モジュールの交換。	F	Alarm
272	メイン基板の不具合	機器を再起動	F	Alarm
273	メイン基板の故障	1. 表示器の非常時操作に注意して下さい。 2. メイン電子モジュールの交換。	F	Alarm
275	I/O モジュール故障	I/O モジュールの変更	F	Alarm
276	I/O モジュールの故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
283	メモリ内容が不整合	機器を再起動	F	Alarm
302	機器の検証がアクティブ	機器の検証がアクティブです、お待ちください。	C	Warning ¹⁾
303	I/O 1~n 構成変更	1. I/O モジュールの構成を適用する。(パラメータ 'I/O 構成の適用') 2. その後、DD を再読み込みして配線を確認する。	M	Warning
304	機器の検証のフェール	1. 検証レポートを確認する 2. 設定手順を繰り返す 3. センサを確認する	F	Alarm ¹⁾
311	センサ電子部 (ISEM) 故障	メンテナンスが必要! 機器をリセットしない	M	Warning
330	フラッシュファイルが無効	1. 機器のファームウェアをアップデートする。 2. 機器を再起動する。	M	Warning
331	ファームウェアのアップデートエラー	1. 機器のファームウェアをアップデートする。 2. 機器を再起動する。	F	Warning
332	組み込み HistoROM への書き込み失敗	1. ユーザインタフェースボードを交換してください 2. 防爆 : 変換器を交換	F	Alarm
361	I/O モジュール 1~n 誤り	1. 機器を再起動して下さい。 2. 電子モジュールをチェックして下さい。 3. IO モジュールまたはメイン電子モジュールを交換してください。	F	Alarm
369	マトリックスコードのスキナが故障	マトリックスコードスキナを交換する	F	Alarm
371	温度センサの故障	サービスへ連絡してください。	M	Warning
372	センサ電子部 (ISEM) 故障	1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. センサ電子モジュール (ISEM) を交換する。	F	Alarm
373	センサ電子部 (ISEM) 故障	データを転送するか機器をリセットする	F	Alarm
374	センサ電子部 (ISEM) 故障	1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. センサ電子モジュール (ISEM) を交換する。	S	Warning ¹⁾

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
375	I/O- 1～n 通信異常	1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. 電子モジュールを含むモジュールラックを交換する。	F	Alarm
378	ISEM への供給電圧に問題	1. 可能であれば、センサと変換器間の接続ケーブルを確認 2. メイン電子モジュールの交換 3. センサ電子モジュール(ISEM)の交換	F	Alarm
382	データストレージ	1. T-DAT を挿入する。 2. T-DAT を交換する。	F	Alarm
383	電子メモリ内容	機器をリセット	F	Alarm
387	HistROM データの問題	弊社サービスにご連絡ください	F	Alarm
設定の診断				
410	データ転送エラー	1. データ転送を再試行して下さい。 2. 接続をチェックして下さい。	F	Alarm
412	ダウンロード処理中	ダウンロード中です。しばらくお待ち下さい。	C	Warning
431	トリム 1～n が必要	調整の実行	M	Warning
437	設定の互換性なし	1. ファームウェアをアップデートする 2. 工場リセットを実行する	F	Alarm
438	データセットの不一致	1. データセットファイルを確認してください。 2. 機器の変数を確認してください。 3. 新しい機器の設定をダウンロードしてください。	M	Warning
441	電流出力 1～n 飽和	2. プロセスを確認します。 1. 電流出力の設定を確認します。	S	Warning ¹⁾
442	周波数出力 1～n 飽和	1. 周波数出力の設定を確認します。 2. プロセスを確認します。	S	Warning ¹⁾
443	パルス出力 1～n 飽和	1. パルス出力の設定を確認します。 2. プロセスを確認します。	S	Warning ¹⁾
444	電流入力 1～n 飽和	1. 電流入力の設定を確認します。 2. 接続されている機器を確認します。 3. プロセスを確認します。	S	Warning ¹⁾
453	流量の上書きが有効	流量オーバーライドの無効化	C	Warning
484	フェールセーフモードのシミュレーション実行中	シミュレータの無効化	C	Alarm
485	測定値のシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
486	電流入力 1～n シミュレーション中	シミュレータの無効化	C	Warning
491	電流出力 1～n のシミュレーション実行中	シミュレータの無効化	C	Warning
492	周波数出力 1～n シミュレーション中	シミュレーション周波数出力を無効にする。	C	Warning
493	パルス出力のシミュレーションが有効	シミュレーションパルス出力を無効にする	C	Warning
494	スイッチ出力 1～n シミュレーション中	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	C	Warning

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
495	診断イベントのシミュレーションを実行中	シミュレータの無効化	C	Warning
496	ステータス入力 1~n シミュレーション中	ステータス入力のシミュレーションを止める。	C	Warning
502	カスタディトランスファの有効化/無効化の失敗	カスタディトランスファの有効化/無効化の手順に従ってください;最初に許可されたユーザがログイン、それからメイン基板上的 DIP スイッチを設定してください。	C	Warning
520	I/O 1~n ハードウェア構成無効	1. I/O ハードの構成を確認 2. 問題のある I/O モジュールを交換 3. 正しいスロットにダブルパルスモジュールを挿入	F	Alarm
528	濃度計算ができません	選択した計算アルゴリズムの有効範囲を超えている。 1. 濃度設定を確認してください。 2. 測定値、例えば密度や温度、を確認してください。	S	Alarm
529	濃度計算結果が不正確	選択した計算アルゴリズムの有効範囲を超えている。 1. 濃度設定を確認してください。 2. 測定値、例えば密度や温度、を確認してください。	S	Warning
537	設定	1. IP アドレスの確認 2. IP アドレスの変更	F	Warning
540	カスタディトランスファーマード失敗	3. カスタディトランスファーマードを有効にする 1. 電源をオフにして DIP スイッチを切り替える 2. カスタディトランスファーマードを無効にする 3. 電子部品を確認する	F	Alarm
543	ダブルパルス出力	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. パルス出力の設定をチェックして下さい。	S	Warning ¹⁾
593	ダブルパルス出力 1 シミュレーション	シミュレーションパルス出力を無効にする	C	Warning
594	リレー出力 1~n シミュレーション中	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	C	Warning
599	カスタディトランスファークロブブッケー杯	1. 取り引きモードを無効にする。 2. 取り引きのログブック (30 項目) をクリアする。 3. 取り引きモードを有効にする。	F	Warning ¹⁾
プロセスの診断				
803	ループ電流 1 エラー	1. 配線のチェックをして下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
830	周囲温度が高すぎます	センサハウジングの周囲温度を下げて下さい。	S	Warning ¹⁾
831	周囲温度が低すぎます	センサハウジングの周囲温度を上げて下さい。	S	Warning ¹⁾
832	基板温度が高すぎます	周囲温度を下げて下さい。	S	Warning ¹⁾
833	基板温度が低すぎます	周囲温度を上げて下さい。	S	Warning ¹⁾
834	プロセス温度が高すぎます	プロセス温度を下げて下さい。	S	Warning ¹⁾
835	プロセス温度が低すぎます	プロセス温度を上げて下さい。	S	Warning ¹⁾

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
842	プロセス変数が下限以下	ローフローカットオフ有効! ローフローカットオフの設定を確認してください。	S	Warning ¹⁾
862	計測チューブが非満管	1. プロセス中の気泡を確認してください。 2. 検出限界を調整してください。	S	Warning ¹⁾
882	入力信号に問題	1. 入力信号の設定を確認する。 2. 外部機器を確認する。 3. プロセス状態を確認する。	F	Alarm
910	計測チューブ振動しない	1. 可能であればセンサと変換器間の接続ケーブルを確認する 2. センサ電子モジュール (ISEM) を確認あるいは交換する 3. センサを確認する	F	Alarm
912	流体が不均一	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. プロセス圧力を上げてください。	S	Warning ¹⁾
913	流体が適していない	1. プロセスの状態を確認 2. 電子モジュールまたはセンサの確認	S	Warning ¹⁾
915	粘度が仕様外	1. 2 相流を避ける 2. 圧力を上げる 3. 粘度と密度がレンジ内か確認する 4. プロセス状態を確認する	S	Warning ¹⁾
941	API/ASTM 温度が仕様外	1. プロセス温度を選択された API/ASTM コモディティグループと確認する 2. API/ASTM-関連パラメータを確認する	S	Warning ¹⁾
942	API/ASTM 密度が仕様外	1. プロセス密度を API/ASTM コモディティグループと確認する 2. API/ASTM-関連パラメータを確認する	S	Warning ¹⁾
943	API 圧力が仕様外	1. プロセス圧力を API コモディティグループと確認 2. API 関連パラメータを確認	S	Warning ¹⁾
944	モニタリングのフェール	Heartbeat モニタリングのプロセス状態のチェック	S	Warning ¹⁾
948	振動ダンピングが過大	プロセスの状態をチェックして下さい。	S	Warning ¹⁾
984	結露の危険	1. 周囲温度を下げる 2. 流体温度を上げる	S	Warning ¹⁾

1) 診断動作を変更できます。

12.9 未処理の診断イベント

診断 メニューを使用すると、現在の診断イベントおよび前回の診断イベントを個別に表示させることが可能です。



診断イベントの対処法を呼び出す方法：

- 現場表示器を使用→ 188
- ウェブブラウザを使用→ 189
- 「FieldCare」操作ツールを使用→ 190
- 「DeviceCare」操作ツールを使用→ 190



その他の未処理の診断イベントは**診断リスト** サブメニュー→ 197 に表示されます。

ナビゲーション
「診断」メニュー



パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
現在の診断結果	1つの診断イベントが発生していること。	診断情報に加えて現在発生している診断イベントを表示。  2つあるいはそれ以上のメッセージが同時に発生した場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ
前回の診断結果	すでに2つの診断イベントが発生していること。	診断情報に加えて以前に発生した現在の診断イベントを表示。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ
再起動からの稼働時間	–	最後に機器が再起動してからの機器の運転時間を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
稼働時間	–	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)

12.10 診断リスト

現在未処理の診断イベントを最大5件まで関連する診断情報とともに **診断リスト** サブメニューに表示できます。5件以上の診断イベントが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるイベントが表示部に示されます。

ナビゲーションパス
診断 → 診断リスト



図 40 現場表示器の使用例

-  診断イベントの対処法を呼び出す方法：
- 現場表示器を使用 → 188
 - ウェブブラウザを使用 → 189
 - 「FieldCare」操作ツールを使用 → 190
 - 「DeviceCare」操作ツールを使用 → 190

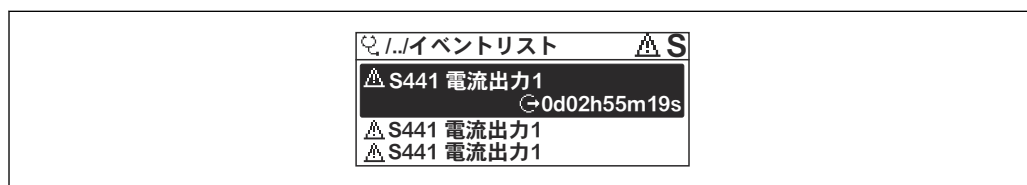
12.11 イベントログブック

12.11.1 イベントログの読み出し

イベントリストサブメニューでは、発生したイベントメッセージの一覧を時系列に表示できます。

ナビゲーションパス

診断 メニュー → イベントログブック サブメニュー → イベントリスト



A0014008-JA

図 41 現場表示器の使用例

- 最大 20 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。
- **拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合、イベントリストには最大 100 件までストア可能です。

イベント履歴には、次の入力項目が含まれます。

- 診断イベント → 図 192
- 情報イベント → 図 199

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルも割り当てられます。

- 診断イベント
 - ⊖：イベントの発生
 - ⊕：イベントの終了
- 情報イベント
 - ⊖：イベントの発生

i 診断イベントの対処法を呼び出す方法：

- 現場表示器を使用 → 図 188
- ウェブブラウザを使用 → 図 189
- 「FieldCare」操作ツールを使用 → 図 190
- 「DeviceCare」操作ツールを使用 → 図 190

i 表示されたイベントメッセージのフィルタリング → 図 198

12.11.2 イベントログブックのフィルタリング

フィルタオプション パラメータを使用すると、イベントリストサブメニューに表示するイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → フィルタオプション

フィルタカテゴリー

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報 (I)

12.11.3 診断イベントの概要

診断イベントとは異なり、情報イベントは診断リストには表示されず、イベントログブックにのみ表示されます。

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1079	センサが交換されました。
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済
I1092	HistoROM のバックアップ削除
I1111	密度調整エラー
I11280	ゼロ点検証と調整を推奨します
I11281	ゼロ点検証と調整を推奨しません
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1156	メモリエラー トレンド
I1157	メモリエラー イベントリスト
I1209	密度調整 OK
I1221	ゼロ点調整エラー
I1222	ゼロ点調整 OK
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1278	I/O モジュールの再スタート
I1335	ファームウェアの変更
I1361	Web サーバ:ログイン失敗
I1397	フィールドバス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1444	機器の検証パス
I1445	機器の検証のフェール
I1447	基準データとして記録する
I1448	アプリケーションの基準データを記録する
I1449	アプリケーションの基準データの記録失敗
I1450	モニタリング オフ
I1451	モニタリング オン
I1457	フェール: 測定エラー検証
I1459	フェール: I/O モジュールの検証
I1460	センサの健全性(HBSI)検証失敗
I1461	フェール: センサの検証
I1462	フェール: センサの電子機器モジュールの検証
I1512	ダウンロードを開始しました
I1513	ダウンロード終了
I1514	アップロード開始
I1515	アップロード完了

情報番号	情報名
I1517	保税取引有効(国外)
I1518	カスタディトランスファード起動されていない
I1618	I/O モジュール 2 交換
I1619	I/O モジュール 3 交換
I1621	I/O モジュール 4 交換
I1622	校正の変更
I1624	全積算計のリセット
I1625	書き込み保護有効
I1626	書き込み禁止無効
I1627	Web サーバ:ログイン成功
I1628	ディスプレイ:ログイン成功
I1629	CDI: ログイン成功
I1631	Web サーバアクセス変更
I1632	ディスプレイ:ログイン失敗
I1633	CDI: ログインの失敗
I1634	工場初期値にリセット
I1635	出荷時設定にリセット
I1639	最大のスイッチサイクル数へ到達
I1643	カスタディトランスファードログブックのクリア
I1649	ハードウェアの書き込み保護が有効
I1650	ハードウェアの書き込み保護は無効
I1651	カスタディトランスファード変数変更
I1712	新しいフラッシュファイルを受領
I1725	センサ電子部モジュール (ISEM) 交換
I1726	設定のバックアップ失敗

12.12 機器のリセット

機器リセット パラメータ (→ 図 149)を使用して、機器の全設定または一部の設定を所定の状態にリセットできます。

12.12.1 「機器リセット」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
納入時の状態に	ユーザー固有の初期設定で注文されたすべてのパラメータをユーザー固有の値にリセットします。その他のパラメータはすべて、工場出荷時の設定にリセットされます。
機器の再起動	再起動により、揮発性メモリ (RAM) に保存されているデータをもつすべてのパラメータが工場設定にリセットされます (例: 測定値データ)。機器設定に変更はありません。
S-DAT のバックアップをリストア	S-DAT に保存されているデータを復元します。追加情報: この機能はメモリの "083 メモリ内容が不整合"を解決するためまたは、新しい S - DAT を取り付けたときに S-DAT のデータを復元するために使用できます。  このオプションはアラーム状態でのみ表示されます。

12.13 機器情報

機器情報 サブメニューには、機器の識別に必要な各種情報を表示するパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 機器情報

▶ 機器情報		
デバイスのタグ	→	📄 201
シリアル番号	→	📄 201
ファームウェアのバージョン	→	📄 201
機器名	→	📄 201
製造者		
オーダーコード	→	📄 201
拡張オーダーコード 1	→	📄 201
拡張オーダーコード 2	→	📄 202
拡張オーダーコード 3	→	📄 202
ENP バージョン	→	📄 202

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
デバイスのタグ	機器のタグを表示します。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）	Promass
シリアル番号	機器のシリアル番号の表示。	最大 11 文字の英字および数字	-
ファームウェアのバージョン	ファームウェアバージョンの表示。	形式 xx.yy.zz の文字列	-
機器名	変換器の名称の表示。  名称は変換器の銘板に明記されています。	Promass 300/500	-
オーダーコード	機器のオーダーコードの表示。  オーダーコードはセンサおよび変換器の銘板の「オーダーコード」欄に明記されています。	英字、数字、特定の句読点（/ など）で構成される文字列	-
拡張オーダーコード 1	拡張オーダーコードの 1 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	-

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
拡張オーダーコード 2	拡張オーダーコードの 2 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	–
拡張オーダーコード 3	拡張オーダーコードの 3 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	–
ENP バージョン	電子ネームプレート (ENP) のバージョンを表示。	文字列	2.02.00

12.14 ファームウェアの履歴

リリース日付	ファームウェアのバージョン	「ファームウェアのバージョン」のオーダーコード	ファームウェア変更	資料の種類	関連資料
2022 年 8 月	01.06.zz	オプション 58	■ 新しい気体タイプ：メタン (水素含有) ■ 現場表示器の 8 つの表示値 ■ ゼロ点検証およびゼロ調整ウィザード ■ 新しい密度単位：°API ■ 新しい診断パラメータ ■ Heartbeat Technology レポート用の追加言語	取扱説明書	BA01540D/06/EN/06.22
2019 年 9 月	01.05.zz	オプション 64	■ ガスフラクシオンハンドラー 適応フィルタ、気泡混入の指標 ■ アプリケーション固有の入力モジュール ■ 石油アプリケーションパッケージのアップグレード	取扱説明書	BA01540D/06/EN/04.19
2018 年 10 月	01.02.zz	オプション 65	■ 「StdBarrelOil」および「MillionStdCubicFeetPerDay」単位の統合 ■ 「加重平均」流量ブロックの機能変更： ■ 加重密度平均 ■ 加重温度平均	取扱説明書	BA01540D/06/EN/03.18

リリース 日付	ファームウェアのバージョン	「ファームウェアのバージョン」のオーダーコード	ファームウェア変更	資料の種類	関連資料
2017 年 10 月	01.01.zz	オプション 70	■ 石油新規 ■ 濃度更新 ■ 現場表示器 - 性能向上およびテキストエディタによるデータ入力 ■ 現場表示器のキーパッドロックを最適化 ■ 取引計量測定に関する改善および強化 ■ Web サーバー機能更新 ■ トレンドデータ機能のサポート ■ 詳細結果を含めるために強化された Heartbeat 機能 (レポートの 3/4 ページ) ■ 機器設定 PDF (パラメータログ、FDT 印刷と同様に) ■ イーサネット (サービス) インタフェースのネットワーク機能 ■ 包括的な Heartbeat 機能更新 ■ 現場表示器 - WLAN インフラモードのサポート ■ リセットコードの実装	取扱説明書	BA01540D/06/EN/02.17
2016 年 8 月	01.00.zz	オプション 76	オリジナルファームウェア	取扱説明書	BA01540D/06/EN/01.16

 サービスインタフェース (CDI) を使用してファームウェアを現行バージョンまたは旧バージョンに書き換えることができます。ファームウェアのバージョンの互換性については、「機器の履歴と互換性」セクションを参照してください。
→  204

 ファームウェアのバージョンと以前のバージョン、インストールされた DD ファイルおよび操作ツールとの互換性については、メーカー情報資料の機器情報を参照してください。

 メーカー情報は、以下から入手できます。

- 当社ウェブサイトのダウンロードエリアより : www.endress.com → Download
- 次の詳細を指定します。
 - 製品ルートコード : 例、8F5B
製品ルートコードはオーダーコードの最初の部分 : 機器の銘板を参照
 - テキスト検索 : メーカー情報

- メディアタイプ：ドキュメント – 技術資料

12.15 機器の履歴と互換性

機器モデルは、機器銘板のオーダーコードに明記されています（例：8F3BXX-XXX....XXXA1-XXXXXX）。

機器モデル	リリース	旧型モデルとの変更点	旧型モデルとの互換性
A2	2019 年 9 月	I/O モジュールの性能および機能の向上： 機器ファームウェア 01.05.zz を参照 → 図 202	なし
A1	2016 年 8 月	-	-

13 メンテナンス

13.1 メンテナンス作業

特別なメンテナンス作業は不要です。

13.1.1 外部洗浄

機器の外部を洗浄する場合は、必ずハウジングまたはシールの表面に傷をつけない洗浄剤を使用してください。

13.1.2 内部洗浄

CIP および SIP 洗浄を行う場合は、次の点に注意してください。

- プロセス接液部材質の耐久性を十分に確保できる洗浄剤のみを使用してください。
- 機器の最高許容測定物温度に従ってください。

13.2 測定機器およびテスト機器

Endress+Hauser は、Netilion やテスト機器など、さまざまな測定機器やテスト機器を提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

一部の測定機器およびテスト機器のリスト：→  210

13.3 当社サービス

Endress+Hauser では、再校正、メンテナンスサービス、機器テストなど、メンテナンスに関する幅広いサービスを提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

14 修理

14.1 一般的注意事項

14.1.1 修理および変更コンセプト

Endress+Hauser の修理および変更コンセプトでは、次のことが考慮されています。

- 機器はモジュール式の構造となっています。
- スペアパーツは合理的なキットに分類され、関連する取付指示が付属します。
- 修理は、Endress+Hauser サービス担当または適切な訓練を受けたユーザーが実施します。
- 認証を取得した機器は、Endress+Hauser サービス担当または工場でのみ別の認証取得機器に交換できます。

14.1.2 修理および変更に関する注意事項

機器の修理および変更を行う場合は、以下の点に注意してください。

- ▶ 当社純正スペアパーツのみを使用してください。
- ▶ 取付指示に従って修理してください。
- ▶ 適用される規格、各地域/ 各国の規定、防爆資料 (XA)、認証を遵守してください。
- ▶ すべての修理/変更作業を文書化し、Netilion Analytics に詳細情報を入力してください。

14.2 スペアパーツ

デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) :

機器のスペアパーツがすべてオーダーコードとともにリストされており、注文することが可能です。関連する設置要領書がある場合は、これをダウンロードすることもできます。

 機器シリアル番号 :

- 機器の銘板に明記されています。
- **機器情報** サブメニュー 内の **シリアル番号** パラメータ (→ ⓘ 201) を使用して読み出せます。

14.3 Endress+Hauser サービス

Endress+Hauser は、さまざまなサービスを提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

14.4 返却

機器の安全な返却要件は、機器の種類と各国の法によって異なります。

1. ウェブページの情報を参照してください。
<https://www.endress.com/support/return-material>
↳ 地域を選択します。
2. 機器を返却する場合、機器が衝撃や外部の影響から確実に保護されるように梱包してください。納入時の梱包材を使用すると、最適な保護効果が得られます。

14.5 廃棄



電子・電気機器廃棄物（WEEE）に関する指令 2012/19/EU により必要とされる場合、分別されていない一般廃棄物として処理する WEEE を最小限に抑えるため、製品には絵文字シンボルが付いています。このマークが付いている製品は、分別しない一般ゴミとしては廃棄しないでください。代わりに、適切な条件下で廃棄するために製造者へご返送ください。

14.5.1 機器の取外し

1. 機器の電源をオフにします。

警告

プロセス条件によっては、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 機器内の圧力、高温、腐食性測定物を使用するなど、危険なプロセス条件の場合は注意してください。

2. 「機器の取付け」および「機器の接続」セクションに明記された取付けおよび接続手順と逆の手順を実施してください。安全上の注意事項に従ってください。

14.5.2 機器の廃棄

警告

健康に有害な流体によって、人体や環境に危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 隙間に入り込んだ、またはプラスチックから拡散した物質など、健康または環境に有害な残留物を、機器および隙間の溝からすべて確実に除去してください。

廃棄する際には、以下の点に注意してください。

- ▶ 適用される各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 機器コンポーネントを適切に分別および再利用してください。

15 アクセサリ

変換器およびセンサには、アクセサリも多数用意されています。詳細については、最寄りの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。オーダーコードに関する詳細は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

15.1 機器固有のアクセサリ

15.1.1 変換器用

アクセサリ	説明
変換器 ■ Proline 500 – デジタル ■ Proline 500	交換用あるいは在庫用変換器。オーダーコードを使用して以下の仕様を指定します。 ■ 認証 ■ 出力 ■ 入力 ■ 表示/操作 ■ハウジング ■ ソフトウェア  ■ Proline 500 – デジタル変換器： オーダー番号：8X5BXX-*****A ■ Proline 500 変換器： オーダー番号：8X5BXX-*****B  交換用の Proline 500 変換器： 注文時に現在の変換器のシリアル番号を明示することが重要です。シリアル番号に基づき、交換した機器の機器固有のデータ（例：校正ファクタ）を新しい変換器で使用することが可能です。  ■ Proline 500 – デジタル変換器：設置要領書 EA01151D ■ Proline 500 変換器：設置要領書 EA01152D
外部の WLAN アンテナ	外部の WLAN アンテナ、接続ケーブル 1.5 m (59.1 in) と 2 つのアンクル金具付き。「同梱アクセサリ」のオーダーコード、オプション P8「広域ワイヤレスアンテナ」  ■ 外部の WLAN アンテナは、サニタリアプリケーションでの使用には適していません。 ■ WLAN インタフェースに関する追加情報 → 86。  オーダー番号：71351317  設置要領書 EA01238D
パイプ取付セット	変換器用パイプ取付セット  Proline 500 – デジタル変換器 オーダー番号：71346427  設置要領書 EA01195D  Proline 500 変換器 オーダー番号：71346428
日除けカバー 変換器 ■ Proline 500 – デジタル ■ Proline 500	天候（例：雨水、直射日光による過熱）の影響から機器を保護するために使用します。  ■ Proline 500 – デジタル変換器 オーダー番号：71343504 ■ Proline 500 変換器 オーダー番号：71343505  設置要領書 EA01191D

ディスプレイガード Proline 500 – デジタル	たとえば、砂漠地域での砂などの衝撃または傷から表示部を保護するために使用します。  オーダー番号：71228792  設置要領書 EA01093D
接続ケーブル Proline 500 – デジタル センサ – 変換器	接続ケーブルは機器と一緒に（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）、またはアクセサリとして注文できます（オーダー番号 DK8012）。 以下のケーブル長が用意されています（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）。 ■ オプション B：20 m (65 ft) ■ オプション E：最大 50 m までユーザー設定可能 ■ オプション F：最大 165 ft までユーザー設定可能  Proline 500 – デジタル接続ケーブルの許容最大ケーブル長：300 m (1000 ft)
接続ケーブル Proline 500 センサ – 変換器	接続ケーブルは機器と一緒に（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）、またはアクセサリとして注文できます（オーダー番号 DK8012）。 以下のケーブル長が用意されています（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）。 ■ オプション 1：5 m (16 ft) ■ オプション 2：10 m (32 ft) ■ オプション 3：20 m (65 ft)  Proline 500 接続ケーブルの許容ケーブル長：最大 20 m (65 ft)

15.1.2 センサ用

アクセサリ	説明
スチームジャケット	センサ内の流体温度を一定に保つために使用します。流体として使用できるのは、水、蒸気、その他の非腐食性液体です。  測定物としてオイルを使用する場合は、Endress+Hauser にお問い合わせください。 スチームジャケットを、破裂板を装備したセンサと併せて使用することはできません。 製品ルート DK8003 付きのオーダーコードを使用します。  個別説明書 SD02156D

15.2 サービス関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
Applicator	Endress+Hauser 製計測機器のセレクション/サイジング用ソフトウェア。 - 産業要件に応じた計測機器の選定 - 最適な流量計を選定するために必要なあらゆるデータの計算（例：呼び口径、圧力損失、流速、測定精度） - 計算結果のグラフィック表示 - プロジェクトの全期間中、部分オーダーコードの確認、あらゆるプロジェクト関連データおよびパラメータの管理、文書化、アクセスが可能です。 Applicator は以下から入手可能： インターネット経由：https://portal.endress.com/webapp/applicator
Netilion	IIoT エコシステム：いつでもどこでも必要な情報を取得できます。 Endress+Hauser の Netilion IIoT エコシステムにより、プラント性能の最適化、ワークフローのデジタル化、知識の共有、コラボレーションの強化を実現できます。 Endress+Hauser は、長年にわたるプロセスオートメーションでの経験を活かして、プロセス産業に IIoT エコシステムを構築し、提供されるデータから有益な知識や情報を容易に取得できるようにします。その情報を活用してプロセスを最適化できるため、プラントの可用性、効率、信頼性が向上し、最終的にはプラントの収益向上につながります。 www.netilion.endress.com
FieldCare	Endress+Hauser の FDT ベースのプラントアセット管理ツールです。 システム内のすべてのインテリジェントフィールド機器を設定できるため、フィールド機器の管理に役立ちます。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を容易かつ効果的にチェックできます。  取扱説明書 BA00027S / BA00059S
DeviceCare	Endress+Hauser 製フィールド機器の接続および設定用ツール。  イノベーションカタログ IN01047S

15.3 システムコンポーネント

アクセサリ	説明
Memograph M グラフィックデータマネージャ	Memograph M グラフィックデータマネージャには、関連する測定変数の情報がすべて表示されます。測定値を正確に記録し、リミット値の監視、測定点の解析を行います。これらのデータは 256 MB の内部メモリに保存されます。また、SD カードや USB メモリにも保存できます。  - 技術仕様書 TI00133R - 取扱説明書 BA00247R
Cerabar M	気体、蒸気、液体の絶対圧およびゲージ圧測定用の圧力伝送器です。プロセス圧力値の読み込みに使用できます。  - 技術仕様書 TI00426P / TI00436P - 取扱説明書 BA00200P / BA00382P
Cerabar S	気体、蒸気、液体の絶対圧およびゲージ圧測定用の圧力伝送器です。プロセス圧力値の読み込みに使用できます。  - 技術仕様書 TI00383P - 取扱説明書 BA00271P
iTEMP	あらゆるアプリケーションに使用でき、気体、蒸気、液体の測定に最適な温度伝送器です。流体温度の読み込みに使用できます。  「活用分野」資料 FA00006T

16 技術データ

16.1 アプリケーション

本機器は、液体および気体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。
注文したバージョンに応じて、本機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。
機器が耐用年数にわたって適切な動作条件を維持することを保証するため、接液部材質が十分に耐性のある測定物にのみ使用してください。

16.2 機能とシステム構成

測定原理	コリオリの原理に基づく質量流量測定
計測システム	計測システムは、変換器とセンサで構成されています。変換器とセンサは物理的に別の場所に設置されます。これらは接続ケーブルを使用して相互に接続されます。 計測機器の構成に関する情報 →  13

入力

設定されたフルスケール値を流量が超えても電子モジュールはオーバーライドされず、積算値が正確に測定されます。

入力信号

外部測定値

特定の測定変数の測定精度を上げるため、または気体の基準体積流量を計算するため、オートメーションシステムにより機器にさまざまな測定値を連続して書き込むことができます。

- 測定精度を向上させるためのプロセス圧力（Endress+Hauser では絶対圧力用の圧力伝送器（例：Cerabar M、Cerabar S）の使用を推奨）
- 測定精度を向上させるための測定物温度（例：iTEMP）
- 気体の基準体積流量を計算するための基準密度

 Endress+Hauser では各種の圧力伝送器と温度計を用意しています。「アクセサリ」セクションを参照してください。→  210

基準体積流量を計算するために外部測定値を読み込むことを推奨します。

電流入力

電流入力を介して測定値がオートメーションシステムから機器に書き込まれます
→  213。

デジタル通信

Modbus RS485 を介して、測定値がオートメーションシステムから書き込まれます。

電流入力 0/4～20 mA

電流入力	0/4～20 mA（アクティブ/パッシブ）
電流スパン	■ 4～20 mA（アクティブ） ■ 0/4～20 mA（パッシブ）
分解能	1 µA
電圧降下	通常：0.6～2 V、3.6～22 mA の場合（パッシブ）
最大入力電圧	≤ 30 V（パッシブ）
開回路電圧	≤ 28.8 V（アクティブ）
可能な入力変数	■ 圧力 ■ 温度 ■ 密度

ステータス入力

最大入力値	■ DC -3～30 V ■ ステータス入力 that アクティブ（オン）な場合：$R_i > 3\text{ k}\Omega$
応答時間	設定可能：5～200 ms
入力信号レベル	■ ローレベル：DC -3～+5 V ■ ハイレベル：DC 12～30 V
割り当て可能な機能	■ オフ ■ 各種算計を個別にリセット ■ すべての積算計をリセット ■ 流量の強制ゼロ出力

16.4 出力

出力信号

Modbus RS485

物理的インターフェイス	RS485 は EIA/TIA-485 規格に準拠
終端抵抗	内蔵、DIP スイッチにより使用可能

電流出力 4~20 mA

信号モード	可能な設定 : ■ アクティブ ■ パッシブ
電流範囲	可能な設定 : ■ 4~20 mA NAMUR ■ 4~20 mA US ■ 4~20 mA ■ 0~20 mA (信号モードが有効な場合のみ) ■ 固定電流値
最大出力値	22.5 mA
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
最大入力電圧	DC 30 V (パッシブ)
負荷	0~700 Ω
分解能	0.38 μA
ダンピング	設定可能 : 0~999.9 秒
割当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度 ■ 振動周波数 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 信号の非対称性 ■ 励磁電流 0  機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。

パルス/周波数/スイッチ出力

機能	パルス、周波数、またはスイッチ出力として設定可能
バージョン	オープンコレクタ 可能な設定 : ■ アクティブ ■ パッシブ ■ パッシブ NAMUR  Ex-i、パッシブ
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
電圧降下	22.5 mA の場合 : ≤ DC 2 V
パルス出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)

最大出力電流	22.5 mA (アクティブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
パルス幅	設定可能 : 0.05~2 000 ms
最大パルスレート	10 000 Impulse/s
パルス値	設定可能
割当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量  機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。
周波数出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
最大出力電流	22.5 mA (アクティブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
出力周波数	設定可能 : 周波数終了値 2~10 000 Hz ($f_{\max} = 12\,500$ Hz)
ダンピング	設定可能 : 0~999.9 秒
ハイ/ロー	1:1
割当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度 ■ 振動周波数 0 ■ 振動ダンピング 0 ■ 信号の非対称性 ■ 励磁コイル電流 0  機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。
スイッチ出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
スイッチング動作	バイナリ、導通または非導通
スイッチング遅延	設定可能 : 0~100 秒
スイッチング回数	無制限
割当て可能な機能	■ 無効 ■ オン ■ 診断時の動作 ■ リミット ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度 ■ 積算計 1~3 ■ 流れ方向監視 ■ ステータス ■ 非満管の検出 ■ ローフローカットオフ  機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。

ダブルパルス出力

機能	ダブルパルス
バージョン	オープンコレクタ 可能な設定： ■ アクティブ ■ パッシブ ■ パッシブ NAMUR
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
電圧降下	22.5 mA の場合：≤ DC 2 V
出力周波数	設定可能：0～1000 Hz
ダンピング	設定可能：0～999 秒
ハイ/ロー	1:1
割当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度  機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。

リレー出力

機能	スイッチ出力
バージョン	リレー出力、電氣的に絶縁
スイッチング動作	可能な設定： ■ NO (ノーマルオープン)、工場設定 ■ NC (ノーマルクローズ)
最大スイッチング容量 (パッシブ)	■ DC 30 V、0.1 A ■ AC 30 V、0.5 A
割当て可能な機能	■ 無効 ■ オン ■ 診断時の動作 ■ リミット ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度 ■ 積算計 1～3 ■ 流れ方向監視 ■ ステータス ■ 非満管の検出 ■ ローフローカットオフ  機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。

ユーザー設定可能な入力/出力

機器設定中に特定の入力または出力の **1 つ** がユーザー設定可能な入力/出力（設定可能な I/O）に割り当てられます。

以下の入力および出力の割り当てが可能です。

- 電流出力の選択：4～20 mA（アクティブ）、0/4～20 mA（パッシブ）
- パルス/周波数/スイッチ出力
- 電流入力を選択：4～20 mA（アクティブ）、0/4～20 mA（パッシブ）
- ステータス入力

アラーム時の信号

インターフェイスに応じて、以下のようにエラー情報が表示されます。

Modbus RS485

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 現在値の代わりに NaN 値（非数） ■ 最後の有効値
------------	--

電流出力 0/4～20 mA

4～20 mA

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 4～20 mA、NAMUR 推奨 NE 43 に準拠 ■ 4～20 mA、US に準拠 ■ 最小値：3.59 mA ■ 最大値：22.5 mA ■ 設定可能な値範囲：3.59～22.5 mA ■ 実際の値 ■ 最後の有効値
------------	---

0～20 mA

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 最大アラーム：22 mA ■ 設定可能な値範囲：0～20.5 mA
------------	--

パルス/周波数/スイッチ出力

パルス出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 実際の値 ■ パルスなし
周波数出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 実際の値 ■ 0 Hz ■ 設定可能な値範囲：2～12 500 Hz
スイッチ出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 現在のステータス ■ オープン ■ クローズ

リレー出力

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 現在のステータス ■ オープン ■ クローズ
------------	--

現場表示器

ブレーンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
バックライト	赤色は機器エラーを示します。

 NAMUR 推奨 NE 107 に準拠するステータス信号

インタフェース/プロトコル

- デジタル通信経由：
Modbus RS485
- サービスインタフェース経由
 - CDI-RJ45 サービスインタフェース
 - WLAN インタフェース

ブレーンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
------------	--------------

ウェブブラウザ

ブレーンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
------------	--------------

発光ダイオード（LED）

ステータス情報	各種 LED でステータスを示します。 機器バージョンに応じて以下の情報が表示されます。 ■ 電源電圧がアクティブ ■ データ伝送がアクティブ ■ 機器アラーム/エラーが発生  発光ダイオードによる診断情報 →  183
---------	---

ローフローカットオフ ローフローカットオフ値はユーザーが任意に設定可能

電氣的絶縁 出力は、以下から電氣的に絶縁されています。

- 電源から
- 相互に
- 電位平衡（PE）端子から

プロトコル固有のデータ

プロトコル	Modbus アプリケーションプロトコル仕様 V1.1
応答時間	■ 直接データ接続：標準 25～50 ms ■ 自動スキャンバッファ（データ範囲）：標準 3～5 ms
機器タイプ	スレーブ
スレーブアドレス範囲	1～247
信号送信アドレス範囲	0
機能コード	■ 03：保持レジスタの読み出し ■ 04：入力レジスタの読み出し ■ 06：シングルレジスタへの書き込み ■ 08：診断 ■ 16：連続したレジスタへの書き込み ■ 23：連続したレジスタへの書き込みと読み込み

信号送信メッセージ	以下の機能コードで対応： 06：シングルレジスタへの書き込み 16：連続したレジスタへの書き込み 23：連続したレジスタへの書き込みと読み込み
対応通信速度	1 200 BAUD 2 400 BAUD 4 800 BAUD 9 600 BAUD 19 200 BAUD 38 400 BAUD 57 600 BAUD 115 200 BAUD
データ伝送モード	- ASCII - RTU
データアクセス	各機器パラメータは、Modbus RS485 を介してアクセス可能です。  Modbus レジスタ情報
旧型モデルとの互換性	機器を交換した場合、Promass 500 機器は、旧型モデルの Promass 83 とのプロセス変数および診断情報に関する Modbus レジスタの互換性をサポートします。オートメーションシステムでエンジニアリングパラメータを変更する必要はありません。
システム統合	システム統合に関する情報 → 91 - Modbus RS485 情報 - 機能コード - レジスタ情報 - 応答時間 - Modbus データマップ

16.5 電源

端子の割当て → 40

電源電圧

オーダーコード 「電源」	端子電圧		周波数範囲
オプション D	DC 24 V	±20%	–
オプション E	AC100～240 V	–15...+10%	50/60 Hz
オプション I	DC 24 V	±20%	–
	AC100～240 V	–15...+10%	50/60 Hz

消費電力

変換器

最大 10 W（有効電力）

電源投入時の突入電流：	最大 36 A（< 5 ms）、NAMUR 推奨 NE 21 に準拠
-------------	------------------------------------

消費電流

変換器

- 最大 400 mA（24 V）
- 最大 200 mA（110 V、50/60 Hz；230 V、50/60 Hz）

電源故障時/停電時

- 積算計は測定された最後の有効値で停止します。
- 機器バージョンに応じて、設定は機器メモリまたは取り外し可能なデータメモリ（HistoROM DAT）に保持されます。
- エラーメッセージ（総稼働時間を含む）が保存されます。

過電流保護エレメント

機器本体には ON/OFF スイッチがないため、本機器は専用のブレーカと組み合わせて操作する必要があります。

■

ブレーカは手の届きやすい場所に配置し、適切なラベルを貼付してください。

■

ブレーカの許容公称電流：2 A、最大 10 A

電気接続

■

→

図

 42

■

→

図

 49

電位平衡

→

図

 55

端子

スプリング端子：より線およびスリーブ付きより線に最適
導体断面積 0.2～2.5 mm² (24～12 AWG)

電線管接続口

■

ケーブルグラウンド：M20 × 1.5 使用ケーブル Ø 6～12 mm (0.24～0.47 in)

■

電線管接続口用ねじ：

■

NPT ½"

■

G ½"

■

M20

■

接続ケーブル用の機器プラグ：M12
機器プラグは、必ず「センサ接続ハウジング」のオーダーコード、オプション C「超小型、サニタリ、ステンレス」の機器バージョン用に使用されます。

ケーブル仕様

→

図

 35

過電圧保護

電源電圧変動

→

図

 219

過電圧カテゴリー

過電圧カテゴリー II

短期的、一時的な過電圧

ケーブルと接地間：最大 1200 V（最大 5 秒 間）

長期的、一時的な過電圧

ケーブルと接地間：最大 500 V

16.6 性能特性

基準動作条件	■ ISO 11631 に基づくエラーリミット ■ 水 ■ +15～+45 °C (+59～+113 °F) ■ 0.2～0.6 MPa (29～87 psi) ■ データは校正プロトコルに示す通り ■ ISO 17025 に準拠した認定校正装置に基づく精度  測定誤差を確認するには、Applicator サイジング用ツールを使用してください。 → 図 210	
最大測定誤差	o.r. = 読み値、1 g/cm ³ = 1 kg/l、T = 流体温度 基準精度  「精度の考え方」参照 → 図 225	

質量流量および体積流量（液体）

- $\pm 0.05\%$ o.r. (質量流量用のオプション：プレミアム校正；「校正流量」のオーダーコード、オプション D)
- $\pm 0.10\%$ o.r. (標準)

質量流量（気体） $\pm 0.25\%$ o.r.**質量流量（ $-100\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($-148\text{ }^{\circ}\text{F}$) 以下の低温液体および気体）** $\pm 0.35\%$ o.r. (「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション LA)**密度（液体）**

基準条件下	標準密度校正	高精度 密度仕様 ^{1) 2)}	拡張密度校正 ^{3) 4)}
[g/cm ³]	[g/cm ³]	[g/cm ³]	[g/cm ³]
± 0.0005	± 0.0005	± 0.001	± 0.0005

- 1) 高精度密度校正の有効範囲： $0\sim 2\text{ g/cm}^3$ 、 $+5\sim +80\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($+41\sim +176\text{ }^{\circ}\text{F}$)
- 2) 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EE「高精度密度」(呼び口径 $\leq 100\text{ mm}$ の場合)
- 3) 拡張密度校正の有効範囲： $0\sim 2\text{ g/cm}^3$ 、 $+20\sim +60\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($+68\sim +140\text{ }^{\circ}\text{F}$)
- 4) 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション E1「拡張密度」

密度（ $-100\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($-148\text{ }^{\circ}\text{F}$) 以下の低温液体および気体） $\pm 0.05\text{ g/cm}^3$ (「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション LA)**温度** $\pm 0.5\text{ }^{\circ}\text{C} \pm 0.005 \cdot T\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($\pm 0.9\text{ }^{\circ}\text{F} \pm 0.003 \cdot (T - 32)\text{ }^{\circ}\text{F}$)**ゼロ点の安定度**

呼び口径		ゼロ点の安定度	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
8	$\frac{3}{8}$	0.030	0.001
15	$\frac{1}{2}$	0.200	0.007
25	1	0.540	0.019
40	$1\frac{1}{2}$	2.25	0.083
50	2	3.50	0.129
80	3	9.0	0.330
100	4	14.0	0.514
150	6	32.0	1.17
250	10	88.0	3.23

高温バージョン：「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション TS、TT、TU

呼び口径		ゼロ点の安定度	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
15	$\frac{1}{2}$	0.3	0.011
25	1	1.8	0.0662
50	2	7	0.2573

呼び口径		ゼロ点の安定度	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
80	3	18	0.6615
100	4	21	0.7718
150	6	48	1.764
250	10	132	4.851

低温バージョン、「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション LA の機器の場合は、次の点に注意してください。

注記

低温液体の気化により、現場でゼロ点の確認およびゼロ調整を実施することは困難です。

- ▶ 原則として、工場設定されたゼロ点を変更しないでください。ゼロ調整を実施する必要がある場合は、測定物が液相になっていることを確認してください。

流量値

ターンダウンパラメータとしての流量値は呼び口径に依存します。

SI 単位

呼び口径	1:1	1:10	1:20	1:50	1:100	1:500
[mm]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]
8	2 000	200	100	40	20	4
15	6 500	650	325	130	65	13
25	18 000	1 800	900	360	180	36
40	45 000	4 500	2 250	900	450	90
50	70 000	7 000	3 500	1 400	700	140
80	180 000	18 000	9 000	3 600	1 800	360
100	350 000	35 000	17 500	7 000	3 500	700
150	800 000	80 000	40 000	16 000	8 000	1 600
250	2 200 000	220 000	110 000	44 000	22 000	4 400

US 単位

呼び口径	1:1	1:10	1:20	1:50	1:100	1:500
[inch]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]
$\frac{3}{8}$	73.50	7.350	3.675	1.470	0.735	0.147
$\frac{1}{2}$	238.9	23.89	11.95	4.778	2.389	0.478
1	661.5	66.15	33.08	13.23	6.615	1.323
1½	1 654	165.4	82.70	33.08	16.54	3.308
2	2 573	257.3	128.7	51.46	25.73	5.146
3	6 615	661.5	330.8	132.3	66.15	13.23
4	12 860	1 286	643.0	257.2	128.6	25.72
6	29 400	2 940	1 470	588	294	58.80
10	80 850	8 085	4 043	1 617	808.5	161.7

出力の精度

出力の基準精度は、以下の通りです。

電流出力

精度	±5 µA
----	-------

パルス/周波数出力

o.r. = 読み値

精度	最高 ±50 ppm o.r. (全周囲温度範囲に対して)
----	-------------------------------

繰返し性

o.r. = 読み値 ; $1 \text{ g/cm}^3 = 1 \text{ kg/l}$, T = 流体温度

基準の繰返し性

 「精度の考え方」 参照 → 225

質量流量および体積流量 (液体)

±0.025 % o.r. (プレミアム校正)

±0.05 % o.r.

質量流量 (気体)

±0.20 % o.r.

質量流量 (−100 °C (−148 °F) 以下の低温液体および気体)

±0.175 % o.r. (「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション LA)

密度 (液体)

±0.00025 g/cm³

密度 (−100 °C (−148 °F) 以下の低温液体および気体)

±0.025 g/cm³ (「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション LA)

温度

±0.25 °C ± 0.0025 · T °C (±0.45 °F ± 0.0015 · (T−32) °F)

応答時間

応答時間は設定に応じて異なります (ダンピング)。

周囲温度の影響**電流出力**

温度係数	最大 1 µA/°C
------	------------

パルス/周波数出力

温度係数	付加的な影響はありません。精度に含まれます。
------	------------------------

測定物温度の影響**質量流量**

o.f.s. = 対フルスケール値

ゼロ調整時の温度とプロセス温度に差異がある場合、センサに付加される測定誤差は、 $\pm 0.0002 \% \text{ o.f.s.} / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.0001 \% \text{ o.f.s.} / ^\circ\text{F}$) となります。

プロセス温度でゼロ調整を実施すると、この影響は減少します。

密度

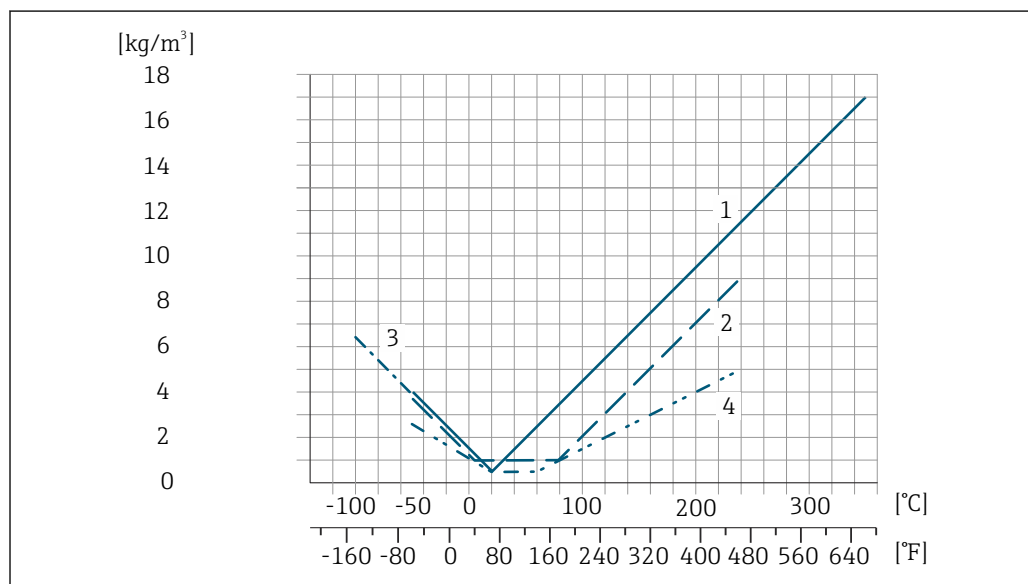
密度校正温度とプロセス温度に差異がある場合、センサの標準的な測定誤差は $\pm 0.00005 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.000025 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{F}$) となります。現場密度調整を実施できます。「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション LA の場合、最高 -100°C (-148°F) まで使用可能です。

高精度密度仕様（高精度密度校正）

プロセス温度が有効範囲外の場合 (→ 図 220)、測定誤差は $\pm 0.00005 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.000025 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{F}$) となります。

拡張密度仕様

プロセス温度が有効範囲外の場合 (→ 図 220)、測定誤差は $\pm 0.000025 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.0000125 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{F}$) となります。



A0027453

- 1 現場密度調整、例： $+20^\circ\text{C}$ ($+68^\circ\text{F}$) 時
- 2 高精度密度校正
- 3 「計測チューブの材質」のオーダーコード、オプション LA に適用
- 4 拡張密度校正

温度

$\pm 0.005 \cdot T \text{ } ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.005 \cdot (T - 32) \text{ } ^\circ\text{F}$)

プロセス圧力の影響

以下は、プロセス圧力（ゲージ圧）が質量流量の精度に与える影響を示しています。

o.r. = 読み値



以下により、影響を補正することが可能です。

- 電流入力またはデジタル入力を介して現在の圧力測定値を読み込む
- 機器パラメータで圧力の固定値を設定する



取扱説明書。

呼び口径		[% o.r./bar]	[% o.r./psi]
[mm]	[in]		
8	3/8	影響なし	
15	½	-0.002	-0.0001
25	1	影響なし	
40	1½	-0.003	-0.0002
50	2	-0.008	-0.0006
80	3	-0.009	-0.0006
100	4	-0.007	-0.0005
150	6	-0.009	-0.0006
250	10	-0.009	-0.0006

精度の考え方

o.r. = 読み値、o.f.s. = 対フルスケール値

BaseAccu = 基準精度 (% o.r.)、BaseRepeat = 基準の繰返し性 (% o.r.)

MeasValue = 測定値 ; ZeroPoint = ゼロ点の安定度

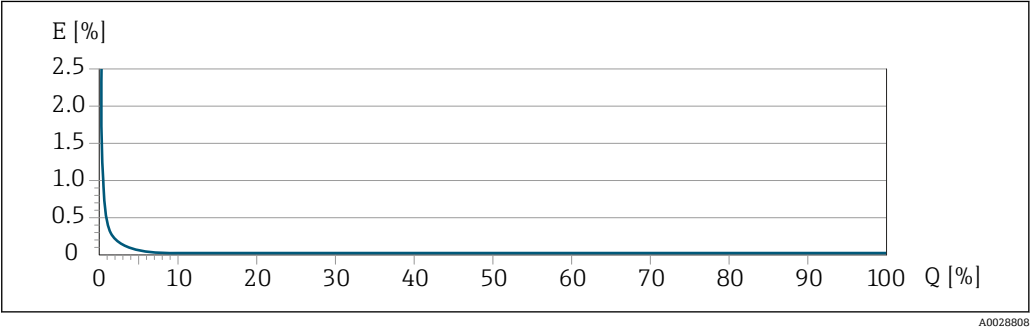
流量に応じた最大測定誤差の計算

流量	最大測定誤差 (% o.r.)
$\geq \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{BaseAccu}} \cdot 100$ A0021332	$\pm \text{BaseAccu}$ A0021339
$< \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{BaseAccu}} \cdot 100$ A0021333	$\pm \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{MeasValue}} \cdot 100$ A0021334

流量に応じた最大繰返し性の計算

流量	最大繰返し性 (% o.r.)
$\geq \frac{1/2 \cdot \text{ZeroPoint}}{\text{BaseRepeat}} \cdot 100$ A0021335	$\pm \text{BaseRepeat}$ A0021340
$< \frac{1/2 \cdot \text{ZeroPoint}}{\text{BaseRepeat}} \cdot 100$ A0021336	$\pm 1/2 \cdot \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{MeasValue}} \cdot 100$ A0021337

最大測定誤差の例



E 最大測定誤差 (% o.r.) (プレミアム校正の例)
 Q 最大測定範囲の流量 (%)

16.7 取付け

取付要件 → 21

16.8 環境

周囲温度範囲 → 24

温度テーブル

 危険場所で本機器を使用する場合は、許容される周囲温度と流体温度の間の相互依存性に注意してください。

 温度表の詳細については、別冊の機器の「安全上の注意事項」(XA) を参照してください。

保管温度

気候クラス DIN EN 60068-2-38 (試験 Z/AD)

相対湿度 本機器は、相対湿度 4～95 % での屋外/屋内使用に適しています。

使用高さ EN 61010-1 に準拠
 ■ ≤ 2 000 m (6 562 ft)
 ■ > 2 000 m (6 562 ft)、追加の過電圧保護がある場合（例：Endress+Hauser HAW シリーズ）

保護等級

変換器

- IP66/67、Type 4X エンクロージャ、汚染度 4 に適合
- ハウジングが開いている場合：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合
- 表示モジュール：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合

センサ

- IP66/67、Type 4X エンクロージャ、汚染度 4 に適合
- ハウジングが開いている場合：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合

オプション

「センサオプション」のオーダーコード、オプション CM 「IP69」

外部の WLAN アンテナ

IP67

耐衝撃振動性

正弦波振動、IEC 60068-2-6 に準拠

センサ：「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション LA、SD、SE、SF、TH、TT、TU

- 2～8.4 Hz、3.5 mm ピーク
- 8.4～2 000 Hz、1 g ピーク

センサ：「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション HA、SA、SB、SC

- 2～8.4 Hz、7.5 mm ピーク
- 8.4～2 000 Hz、2 g ピーク

変換器

- 2～8.4 Hz、7.5 mm ピーク
- 8.4～2 000 Hz、2 g ピーク

広帯域不規則振動、IEC 60068-2-64 に準拠

センサ：「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション LA、SD、SE、SF、TH、TT、TU

- 10～200 Hz, 0.003 g²/Hz
- 200～2 000 Hz, 0.001 g²/Hz
- 合計：1.54 g rms

センサ：「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション HA、SA、SB、SC

- 10～200 Hz, 0.01 g²/Hz
- 200～2 000 Hz, 0.003 g²/Hz
- 合計：2.70 g rms

変換器

- 10～200 Hz, 0.01 g²/Hz
- 200～2 000 Hz, 0.003 g²/Hz
- 合計：2.70 g rms

正弦半波衝撃、IEC 60068-2-27 に準拠

- センサ：「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション LA、SD、SE、SF、TH、TT、TU
6 ms 30 g
- センサ：「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション HA、SA、SB、SC
6 ms 50 g
- 変換器
6 ms 50 g

乱暴な取扱いによる衝撃、IEC 60068-2-31 に準拠

内部洗浄

- CIP 洗浄
- SIP 洗浄

オプション

- 接液部のオイル/グリースフリーバージョン、適合宣言なし
「サービス」のオーダーコード、オプション HA³⁾
- IEC/TR 60877-2.0 および BOC 50000810-4 に準拠する接液部のオイル/グリースフリーバージョン、適合宣言付き
「サービス」のオーダーコード、オプション HB³⁾

機械的負荷

- 変換器ハウジングおよびセンサ接続ハウジング：
- 衝撃や衝突などの機械的な影響から保護してください。
 - 踏み台や足場として使用しないでください。

3) 洗浄は、計測機器のみの洗浄であり、付属のアクセサリは洗浄されません。

電磁適合性 (EMC)

- IEC/EN 61326 および NAMUR 推奨 21 (NE 21) に準拠
 - IEC/EN 61000-6-2 および IEC/EN 61000-6-4 に準拠
-  詳細については、適合宣言を参照してください。
-  本機器は、居住環境での使用向けではないため、居住環境での無線受信に対する適切な保護を保証することはできません。

16.9 プロセス

流体温度範囲

標準バージョン	-50～+150 °C (-58～+302 °F)	「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション HA、SA、SB、SC
拡張温度バージョン	-50～+240 °C (-58～+464 °F)	「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション SD、SE、SF、TH
高温バージョン	-50～+350 °C (-58～+662 °F)	呼び口径 15 mm (½"), 25 mm (1"), 50～250 mm (2～10") 「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション TS、TT、TU
低温バージョン	-196～+150 °C (-320～+302 °F) 注記 過度な温度差により材料疲労が発生します。 ▶ 使用される測定物の最大温度差：300 K	「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード、オプション LA

P-T レイティング

 プロセス接続の P-T レイティングの概要については、技術仕様書を参照してください。

センサハウジング

温度範囲が -50～+150 °C (-58～+302 °F) の標準バージョンの場合、センサハウジングには乾燥窒素ガスが充填されており、内部の電子部品や機械部品が保護されます。

他のあらゆる温度バージョンの場合は、センサハウジングに乾燥不活性ガスが充填されています。

 計測チューブが故障した場合 (例：腐食性または研磨性のある流体などのプロセス特性に起因)、流体は最初にセンサハウジングに溜まります。

計測チューブが故障した場合、センサハウジング内の圧力レベルは使用プロセス圧力に応じて上昇します。センサハウジングの破裂圧力では十分な安全マージンを確保できないとユーザーが判断した場合は、機器に破裂板を取り付けることが可能です。これにより、センサハウジング内が過度に高圧になることを防止できます。そのため、気体圧力が高くなるアプリケーションや、特に、プロセス圧力がセンサハウジング破裂圧力の 2/3 より大きくなるアプリケーションでは、破裂板の使用が強く推奨されます。

漏れた測定物を排出機器に排出する必要がある場合は、センサに破裂板を取り付けなければなりません。排出部を追加のネジ込み接続に接続します。

センサをガスでパージする必要がある場合は（ガス検出）、パージ接続を取り付けなければなりません。

 センサハウジングに不活性ガスを充填するとき以外は、パージ接続を開けないようにしてください。パージは、必ず低圧で行ってください。

最大圧力：

- 呼び口径・08～150 mm (3/8～6") : 0.5 MPa (72.5 psi)
- 呼び口径・250 mm (10") :
 - 流体温度 ≤ 100 °C (212 °F) : 0.5 MPa (72.5 psi)
 - 流体温度 > 100 °C (212 °F) : 0.3 MPa (43.5 psi)

センサハウジング破裂圧力

以下のセンサハウジングの破裂圧力は、標準機器および/または密閉されたパージ接続付きの機器（開けていない/納品時の状態）にのみ適用されます。

パージ接続付きの機器（「センサオプション」のオーダーコード、オプション CH「パージ接続」）をパージシステムに接続した場合、パージシステム自体または機器のうち、圧力区分が低い方のコンポーネントに応じて、最大圧力は決まります。

破裂板付きの機器（「センサオプション」のオーダーコード、オプション CA「破裂板」）の場合、破裂板の破裂圧力が重要になります。

センサハウジングの破裂圧力は、センサハウジングが機械的に故障する前に到達する標準的な内圧に相当し、これは型式試験中に確認されます。対応する型式試験適合宣言は、機器と一緒に注文できます（「追加認証」のオーダーコード、オプション LN「センサハウジング破裂圧力、型式試験」）。

呼び口径		センサハウジング破裂圧力	
[mm]	[in]	[bar]	[psi]
8	3/8	400	5800
15	1/2	350	5070
25	1	280	4060
40	1 1/2	260	3770
50	2	180	2610
80	3	120	1740
100	4	95	1370
150	6	75	1080
250	10	50	720

 寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

破裂板

安全レベルを高めるために、破裂圧力が 1～1.5 MPa (145～217.5 psi) の破裂板を装備した機器バージョンを使用できます（「センサオプション」のオーダーコード、オプション CA「破裂板」）。

破裂板を、別売のスチームジャケットと組み合わせて使用することはできません。

 破裂板の寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

流量制限

最も適したセンサ呼び口径は、測定範囲と許容圧力損失を考慮して選択してください。

 測定範囲のフルスケール値の概要については、「測定範囲」セクションを参照してください。→ 212

- 推奨最小フルスケール値は、最大測定範囲の約 1/20 です。
 - ほとんどのアプリケーションにおいて、最大測定範囲の 20～50 % の間が最適な測定範囲となります。
 - 研磨性のある測定物（固形分が混入した液体など）の場合は、低いフルスケール値を選択する必要があります。流速 < 1 m/s (< 3 ft/s)
 - 気体測定では、以下の点にご注意ください。
 - 計測チューブ内の流速は、音速の 1/2 (0.5 Mach) 以下にしてください。
 - 最大質量流量は、気体密度に依存します。計算式
-  流量制限を計算するには、Applicator サイジング用ツールを使用してください。
→  210

圧力損失

-  圧力損失を計算するには、Applicator サイジング用ツールを使用してください。
→  210

圧力損失の減少した Promass F : 「センサオプション」のオーダーコード、オプション CE 「圧力損失減少」

使用圧力

→  24

16.10 取引計量

本機器はオプションとして OIML R117/R81 に準拠した試験を受けており、水以外の液体および低温液体の法定計量管理の対象となる業務（「カスタディトランスファー」）のための測定機器指令 2014/32/EU に従った EU 型式試験証明における使用を許可する EU 型式評価証明を取得しています（付録 VII）。

本機器はオプションとして OIML R137 に準拠した試験を受けており、法定計量管理の対象となる業務のためのガスメーターとして（「カスタディトランスファー」）、測定機器指令 2014/32/EU に従った EU 型式試験証明を取得しています（付録 IV）。

本機器は、現場表示器上の法定管理された積算計表示部およびオプションの法定計量管理の対象となる出力と組み合わせて使用されます。

法定計量管理の対象となる機器は、両方向を積算します。つまり、すべての出力で正（前方）と負（後方）の流れ方向の流量が考慮されます。

一般的に、法定計量管理の対象となる機器は、変換器またはセンサの封印により改ざん防止対策がとられています。これらのシールは通常、法定計量管理の所轄官庁の担当者しか開けることができません。

機器が流通し始めたり、機器を封印した後は、限られた範囲内でのみの操作が可能です。

水以外の液体、低温液体、または気体のアプリケーションに対応可能な、OIML 認証に基づく国の認定を取得した機器の詳細な注文情報については、当社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

 詳細については、補足資料を参照してください。

16.11 構造

外形寸法



機器の外形寸法および取付寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

質量

すべての値（梱包材を含まない質量）は、EN/DIN PN 40 フランジ付き機器の値です。

変換器

- Proline 500 – デジタル ポリカーボネート：1.4 kg (3.1 lbs)
- Proline 500 – デジタル アルミニウム：2.4 kg (5.3 lbs)
- Proline 500 アルミニウム：6.5 kg (14.3 lbs)
- Proline 500 鋳造、ステンレス：15.6 kg (34.4 lbs)

センサ

- 鋳造接続ハウジングバージョンのセンサ、ステンレス：+3.7 kg (+8.2 lbs)
- アルミニウム接続ハウジングバージョンのセンサ：

質量（SI 単位）

呼び口径 [mm]	質量 [kg]
8	9
15	10
25	12
40	17
50	28
80	53
100	94

呼び口径 [mm]	質量 [kg]
150	152
250	398

質量 (US 単位)

呼び口径 [in]	質量 [lbs]
3/8	20
1/2	22
1	26
1 1/2	37
2	62
3	117
4	207
6	335
10	878

材質

変換器ハウジング

Proline 500 のハウジング – デジタル変換器

「変換器ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A 「アルミニウム、コーティング」：アルミダイカスト、AlSi10Mg、塗装
- オプション D 「ポリカーボネート」：ポリカーボネート

Proline 500 変換器のハウジング

「変換器ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A 「アルミニウム、コーティング」：アルミダイカスト、AlSi10Mg、塗装
- オプション L 「鋳物、ステンレス」：鋳物、ステンレス 1.4409 (CF3M) SUS 316L 相当

ウィンドウ材質

「変換器ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A 「アルミニウム、コーティング」：ガラス
- オプション D 「ポリカーボネート」：プラスチック
- オプション L 「鋳物、ステンレス」：ガラス

柱取付け用の固定部品

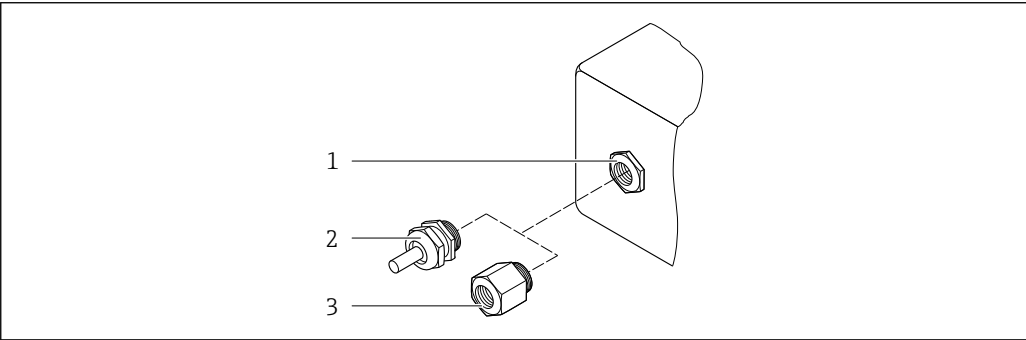
- ネジ、ネジボルト、ワッシャ、ナット：ステンレス A2 (クロムニッケル鋼)
- 金属板：ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)

センサ接続ハウジング

「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：

- オプション **A**「アルミニウム、コーティング」：アルミニウム、AlSi10Mg、コーティング
- オプション **B**「ステンレス」：
 - ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
 - オプション：「センサ仕様」のオーダーコード、オプション **CC**「サニタリバージョン、最大の耐腐食性」：ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)
- オプション **C**「ウルトラコンパクト、ステンレス」：
 - ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
 - オプション：「センサ仕様」のオーダーコード、オプション **CC**「サニタリバージョン、最大の耐腐食性」：ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)
- オプション **L**「鋳造、ステンレス」：1.4409 (CF3M)、SUS 316L 相当

電線口/ケーブルグランド



A0020640

図 42 可能な電線管接続口/ケーブルグランド

- 1 雌ねじ M20 × 1.5
- 2 ケーブルグランド M20 × 1.5
- 3 電線管接続口用アダプタ (雌ねじ G ½" または NPT ½")

電線口およびアダプタ	材質
ケーブルグランド M20 × 1.5	プラスチック
■ 電線口用アダプタ (めねじ G ½") ■ 電線口用アダプタ (めねじ NPT ½") i 特定の機器バージョンでのみ使用できます。 ■ 「変換器ハウジング」のオーダーコード： ■ オプション A「アルミニウム、コーティング」 ■ オプション D「ポリカーボネート」 ■ 「センサ接続ハウジング」のオーダーコード： ■ Proline 500 – デジタル： - オプション A「アルミニウム、コーティング」 - オプション B「ステンレス」 - オプション L「鋳物、ステンレス」 ■ Proline 500： - オプション B「ステンレス」 - オプション L「鋳物、ステンレス」	ニッケルめっき真鍮
■ 電線口用アダプタ (めねじ G ½") ■ 電線口用アダプタ (めねじ NPT ½") i 特定の機器バージョンでのみ使用できます。 ■ 「変換器ハウジング」のオーダーコード： - オプション L「鋳物、ステンレス」 ■ 「センサ接続ハウジング」のオーダーコード： - オプション L「鋳物、ステンレス」	ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

接続ケーブル

i 紫外線によりケーブルの外側シースが損傷する可能性があります。可能な限り、直射日光からケーブルを保護してください。

センサ – Proline 500 – デジタル変換器間の接続ケーブル

銅シールド付き PVC ケーブル

センサ – Proline 500 変換器間の接続ケーブル

- 銅シールド付き PVC ケーブル
- 「試験、証明」のオーダーコード、オプション **JQ** の機器：銅シールド付き PUR

センサハウジング

i センサハウジングの材質は、「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコードで選択したオプションに応じて異なります。

「計測チューブの材質、接液部表面」のオーダーコード	材質
オプション HA、SA、SD、TH	■ 耐酸、耐アルカリの表面 ■ ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当) i 「センサオプション」のオーダーコード、オプション CC 「SUS 316L 相当センサハウジング」：ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当) の場合
オプション SB、SC、SE、SF	■ 耐酸、耐アルカリの表面 ■ ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
オプション TS、TT、TU、LA	■ 耐酸、耐アルカリの表面 ■ ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

計測チューブ

- 呼び口径 8～100 mm (3/8～4")：ステンレス 1.4539 (SUS 904L 相当)；マニホールド：ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)
- 呼び口径 150 mm (6")、250 mm (10")：ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)；マニホールド：ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)
- 呼び口径 8～250 mm (3/8～10")：アロイ C22、2.4602 (UNS N06022)；マニホールド：アロイ C22、2.4602 (UNS N06022)

高温バージョン

呼び口径 15 mm (1/2")、25 mm (1")、50～250 mm (2～10")

- 呼び口径 15～100 mm (1/2～4")：ステンレス 1.4539 (SUS 904L 相当)
- 呼び口径 150 mm (6")、250 mm (10")：ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)
- 呼び口径 15～250 mm (1/2～10")：アロイ C22、2.4602 (UNS N06022)

プロセス接続

- EN 1092-1 (DIN2501) / ASME B 16.5 / JIS B2220 準拠のフランジ：
 - ステンレス 1.4404 (SUS F316 または F316L 相当)
 - アロイ C22、2.4602 (UNS N06022)
 - ラップジョイントフランジ：ステンレス 1.4301 (SUS F304 相当)；接液部アロイ C22
- その他のすべてのプロセス接続：
 - ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

高温バージョン

EN 1092-1 (DIN2501) / ASME B 16.5 / JIS B2220 準拠のフランジ :

- 呼び口径 15~250 mm (½~10") : ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)
- 呼び口径 15~250 mm (½~10") : アロイ C22、2.4602 (UNS N06022)



使用可能なプロセス接続 → 235

シール

溶接されているプロセス接続は内部シール材不使用

アクセサリ

保護カバー

ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

外部の WLAN アンテナ

- アンテナ : ASA プラスチック (アクリロニトリルスチレンアクリレート) およびニッケルめっき真鍮
- アダプタ : ステンレスおよびニッケルめっき真鍮
- ケーブル : ポリエチレン
- プラグ : ニッケルめっき真鍮
- アングルブラケット : ステンレス

プロセス接続

- 固定フランジ接続 :
 - EN 1092-1 (DIN 2501) フランジ
 - EN 1092-1 (DIN 2512N) フランジ
 - NAMUR 推奨 NE 132 に準拠した長さ
 - ASME B16.5 フランジ
 - JIS B2220 フランジ
 - DIN 11864-2 Form A フランジ、DIN 11866 シリーズ A、ノッチ付きフランジ
- クランプ接続 :
 - トリクランプ (管外径)、DIN 11866 シリーズ C
- ネジ :
 - DIN 11851 ネジ、DIN 11866 シリーズ A
 - SMS 1145 ネジ
 - ISO 2853 ネジ、ISO 2037
 - DIN 11864-1 Form A ネジ、DIN 11866 シリーズ A
- VCO 接続 :
 - 8-VCO-4
 - 12-VCO-4



プロセス接続の材質 → 234

表面粗さ

すべて接液部のデータです。

以下の表面粗さカテゴリを注文できます。

カテゴリ	方式	オプションオーダーコード 「計測チューブ材質、接液部 表面」
研磨なし	-	HA、LA、SA、SD、TH、TS、 TT、TU
$Ra \leq 0.76 \mu m (30 \mu in)^1$	機械研磨 ²⁾	SB、SE
$Ra \leq 0.76 \mu m (30 \mu in)^1$	機械研磨 ²⁾ 、溶接部分は溶接したままの状態	SJ、SL
$Ra \leq 0.38 \mu m (15 \mu in)^1$	機械研磨 ²⁾	SC、SF

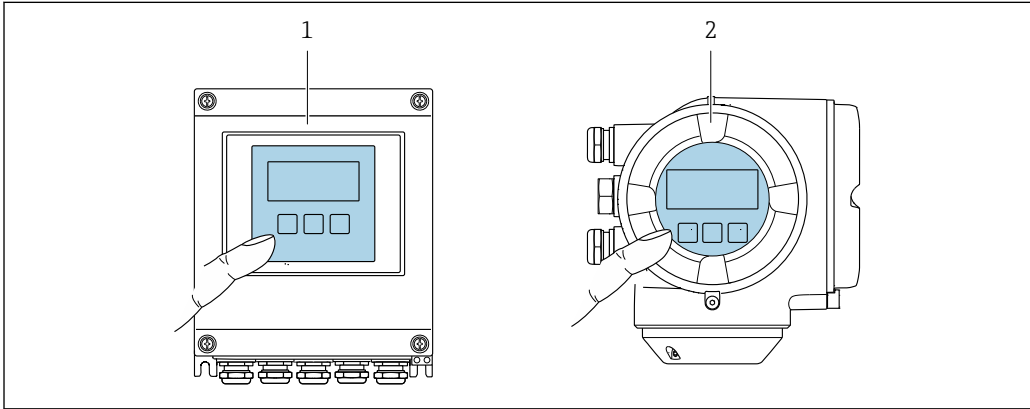
カテゴリ	方式	オプションオーダーコード 「計測チューブ材質、接液部 表面」
Ra ≤ 0.38 µm (15 µin) ¹⁾	機械研磨 ²⁾ 、溶接部分は溶接したままの状態	SK、SM
Ra ≤ 0.38 µm (15 µin) ¹⁾	機械研磨 ²⁾ および電解研磨	BC
Ra ≤ 0.38 µm (15 µin) ¹⁾	機械研磨 ²⁾ および電解研磨、溶接部分は溶接したま まの状態	BG

- 1) ISO 21920 準拠の Ra
2) 配管とマニホールドの間のアクセスできない溶接部分を除く

16.12 ユーザーインタフェース

言語	以下の言語で操作できます。 ■ 現場操作を経由 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、韓国語、ベトナム語、チェコ語、スウェーデン語 ■ ウェブブラウザを経由 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、ベトナム語、チェコ語、スウェーデン語 ■ 「FieldCare」、「DeviceCare」操作ツールを経由：英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、日本語
----	--

現場操作	表示モジュール経由 機能： ■ 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション F 「4 行表示、バックライト、グラフィック表示；タッチコントロール」 ■ 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G 「4 行表示、バックライト、グラフィック表示；タッチコントロール + WLAN」  WLAN インタフェースに関する情報 →  86
------	--



 43 タッチコントロールによる操作

- 1 Proline 500 – デジタル
2 Proline 500

表示部

- 4 行表示、バックライト、グラフィック表示
- 白色バックライト；機器エラー発生時は赤に変化
- 測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能

操作部

- ハウジングを開けずにタッチコントロール（3 つの光学式キー）による外部操作：
⊕、⊖、⊞
- 危険場所の各種区域でも操作部にアクセス可能

リモート操作 → 図 85

サービスインターフェイス → 図 85

サポートされる操作ツール

現場または遠隔で機器にアクセスするために、各種の操作ツールを使用できます。使用する操作ツールに応じて、さまざまな操作部を使用し、多様なインターフェイスを介してアクセスすることが可能です。

サポートされる操作ツール	操作ユニット	インタフェース	追加情報
ウェブブラウザ	ウェブブラウザ搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース	機器の個別説明書 → 図 246
DeviceCare SFE100	Microsoft Windows システム搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース ■ フィールドバスプロトコル	→ 図 210
FieldCare SFE500	Microsoft Windows システム搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース ■ フィールドバスプロトコル	→ 図 210
Field Xpert	SMT70/77/50	■ すべてのフィールドバスプロトコル ■ WLAN インタフェース ■ Bluetooth ■ CDI-RJ45 サービスインタフェース	取扱説明書 BA01202S DD ファイル： ハンドヘルドターミナルの更新機能を使用
SmartBlue アプリ	iOS または Android 搭載スマートフォンまたはタブレット端末	WLAN	→ 図 210

 DTM/iDTM または DD/EDD などのデバイスドライバを備えた、FDT 技術に基づく他の操作ツールを使用して機器を操作できます。これらの操作ツールは、各メーカーから入手可能です。特に、以下の操作ツールへの統合がサポートされます。

- Honeywell 製 Field Device Manager (FDM) → www.process.honeywell.com
- Yokogawa 製 FieldMate → www.yokogawa.com
- PACTWare → www.pactware.com

関連する DD ファイルは次から入手可能：www.endress.com → ダウンロードエリア

Web サーバー

Web サーバーが内蔵されているため、ウェブブラウザサービスインタフェース（CDI-RJ45）または WLAN インタフェースを介して機器の操作および設定を行うことが可能です。操作メニューの構造は現場表示器と同じです。測定値に加え、機器のステータス情報も表示されるため、機器の状態を監視するために使用できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

WLAN 接続の場合は WLAN インタフェース（オプションとして注文可能）付きの機器が必要：「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト；タッチコントロール+WLAN」。機器はアクセスポイントとして機能し、コンピュータまたは携帯型ハンドヘルドターミナルによる通信を可能にします。

- サポートされる機能
- 操作ユニット（たとえば、ノートパソコンなど）と計測機器間のデータ交換：
- 計測機器からの設定のアップロード（XML 形式、設定のバックアップ）
 - 計測機器への設定の保存（XML 形式、設定の復元）
 - イベントリストのエクスポート（.csv ファイル）
 - パラメータ設定のエクスポート（.csv ファイルまたは PDF ファイル、測定点設定の記録）
 - Heartbeat Technology 検証レポートのエクスポート（PDF ファイル、**Heartbeat Verification** → 243 アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能）
 - たとえば、機器ファームウェアアップグレードのためのファームウェアバージョンの更新
 - システム統合用のドライバのダウンロード
 - 保存された測定値の表示（最大 1000 個）（**拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能 → 243）

HistoROM データ管理

機器には HistoROM データ管理機能があります。HistoROM データ管理には、重要な機器データおよびプロセスデータの保存とインポート/エクスポートの両方の機能があり、操作やサービス作業の信頼性、安全性、効率が大幅に向上します。

 機器の納入時には、設定データの工場設定は機器メモリにバックアップとして保存されています。このメモリは、たとえば、設定後に最新のデータ記録を使用して上書きできます。

データの保存コンセプトに関する追加情報

各種タイプのデータ記憶装置があります。これに機器データを保存して、機器で 사용할 ことが可能です。

	HistoROM バックアップ	T-DAT	S-DAT
使用可能なデータ	■ イベントログブック（例：診断イベント） ■ パラメータ記録データバックアップ ■ 機器ファームウェアパッケージ	■ 測定値記録（「拡張 HistoROM」注文オプション） ■ 現在のパラメータ記録データ（実行時にファームウェアが使用） ■ 表示（最小値/最大値） ■ 積算計の値	■ センサデータ（例：呼び口径） ■ シリアル番号 ■ 校正データ ■ 機器設定（例：SW オプション、固定 I/O またはマルチ I/O）
保存場所	端子部のユーザーインタフェース PC ボードに固定	端子部のユーザーインタフェース PC ボードに接続可能	変換器ネック部分のセンサプラグ内

データバックアップ

自動

- 最も重要な機器データ（センサおよび変換器）は自動的に DAT モジュールに保存されます。
- 変換器または機器を交換した場合：以前の機器データが保存された T-DAT を交換した場合、新しい機器はエラーなしで再び直ちに操作できる状態になります。
- センサを交換した場合：センサを交換した場合、新しいセンサデータが S-DAT から機器に伝送され、機器はエラーなしで再び直ちに操作できる状態になります。
- 電子モジュール（例：I/O 電子モジュール）を交換した場合：電子モジュールを交換すると、モジュールのソフトウェアと現在の機器ファームウェアが比較されます。必要に応じて、モジュールソフトウェアはアップデートまたはダウングレードされます。その後、電子モジュールは直ちに使用することが可能であり、互換性の問題は発生しません。

手動

以下のための、統合された機器メモリ HistoROM バックアップの追加のパラメータ記録データ（パラメータ設定一式）：

- データバックアップ機能
機器メモリ HistoROM バックアップの機器設定のバックアップおよびその後の復元
- データ比較機能
現在の機器設定と機器メモリ HistoROM バックアップに保存された機器設定の比較

データ伝送

手動

特定の操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）のエクスポート機能を使用して機器設定を別の機器に伝送：設定の複製またはアーカイブに保存するため（例：バックアップ目的）

イベントリスト

自動

- イベントリストのイベントメッセージ（最大 20 件）の時系列表示
- 拡張 HistoROM アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合：最大 100 件のイベントメッセージがタイムスタンプ、プレーンテキスト説明、対処法とともにイベントリストに表示されます。
- イベントリストは各種のインターフェイスや操作ツール（例：DeviceCare、FieldCare、または Web サーバー）を介してエクスポートして表示することが可能です。

データのログ

手動

拡張 HistoROM アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合：

- 1～4 チャンネルまで最大 1000 個の測定値を記録（各チャンネルの測定値は最大 250 個）
- ユーザー設定可能な記録間隔
- 各種のインターフェイスや操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）を介して測定値ログのエクスポート

16.13 合格証と認証

本製品に対する最新の認証と認定は、www.endress.com の関連する製品ページから入手できます。

1. フィルタおよび検索フィールドを使用して製品を選択します。
2. 製品ページを開きます。
3. 「ダウンロード」を選択します。

CE マーク	本機器は、適用される EU 指令の法的要件を満たしています。これらの要求事項は、適用される規格とともに EU 適合宣言に明記されています。 Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、CE マークの貼付により保証いたします。
UKCA マーク	本機器は、適用される UK 規制（英国規則）の法的要件を満たします。これらの要求事項は、指定された規格とともに UKCA 適合宣言に明記されています。UKCA マークの注文オプションが選択されている場合、Endress+Hauser は機器に UKCA マークを貼付することにより、本機器が評価と試験に合格したことを保証します。 連絡先 Endress+Hauser 英国： Endress+Hauser Ltd. Floats Road Manchester M23 9NF 英国 www.uk.endress.com
RCM マーク	本計測システムは、「Australian Communications and Media Authority (ACMA)」の EMC 要件を満たしています。
サニタリ適合性	■ 3-A 認証 ■ 「追加認証」のオーダーコード、オプション LP「3A」の計測機器のみ 3-A 認証を取得しています。 ■ 3-A 認証は計測機器に対する認証です。 ■ 計測機器を設置する場合、液体が計測機器の外側に集まらないようにしてください。 - 分離型表示モジュールは、3-A 規格に準拠して設置する必要があります。 ■ アクセサリ（スチームジャケット、日除けカバー、壁取付ホルダなど）は、3-A 規格に準拠して設置する必要があります。 - 各アクセサリは洗浄することができます。一部の環境では、分解が必要な場合があります。 ■ EHEDG テスト合格 「追加認証」のオーダーコード、オプション LT「EHEDG」の機器のみテストが実施され、EHEDG の要件を満たしています。 EHEDG 認証の要件を満たすためには、「Easy cleanable Pipe couplings and Process connections（洗浄性の高い配管継手およびプロセス接続）」(www.ehedg.org) と題された EHEDG ガイドラインに準拠するプロセス接続と組み合わせて機器を使用する必要があります。 EHEDG 認証の要件を満たすためには、排水性を確保できる位置に機器を設置する必要があります。 ■ FDA ■ 食品接触材規則（EC）1935/2004  特別な設置方法に従ってください。→  26

欧州圧力機器指令

- a) PED/G1/x (x = カテゴリー) または
b) PESR/G1/x (x = カテゴリー)
上記マークがセンサ銘板に付いている場合、Endress+Hauser は以下に記載されている「必須安全要求事項」に適合していることを承認します。
 - a) 欧州圧力機器指令 2014/68/EU 付録 I、または
 - b) 行政委任立法 (Statutory Instruments) 2016 No. 1105 付則 2
- PED または PESR マークがない機器は、「SEP (Sound Engineering Practice)」に従って設計・製造されています。この機器は、以下の要件を満たしています。
 - a) 欧州圧力機器指令 2014/68/EU 第 4 章 3 項、または
 - b) 行政委任立法 (Statutory Instruments) 2016 No. 1105 第 8 項パート 1
 用途範囲は、以下に記載されています。
 - a) 欧州圧力機器指令 2014/68/EU 付録 II の図 6~9、または
 - b) 行政委任立法 (Statutory Instruments) 2016 No. 1105 第 2 項付則 3

無線認証

本機器は無線認証を取得しています。



無線認証の詳細については、個別説明書を参照してください。→ 246

計測機器認定

本機器は欧州測定機器指令 2014/32/EU (MID) に準拠し、法的な計測管理サービス業務のためのガスメーター (MI-002) または計測システムのコンポーネント (MI-005) として認定を取得しています (オプション)。

本機器は OIML R117 または OIML R137 OIML R117 に適合し、OIML 適合証明書を取得しています (オプション)。

その他の認定

CRN 認定

一部の機器バージョンは CRN 認定を取得しています。CRN 認定機器の場合は、CSA 認定を受けた CRN 認定プロセス接続部を注文する必要があります。

試験および証明書

- ISO 23277 ZG2x (PT) + ISO 10675-1 ZG1 (RT) 計測配管 (PT) + プロセス接続 (RT) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- 浸透探傷検査 + 放射線検査 ASME B31.3 NFS (RT)、計測配管 (PT) + プロセス接続 (RT) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- 浸透探傷検査 + 放射線検査 ASME VIII Div.1 (RT) 計測配管 (PT) + プロセス接続 (RT) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- 目視検査 + 浸透探傷検査 + 放射線検査 NORSOK M-601 (RT) 計測配管 (VT+PT) + プロセス接続 (VT+RT) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- ISO 23277 ZG2x (PT) + ISO 10675-1 ZG1 (DR) 計測配管 (PT) + プロセス接続 (DR) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- 浸透探傷検査 + 放射線検査 ASME B31.3 NFS (DR)、計測配管 (PT) + プロセス接続 (DR) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- 浸透探傷検査 + 放射線検査 ASME VIII Div.1 (DR) 計測配管 (PT) + プロセス接続 (DR) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート
- 目視検査 + 浸透探傷検査 + 放射線検査 NORSOK M-601 (DR) 計測配管 (VT+PT) + プロセス接続 (VT+DR) 溶接シーム、Heartbeat Technology 検証レポート

溶接接続の試験

オプション	テスト基準				コンポーネント	
	ISO 23277 AL2x (PT) ISO 10675-1 AL1 (RT, DR)	ASME B31.3 NFS	ASME VIII Div.1 Appx. 4+8	NORSOK M -601	計測配管	プロセス接続
KF	x				PT	RT
KK		x			PT	RT

オプション	テスト基準				コンポーネント	
	ISO 23277 AL2x (PT) ISO 10675-1 AL1 (RT, DR)	ASME B31.3 NFS	ASME VIII Div.1 Appx. 4+8	NORSOK M -601	計測配管	プロセス接続
KP			x		PT	RT
KR				x	VT, PT	VT, RT
K1	x				PT	DR
K2		x			PT	DR
K3			x		PT	DR
K4				x	VT, PT	VT, DR
PT = 浸透探傷検査、RT = 放射線検査、VT = 目視検査、DR = デジタル X 線撮影法 すべてのオプションは試験報告書付き						

外部の基準およびガイドライン

- EN 60529
ハウジング保護等級 (IP コード)
- IEC/EN 60068-2-6
環境影響：試験手順 - 試験 Fc：振動（正弦波）
- IEC/EN 60068-2-31
環境影響：試験手順 - 試験 Ec：乱暴な取扱いによる衝撃、主に機器用
- EN 61010-1
測定、制御、実験用電気機器の安全要件 - 一般要求事項
- EN 61326-1/-2-3
測定、制御、実験用電気機器の EMC 要件
- NAMUR NE 21
工業用プロセスおよび試験機器の電磁適合性 (EMC)
- NAMUR NE 32
マイクロプロセッサ付きフィールド機器および制御機器の電源異常時のデータ保持
- NAMUR NE 43
アナログ出力信号を有するデジタル変換器の故障情報信号レベルの標準化
- NAMUR NE 53
デジタル電子部品を備えたフィールド機器と信号処理機器のソフトウェア
- NAMUR NE 80
プロセス制御機器に関する欧州圧力機器指令の適用
- NAMUR NE 105
フィールド機器用エンジニアリングツールにフィールドバス機器を統合するための仕様
- NAMUR NE 107
フィールド機器の自己監視および診断
- NAMUR NE 131
標準アプリケーション用フィールド機器の要件
- NAMUR NE 132
コリオリ質量流量計
- NACE MR0103
腐食性の高い石油精製環境における硫化物応力割れに対して耐性がある材質。
- NACE MR0175/ISO 15156-1
石油生産およびガス生産における H₂S を含有する環境で使用される材質。
- ETSI EN 300 328
2.4 GHz 帯の無線機器用ガイドライン
- EN 301489
電磁適合性および無線スペクトル事項 (ERM)

16.14 アプリケーションパッケージ

機器の機能を拡張するために、各種のアプリケーションパッケージが用意されています。これらのパッケージは、安全面や特定のアプリケーション要件を満たすのに必要とされます。

アプリケーションパッケージは、Endress+Hauser 社に機器と一緒に注文するか、または後から追加注文できます。オーダーコードに関する詳細は、お近くの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。



アプリケーションパッケージの詳細情報：
個別説明書 → 245

診断機能

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EA「拡張 HistoROM」イベントログおよび測定値メモリのアクティベーションに関する拡張機能が含まれます。

イベントログ：

メッセージ数 20（標準バージョン）から 100 にメモリ容量が増えます。

データロギング（ラインレコーダ）：

- 最大 1000 個の測定値までのメモリ容量を有効化。
- 4 つあるメモリチャンネルのそれぞれから、250 個の測定値を出力可能。記録間隔は、ユーザーが定義/設定できます。
- 現場表示器または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）を介して測定値ログにアクセスできます。



詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

Heartbeat Technology

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EB「Heartbeat Verification + Monitoring」

Heartbeat Verification

DIN ISO 9001: 2008、7.6 a) 章「監視および測定機器の制御」に準拠する、トレーサビリティが確保された検証のための要件を満たします。

- プロセスを中断せずに設置された状態での機能試験
- 必要に応じて、トレーサビリティが確保された検証が可能（レポートを含む）
- 現場操作またはその他の操作インタフェースを介した簡単な試験プロセス
- 製造者仕様の枠内で試験範囲が広く、明確な測定点の評価（合格/不合格）
- 事業者のリスク評価に応じた校正間隔の延長

Heartbeat Monitoring

測定原理固有のデータを予防保全またはプロセス分析のために外部状態監視システムに連続的に供給します。このデータにより、事業者は以下のことが可能になります。

- 時間とともに測定性能に及ぼすプロセスの影響（腐食、摩耗、付着物など）について、結論を引き出す（これらのデータとその他の情報を使用して）。
- 適切なサービスのスケジュールを立てる。
- プロセスまたは製品の品質、気泡などを監視する。



詳細については、機器の個別説明書を参照してください。

濃度測定

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション ED「濃度」
流体濃度の計算および出力

測定密度は、「濃度」アプリケーションパッケージを使用して、二元混合物の物質濃度に換算されます。

- 事前に設定された流体（例：各種の糖溶液、酸、アルカリ、塩、エタノールなど）の選択
- 標準アプリケーション用の一般的な、またはユーザー定義の単位（°Brix、°Plato、% 質量、% 体積、mol/l など）
- ユーザー定義された表からの濃度計算



詳細については、機器の個別説明書を参照してください。

高精度密度

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EE「高精度密度」

多くのアプリケーションでは、品質監視または制御プロセスのための重要な測定値として密度が使用されます。計測機器は標準仕様で流体の密度を測定し、この値を制御システムに提供します。

特に、プロセス条件が変動するアプリケーションにおいて、「高精度密度」アプリケーションパッケージは幅広い密度および温度範囲にわたって高精度の密度測定を可能にします。

付属する校正証明書には以下の情報が記載されています。

- 空気の密度測定性能
- さまざまな密度の液体の密度測定性能
- さまざまな温度の水の密度測定性能



詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

拡張密度

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション E1「拡張密度」

体積ベースのアプリケーションの場合、機器では質量流量を測定密度で除算することにより体積流量を計算して出力できます。

このアプリケーションパッケージは、国内/国際規格（例：OIML、MID）に準拠した取引計量アプリケーション用の標準校正です。温度範囲の広い体積ベースの会計用投与アプリケーションの場合に推奨されます。

付属の校正証明書には、さまざまな温度の空気と水における密度測定性能が詳細に記述されています。



詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

石油

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EJ「石油」

このアプリケーションパッケージを使用して、石油/ガス産業向けの最も重要なパラメータの計算および表示を行うことが可能です。

- 「API Manual of Petroleum Measurement Standards, Chapter 11.1」に準拠する基準体積流量および算出基準密度
- 密度測定に基づく含水量
- 密度および温度の加重平均



詳細については、機器の個別説明書を参照してください。

石油 & ロック機能

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EM「石油 & ロック機能」

このアプリケーションパッケージを使用して、石油/ガス産業向けの最も重要なパラメータの計算および表示を行うことが可能です。設定をロックすることも可能です。

- 「API Manual of Petroleum Measurement Standards, Chapter 11.1」 に準拠する基準体積流量および算出基準密度
- 密度測定に基づく含水量
- 密度および温度の加重平均

 詳細については、機器の個別説明書を参照してください。

16.15 アクセサリ

 注文可能なアクセサリの概要 →  208

16.16 補足資料

-  関連する技術資料の概要については、以下を参照してください。
- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

標準資料

簡易取扱説明書

センサの簡易取扱説明書

計測機器	資料番号
Proline Promass F	KA01261D

変換器の簡易取扱説明書

機器	資料番号
Proline 500 - デジタル	KA01319D
Proline 500	KA01318D

技術仕様書

機器	資料番号
Promass F 500	TI01222D

機能説明書

計測機器	資料番号
Promass 500	GP01062D

機器関連の補足資料

安全上の注意事項

危険場所で使用する電気機器に関する安全上の注意事項

内容	資料番号 機器
ATEX/IECEx Ex i	XA01473D
ATEX/IECEx Ex ec	XA01474D

内容	資料番号 機器
cCSAus IS	XA01475D
cCSAus Ex i	XA01509D
cCSAus Ex nA	XA01510D
INMETRO Ex i	XA01476D
INMETRO Ex ec	XA01477D
NEPSI Ex i	XA01478D
NEPSI Ex nA	XA01479D
NEPSI Ex i	XA01658D
NEPSI Ex nA	XA01659D
JPN	XA01780D

個別説明書

内容	資料番号
欧州圧力機器指令に関する情報	SD01614D
表示モジュール A309/A310 の WLAN インタフェースに関する無線認証	SD01793D
Web サーバー	SD01667D
Heartbeat Technology	SD01704D
濃度測定	SD01710D
石油	SD02014D
取引計量（水以外の液体用カウンタ）	SD01691D
取引計量（気体用カウンタ）	SD02465D
取引計量（気体用カウンタ、ドイツ計量および校正規則（Mess- und Eichverordnung）に準拠）	SD02583D

設置要領書

内容	注記
スペアパーツセットおよびアクセサリの設置要領書	▪ デバイスビューワーを使用して、選択可能なすべてのスペアパーツセットの概要にアクセス → 図 206 ▪ 注文可能な設置要領書付きのアクセサリ → 図 208

索引

記号

返却 206

0～9

3-A 認証 240

A

Applicator 212

C

CE マーク 10, 240

CIP 洗浄 227

D

DD ファイル 90

DeviceCare 89

DD ファイル 90

DIP スイッチ

書き込み保護スイッチを参照

E

EHEDG テスト合格 240

Endress+Hauser サービス

修理 206

F

FDA 240

FieldCare 88

DD ファイル 90

機能 88

接続の確立 89

ユーザインタフェース 89

H

HistoROM 146

M

Modbus RS485

Modbus データマップ 93

エラー応答モードの設定 191

応答時間 92

書き込みアクセス権 91

機能コード 91

診断情報 191

スキャンリスト 94

データの読み出し 94

読み込みアクセス権 91

レジスタアドレス 92

レジスタ情報 92

N

Netilion 205

P

P-T レイティング 228

Proline 500 - デジタルの接続ケーブルの端子の割当て

センサ接続ハウジング 42

Proline 500 - デジタル変換器

信号ケーブル/電源ケーブルの接続 47

Proline 500 接続ケーブルの端子の割当て

センサ接続ハウジング 49

Proline 500 変換器

信号ケーブル/電源ケーブルの接続 53

R

RCM マーク 240

S

SIP 洗浄 227

U

UKCA マーク 240

W

W@M デバイスビューワー 15

WLAN 設定 145

ア

アクセスコード 77

不正な入力 77

アクセスコードの設定 153

圧力損失 230

アプリケーション 211

アプリケーションパッケージ 243

アラーム時の信号 217

安全 9

イ

イベントリスト 198

イベントログブック 198

イベントログブックのフィルタリング 198

ウ

ウィザード

WLAN 設定 145

アクセスコード設定 148

ステータス入力 1～n 106

ゼロの検証 135

ゼロ調整 136

ダブルパルス出力 121

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

..... 111, 113, 116

リレー出力 1～n 118

ローフローカットオフ 127

電流出力 107

電流入力 105

非満管の検出 128

表示 122

密度調整 132

流体の選択 102

受入検査 15

エ

影響	
周囲温度	223
測定物温度	223
プロセス圧力	224
エラー応答モードの設定、Modbus RS485	191
エラーメッセージ	
診断メッセージを参照	

オ

欧州圧力機器指令	241
応答時間	223
オーダーコード	16, 18
温度範囲	
ディスプレイの周囲温度範囲	236
保管温度	20
流体温度	228

カ

外部洗浄	205
書き込みアクセス	77
書き込み保護	
アクセスコードによる	153
書き込み保護スイッチを使用	154
書き込み保護スイッチ	154
書き込み保護の無効化	153
書き込み保護の有効化	153
拡張オーダーコード	
センサ	18
変換器	16
ガスフラクションハンドラー	178
下流側直管長	23

キ

キーパッドロックの有効化/無効化	78
機械的負荷	227
機器	
構成	13
修理	206
センサの取付け	29
電気配線の準備	41
電源投入	96
取外し	207
廃棄	207
変更	206
機器コンポーネント	13
機器修理	206
機器設定の管理	146
機器タイプ ID	90
機器の運搬	20
機器の修理	206
機器のバージョンデータ	90
機器の用途	
不適切な用途	9
不明な場合	9
機器の履歴	204
機器名	
センサ	18
変換器	16

機器リビジョン	90
機器ロック状態	157
気候クラス	226
技術データ、概要	211
基準およびガイドライン	242
基準動作条件	220
機能	
パラメータを参照	
機能コード	91

ク

繰返し性	223
------	-----

ケ

計測可能流量範囲	212
計測機器	
設定	96
取付けの準備	29
計測機器認定	241
計測機器の識別	15
計測機器の接続	
Proline 500	49
Proline 500 - デジタル	42
計測機器の用途	
指定用途を参照	
計測システム	211
言語、操作オプション	236
検査	
接続	63
設置	34
納入品	15
現場表示器	236
アラーム状態を参照	
診断メッセージを参照	
数値エディタ	71
操作画面表示を参照	
テキストエディタ	71
ナビゲーション画面	69

コ

合格証	239
交換	
機器コンポーネント	206
工具	
電気接続用	35
取付け用	29
輸送	20
構成	
機器	13
操作メニュー	65
互換性	204
コンテキストメニュー	
終了	73
説明	73
呼び出し	73
梱包材の廃棄	21

サ

再校正	205
材質	232

最大測定誤差	220
サニタリ適合性	240
サブメニュー	
I/O 設定	104
Web サーバ	84
アクセスコードのリセット	149
イベントリスト	198
概要	66
システムの単位	98
シミュレーション	149
ステータス入力 1~n	170
センサの調整	131
ダブルパルス出力	172
データのログ	175
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1~n	171
プロセス変数	130
リレー出力 1~n	172
管理	148, 149
基準体積流量の計算	130
機器情報	201
計算値	130
高度な設定	129, 130
出力値	171
積算計	169
積算計 1~n	137
積算計の処理	173
設定のバックアップ	146
測定した変数	158
測定モード	179
測定値	157
通信	100
電流出力 1~n の値	171
電流入力 1~n	170
入力値	169
表示	139
流体の指標	179

シ

試験および証明書	241
システムデザイン	
機器構成を参照	
計測システム	211
システム統合	90
質量	
SI 単位	231
US 単位	232
運搬 (注意事項)	20
指定用途	9
自動スキャンバッファ	
Modbus RS485 の Modbus データマップを参照	
周囲温度	
影響	223
周囲温度範囲	226
周囲条件	
機械的負荷	227
使用高さ	226
相対湿度	226
耐衝撃振動性	226
保管温度	226

修理	206
注意事項	206
出力信号	214
出力変数	214
使用高さ	226
消費電流	219
消費電力	219
上流側直管長	23
食品接触材規則	240
シリアル番号	16, 18
信号ケーブル/電源ケーブルの接続	
Proline 500 - デジタル変換器	47
Proline 500 変換器	53
診断	
シンボル	186
診断時の動作	
シンボル	187
説明	187
診断情報	
DeviceCare	189
FieldCare	189
ウェブブラウザ	188
概要	192
現場表示器	186
構成、説明	187, 190
対処法	192
通信インタフェース	191
発光ダイオード	183
診断情報の読み出し、Modbus RS485	191
診断動作の適応	191
診断メッセージ	186
診断リスト	197
振動	25
シンボル	
ウィザード用	69
現場表示器のステータスエリア内	67
サブメニュー用	69
診断動作	67
ステータス信号用	67
操作部	71
測定チャンネル番号用	67
測定変数用	67
通信用	67
データ入力値の管理	72
入力画面	72
パラメータ用	69
メニュー用	69
ロック用	67

ス

垂直配管	22
スイッチ出力	216
数値エディタ	71
ステータスエリア	
操作画面表示用	67
ナビゲーション画面内	69
ステータス信号	186, 189
スペアパーツ	206

セ

静圧	24
製造者 ID	90
製造日	16, 18
精度の考え方	
繰返し性	225
測定誤差	225
性能特性	220
製品の安全性	10
積算計	
設定	137
接続	
電気接続を参照	
接続ケーブル	35
接続ケーブルの接続	
Proline 500 - デジタルの端子の割当て	42
Proline 500 - デジタル変換器	46
センサ接続ハウジング、Proline 500 - デジタル	42
接続ケーブルの取付け	
Proline 500 端子の割当て	49
Proline 500 変換器	52
センサ接続ハウジング、Proline 500	49
接続の準備	41
接続用工具	35
設置	21
設置状況の確認	96
設置状況の確認 (チェックリスト)	34
設置場所	21
設定	96
I/O 設定	104
WLAN	145
管理	148
機器設定の管理	146
機器のリセット	200
計測機器の設定	96
現場表示器	122
高度な設定	129
高度な表示の設定	139
システムの単位	98
シミュレーション	149
スイッチ出力	116
ステータス入力	106
積算計	137
積算計のリセット	173
積算計リセット	173
センサの調整	131
操作言語	96
測定物	102
タグ番号	98
ダブルパルス出力	121
通信インターフェイス	100
電流出力	107
電流入力	105
パルス/周波数/スイッチ出力	111, 113
パルス出力	111
非満管の検出	128
プロセス条件への機器の適合	173
リレー出力	118
ローフローカットオフ	127

説明書

シンボル	6
センサ	
設置	29
センサハウジング	228
センサヒーティング	25
洗浄	
CIP 洗浄	205
SIP 洗浄	205
外部洗浄	205
内部洗浄	205

ソ

操作	157
操作オプション	64
操作画面表示	67
操作キー	
操作部を参照	
操作言語の設定	96
操作指針	66
操作上の安全性	10
操作部	73, 187
操作メニュー	
構成	65
サブメニューおよびユーザーの役割	66
メニュー、サブメニュー	65
測定機器およびテスト機器	205
測定原理	211
測定精度	220
測定値の読み取り	157
測定値の履歴を表示	175
測定範囲	
液体の	212
気体の	212
測定範囲、推奨	229
測定物温度	
影響	223
測定変数	
プロセス変数を参照	
その他の認定	241
ソフトウェアリリース	90

タ

耐衝撃振動性	226
対処法	
終了	188
呼び出し	188
端子	220
端子の割当て	40
断熱	24

チ

チェックリスト	
設置状況の確認	34
配線状況の確認	63
直接アクセス	75

ツ

ツールヒント	
ヘルプテキストを参照	

テ

適合宣言	10
テキストエディタ	71
適用分野	
残存リスク	10
デバイスビューワー	206
電位平衡	55
電気接続	
Web サーバー	85
WLAN インタフェース	86
ウェブブラウザ（例：Microsoft Edge）搭載のコンピュータ	85
計測機器	35
操作ツール	
Modbus RS485 プロトコル経由	85
WLAN インタフェース経由	86
サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由	85
操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、AMS Device Manager、SIMATIC PDM）	85
保護等級	62
電氣的絶縁	218
電源故障時/停電時	219
電源電圧	219
電磁適合性	228
電子部ハウジングの回転	
変換器ハウジングの回転を参照	
電子モジュール	13
電線管接続口	
技術データ	220
電線口	
保護等級	62

ト

当社サービス	
メンテナンス	205
登録商標	8
特別な接続方法	56
特別な取付方法	
サニタリ適合性	26
トラブルシューティング	
一般	181
取付工具	29
取付寸法	23
取付寸法を参照	
取付けの準備	29
取付方向（垂直方向、水平方向）	22
取付要件	
上流側/下流側直管長	23
振動	25
垂直配管	22
静圧	24
設置場所	21
センサヒーティング	25
断熱	24
取付寸法	23
取付方向	22
破裂板	26
取引計量	231

ナ

内部洗浄	205, 227
流れ方向	22, 29
ナビゲーション画面	
ウィザードの場合	69
サブメニューの場合	69
ナビゲーションパス（ナビゲーション画面）	69

ニ

入力変数	212
認証	239

ハ

ハードウェア書き込み保護	154
廃棄	207
配線状況の確認	96
配線状況の確認（チェックリスト）	63
パラメータ	
値またはテキストの入力	76
変更	76
パラメータ設定	
I/O 設定	104
ステータス入力	106
ダブルパルス出力	121
電流出力	107
電流入力	105
パルス/周波数/スイッチ出力	111
リレー出力	118
パラメータ設定の保護	153
パラメータのアクセス権	
書き込みアクセス	77
読み取りアクセス	77
パラメータ設定	
I/O 設定（サブメニュー）	104
Web サーバ（サブメニュー）	84
WLAN 設定（ウィザード）	145
アクセスコードのリセット（サブメニュー）	149
アクセスコード設定（ウィザード）	148
システムの単位（サブメニュー）	98
シミュレーション（サブメニュー）	149
ステータス入力 1～n（ウィザード）	106
ステータス入力 1～n（サブメニュー）	170
ゼロの検証（ウィザード）	135
ゼロ調整（ウィザード）	136
センサの調整（サブメニュー）	131
ダブルパルス出力（ウィザード）	121
ダブルパルス出力（サブメニュー）	172
データのログ（サブメニュー）	175
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え（ウィザード）	111, 113, 116
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n（サブメニュー）	171
リレー出力 1～n（ウィザード）	118
リレー出力 1～n（サブメニュー）	172
ローフローカットオフ（ウィザード）	127
管理（サブメニュー）	149
基準体積流量の計算（サブメニュー）	130
機器情報（サブメニュー）	201
高度な設定（サブメニュー）	130

診断 (メニュー)	196
積算計 (サブメニュー)	169
積算計 1~n (サブメニュー)	137
積算計の処理 (サブメニュー)	173
設定 (メニュー)	98
設定のバックアップ (サブメニュー)	146
測定した変数 (サブメニュー)	158
測定モード (サブメニュー)	179
通信 (サブメニュー)	100
電流出力 (ウィザード)	107
電流出力 1~n の値 (サブメニュー)	171
電流入力 (ウィザード)	105
電流入力 1~n (サブメニュー)	170
非満管の検出 (ウィザード)	128
表示 (ウィザード)	122
表示 (サブメニュー)	139
密度調整 (ウィザード)	132
流体の指標 (サブメニュー)	179
流体の選択 (ウィザード)	102
破裂板	
安全上の注意事項	26
破裂圧力	229
ヒ	
表示	
現在の診断イベント	196
現場表示器を参照	
前回の診断イベント	196
表示エリア	
操作画面表示用	67
ナビゲーション画面内	69
表示値	
ロック状態用	157
表示モジュールの回転	33
表面粗さ	235
フ	
ファームウェア	
バージョン	90
リリース日付	90
ファームウェアの履歴	202
プロセス圧力	
影響	224
プロセス接続	235
プロセス変数	
計算	212
測定	212
へ	
ヘルプテキスト	
終了	76
説明	76
呼び出し	76
変換器	
ハウジングの回転	33
表示モジュールの回転	33
変換器ハウジングの回転	33
編集画面	71
操作部の使用方法	71, 72

入力画面	72
ホ	
保管温度	20
保管温度範囲	226
保管条件	20
保護等級	62, 226
保存コンセプト	238
本説明書に関する情報	6
本文	
目的	6
本文の目的	6
ミ	
密度調整	132
密度調整の実行	132
ム	
無線認証	241
メ	
銘板	
センサ	18
変換器	16
メイン電子モジュール	13
メニュー	
計測機器の設定用	96
特定の設定用	129
診断	196
設定	98
メンテナンス作業	205
ユ	
ユーザーの役割	66
ヨ	
要員の要件	9
読み取りアクセス	77
ラ	
ラインレコーダ	175
リ	
リモート操作	237
流量制限	229
ロ	
労働安全	10
ローフローカットオフ	218



71682465

www.addresses.endress.com
